国立国語研究所学術情報リポジトリ

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』形態論情報規程集 第4版（下）

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2020-06-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小椋, 秀樹, 小磯, 花絵, 冨士池, 優美, 宮内, 佐夜香, 小西, 光, 原, 裕 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002856

国立国語研究所内部報告書（LR-CCG-10-05-02）

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』形態論情報規程集 第4版（下）

小椋 秀樹・小磯 花絵・冨士池 優美・宮内 佐夜香・
小西 光・原 裕

平成23年2月
©2011 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立国語研究所

国立国語研究所内部報告書（LR-CCG-10-05-02）

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』形態論情報規程集第4版（下）

小椋　秀樹
小磯　花絵
冨士池優美
宮内佐夜香
小西　　光
原　　裕

平成23年2月

©2011 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立国語研究所

目　次

目　次　I

第３章　短単位　小椋秀樹　小磯花絵　宮内佐夜香　原裕　1

Ⅰ　最小単位認定規程　Version 1.6

第１　最小単位認定規程 …… 1

第２　和語の最小単位認定に関する規則 …… １２

第３　最小単位の分類 …… ２７

Ⅱ　短単位認定規程　Version 1.6

第１　短単位認定規程 …… ２９

第２　最小単位の結合の例 …… ４１

Ⅲ　付加情報　Version 1.6

第１　付加情報の概要 …… ４７

第２　品詞情報の概要 …… ４８

第３　語種情報の概要 …… ６６

第４　用法に関する情報の概要 …… ６８

Ⅳ　同語異語判別規程　Version 1.3

第１　同語異語判別規程 …… ７３

細則　１　名詞と接辞の判定基準（１） …… ９５

細則　２　名詞と接辞の判定基準（２） …… ９８

細則　３　動詞連用形と動詞連用形転成名詞の判定基準 …… １００

細則　４　人名の扱い …… １０３

細則　５　固有名の扱い …… １０６

細則　６　ローマ字略語の扱い …… １１１

細則　７　擬音語・擬態語の扱い　……　１１５

細則　８　感動詞の扱い　……　１２１

細則　９　終止形・連体形の判定基準　……　１２５

細則１０　出現形「に」の品詞分類　……　１２７

細則１１　助詞「か」の分類基準　……　１２９

細則１２　出現形「で」の品詞分類　……　１３２

細則１３　メタ的に使われた漢字等の扱い　……　１３５

第２　意味の面から見た同語異語の判別　……　１３６

参考資料　助詞・助動詞接続一覧（終止形・連体形接続）　……　１６９

参考文献　**１７１**

資料　要注意語

「―が～」　……　（１）

「―の～」　……　（１）

助詞　……　（２４）

助動詞　……　（３１）

接頭的要素　……　（３７）

接尾的要素　……　（３８）

上巻目次

前書き

第１章　『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の言語単位

第１　語彙調査の調査単位

第２　BCCWJの言語単位の設計方針

第３　採用した言語単位

第４　長単位・短単位の概要

第５　長単位・短単位の長所

第６　形態素解析用辞書UniDicについて

第２章　長単位

Ⅰ　文節認定規程　Version 1.4

第１　文節認定規程

第２　複合辞・連語

Ⅱ　長単位認定規程　Version 1.4

第１　長単位認定規程

Ⅲ　付加情報

第１　付加情報の概要

第２　品詞情報の概要

Ⅳ　付加情報付与基準　Version 1.0

第１　語彙素読み・語彙素付与の基準

第２　品詞付与基準

資料　複合辞・連語

第３章

短 単 位

小椋秀樹　小磯花絵　宮内佐夜香　原裕

短単位は，言語の形態的側面に着目して規定した言語単位である。短単位の認定に当たっては，まず現代語において意味を持つ最小の単位（最小単位）を規定する。その上で，最小単位を長単位の範囲内で短単位認定規程に基づいて結合させる（又は結合させない）ことにより，短単位を認定する。そのため，短単位の認定規程は，最小単位と短単位の二つの認定規程から成る。

《 凡　例 》

１．以下の規程に示した例は，コーパスに現れた例又は作例である。
２．最小単位・短単位の境界を示すために次の記号を用いた。
　最小単位の境界　･･････　／　　例：／国／立／国／語／研／究／所／
　短単位の境界　　･･････　｜　　例：｜国立｜国語｜研究｜所｜
　短単位の境界（当該規定で着目している箇所）
　　･･････　‖　　例：｜国立｜国語｜研究‖所｜
３．最小単位・短単位について分割しないことを特に示す必要があるときには，次の記号を用いた。
　最小単位・短単位のつなぎ目　･･････　－　　例：｜大-丈夫｜です｜
　最小単位・短単位のつなぎ目（当該規定で着目している箇所）
　　･･････････････　＝　　例：｜パソ=コン｜を｜使う｜
４．着目している最小単位・短単位が分かりにくい場合は，当該箇所に下線を付した。
５．各バージョンで変更した規定には，「(◆ver.1.1修正)」「(◆ver.1.1追加)」などと表示した。

Ⅰ　最小単位認定規程　Version 1.6

第１　最小単位認定規程

最小単位は，現代語において意味を持つ最小の言語単位のことである。

最小単位は，和語・漢語・外来語・記号・数・人名・地名の各種類ごとに，以下の規定によって認定する。

和語・漢語・外来語の語種の判定は，原則として『新潮現代国語辞典』第２版（新潮社）による。『新潮現代国語辞典』第２版の見出しにない語は，『日本国語大辞典』第２版（小学館）を主たる資料として語種判定を行う。また，『新潮現代国語辞典』第２版の語種判定に従い難いと判断した場合は，『日本国語大辞典』第２版等を参照し，独自に語種を判定した。

（◆ver.1.6修正）

1　和　語

和語の最小単位は，以下の例のように認定する。

和語の最小単位の認定に関する詳細は，第２「和語の最小単位認定に関する規則」を参照。

また，擬音語・擬態語の最小単位の認定については，同語異語判別規程の細則７「擬音語・擬態語の扱い」を参照。

【例】　／母／親／　　／青／白い／　　／いい／加／減／な／
　　／本／箱／　　／幾／人／　　／オレンジ／色／
　　／わたし／で／も／できる／　　／読み／終わり／まし／た／

１．１　融合形は，元の形に戻さずに，融合している複数の最小単位全体で１最小単位とする。

【例】

名詞・代名詞＋助詞：
　／その／ときゃ（あ）／（その時は）　　／わたしゃ／（わたしは）

動詞＋助詞：
　／行きゃ（あ）／し／ない／（行きはしない）
　／考えりゃ（あ）／（考えれば）

形容詞＋助詞：
　／おもしろけりゃ／（おもしろければ）　　／おもしろきゃ／（おもしろければ）
　／悪か／ない／（悪くはない）

その他：
　／生き／てる／（生きている）　　／生き／て／た／（生きていた）
　／持っ／てく／（持っていく）　　／持っ／てっ／た／（持っていった）
　／置い／とく／（置いておく）　　／置い／とい／た／（置いておいた）
　／知っ／とる／（知っておる）　　／知っ／とっ／た／（知っておった）
　／行っ／ちまう／（行ってしまう）　　／行っ／ちまっ／た／（行ってしまった）
　／行っ／ちゃう／（行ってしまう）　　／行っ／ちゃっ／た／（行ってしまった）
　／っちゅう／の／は／（って言うのは）　　／ってえ／と／（って言うと）

１．２　省略形は，元の形に戻さずに，可能な範囲で最小単位を認定する。その際，元の形との対応を できる限り取るよう留意する。

【例】　／や／ん／だ／っけ／（やるんだっけ）※1
　　／行っ／てる／ん／す／※2

※１　元の形「やるんだっけ」との対応を可能な限り取るように，「や」を動詞「やる」の活用語尾が省略された形，「ん」を元の形「やるんだっけ」の「ん（準体助詞「の」の撥音便）」と考えて，最小単位の認定を行う。

※２　元の形「行ってるんです」との対応を可能な限り取るように，「す」を元の形「行ってるんです」の助動詞「です」と考えて，最小単位の認定を行う。

１．３　現代語において分割することができない，若しくは分割することが適切でないと考えられるものは，分割せずに全体で１最小単位とする。

【例】　／あっけらかん／　　／いなずま／　　／えがく／　　／おもんぱかる／
　　／こだま／　　／とんかち／

（◆ver.1.6修正）
１．４　次に挙げるものは，それだけで１最小単位とせずに前の要素に含める。

（１）形容詞語尾の「い」「く」「しい」など
【例】　／さむ=い／　　／ひろ=く／　　／うれ=しい／

（２）いわゆる形容動詞の語幹末尾「か」「やか」「らか」
【例】　／しず=か／　　／かろ=やか／　　／ほが=らか／

（３）動詞の活用語尾
【例】　／おも=う／　　／ひろ=う／　　／わか=る／

（４）いわゆる副詞語尾「と」
【例】　／自ず=と／　　／漸=と／

（５）助数詞の「とり（たり）」
【例】　／ひ=とり／　　／ふ=たり／

（６）延言の「く」「らく」
【例】　／いわ=く／　　／おもう=らく／　　／ねがわ=く／

（７）コソアド類の各語末
【例】　／こ=れ／　　／こ=の／　　／こ=こ／　　／こち=ら／
／そ=れ／　　／そ=の／　　／そ=こ／　　／そち=ら／
／あ=れ／　　／あ=の／　　／あそ=こ／　／あち=ら／
／ど=れ／　　／ど=の／　　／ど=こ／　　／どち=ら／
／だ=れ／
／いず=れ／

（◆ver.1.6修正）
１．５　次に挙げるものは，前又は後ろの要素にまとめずに助詞・助動詞と同様に単位を認定する。

（１）接続詞・接続助詞の構成要素となっている助詞・助動詞
【例】　／だ／が／　　／です／が／　　／で／は／　　／の／で／　　／の／に／
／ところ／が／　　／ところ／で／　　／もの／の／

（２）いわゆる形容動詞，いわゆる形容動詞活用型の助動詞の変化部分
【例】
形容動詞　：　／静か／だ／　　／元気／だ／
形容動詞型活用の助動詞　：　／そう／だ／　　／よう／だ／

（３）いわゆる副詞語尾「に」
【例】　／実／際／<u>に</u>／　　／非／常／<u>に</u>／

※　第２「和語の最小単位認定に関する規則」の規定Ⅱ．３．２（４）に挙げたものは除く。

（４）「動詞連用形＋て」から副詞に転じた語の接続助詞「て」
【例】　／ふるっ／て／　　／あわせ／て／

（◆ver.1.5追加）
１．６　感動・呼び掛け・応答などの１回的描写を１最小単位とする。
【例】　／えっ／　　／おい／　　／よいしょ／　　／はい／はい／　　／あのー／

１．７　それがないとき，１最小単位となるものの中に出てくるフィラーは無視する。
【例】　／ひ=えー=だり／（左）　　／たち=いー=ばな／さん／（橘）

１．８　言いよどみに伴う語の断片は，１最小単位とする。
【例】　／わた／私／は／　　／こ／ここ／から／

２　漢　語

漢語（和製漢語を含む。）は，漢字１文字で表されるものを１最小単位とする。
【例】　／白／紙／　　／安／価／　　／含／有／量／　　／数／百／

３　外来語

外来語・外国語は原語で１単語になるものを１最小単位とする。
英語起源の外来語の最小単位の認定は『リーダーズ英和辞典』第２版（研究社）による。それ以外の言語を起源とする外来語については適宜判断する。
【例】　／カラー／コピー／　　／レーザー／プリンター／
／オレンジ／色／　　／ビタミン／剤／

３．１　英語起源の外来語について，原語で１語になるものの結合体が『リーダーズ英和辞典』第２版で１語として扱われている場合，その結合体を１最小単位とする。
【例】　／データ=ベース／　　／ネット=ワーク／

※　「データ（data)」「ベース（base)」「ネット（net)」「ワーク（work)」は，それぞれ原語で１語であるが，「データ」と「ベース」との結合体「データベース」，「ネット」と「ワーク」との結合体「ネットワーク」が，それぞれ『リーダーズ英和辞典』第２版で１語とされている。このような場合，「データベース」「ネットワーク」を１最小単位とする。

３．２　外来語・外国語の１最小単位を略したものも１最小単位とする。
【例】　／塩／ビ／　　／パソ／コン／　　／インフレ／

３．３　用言化した外来語の活用語尾は切り出さない。
【例】　／サボ=る／　　／ハモ=る／

３．４　外来語・外国語に漢字を当てたものも外来語・外国語として扱う。
【例】　／菩薩／　　／卒塔婆／　　／倶楽部／　　／背広／

３．５　日本語としては分割不可能と考えられるもの及び二つの単語が融合して発音されたことによって分割不可能になったものは，全体で１最小単位とする。
【例】　／クーデター／　　／スタンダップ／（“stand up”の融合）

（◆ver.1.3追加）
（◆ver.1.4修正）
３．６　組織の名称等の名に当たる外来語・外国語の最小単位を略した１文字の片仮名は，

記号の最小単位として扱う。
【例】　／セ／リーグ／　　／ナ／リーグ／　　／マ／社／

／パ／関／係／者／に／よる／と／、／今／季／から／実／現／し／た／セ／・／パ／交／流／戦／で／は／
／Ｊ／１／復／帰／を／決め／、／声／援／に／応える／セ／大阪／

４　記　号

記号は１文字に当たるものを１最小単位とする。
【例】　／表／Ａ／　　／図／Ｂ／　　／Ｕ／ターン／　　／Ｖ／リーグ／
／甲／類／　　／乙／種／

／●／メイン／フロア／は／なん／と／、／二／千／四／百／名／もの／収／容／力／。／
／元／駐／日／アメリカ／大／使／ジョセフ／・／クラーク／・／グルー／（／千／八／百／八／十／一／千／九／百／六／十／五／年／）／は／、／
／Ｌ．Ａ．／で／人気／の／組み／合わせ／は／、／これ／！／
／岡野／あつこ／さん／の／場／合／一／
／社／会／人／組／の／甲／班／、／乙／班／が／、／

４．１　ローマ字を並べた略語は全体で１最小単位とする。ローマ字の間の中点・ピリオド等は１最小単位としない。人名の一部又は全部をローマ字で略記したものの扱いは，規定６．３．２を参照。
【例】　／ＯＨＰ／　　／ＯＳ／　　／Ｄ・Ｎ・Ａ／　　／Ｐｈ．Ｄ．／

５　数

数字は１文字に当たるものを１最小単位とする。
【例】　／一／億／語／　　／七／百／五／十／万／語／
／２／万／５／千／分／の／１／
／０／４／２／－／５／４／０／－／４／３／０／０／

（◆ver.1.3修正）

６　人名

人名は姓を１最小単位，名を１最小単位とする。
【例】　／星野／仙一／　　／マット／・／マートン／　　／林／威助／

通称・雅号・しこ名（その略称も含む。）等は，次のように最小単位を認定する。
【例】　／千代大海／　　／十返舎／一九／　　／古今亭／志ん生／

ローマ字等を含む仮名は，次のように最小単位を認定する。
【例】　／Ａ子／　　／○田／■男／

６．１　姓と名との間にある読み添えの「の」が本文に表記されている場合は，助詞として扱い，１最小単位とする。
【例】　／藤原／の／道長／　　／源／の／頼朝／

※　本文に表記されていない場合は規定６を適用する。
【例】　／源／頼朝／

（◆ver.1.4追加）
６．２　人名のうち「お（御）～」という形のものは，全体をまとめて１最小単位とする。
【例】　／お=千代／　　／お=ゆき／　　／お=春／さん／

（◆ver.1.3修正）
（◆ver.1.4修正）
６．３　姓又は名を略したものは１最小単位とする。ただし，規定６．３．１に該当するものは除く。
【例】　／仙／ちゃん／　　／おざ／けん／　　／橋／龍／

（◆ver.1.3追加）
（◆ver.1.4修正）
６．３．１　姓又は名を略した１文字の片仮名及び新聞記事の署名等で姓又は名を略した１文字の漢字・仮名は，記号の最小単位として扱い，人名として扱わない。
【例】　／ブーテフリカ／大／統／領／（／以／下／「／ブ／大／統／領／」／と／いう／）／も／
／先／発／出／場／し／た／中田／英／は／目／立っ／た／活／躍／は／なく／，／
／盛り／だく／さん／な／内／容／だ／が／，／各／話／熱／気／が／こもっ／て／い／て／、／見／応え／が／ある／。／（／野／）／

６．３．２　人名の一部又は全部をローマ字で略記したものは，記号の最小単位として扱い，人名として扱わない。その際，ローマ字の間の中点・ピリオド等は，１最小単位とする。
【例】　／Ｐ／・／Ｊ／・／ブラウン／と／ジュワン／・／ハワード／だ／。／
／東京／・／Ｙ／・／Ｎ／

（◆ver.1.5修正）
６．３．３　複数の人物の名それぞれを略した要素（１字で構成される名の場合はその全体）が結合体を構成する場合，その各要素は和語・漢語・外来語の最小単位として扱い，人名としては扱わない。
【例】　／若／貴／兄／弟／　　／柏／鵬／時／代／
／角／福／戦／争／　　／三／角／大／福／中／

（◆ver.1.6修正）
６．４　神話，伝説，歴史，創作等の人名で，称号を表す類概念が付加された人名は，次のように最小単位を認定する。
【例】　／豊雲野／神／　　／イザナギ／ノ／ミコト／
／瑞歯別／天皇（すめらみこと）／　／市辺押羽／皇子（みこ）／　　／刀自古／郎女（いらつめ）／

６．４．１　日本神話の登場人物名のうち「～ヒメ」「～ヒコ」は類概念とせず，全体で１最小単位とする。
【例】　／コノハナサクヤ=ビメ／　　／ヌナカワ=ヒメ／ノ／ミコト／
／ウミサチ=ヒコ／　　／ワカタケ=ヒコ／

６．４．２　日本神話の登場人物名以外の「ヒメ」については次のとおりとする。
（１）「漢字１字＋ヒメ」は，全体で１最小単位とする
【例】　／絢=姫／　　／清=姫／　　／濃=姫／　　／漁（いさり）=姫／

（２）「２字以上＋ヒメ」は，「ヒメ」以外の部分が一般的な名に相当する場合は名と「ヒメ」をそれぞれ１最小単位とする。
【例】　／和子／姫／　　／紗夜／姫／　　／マリ／姫／

（３）「２字以上＋ヒメ」の場合であっても，「ヒメ」を切り出した残りの部分が一般的な名に相当しない場合は，全体で１最小単位とする。
【例】　／小桜=姫／　　／檜皮=姫／　　／おおまき=姫／

（◆ver.1.4追加）
６．５　中国系の人名のうち姓と名がそれぞれ１文字ずつのものは，姓名をまとめて１最小単位とする。
【例】　／李=梅／

（◆ver.1.4追加）
６．６　東南アジア系の人名で短い姓名が複数連続する場合，名前全体をまとめて１最小単位とする。
【例】　／ホー=チ=ミン／

（◆ver.1.4追加）
６．７　西洋系の人名において，姓や名が「＝」や「・」などで区切られ，二つの要素から構成される場合，原則としてその位置で最小単位を分ける。
【例】　／ジャック／・／シャバン／＝／デルマス／

（◆ver.1.4追加）
６．８　冠詞や前置詞等に相当する部分は，原則として切り離す。
【例】　／ジョン／・／フォン／・／ノイマン／
／フェルディナン／・／ド／・／ソシュール／

ただし，「(レオナルド・）ダ・ビンチ」のように，結合した形（のみ）が一般的に用いられる場合は，結合した形を１最小単位とする。

（◆ver.1.4追加）
６．９　アラブ系の人名における定冠詞「アル」「アッ」「アン」「エル」は，分割せず後続する名詞と合わせて１最小単位とする。
【例】　／サアド／・／アル＝ガーミディー／

７　地　名

地名は，次の規定により最小単位を認定する。

（◆ver.1.4修正）
７．１　行政区画を表す地名は「都・府・県・郡・市・区・町・村・字」を除いた部分をそれぞれ１最小単位とする。類概念を表す部分には最小単位の認定規定を適用する。
【例】　／東京／都／北／区／西が丘／三／丁／目／九／番／十／四／号／

７．１．１　「北海道」は全体で１最小単位とする。
【例】　／北海道／夕張／郡／長沼／町／
／明日／の／北海道／の／天気／

７．１．２　市区内の小区分の「～町（ちょう）」は「～町」を含めて１最小単位とする。

【例】　／大阪／府／豊中／市／待兼山町／　　／千代田／区／大手町／

７．１．３　京都の地名のうち，通りの名称の部分には規定７．５を適用する。

【例】　／京都／市／上京／区／今出川／通／烏丸／東／入／

７．１．４　地名の略称は，全体を１最小単位とする。地名の略記については，規定７．６から７．８を参照。

【例】　／ちとから／（千歳烏山）　　／天六／（天神橋筋六丁目）

（◆ver.1.4修正）

７．１．５　行政区画を表す地名が他の場所名等に使われている場合には，行政区画の名を表す部分を１最小単位とし，類概念を含むそれ以外の部分は最小単位の認定規定を適用する。

【例】　／さいたま／新／都／心／駅／　　／茨木／市／駅／
／日比谷／公／園／　　／島根／県／立／松江／北／高／等／学／校／

７．２　外国の国名や行政区画名などにも規定７．１から７．１．５を適用する。

【例】　／アメリカ／合／衆／国／　　／南アフリカ／共／和／国／
／中華／人／民／共／和／国／
／カリフォルニア／州／　　／広東／省／
／メキシコ／シティー／　　／ミズーリ／ステート／

（◆ver.1.4追加）

７．２．１　市区内の小区分「～町（ちょう）」に相当する「タウン」は「～タウン」を含めて１最小単位とする。

【例】　／ジョージ=タウン／　　／ケープ=タウン／

（◆ver.1.4追加）

７．２．２　国名・行政区画を表す地名が他の場所名等に使われている場合は，規定７．１．５を適用する。

（◆ver.1.4修正）

７．３　行政区画や国以外の地域・地方を表す地名（通称や呼称，商業エリア名などを含む。）は，名を表す部分と類概念を表す部分及び「東・西・南・北・新」等を分割した上で，名を表す部分を地名の１最小単位とする。類概念を含むそれ以外の部分は最小単位の認定規定を適用する。

【例】　／但馬／　　／摂津／　　／多摩／地／区／　　／心斎橋／
／九州／地／方／　　／四国／地／方／　　／北／関東／地／方／
／ユーラシア／　　／パレスチナ／　　／ソーホー／
／東／ヨーロッパ／　　／ノース／アフリカ／

７．３．１　北海道及び七道は，「道」を含めて１最小単位とする。

／北海=道／　　／東海=道／　　／東山=道／　　／北陸=道／
／山陰=道／　　／山陽=道／　　／南海=道／　　／西海=道／

（◆ver.1.4追加）
７．３．２　地域・地方を表す地名が他の場所名等に現れた場合の扱いは規定７．１．５を適用する。

７．４　地形名は，類概念を表す部分を除いた部分を１最小単位とする。
【例】　／生駒／山／　　／昭和／新／山／　　／北アルプス／
／多摩／川／　　／揚子／江／　　／サロマ／湖／　　／八郎／潟／
／マゼラン／海／峡／　　／ペルシャ／湾／

（◆ver.1.4追加）
７．４．１　名を表す部分が漢字１字の場合及び類概念を表す部分の直前が助詞の場合には，類概念を表す部分をまとめて１最小単位とする。
【例】　／黄=河／　　／桜=島／　　／浄土=が=浜／　　／二色=の=浜／

（◆ver.1.4追加）
７．４．２　地形名が他の場所名等に現れた場合の扱いは規定７．１．５を適用する。

（◆ver.1.4追加）
（◆ver.1.5修正）
７．４．３　坂・人工の水路やダムの名称には，規定７．５を適用する。

７．５　場所名については，名を表す部分と類概念を含むその他の部分とに分割した後，両方の部分に最小単位の認定規定を適用する。
【例】　／山／手／通り／　　／新／御／堂／筋／　　／神田／橋／
／さいたま／新／都／心／駅／　　／茨木／市／駅／
／山陽／本／線／　　／大／江戸／線／
／首／都／圏／外／郭／放／水／路／　　／アスワン／ハイ／ダム／

７．６　地名を略した漢字１字の「日」「米」などについては，漢語の最小単位として扱い，地名としては扱わない。
【例】　／日／米／　　／日／米／韓／　　／米／国／
／日／韓／漁／業／協／定／
／京／阪／　　／播／但／　　／阪／奈／自／動／車／道／
／甲／州／街／道／　　／磐／越／西／線／

７．７　片仮名表記する外国地名を略したもので，地名を略した１字漢語（「日」「米」など）に相当する片仮名１文字の「ロ」（ロシアの略）などは，外来語・外国語の最小単位として扱う。
【例】　／訪／ロ／

７．８　地名をローマ字で略記したものは，記号の最小単位として扱う。
【例】　／ＮＹ／　　／Ｌ．Ａ．／　　／ＪＰＮ／　　／ＵＳＡ／

※　上記は，規定４．１によって１最小単位となる。

補則　地名

地名のうち最小単位の認定に当たり判断に迷う例について，その認定方法を示す。

（１）地形名（下線部は地名に当たる最小単位）

／瀬戸／内／　　／瀬戸／内／海／　　／プリンスエドワード／島／
／耶馬／渓／　　／奥穂高／岳／　　／大菩薩／峠／　　／鬼押出／
／ポート／アイランド／　　／イースト／リバー／

（２）場所名（駅名以外）（下線部は地名に当たる最小単位）
／岡田／山／古／墳／　　／加茂／岩倉／遺／跡／　　／荒神／谷／遺／跡／
／妻木晩田／遺／跡／　　／吉野が里／遺／跡／　　／田和／山／遺／跡／
／区／役／所／通り／　　／富士見／坂／　　／武田／山／トンネル／
／八方／尾根／スキー／場／
／スターリン／広場／　　／関西／国／際／空／港／　　／関／空／
／暗／闇／坂／　　／榎／坂／　　／駒ヶ坂／　　／別府／温／泉／

（３）駅名（下線部は地名に当たる最小単位）
① 行政区画名と一致する駅名
／東中野／　　／西日暮里／　　／江戸川／　　／多賀城／

② 二つの地名から成る駅名
／祖師ヶ谷／大蔵／　　／多摩／境／　　／武蔵／境／
／武蔵／小山／　　／武蔵／小杉／　　／川西／池田／

③その他
／表／参道／　　／半蔵／門／

参考　最小単位の例

／グルー／文／書／
元／駐／日／アメリカ／大／使／ジョセフ／・／クラーク／・／グルー／（／千／八／百／八／十／一／千／九／百／六／十／五／年／）／は／、／歴／代／の／駐／日／大／使／の／なか／で／も／ひときわ／生／彩／を／はなつ／、／アメリカ／の／代／表／的／な／職／業／外／交／官／で／あっ／た／。／
彼／は／千／九／百／三／十／二／年／から／四／十／二／年／まで／の／約／十／年／間／を／日本／で／過ごし／、／日／米／関／係／の／調／整／に／数／多く／の／足／跡／を／のこし／た／。／
来／日／以／来／、／グルー／は／満州／事／変／後／の／日本／軍／部／の／台／頭／を／つぶさ／に／観／察／する／と／とも／に／、／日本／の／国／際／連／盟／脱／退／（／三／十／三／年／三／月／）／、／日／中／戦／争／勃／発／（／三／十／七／年／七／月／）／、／日／独／伊／三／国／軍／事／同／盟／（／四／十／年／九／月／）／、／対／日／経／済／制／裁／（／四／十／一／年／七／月／）／、／真珠／湾／奇／襲／攻／撃／（／四／十／一／年／十／二／月／）／など／、／日／米／関／係／に／決／定／的／な／転／機／を／もたらし／た／重／大／な／歴／史／的／事／件／の／ことごとく／を／直／接／に／体／験／し／た／。／
グルー／の／主／著／は／、／この／十／年／に／およぶ／彼／の／滞／日／経／験／を／まとめ／た／もの／で／あり／、／千／九／百／四／十／四／年／五／月／に／公／刊／さ／れる／と／、／アメリカ／国／民／の／あいだ／に／大きな／反／響／を／よび／おこし／た／。／

／　／最／後／に／雑／誌／「／エンターテインメント／・／ウイークリー／」／に／載っ／た／映／画／評／を／紹／介／し／よう／。／
／「／ＵＰＳＩＤＥ／／／Ｉｔ／　／ｃｏｕｌｄ／　／ｂｅ／　／ａ／　／Ｂｅｓｔ／　／Ｆｏｒｅｉｇｎ／　／Ｌａ‐ｎｇｕａｇｅ／　／Ｆｉｌｍ／　／ｃｏｎｔｅｎｄｅｒ／　／ａｔ／　／ｎｅｘｔ／　／ｙｅａｒ’ｓ／　／Ｏｓ‐ｃａｒｓ／．／（／来／年／の／アカデミー／賞／で／最／優／秀／外／国／語／映／画／賞／を／獲／得／する／可／能／性／が／ある／）／ＤＯＷ‐ＮＳＩＤＥ／／／Ｓｕｂｔｉｔｌｅｓ／（／字／幕／付き／）／」／（／追／記／／／さて／六／月／二／十／七／日／公／開／予／定／が／、／あと／一／週／間／と／迫っ／た／ところ／で／突／然／七／月／十／一／日／に／延／期／。／
その／理／由／は／、／マーケティング／の／結／果／だ／そう／だ／）／

／タマ／チャリ／と／は／比／較／に／なら／ない／機／動／性／と／耐／久／性／を／装／備／
米／軍／の／「／ハマー／」／の／名／が／冠／せ／られ／た／自／転／車／に／乗ろ／う／
ハマー／折り／たたみ／マウンテン／バイク／
　／中国／や／タイ／ほど／で／は／ない／が／、／日本／も／世／界／屈／指／の／自／転／車／大／国／。／通／勤／通／学／、／また／は／日／常／の／足／と／し／て／自／転／車／を／利／用／し／て／いる／人／は／多い／こと／だろ／う／。／そこ／で／、／ちょっと／他／人／と／差／を／付け／たい／なら／、／こんな／自／転／車／に／乗っ／て／は／いかが／だろ／う／か／？／
　／ＤＢＳ／　／ＪＡＰＡＮ／から／販／売／さ／れ／て／いる／「／ハマー／折り／たたみ／マウンテン／バイク／」／は／、／米／軍／の／軍／用／車／・／ハマー／で／有／名／な／アメリカ／ＧＭ／社／製／の／自／転／車／。／自／転／車／と／は／いっ／て／も／、／ハマー／の／名／前／は／ダテ／で／は／なく／、／高い／機／動／性／と／耐／久／性／を／兼ね／備え／た／１／台／に／なっ／て／いる／。／

第２　和語の最小単位認定に関する規則

和語の最小単位の認定は，漢語・外来語と比較して判断に迷うことが多い。そこで，以下のとおり，和語の最小単位を認定するための規定を定める。

Ⅰ　語の一覧等に基づいて最小単位を認定するもの

１　常用漢字表（1981年，内閣告示第１号・内閣訓令第１号）の音訓欄に掲げられた訓は，１最小単位とする。

【例】　／あわ=せる／　　／まつり=ごと／　　／え=がく／

可能動詞形については，元の動詞に準じて１最小単位とする。

【例】　／え=がける／

２　語源的には二つ以上の要素から成る語のうち，現代仮名遣い（1986年，内閣告示第１号・内閣訓令第１号）の第２の５において「現代語の意識では一般に二語に分解しにくいもの等として，それぞれ「じ」「ず」を用いて書くことを本則と」すると規定されている語のうち次に挙げるものは，全体で１最小単位とする。

【例】　／いな=ずま／　　／かた=ず／　　／き=ずな／　　／さか=ずき／
／ときわ=ず／　　／ほお=ずき／　　／みみ=ずく／　　／うな=ずく／
／おと=ずれる／　　／かし=ずく／　　／つま=ずく／　　／ぬか=ずく／
／ひざ-ま=ずく／　　／あせみ=ずく／　　／さし=ずめ／
／で=ずっ-ぱり／　　／なか-ん=ずく／　　／うで=ずく／
／くろ=ずくめ／

３　資料「要注意語」の「助詞」「助動詞」「接頭的要素」「接尾的要素」に挙げたものは１最小単位とする。

【例】　／それ／で／も／　　／話し／た／　　／考え／がたい／
／乗り／こなす／

可能動詞形については，元の動詞及び動詞性接尾辞に準じて１最小単位とする。

【例】　／乗り／こなせる／　　／使い／まくれる／

Ⅱ　上記の規定に該当しないものに関する規定

１　コーパス中の文において，他の要素と結合せず単独で語として使われているものは１最小単位とする。

【例】　／空／が／<u>かすむ</u>／

２　複合語を構成する要素については，以下の規定によって最小単位を認定する。

２．１　複合語の構成要素のうち，現代語において単独で語として機能し得るものどうしが結合して語を構成している場合は，それぞれの構成要素を１最小単位とする。

【例】　／空き／家／　　／灰汁／抜き／　　／揚げ／足／　　／明け／暮れる／

２．２　結合の際に音変化が起きているものは，以下の規定によって最小単位を認定する。

２．２．１　複合語の前項に音変化が起きているものは，以下の規定によって最小単位を認定する。

２．２．１．１　前項が被覆形となっているものは，その音節数等によって，以下のように最小単位を認定する。

（１）２音節以上であれば，原則として１最小単位とする。
【例】　／つま／先／

ただし，以下のいずれかに該当するものは，１最小単位とせず，全体で１最小単位とすることがある。

①既に語源意識が失われていると考えられるもの
【例】　／うつ=ぶす／

②一方の構成要素が語源未詳，若しくは語源は判明しているが，音変化等のため一般には元の語への還元が難しいと考えられるもの
【例】　／うわ=みず／（上溝）　　／しら=に／（白土）　　／しら=ふ／

（２）１音節で，元の形への還元が難しくないと考えられるものは１最小単位とする。
【例】　／木／陰／　　／木／枯らし／　　／木／立ち／

語源意識が失われている等の理由によって一般には元の形への還元が難しいと考えられるものは１最小単位とせず，全体で１最小単位とすることがある。
【例】　／こ=だま／　　／こ=ぬれ／　　／か=ぶれる／　　／こ=がね／
／こ=よみ／

２．２．１．２　前項の名詞に音変化が生じている場合，全体で１最小単位とする。
【例】　／かい=ま／（垣間）　　／かえ=で／（＜蛙手）　　／かん=ざし／（簪）

２．２．１．３　前項が用言の音便形となっているものは，以下のように最小単位を認定する。

（１）後項が動詞である場合（当該の複合語が複合動詞，又はその転成名詞である場合），前項を１最小単位とする。一般には語源が意識されることの少ない語についても同様に扱う。
【例】　／追っ／掛け／　　／切っ／掛け／　　／くっ／付く／

（２）前項の動詞が連用形に見られる音便形とは異なる音便形を取っていても，それが規則的で広く用いられるものである場合は，前項を１最小単位とする。
【例】　／突っ／張る／　　／引っ／掛かる／　　／吹っ／切れる／

（３）前項の動詞が連用形に見られる音便形とは異なる音便形で個別的な事例と考えられる場合や，音の脱落を生じている場合は，前項を１最小単位とせず，全体で１最小単位とする。
【例】　／おもん=ぱかる／　　／しゃべ=くる／　　／せっ=かち／

（４）後項が用言以外である場合，後項と結合した形で１最小単位とする。
【例】　／追っ=手／　　／同い=年／　　／切=手／

２．２．１．４　後項が個別の変化を起こしている等のことから，それを１最小単位と認定し難い場合は，個別の判断によって最小単位を認定する。
【例】　／飲んだくれる／
※「たくれる」を最小単位と認定する必要はないと考えられるため。
／引っ／ぺがす／
※「引っ／ぱがす」が２最小単位となることとの整合性を取るため。

２．２．２　複合語の後項に音変化が起きているものは，以下の規定によって最小単位を認定する。

２．２．２．１　連濁を生じている場合も，元の形が規定２．１に該当するものであれば，１最小単位とする。
【例】　／わたし／ぶね／（渡し船）　　／ほん／ばこ／（本箱）

※　常用漢字表の音訓欄に挙げた訓には，Ｉの規定１が優先的に適用される。
【例】　／え=がく／　　／いろ=どる／

２．２．２．２　後項の語頭の母音に子音が挿入されている場合も，前項・後項をそれぞれ１最小単位とする。
【例】　／あき／さめ／（秋雨）　　／きり／さめ／（霧雨）

２．２．２．３　後項の語頭音が個別的に変化・脱落している場合，全体で１最小単位とする。
【例】　／かわ=も／（川面）　　／かわ=ら／（川原）　　／ごき=ぶり／

２．２．２．４　結合部分の母音が融合している場合，全体で１最小単位とする。
【例】　／おっしゃる／　　／きゅうり／　　／しょう／（背負う）

ただし，「ひと（人）」に由来する「と」「うと（ど）」「っと」等を最小単位と認める関係上，本規定に該当する語であっても，「と」「うと（ど）」「っと」と前項とをそれぞれ１最小単位とすることがある。
【例】　／おちゅ／うど／（落人）　　／わこ／うど／（若人）

※　「（う）と」の部分に「人」の意味が殆ど認められない語は，全体で１最小単位と認めることがある。
【例】　／隼人／　　／もうと／（真人）

２．３　結合の際に挿入された促音又は撥音は，後項に含める。
【例】　／開け／っ広げ／　　／朝／っぱら／　　／甘／ったれ／
／甘／っちょろい／　　／腕／っ節　　／崖／っ淵／　　／首／っ引き／
／くま／ん蜂／　　／下／っ端／　　／しみ／ったれる／　　／杉／っ葉／
／手／っ取り／早い／　　／出／っ歯／　　／出／っ張る／
／菜／っ葉／　　／抜き／ん出る／　　／猫／っ毛／　　／端／っ端／
／びり／っけつ／　　／宵／っ張り／

3　助詞・助動詞を構成要素に含む語は，以下の規定によって最小単位を認定する。

3．1　以下に挙げる語の構成要素となっている助詞・助動詞は1最小単位とする。
　助詞・助動詞以外の構成要素は，特に定めのない限り，他の規定に基づいて最小単位を認定する。

（1）「―の～」
　前後の要素が古語であったり，音変化を生じていたりする場合も，助詞「の」を1最小単位とする。
【例】　／味／の／素／　　／天／の／川／　　／あま／の／じゃく／
　　／有り／の／侭／　　／タツ／ノ／オトシ／ゴ／

（2）助動詞の連用形が独立性を失い，動詞と1語化して名詞・形状詞に転じたもの
【例】　／いわ／れ／（謂れ）　　／いやがら／せ／　　／知ら／せ／
　　／憎ま／れ／っ子／　　／人／泣か／せ／　　／人／騒が／せ／
　　／番／狂わ／せ／　　／虫／刺さ／れ／　　／やら／せ／

（3）その他の名詞・形状詞等
【例】　／擦っ／た／揉ん／だ／　　／土／踏ま／ず／　　／人／で／なし／
　　／減ら／ず／口／　　／間／に／合う／　　／水／入ら／ず／

（4）「動詞＋て」型の副詞
【例】　／あえ／て／　　／改め／て／　　／得／て／し／て／　　／かえっ／て／
　　／かね／て／　　／辛う／じ／て／　　／極め／て／　　／強い／て／
　　／すべ／て／　　／せめ／て／　　／次い／で／　　／なべ／て／
　　／果たし／て／　　／ひい／て／は／　　／翻っ／て／　　／まし／て／

（5）「動詞＋ず」型の副詞
【例】　／すかさ／ず／　　／取り／あえ／ず／

（6）「動詞の未然形・已然形＋ば」型の副詞
【例】　／言わ／ば／　　／例え／ば／

（7）「形容詞の連用形＋は」型の副詞
【例】　／あわ／よく／ば／

（8）「副詞・形容詞の連用形＋も」型の副詞
【例】　／いと／も／　　／やや／も／　　／奇しく／も／
　　／いやしく／も／　　／畏く／も／　　／からく／も／
　　／くれ／ぐれ／も／　　／よく／も／

（9）その他の副詞
【例】　／飽く／まで／　　／如何／せ／ん／　　／いわ／ん／や／
　　／なる／べく／　　／願わく／ば／　　／びく／と／も／
　　／まる／で／　　／わり／と／

（１０）「動詞＋ぬ・ない」型の連体詞
【例】　／素／知ら／ぬ／　　／尽き／せ／ぬ／

（１１）「動詞＋べき」型の連体詞
【例】／さる／べき／　　／しかる／べき／

（１２）「動詞＋たる」型の連体詞
【例】／さし／たる／

（１３）「動詞＋て＋動詞」型の動詞及びその転成名詞
【例】　／取っ／て／置き／

３．２　以下に挙げる語の構成要素となっている助詞・助動詞は１最小単位とはしない。助詞・助動詞を含む全体で１最小単位とする。

（１）「動詞＋て＋動詞」のうち，助詞「て」が後続の動詞と縮約しているもの
【例】　／打っちゃる／　　／置いてけ／ぼり／

（２）「持って」に由来する「も（っ）て」を含む語（その転成名詞を含む。）
【例】　／も=て=あそぶ／　　／持=て=余す／　　／も=て=なす／

（３）助詞「は」を含む語のうち，助詞「は」に由来する要素が「わ」と表記される語
【例】　／イマ=ワ／（今際）

（４）「～に」型の副詞
【例】　／大い=に／　　／更=に／　　／ひとり=で=に／

※　本規定の適用を受ける語を補則に一覧した。

（５）「～なる・な」型の連体詞
【例】　／色ん=な／　　／大い=なる／　　／大き=な／　　／可笑し=な／

※　本規定の適用を受ける語を補則に一覧した。

（６）「動詞以外＋たる」型の連体詞
【例】　／何=たる／

※　本規定の適用を受ける語を補則に一覧した。

（７）あいさつ・掛け声等の感動詞
【例】　／どう=ぞ／　　／さら=ば／　　／けしから=ん／
／こんにち=は／　　／こんばん=は／　　／さよう=なら／

（８）その他
【例】　／あた=か=も／
※　「あた」を最小単位とは認め難いため。
／そ=も／そ=も／
※　指示詞「そ」が１最小単位と認定されないため。

４　副詞「と」「かく」を構成要素に含む語については，副詞「と」「かく」を１最小単位とした上で，他の要素もそれぞれ１最小単位とする。
【例】　／と／ある／　　／兎／角／　　／兎／に／角／　　／と／も／あれ／

／兎／も／角／　　／と／て／も／
／と／に／も／かく／に／も／

5　派生形容詞及び繰り返しの要素を含む副詞・形状詞については，以下の規定によって最小単位を認定する

5．1　「ＡＡしい」という語構成の形容詞は，次のように最小単位を認定する。
【例】　／青／々しい／　　／軽／々しい／　　／白／々しい／
／痛／々しい／　　／忌／々しい／　　／初／々しい／

5．2　「黄色い」「奥ゆかしい」等，複合語に形容詞語尾が付いた語（「待ち遠しい」のようにク活用型形容詞の語幹にシク活用型形容詞の活用語尾が接続したものを含む。）は，以下のように最小単位を認定する。
【例】　／黄／色い／　　／待ち／遠しい／　　／奥／ゆかしい／

5．3　複合名詞の一部が形容詞語尾として異分析された語や，後項に個別的な音変化が生じているものは，全体で１最小単位とする。
【例】　／目=ぼしい／
※ 目星の転
／目=まぐるしい／
※ 「目＋紛らしい」の転。後項「紛らわしい」に音変化が生じている。

5．4　重複要素を含む副詞・形状詞は，次のように重複する要素をそれぞれ１最小単位とする。
【例】　／粗／々／　　／生き／生き／　　／色／々／　　／浮き／浮き／
／更／々／　　／偶／々／　　／つい／つい／
／いよ／いよ／　　／しば／しば／　　／そろ／そろ／

6　接頭辞は，以下の規定によって最小単位を認定する。

（◆ver.1.6修正）
6．1　接頭辞「お」「み」を含む語は，以下の規定によって最小単位を認定する。（以下は，資料「要注意語」に挙げた接頭的要素「お」「み」の例外規定に当たる。）

6．1．1　「おみ＋○」という語構成のもののうち「み＋○」が１最小単位と規定されているものは，「お」は１最小単位とする。
【例】　／お／み=くじ／　　／お／み=こし／

6．1．2　前条に該当しない「おみ＋○」という形式は全体で１最小単位とする。
【例】　／お=み=足／　　／お=み=渡り／

（◆ver.1.5追加）
6．1．4　感動詞の構成要素と成っている接頭辞「お」は，直後の要素と合わせて１最小単位とする。
【例】　／お=はよう／

6．2　次に挙げる接頭辞は，１最小単位とする。
接頭辞の直後に挿入された促音は接頭辞に含める。

（１）生物の雌雄を区別する「お（雄）」
【例】　／雄／牛／　　／牡／鹿／

ただし，生物の雌雄を直接指示しない「お」は除く。
【例】　／雄=たけび／

（２）おお（大）
【例】　／大／君／　　／大／雨／

（３）か
【例】　／か／細い／　　／か／弱い／

（４）こ（小）
【例】　／小／商い／

ただし，「小間」の「こ」を除く。
【例】　／小=間／物／　　／小=間／使い／

（５）こっ
【例】　／こっ／ぱずかしい／　　／こっ／酷い／

（６）さ
【例】　／さ／迷う／　　／小／夜／

（７）さか（逆）
【例】　／さか／うらみ／　　／さか／のぼる／

ただし，以下の「さか」は除く。
【例】　／逆=さ／　　／逆=らう／

（８）だだ
【例】　／だだっ／広い／

（９）ど
【例】　／ど／田舎／　　／ど／えらい／　　／ど／ぎつい／
／度／肝／　　／度／突く／　　／どん／底／

（１０）どす
【例】　／どす／黒い／

（１１）ひ
【例】　／ひ／弱／

（１２）ひた
【例】　／ひた／隠す／　　／ひた／あやまり／

ただし，以下のものは除く。
【例】　／ひた=すら／　　／ひた=むき／

（１３）ま（真）
【例】　／ま／いわし／　／真ん／中／　　／真っ／白／

（１４）め（雌）
【例】　／雌／牛／　　／牝／鹿／

（１５）ゆう（夕）
【例】　／夕／焼け／　　／夕／暮れ／

7　接尾辞は，以下の規定によって最小単位を認定する。

7．1　次に挙げる接尾辞は，１最小単位と認定する。

（1）がましい
【例】　／おこ／がましい／　　／押し／付け／がましい／

（2）がり
【例】　／暗／がり／　／怖／がり／　　／強／がり／　　／広／がり／

（3）かす
【例】　／甘や／かす／　　／脅／かす／　　／おびや／かす／　　／散ら／かす／
／寝／かす／　　／冷や／かす／　　／ほったら／かし／
／ほったら／かす／　　／ほっぽら／かす／　　／見せびら／かす／
／やら／かす／　　／笑／かす／

（4）け
【例】　／真っ／暗／け／　　／真っ／白／け／

（5）ころ
【例】　／石／ころ／　　／犬／ころ／

（6）ずむ
【例】　／黒／ずむ／

（7）たらしい
【例】　／長／たらしい／　　／憎／たらしい／　　／みじめ／たらしい／

（8）っこい
【例】　／油／っこい／　　／丸／っこい／　　／ねば／っこい／
／ねち／っこい／

（9）ったい
【例】　／野暮／ったい／　　／口／幅／ったい／

（１０）ったけ
【例】　／首／っ丈／　　／有り／っ丈／

（１１）ったるい
【例】　／甘／ったるい／

（１２）っち
【例】　／タマゴ／ッチ／

（１３）っちい
【例】　／丸／っちい／　　／嘘／っちい／

（１４）っちょ
【例】　／先／っちょ／　　／横／っちょ／

（１５）っぱち
【例】　／嘘／っぱち／　　／自棄／っぱち／

（１６）っぺ
【例】　／田舎／っぺ／　　／野／っぺ／

（１７）っぺら
【例】　／薄／っぺら／

（１８）っぺらい
【例】　／薄／っぺらい／　　／やす／っぺらい／

（１９）っぽ
【例】　／尾／っぽ／　　／先／っぽ／　　／空／っぽ／

（２０）っぽい
【例】　／荒／っぽい／　　／安／っぽい／

（２１）びる
【例】　／古／びる／

（２２）びれる
【例】　／悪／びれる／

（２３）べったい
【例】　／平／べったい／

（２４）ぼったい
【例】　／厚／ぼったい／　　／暗／ぼったい／　　／腫れ／ぼったい／

（２５）めかしい
【例】　／艶／めかしい／　　／古／めかしい／

７．２　次に挙げる接尾辞は前の要素に含める。

（１）ク語法
【例】　／いわ=く／　　／ねがわ=く／　　／思えら=く／

（２）こ
擬音語・擬態語に付いて，「～という状態である」という意の語や他の擬音語・擬

態語を作る。
【例】　／泥ん=こ／　　／どんぶら=こ=っこ／　　／ぺたん=こ／
　　／ぺちゃん=こ／

（３）こ
名詞や擬音語に付いて，そのものに対する愛着・愛情等を表現する名詞を作る。
【例】　／にゃん=こ／　　／わん=こ／

（４）ち（歳）
【例】　／はた=ち／　　／三十=路／

（５）っか
【例】　／輪=っか／

（６）っかしい
【例】　／危な=っかしい／　　／そそ=っかしい／

（７）っかる
【例】　／乗っ=かる／

（８）っける
【例】　／乗っ=ける／

（９）っぴら
【例】　／大=っぴら／　　／真=っぴら／

（１０）まか
【例】　／大=まか／　　／ちょこ=まか／

（１１）まる
【例】　／薄=まる／　　／奥=まる／　　／固=まる／　　／静=まる／
　　／狭=まる／　　／高=まる／

（１２）める
【例】　／赤ら=める／　　／薄=める／　　／固=める／　　／静=める／
　　／高=める／

（１３）み
【例】　／とろ=み／　　／柔らか=み／　　／弱=み／

８　１音節の基本語を構成要素に含む語は，その基本語を分析・還元することが難しいと考えられる場合，最小単位とせず全体で１最小単位とすることがある。

８．１　サ変動詞「する」の連用形「し」を含む語については，「し」に当たる要素が「仕」「支」等の別字で表記されることが多いため，原則として「し」を最小単位とせず，全体で１最小単位とする。
【例】　／試=合／　　／し=あわせ／　　／仕=入れる／　　／仕=立て／
　　／仕=付け／糸／　　／仕=留める／　　／し=にせ／　　／支=払い／
　　／仕=舞う／　　／仕=業／

ただし，「する」の意味が比較的強く感じられる語は，「し」を１最小単位とする。
【例】　／為／手／　　／為／直す／

８．２　「す（素)」「そ（素)」を含む語は，「す」「そ」を１最小単位とする。
【例】　／素っ／飛ばす／　　／素っ／飛ぶ／　　／素っ／ぴん／　／素っ／裸／
／素／手／　　／素／通り／　　／素／肌／　　／素っ／気／
／そ／振り／

ただし，以下のように，他方の構成要素の意味が独立して認識される度合いの小さい語に用いられたものは「す」「そ」を１最小単位とせず，全体で１最小単位とする。
【例】　／素=直／　　／素=晴らしい／

８．３　「て（手)」を含む語は，原則として「て」を１最小単位とする。
【例】　／手／垢／　　／手／上げ／　　／手／足／　　／手／厚い／
／手／当て／　　／手／薄／　　／手／落ち／　　／手／紙／
／手／柄／　　／手／軽／　　／手／際／　　／手／口／
／手／答え／　　／手／塩／　　／手／摺／　　／手／っ取り／早い／
／手／引き／　　／痛／手／　　／射／手／　　／受け／手／
／薄／手／　　／裏／手／　　／売り／手／

ただし，以下に挙げるものは「て」を１最小単位とせず，全体で１最小単位とする。

（１）他の規定によって全体で１最小単位と認定されるもの
【例】　／てんでん／　　／てんやわんや／

（２）その他，語源意識が極めて希薄であるもの等
【例】　／梃子／　　／てこずる／　　／手伝う／　　／手間／

８．４　「ま（間)」を含む語は，原則として「ま」を１最小単位とする。
【例】　／間／際／　　／間／口／　　／間／近／　　／間／取り／
／間／に／合う／　　／間／抜け／　　／間／引く／
／間／違い／　　／間／違う／　　／間／違え／　　／間／違える／

ただし，現在語源意識が極めて希薄であるもの等は，「ま」を最小単位とせず，全体で１最小単位とすることがある。
【例】　／万=引き／（＜間引き）

８．５　動詞「見る」の連用形「み」を含む語は，原則として「み」を１最小単位とする。
【例】　／見／合い／　　／見／出だす／　　／見／入る／　　／見／劣り／
／見／限る／　　／見／応え／　　／見／詰める／　　／看／取る／
／見／栄え／　　／見／舞う／　　／国／見／　　／下／見／
／見／付かる／※

※　「付かる」という語が単独で存在しているわけではないが，「／見／付ける／」に対応する語として「／見／付かる／」の２最小単位に分割する。

ただし，以下に挙げるものは「み」を１最小単位とはせず，全体で１最小単位とする。

（１）他の規定によって１最小単位と認定されるもの

【例】　／認める／　　／醜い／

（２）その他，語源意識が極めて希薄であるもの等
【例】　／見事／　　／みっともない／

８．６　「め（目）」を含む語については，原則として「め」を１最小単位とする。
【例】　／目／新しい／　　／目／当て／　　／眼／鏡／　　／目／くじら／
／目／先／　　／目／指す／　　／目／敏い／　　／目／覚める／
／目／付き／　　／目／抜き／　　／目／安／　　／網／目／
／板／目／　　／裏／目／　　／上／目／　　／負い／目／

ただし，以下に挙げるものは「め（目）」を１最小単位とはせず，全体で１最小単位とする。

（１）他の規定によって１最小単位と認定されるもの
【例】　／め=くるめく／　　／め=じろ／　　／め=ぼしい／　　／目ま=ぐるしい／

（２）その他，語源意識が極めて希薄であるもの等
【例】　／め=ど／

９　語の構成要素となっている古語は，以下の規定によって最小単位を認定する。

９．１　語の構成要素となっている動詞が，文語の活用形を残存している場合にも，それを１最小単位と認定する。
【例】　／あし／げ／（足蹴）　　／こじ／開ける／　　／攀じ／登る／

９．２　文語の助詞「つ」及びその母音交替形や，助詞「の」の母音交替形，間投助詞「し」等の文語の助詞は，最小単位とせず全体で１最小単位とする。
【例】　／ある=い=は／　　／今=し=がた／　　／ひ=な=た／　　／ま=つ=毛／
／果て=し=ない／

９．３　１語化した語の中に残存する文語の助動詞は，１最小単位としない。
【例】　／あら=まし／　　／いわ=ゆる／

１０　以下に挙げる要素は，最小単位としない。

（１）指示代名詞の構成要素「あ」「か」「こ（ん）」「さ」「そ（ん）」等
【例】　／あそこ／　　／あちら／　　／あなた／　　／あの／　　／かの／
／きゃつ／　　／こいつ／

（２）疑問代名詞・疑問副詞などの構成要素「いか」「いく（幾）」「ど」等
【例】　／いか=なる／　　／いく=た／　　／いく=ばく／　　／いく=ら／

（３）単独では動植物を示すことがない一般語が複数結合し，動植物名として用いられている語の構成要素，及び構成要素の一部に動植物名を含むが，結合した全体は個々の構成要素が表す動植物とは無関係な動植物を表す語の構成要素
【例】　／あさ=がお／　　／いし=もち／　　／かた=つむり／　　／き=くらげ／

（４）競走馬名などの構成要素
【例】　／マチ=カネ=フク=キタル／　　／マチ=カネ=ワラウ=カド／

１１　以上に定めたもののほか，問題となる語の最小単位認定について，次に一覧する。

（１）次に挙げる語は，元々は二つ以上の要素から成るが，現在は既に１語と意識されていると考えられるため，全体で１最小単位とする。

《あ》
仰向け（アオムケ）　足掻く（アガク）　論う（アゲツラウ）　曙（アケボノ）
浅はか（アサハカ）　朝ぼらけ（アサボラケ）　嘲笑う（アザワラウ）
汗疹（アセモ）　厚かましい（アツカマシイ）　呆気（アッケ）
あっけらかん　当てずっぽう（アテズッポウ）　あどけ（ない）
脂ぎる（アブラギル）　油ぎる（アブラギル）　あやふや
現人（神）（アラヒト（ガミ））　在処（アリカ）　有りふれる（アリフレル）
経緯（イキサツ）　行成（イキナリ）　藺草（イグサ）
居た堪れる（イタタマレル）　鼾（イビキ）　息吹き（イブキ）
鋳師（イモジ）　いんちき　後ろめたい（ウシロメタイ）
団扇（ウチワ）　自惚れる（ウヌボレル）　姥目（ウバメ）
羨ましい（ウラヤマシイ）　羨む（ウラヤム）　浮つく（ウワツク）
得手（エテ）　干支（エト）　花魁（オイラン）　大凡（オオヨソ）
落ちぶれる（オチブレル）　弟切（オトギリ）　一昨日（オトトイ）
一昨年（オトトシ）　乙女（オトメ）　覚束無い（オボツカナイ）
おわします　おんぼろ
《か》
神楽（カグラ）　駆けずる（カケズル）　瘡蓋（カサブタ）　気質（カタギ）
片栗（粉）（カタクリ（コ））　忝い（カタジケナイ）　象る（カタドル）
形見（カタミ）　竈（カマド）　蒲鉾（カマボコ）　我楽多（ガラクタ）
枳殻（カラタチ）　木こり（キコリ）　如月（キサラギ）　きな粉（キナコ）
木目（キメ）　際どい（キワドイ）　草薙（クサナギ）　嘴（クチバシ）
毛羽（ケバ）　毛むくじゃら（ケムクジャラ）　煙たい（ケムタイ）
悉く（コトゴトク）　異なる（コトナル）　言葉（コトバ）　寿ぐ（コトホグ）
諺（コトワザ）　小間（コマ）
《さ》
桟敷（サジキ）　皐月（サツキ）　最中（サナカ）　ざりがに
潮騒（シオサイ）　しこたま　枝垂れる（シダレル）　芝居（シバイ）
僕（シモベ）　白ける（シラケル）　しるべ　辛抱（シンボウ）
酢橘（スダチ）　簾（スダレ）　すっからかん　すっ込む（スッコム）
住処（スミカ）　背子（セコ）　そそくさ　某（ソレガシ）
《た》
畳付く（タタナヅク）　忽ち（タチマチ）　七夕（タナバタ）
たなびく　容易い（タヤスイ）　ちぎれる　稚児（チゴ）
司る（ツカサドル）　辻褄（ツジツマ）　恙ない（ツツガナイ）
津波（ツナミ）　唾（ツバ）　椿（ツバキ）　鶴嘴（ツルハシ）
釣瓶（ツルベ）　出しゃばり（デシャバリ）　出しゃばる（デシャバル）
出鱈目（デタラメ）　てんでん（テンデン）　途切れ（トギレ）
途切れる（トギレル）　途絶える（トダエル）　怒鳴る（ドナル）
とびきり（トビキリ）　戸惑い（トマドイ）　戸惑う（トマドウ）
止めど（トメド）　鳥居（トリイ）　虜（トリコ）　砦（トリデ）

取り分け（トリワケ）　団栗（ドングリ）　とんでも（ない）

《な》

名うて（ナウテ）　亡くなる（ナクナル）　なけなし　何某（ナニガシ）
名乗り（ナノリ）　名乗る（ナノル）　名乗れる（ナノレル）
なまじっか　何ぼ（ナンボ）　ねんね　仰け反る（ノケゾル）　のさばる

《は》

羽織（ハオリ）　羽交い（ハガイ）　葉書（ハガキ）　捗る（ハカドル）
儚い（ハカナイ）　儚む（ハカナム）　狭間（ハザマ）　梯子（ハシゴ）
鰰（ハタハタ）　葉っぱ（ハッパ）　餞（ハナムケ）　埴輪（ハニワ）
羽根（ハネ）　原っぱ（ハラッパ）　遥々（ハルバル）　日がな（ヒガナ）
蹄（ヒヅメ）　ひねくれる　日和る（ヒヨル）　平たい（ヒラタイ）
平たく（ヒラタク）　ひれ伏す（ヒレフス）　広げる（ヒロゲル）
ふくらはぎ　不貞腐れる（フテクサレル）　へたばる　部屋（ヘヤ）
ほくそ笑む（ホクソエム）　ほっつき[歩く]　迸る（ホトバシル）

《ま》

馬子（マゴ）　実しやか（マコトシヤカ）　まさか　真砂（マサゴ）
真面目（マジメ）　混ぜこぜ（マゼコゼ）　まっしぐら　真秀ろば（マホロバ）
蝮（マムシ　丸切り（マルキリ）　晦日（ミソカ）　見附（ミツケ）
見惚れる（ミトレル）　深山（ミヤマ）　蝕む（ムシバム）　息子（ムスコ）
群がる（ムラガル）　娶る（メトル）　目眩（メマイ）　基づく（モトヅク）
裳抜け（モヌケ）　最早（モハヤ）　最寄り（モヨリ）

《や》

館（ヤカタ）　やきもき　火傷（ヤケド）　屋敷（ヤシキ）　やっとこ
やっとこさ　屋根（ヤネ）　矢張り（ヤハリ）　流鏑馬（ヤブサメ）
山びこ（ヤマビコ）　昨夜（ユウベ）　夕べ（ユウベ）　湯がく（ユガク）
行きずり（ユキズリ）　行方（ユクエ）　蘇る（ヨミガエル）
四方山（ヨモヤマ）　夜半（ヨワ）

《わ》

轍（ワダチ）　侘助（ワビスケ）

（２）次に挙げる語の下線部は，現在単独で用いられることがない，あるいはほとんどない要素である。しかし，それを構成要素に持つ語について，現在のところ複数の構成要素から成る語であると意識されており，その要素も複数の語の中に認められるなど，一定の独立性を持っていると考えられるため，１最小単位とする。

《あ》

／あから／さま／　／朝な／朝な／　／朝な／夕な／　／あだ／名／
／新／巻／　／熱り／立つ／　／投げ／うつ／　／産／声／　／産／湯／
／うろ／覚え／　／うろ／つく／　／うわ／ごと／　／生き／餌／
／撒き／餌／　／笑／顔／　／生い／立ち／　／おい／どん／
／面／影／　／面／持ち／

《か》

／嵩／張る／　／わり／かし／　／神／主／　／色／きち／
／くす／だま／　／無茶／苦茶／　／滅茶／苦茶／　／かま／くら／
／おし／くら／

《さ》

／遠／ざかる／　／今／更／　／殊／更／　／しか／じか／
／しず／しず／　／じり／安／　／代／物／　／道／すがら／
／後／ずさり／　／炭／すご／　／せせら／笑う／　／ぞろ／目／
／寝／そべる／

《た》
／横／たえる／　／塗り／たくる／　／耳／たぶ／　／だふ／屋／
／たわ／ごと／　／横／たわる／　／千／尋／　／千／代／
／乳／飲み／子／　／乳／首／　／ちょめ／ちょめ／　／はい／つくばる／
／常／夏／　／常／世／　／どさ／くさ／　／どさ／回り／
／とど／松／　／どんでん／返る／　／どんど／焼き／
《な》
／ぬるま／湯／　／のんべん／だらり／
《は》
／端／唄／　／端／ぎれ／　／羽／ばたく／　／はし／ぶと／
／はし／ぼそ／　／はす／向かい／　／はちゃ／めちゃ／　／食み／瓜／
／はみ／出す／　／はみ／出る／　／曽／孫／　／久／方／
／引っこ／抜く／　／芝／生／　／舳／先／　／海／辺／　／川／辺／
／岸／辺／　／へし／合い／　／へし／折る／　／へり／くだる／
／痩せ／っぽち／　／洞／穴／　／ほろ／苦い／
《ま》
／ぶち／まける／　／まて／貝／　／まてば／しい／　／まな／板／
／継／子／　／継／母／　／まま／ごと／　／血／みどろ／
／むく／鳥／　／女／神／　／やたら／めったら／　／めり／はり／
／もも／とり／　／諸／手／　／諸／刃／　／諸／々／
《や》
／八百／屋／　／八百／万／　／青／柳／　／朝な／夕な／
／ゆすら／うめ／　／夜な／夜な／
《わ》
／板／わさ／

（◆ver.1.6追加）
補則　「～に」型の副詞・「～なる・な」型の連体詞・「動詞以外＋たる」型の連体詞

規定３．２に基づき１最小単位と認定する「～に」型の副詞，「～なる・な」型の連体詞，「動詞以外＋たる」型の連体詞を，次に一覧する。

（１）「～に」型の副詞
暗に　如何に　大いに　主に　徐に　実に　厳に　現に　殊に
更に　既に　切に　直ちに　偶に　単に　遂に　夙に　具に
特に　頓に　偏に　独りでに　本に　正に　優に　碌に

（２）「～なる・な」型の連体詞
如何な　異な　色んな　大きな　可笑しな　主な　小さな　碌な
如何なる　大いなる　更なる　妙なる　単なる

（３）「動詞以外＋たる」型の連体詞
確たる　名だたる　何たる

第３　最小単位の分類

短単位を認定するために，最小単位を以下のように分類する。

表３．１　最小単位の分類

分　類	例
一　般	和　語　：　山　川　白い　話す　言葉　…
	漢　語　：　社　会　用　研　究　所　…
	外来語　：　オレンジ　ボックス　アルゴリズム　…
付属要素	接頭的要素（「要注意語」の「接頭的要素」に掲げたもの。） ：　相　御（お）　各　御（ご）　…
	接尾的要素（「要注意語」の「接尾的要素」に掲げたもの。） ：　合う　致す　っぽい　性　的　…
記　号	Ａ　Ｂ　ω　イ　ロ　ア　甲　乙　丙　ＮＨＫ　ＪＲ　…
数	一　二　十　百　千　…　幾　数　何
固有名	人　名　：　星野　仙一　ジェフ　ウィリアムス　橋　龍　…
	地　名　：　大阪　待兼山町　六甲　天六　…
助詞・助動詞	た　です　ます　か　から　て　も　…

1　音や文字・語の断片※を指示したものについては，「記号」に分類する。
【例】　｜ヒ｜と｜シ｜の｜発音｜　　｜片仮名｜の｜ヨ｜
｜不仲｜に｜なる｜と｜いう｜時｜の｜不｜を｜用い｜て｜

※　ここで言う語の断片とは，次に挙げるものである。
- 漢語は１短単位未満のもの。
- 和語・外来語は１最小単位未満のもの。ただし活用語の語幹は除く。

2　ヒトリ（一人）・フタリ（二人）は，「一般」に分類する。

3　「幾」「数」「何」が「幾人」「数百」「何個」のように不定の数を表す場合は，「数」に分類する。

（◆ver.1.5修正）
4　「一」「二」等，数を表す最小単位のうち，数量を表すことに主眼がなく，他との結合が慣用的であり，かつ全体で一つの決まった内容を表すもの（おおよそ次の（１）から（７）に当たるもの）は「一般」に分類する。

（１）サ変動詞，副詞，形状詞として使われる語やそれに準じる意味となる語
【例】　一休み　　一読　　三振　　一刻　　一律　　一時　　一流
　　三角　　四角

（２）四字熟語等，成句の構成要素
【例】　一石二鳥　　一夫多妻　　一騎当千
　　ひと騒ぎふた騒ぎ（「ひと―ふた―」という型の表現）

（３）比喩的・抽象的で，数字どおりの数を示さないもの（不定の量や大量を表す。）
【例】　一種　　一団　　一員　　一抹　　一欠片　　八宝　　四方　　十二分に

（４）そのカテゴリに属する種類の数を表すもの
【例】　三家　　四季　　四苦八苦　　六法　　七味

（５）その他具体的な事柄を表すもの
【例】　七節（虫の名前）　　八頭（里芋の品種）　　八字・十字（字の形）
　　四捨五入　　四球（四死球）　　三箇日　　三つ星　　二紋

（６）数字を含む略語
【例】　小六　　中二　　高三　　四駆（四輪駆動の略）
　　二文（早稲田大学第二文学部の略）

（７）その他
【例】　二の腕　　三編み　　四つ角　　二枚舌

Ⅱ　短単位認定規程　Version 1.6

第１　短単位認定規程

（◆ver.1.6修正）
短単位は，長単位の中で最小単位が以下の規定に基づいて結合した（又は結合しない（これは０回結合と考える。））結合体である。
短単位の認定に関する規定は，最小単位認定規程の第３「最小単位の分類」で分類した種類ごとに適用すべき規定が定められている。以下に，それを示す。
擬音語・擬態語の短単位の認定については，同語異語判別規程の細則７「擬音語・擬態語の扱い」を参照。

１　一般

原則として，「一般」に分類した和語・漢語の最小単位二つの１次結合は１短単位とする。

【例】　｜母=親｜　｜書き=言葉｜　｜食べ=歩く｜　｜音=声｜
｜無=口｜

｜言い｜方｜が｜ま‖多分‖文法‖的｜に｜は｜
‖部分‖で‖法案‖を‖整え直す‖こと｜に｜なる｜
｜いわゆる‖ガイドライン‖関連‖法｜案｜に｜
‖対応‖方針‖など｜に‖対し‖ます‖国会‖の｜

「一般」に分類した外来語の最小単位のうち省略されたものは，和語・漢語の最小単位と同様に扱う。

【例】　｜パソ=コン｜　｜オートマ=車｜　｜塩=ビ｜

１．１　以下に挙げるものは，３最小単位以上の結合であっても全体で１短単位とする。

（１）三つ以上の最小単位から成る組織の名称等の略称

【例】　｜統=数=研｜　｜奈=文=研｜　｜日=経=連｜

※　ここでいう略称とは，組織の名称を構成する短単位すべて又はその一部を略して結合させたもののことである。したがって，以下のような構成要素の一部（「国語」「党」）が略されていないものは，略称とはしない。

【例】　｜国立｜国語｜研究｜所｜　⟶　｜国語｜研｜
｜自由｜民主｜党｜　⟶　｜自民｜党｜
｜主婦｜連合｜会｜　⟶　｜主婦｜連｜

（２）切る位置が明確でないもの，あるいは切った場合と一まとめにした場合とで意味にずれがあるもの

【例】　｜大統領｜　｜不可解｜　｜明後日｜　｜殺風景｜
｜輸出入｜　｜国内外｜　｜町村長｜　｜原水爆｜　｜市町村長｜
｜大袈裟｜　｜大雑把｜　｜大丈夫｜　｜一辺倒｜
｜十文字｜　｜二枚目｜　｜十八番｜

ただし，二つ以上の漢語の最小単位が並列して，１短単位と結合している場合は，次のように短単位を認定する。

【例】　｜中｜小｜企業｜　｜小｜中｜学校｜　｜都｜道｜府｜県｜知事｜

（◆ver.1.6修正）
（３）資料「要注意語」の「―が～」「―の～」に挙げたもの
【例】
「―の～」　：　｜日=の=丸｜　　｜床=の=間｜　　｜竹=の=子｜
「―が～」　：　｜天=が=下｜　　｜雁=が=音｜　　｜剣=が=峰｜

※　「―の～」で１短単位とするものを選定するに当たっては，以下の事項をおおよその目安とする。

①「の」が読み添えとなっているもの
【例】　斎宮　　対屋

②「の」の直前の要素が被覆形のもの
【例】　木の葉　　目の当たり

③「―の～」全体の品詞が名詞以外となるもの
【例】　案の定　　気の毒　　殊の外

④「―の～」が動植物名等を表すもの
【例】　卯の花　　竹の子　　泥の木

１．２　以下に挙げるものは，１最小単位を１短単位とする。

（◆ver.1.3修正）
（１）外来語・外国語の最小単位
【例】　｜オレンジ｜色｜　　｜インサーション｜ペナルティー｜
｜スペクトル｜パラメーター｜
｜アウト｜オブ｜ドメイン｜　　｜ショアーズ｜アット｜ワイコロア｜
｜基本｜レフト｜トゥー｜ライト｜構造｜　　｜コール｜フォー｜ペーパー｜

ただし，省略された外来語の最小単位との１次結合体は１短単位とする。
【例】　｜エア=コン｜　　｜マス=コミ｜　　｜デフレ=スパイラル｜

※　元は省略された外来語の最小単位であるが，省略されたものとして扱わないものがある。それらについては補則１を参照。

（２）最小単位が三つ以上並列した場合の，それぞれの最小単位
【例】　｜衣‖食‖住｜　　｜松‖竹‖梅｜　　｜都‖道‖府‖県｜

（３）名を表す部分と類概念を表す部分とが結合してできた固有名のうち，名を表す部分・類概念を表す部分が共に１最小単位である場合の，それぞれの最小単位
【例】　｜さくら‖屋｜　　｜のぞみ‖号｜　　｜くれない‖会｜

ただし，名を表す部分が１字の漢語である場合は，その１次結合体を１短単位とする。
【例】　｜阪=大｜　　｜仏=教｜　　｜李=朝｜　　｜壮=族｜　　｜礼=記｜

（４）感動詞
【例】　｜はい｜はい｜　　｜おい｜おい｜　　｜どれ｜どれ｜

（５）言いよどみ
【例】　｜こ｜ここ｜から｜　　｜最｜、｜最初｜の｜

（６）規定１，１．１，１．２の（１）から（４）によって得られた短単位に，前又は後ろから結合した最小単位
【例】　｜内閣‖府‖　　‖副‖大統領｜　　｜橋本‖元‖首相｜
｜光｜ファイバー‖網‖　　｜自衛‖隊‖　　｜国立｜国語｜研究‖所‖

（７）単独で文節を構成する最小単位
【例】　｜やっぱり｜これ｜も｜一｜つ｜の｜　　｜オレンジ｜を｜食べる｜。｜
｜えーと｜、｜こちら｜の｜場合｜でし｜たら｜…｜…｜

（◆ver.1.3修正）
２　記号
記号は，１最小単位を１短単位とする。
【例】　｜表｜Ａ｜　　｜図｜Ｂ｜　　｜ＪＲ｜　　｜ＮＴＴ｜　　｜Ｌ．Ａ．｜

｜Ｅ‖が｜形態｜素｜情報‖Ｆ‖が｜分節｜音｜の｜ラベル｜
｜今回｜も‖ＮＴＴ‖データベース｜を｜用い｜て｜
‖Ｐ‖・‖Ｊ‖・｜ブラウン｜と｜ジュワン｜・｜ハワード｜だ｜。｜
｜東京｜・‖Ｙ‖・‖Ｎ‖

２．１　それがないときに１短単位となるものの中にある記号は無視する。
【例】　｜しゅ=・=く=・=だ=・=い｜
｜四百｜十｜五｜条｜以下｜に｜規程｜が｜あ=」=る｜。｜
｜都心｜から｜一｜時間｜半｜どころ｜か｜、｜三=、=四十｜分｜、｜

３　数
数は，以下の規定によって単位認定する。

３．１　数は，ほかの最小単位と結合させない。
【例】　｜四‖月｜の‖三十‖日｜ぐらい｜
｜私｜が‖一二‖年｜前｜まで｜住｜ん｜で｜い｜た｜
｜コーパス｜全体｜で‖七百｜五十｜二｜万‖語｜
‖四十｜八‖キロヘルツ｜サンプリング‖十｜六‖ビット｜な｜ん｜です｜

３．２　数の間どうしの結合については，一・十・百・千の桁ごとに１短単位とする。「万」「億」「兆」などの最小単位は，それだけで１短単位とする。小数部分は，１最小単位を１短単位とする。
【例】　｜千‖九=百‖四=十‖二｜年｜十｜月｜二=十‖五｜日｜、｜
｜現在｜は｜二=千‖八=百‖万‖円｜で｜売ら｜れ｜て｜いる｜
｜毎年｜何=十‖億‖円｜も｜の｜都民｜の｜税金｜を｜
｜都心｜から｜一｜時間｜半｜どころ｜か｜、｜三=、=四十｜分｜、｜
｜平成｜六｜年度｜の｜タクシー｜代｜の｜総額｜が｜二=十‖四=、=五‖※
億｜円｜に｜も｜なる｜が｜、｜
｜地形｜図｜２｜万‖５=千｜分｜の｜１｜

｜０｜４｜２｜－｜５｜４｜０｜－｜４｜３｜０｜０｜

※　「四、五」を結合させるのは概数の場合に限る。並列の場合は結合させない。
【例】　｜妨害｜刺激｜の｜数｜は｜一‖二‖四‖六｜の｜四｜通り｜と｜し｜て｜おり｜ます｜

4　固有名

固有名（人名・地名）は，１最小単位を１短単位とする。

【例】

〔人　名〕　｜星野｜仙一｜　｜マット｜・｜マートン｜　｜林｜威助｜
｜千代大海｜　｜十返舎｜一九｜　｜お千代｜

〔国　名〕　｜アメリカ｜合衆｜国｜　｜ロシア｜共和｜国｜
｜南アフリカ｜共和｜国｜

〔行政区画名〕｜東京｜都｜立川｜市｜緑町｜十｜番｜二｜号｜
｜京都｜市｜上京｜区｜今出川｜通｜烏丸｜東入る｜

〔地域名〕　｜中国｜地方｜　｜九州｜地方｜　｜四国｜地方｜
｜北海道｜地方｜
｜東海道｜　｜山陰道｜
｜東｜ヨーロッパ｜　｜南｜アメリカ｜

〔地形名〕　｜生駒｜山｜　｜昭和｜新山｜　｜サロマ｜湖｜

〔場所名〕　｜茨木｜市｜駅｜　｜さいたま｜新｜都心｜駅｜
｜山陽｜本線｜　｜大｜江戸｜線｜
｜東海道｜　｜中山道｜

〔略　称〕　｜ちとから｜　｜天六｜

（◆ver.1.4追加）

４．１　姓又は名を略した最小単位は，「一般」の最小単位に分類されるので，規定１から１．２によって短単位を認定する。

【例】　｜おざ=けん｜　｜橋=龍｜

（◆ver.1.4修正）

４．２　地名を略した一字漢語の「日」「米」，それに相当する片仮名の「ロ」（「ロシア」の略）などは，「一般」の最小単位に分類されるので，規定１から１．２によって短単位を認定する。

【例】　｜米国｜　｜来日｜　｜日ロ｜　｜日｜米｜韓｜
｜日米｜安全｜保障｜条約｜
｜京阪｜地方｜　｜阪奈｜自動｜車｜道｜

ただし，地名を略した一字漢語が三つ以上並列したものが，ある地域を表す場合は，全体で１短単位とする。

【例】　｜京=阪=奈｜丘陵｜　｜京=阪=神｜急行｜電鉄｜

5　付属要素

付属要素は，１最小単位を１短単位とする。

【例】　｜お‖母‖さん｜　　｜見‖にくい｜

5．1　付属要素に分類した動詞性接尾辞は，居体言の構成要素となっている場合も接尾的要素として扱う。

【例】　｜これ｜も｜使い‖過ぎ‖の｜誤り｜と｜いう｜こと｜に｜なり｜ます｜

5．2　付属要素に分類した動詞性接尾辞は，可能動詞形になっている場合も接尾的要素として扱う。

【例】　｜で｜それ｜は｜食べ‖切れ‖なく｜て｜三｜人｜で｜行っ｜た｜ん｜です｜けど｜

6　助詞・助動詞

助詞・助動詞は，１最小単位を１短単位とする。

【例】　｜統一｜的‖な‖視点‖で‖切り‖ましょう‖
｜それ｜に｜つい｜て｜もっとも｜示唆｜に｜富む｜の｜は｜

6．1　助動詞として扱っている補助動詞縮約形は，可能動詞形になっている場合も助動詞として扱う。

【例】　｜結局｜(F あのー)｜ほっ‖とけ‖ない｜って｜いう｜ところ｜で｜
｜もう｜ちょっと｜調子｜悪く｜て｜連れ‖てけ‖ない｜

6．2　資料「要注意語」の「―が～」「―の～」に挙げられた語の中の助詞「が」「の」は，助詞・助動詞として扱わない。

【例】

「―の～」　：　｜日=の=丸｜　　｜床=の=間｜　　｜竹=の=子｜

「―が～」　：　｜君=が=代｜　　｜万=が=一｜

6．3　補則５（３）に挙げた語の中の助詞・助動詞は１短単位とせず，それを含む全体で１短単位とする。

【例】　｜敢えて｜　　｜飽くまで｜　　｜却って｜

補則１　略語として扱わない外来語の最小単位

省略された外来語の最小単位のうち，表３．２に掲げたものは省略された外来語の最小単位として扱わない。

表３．２　略語として扱わない外来語の最小単位

アイゼン　（シュタイクアイゼンの略）	ニス　（ワニスの略）
アクセル　（アクセレレーターの略）	ネル　（フランネルの略）
アニメ　（アニメーションの略）	ノート　（ノートブックの略）
アパート（アパートメント-ハウスの略）	ノンプロ　（nonprofessionalの略）
アマ　（アマチュアの略）	ノンポリ　（nonpoliticalの略）
アンプ　（アンプリファイヤーの略）	パーマ　（パーマネントウエーブの略）
イラスト　（イラストレーションの略）	バイオ　（バイオテクノロジーの略）
インテリ　（インテリゲンチャの略）	パブ　（pubulic houseの略）
イントロ　（イントロダクションの略）	ハンカチ　（ハンカチーフの略）
エキス　（エキストラクトの略）	ピケ　（ピケットの略）
エゴ　（エゴイスト，エゴイズムの略）	ビデオ　（ビデオテープ，ビデオテープレコーダー等の略）
エレキ　（エレキテルの略）	ビル　（ビルディングの略）
オートバイ　（autobikeの略）	プレミア　（プレミアムの略）
キャッチ　（キャッチャーの略）	プロ　（プロフェッショナルの略）
キャップ　（キャプテンの略）	ペーパー　（サンドペーパーの略）
キロ　（キロメートル，キログラム，キロワット等の略）	ホーム　（プラットホームの略）
コーポ　（コーポラスの略）	ポルノ　（ポルノグラフィーの略）
コンテ　（コンティニュイティの略）	マイク　（マイクロホンの略）
コンパ　（コンパニーの略）	マンネリ　（マンネリズムの略）
コンビ　（コンビネーションの略）	ミス　（ミステークの略）
ジム　（ジムナジウムの略）	ミリ　（ミリグラムの略）
スーパー　（スーパーインポーズの略）	メカ　（メカニズムの略）
センチ　（センチメートルの略）	モノクロ　（モノクロームの略）
ダイヤ　（ダイヤグラムの略）	ラボ　（ラボラトリーの略）
ダダ　（ダダイズムの略）	リストラ　（リストラクチュアリングの略）
デパート（デパートメント-ストアの略）	リハビリ　（リハビリテーションの略）
デマ　（デマゴギーの略）	リュック　（リュックサックの略）
テレビ　（テレビジョンの略）	レジ　（レジスターの略）
トイレ　（トイレットの略）	ロケ　（ロケーションの略）
トランス　（transformerの略）	ロゴ　（ロゴタイプの略）
ナンバリング（numbering machineの略）	

※ 表３．２に掲げた語を選定した際の観点は，以下のとおりである。

（１）元の語形が一般に余り使われることがない。

【例】　テレビ（テレビジョン）　　ジム（ジムナジウム）

（２）原語に略語形がある。

【例】　プロ（pro(プロフェッショナル))　　キャップ（cap(責任者))

（３）原語に類義の同語形がある。

【例】　バイオ（バイオテクノロジー，bio（生物学))

（４）その他

【例】　アマ（アマチュア）　……「プロ」を略語としないこととの対応

補則２　動詞「―（サ）ス」「―（サ）セル」

原則１　「―（サ）ス」という形の動詞は，語末「ス」「サス」を助動詞としない。
【例】　｜言わ=す｜　　｜書か=す｜　　｜食べ=さす｜　　｜受け=さす｜

原則２　五段・サ変動詞の未然形＋助動詞「セル」，五段・サ変以外の動詞の未然形＋助動詞「サセル」に分析可能なものは，語末「セル」「サセル」を助動詞とする。
【例】　｜書か‖せる｜　　｜食べ‖させる｜

※　動詞が「―（サ）セル［-(s)ase-ru］」によって派生し下一段に活用するもの。

１　サ変動詞には，短単位認定規程の規定５の適用を優先する。
【例】　｜彷彿｜さ‖せる｜　　｜練習｜さ‖せ｜かける｜

２　五段・サ変動詞の未然形＋助動詞「セル」，五段・サ変以外の動詞の未然形＋助動詞「サセル」と分析できないものは，語末の「(サ) セル」を分割しない。
【例】　｜見=せる｜※1　｜着=せる｜※1　｜乗=せる｜※2　｜寄=せる｜※2

※１　「見る」「着る」は上一段動詞であるため，使役の助動詞としては「サセル」が接続し，「見させる」「着させる」となる。したがって，語末の「セル」を助動詞として切り出すのは，助動詞「セル」の接続の上で適切ではない。
［参照］　｜見‖させる｜　　｜着‖させる｜

※２　関係の認められる「乗る」「寄る」は五段動詞であるが，使役の助動詞「セル」は五段動詞の未然形接続であるので，語末の「セル」を助動詞として切り出すのは，助動詞「セル」の接続の上で適切ではない。
［参照］　｜乗ら‖せる｜　　｜寄ら‖せる｜

３　元の動詞が文語動詞であるもの，口語動詞であっても，現代語ではほとんど使われないものについては，語末の「(サ) セル」を分割しない。
【例】　｜くゆら=せる｜　　｜遅ら=せる｜　　｜そばだた=せる｜

※　元の動詞は，以下のとおり。
くゆらせる　⟶　くゆる（ラ行四段）
遅らせる　⟶　遅る（ラ行下二段）
そばだたせる　⟶　そばだつ（タ行五段）

４　「―（サ）セル」という形の複合動詞（連用形が名詞化したものも含む。）については，語末の「(サ) セル」を分割しない。
【例】　｜言い聞か=せる｜　　｜言い聞か=せ｜続ける｜

※　元の動詞が現代語に存在しないものや，存在したとしても元の動詞と「―（サ）セル」形との間で意味にずれが認められるものが多いことから，一律に語末の「(サ) セル」を助動詞として切り出さないこととした。

言い聞かせる　　⟶　　×言い聞く

（◆ver.1.5修正）

5　「―（サ）セル」という形の動詞（複合動詞は除く。）が，複合語を構成している場合，動詞の語末「(サ）セル」は分割しない。

【例】　｜食わ=せ=物｜　　｜人騒が=せ｜　　｜人泣か=せ｜　　｜番狂わ=せ｜
｜役者｜泣か=せ｜

ただし，「―（サ）セル」という形の動詞（複合動詞は除く。）が付属要素と結合する場合，短単位認定規程の規定５によって，付属要素を分割した上で，動詞に当たる部分に本補則の原則２を適用する。

【例】　｜思わ‖せ‖振り｜

補則３　可能動詞

（１）可能動詞は，元になった五段活用動詞と同様に短単位を認定する。

【例】　｜読める｜　　｜行ける｜　　｜離せる｜
｜切り離せる｜　　｜話し合える｜

（２）ら抜き言葉は語末の「れる」を切り出さない。

【例】　｜着=れる｜　　｜来=れる｜　　｜食べ=れる｜
｜見=れる｜　　｜透かし見=れる｜　　｜こじ開け=れる｜

（◆ver.1.6修正）

補則４　文節との関係

１最小単位の体言と１最小単位の用言とが連接した場合に，１短単位として結合させるか否かの判断基準を補則４の１，補則４の２として示す。

補則４の１　体言＋動詞

２最小単位から成る動詞のうち，体言＋動詞という形式のものについては，以下の規定に基づいて短単位を認定する。

原則　『岩波国語辞典』第６版，『日本国語大辞典』第２版のいずれか一方で，見出し語（空見出し・子見出し・連語としての見出し語は除く。）になっているものは１短単位とする。

【例】　｜苔=むす｜　　｜心=ゆく｜　　｜夢=見る｜

1　原則に当たらないものは，体言の後ろで分割し，２短単位とする。

【例】　｜茜‖さす｜

2　複合語の先頭又は中間に位置する体言＋動詞（連用形）については，原則及び１を適用せず，１短単位とする。

【例】　｜波=打ち｜際｜　　｜菜=切り｜包丁｜　　｜血=吸い｜コウモリ｜

※　体言＋動詞の品詞については，以下のように判定する。

①『岩波国語辞典』第６版，『日本国語大辞典』第２版のいずれか一方で，動詞として立項されているものは，同語異語判別規程の細則３「動詞連用形と動詞連用形転成名詞の判定基準」に基づいて動詞か名詞かを判定する。

【例】　波打ち（際）　……　動詞

②『岩波国語辞典』第６版，『日本国語大辞典』第２版のいずれにおいても動詞として立項されていないもの，両方に立項されているが，「連語」とされているもの，又は一方の辞典にしか立項されておらず，なおかつその辞典で「連語」とされているものは，名詞とする。

【例】　菜切り（包丁），血吸い（コウモリ）　……　名詞

補則４の２　体言＋形容詞

２最小単位から成る形容詞のうち，体言＋形容詞という形式のものについては，以下の規定に基づいて短単位を認定する。

（◆ver.1.5修正）

原則　『岩波国語辞典』第６版，『日本国語大辞典』第２版のいずれか一方で，見出し語（空見出し・子見出し・連語としての見出し語は除く。）になっているものは１短単位とする。

（１）体言＋「ナイ（無）」

※　『岩波国語辞典』第６版，『日本国語大辞典』第２版のいずれかで見出し語になっているものを次に挙げる。１短単位とする「体言＋「ナイ（無）」」は，原則として次に挙げるものとする。

あえない（敢え無い）　あじきない（味気無い）　あじけない（味気無い）
あじない（味無い）　あやない（文無い）　いろない（色無い）
いわれない（謂われ無い）　うつつない（現無い）　おしみない（惜しみ無い）
おぼつかない（覚束無い）　おやげない（親気無い）　おやみない（小止み無い）
およびない（及び無い）　かいない（甲斐無い）　かぎりない（限り無い）
かくれない（隠れ無い）　きわまりない（極まり無い）　こころない（心無い）
こころもとない（心許無い）　ござない（御座無い）　さだめない（定め無い）
ざんない（慙無い）　しおない（潮無い）　しだらない（しだら無い）
じつない（術無い）　じゅつない（術無い）　すげない（素気無い）
すじない（筋無い）　ずつない（術無い）　ずない（図無い）
すべない（術無い）　せんない（詮無い）　そっけない（素っ気無い）
たあいない（たあい無い）　だいもない（大も無い）　たゆみない（弛み無い）
だらしない（だらし無い）　たわいない（たわい無い）　ちからない（力無い）
つきもない（付きも無い）　つつがない（恙無い）　ならびない（並び無い）
にげない（似気無い）　にべない（鰾膠無い）　はかない（儚い）
へんない（篇無い）　ほどない（程無い）　みっともない（みっともない）
やごとない（止事無い）　やむない　やんごとない（止ん事無い）
ゆるぎない（揺るぎ無い）　よしない（由無い）　らちない（埒無い）

（２）体言＋「ナイ（甚）」

※　以下に挙げたのは，飽くまで語例である。「１最小単位＋ナシ（甚）」という語構成のナシ（甚）型形容詞は，以下の語と同様に１短単位とする。

あたじけない　あどけない　あらけない（荒気ない）
いたいけない（幼気ない）　いわけない　ぎごちない　しどけない
せつない（切ない）　せわしない（忙しない）　はしたない　むげない

（３）上記以外の体言＋形容詞

語例略

１　原則に当たらないものは，体言の後ろで分割し，２短単位とする。
【例】　｜違い‖ない｜　　｜訳‖ない｜

関連事項　資料「要注意語」の「接頭的要素」に掲げていない接頭辞又は語素と１最小単位の形容詞との結合体は１短単位とする。
【例】　｜うら=寂しい｜　　｜うら=恥ずかしい｜　　｜うら=若い｜
｜け=だるい｜　　｜もの=悲しい｜

（◆ver.1.5修正）
補則５　全体で１短単位とするもの
以下に挙げる語は，規定１から６にかかわらず全体で１短単位とする。

（１）副詞「と」「かく」を含む語
【例】　｜とある｜　　｜兎角｜　　｜兎に角｜　　｜ともあれ｜
｜兎も角｜　　｜とても｜　　｜とにもかくにも｜

（２）連体詞を含む語（以下に挙げる語）

彼の世　　此の方（かた）（生まれて～）　　此の頃　　此の方（ほう）（一人称）　　此の世
其の方　　我が意　　我が輩　　我が儘　　我が家

（◆ver.1.4修正）
（◆ver.1.5修正（下線部））
（◆ver.1.6修正（下線部））
（３）助詞・助動詞を含む語（以下に挙げる語）

敢えて　　飽くまで　　改めて　　あわよくば　　至って　　言わば　　況や
得てして　　押して　　追って　　概して　　却って　　予て　　辛うじて
極めて　　決して　　さしたる　　さして　　定めて　　強いて　　すったもんだ
全て　　せめて　　総じて　　大した　　達て　　例えば　　断じて　　次いで
付けたり　　通せん坊　　取り敢えず　　並べて　　初めて　　初めまして
果たして　　晴れて　　延いては　　翻って　　別して　　本の　　枉げて
虫刺され　　焼き出され　　<u>良しなに</u>　　分けて

（４）その他（以下に挙げる語）

至る所　　一緒くた　　遣る気

補則６　固有名
固有名に関する短単位認定の例を以下に示す。

（１）人名等
｜水戸｜黄門｜　　｜孫｜悟空｜

｜李梅｜　　｜ホーチミン｜
｜ジャック｜・｜シャバン｜＝｜デルマス｜
｜フェルディナン｜・｜ド｜・｜ソシュール｜
｜レオナルド｜・｜ダ・ビンチ｜
｜サアド｜・｜アル＝ガーミディー｜
｜イザナギ｜ノ｜ミコト｜　　｜コノハナサクヤビメ｜
｜濃姫｜　　｜和子｜姫｜

（２）駅名

｜東中野｜駅｜　　｜西日暮里｜駅｜　　｜駒沢｜大学｜前｜駅｜
｜栗駒｜高原｜駅｜　　｜新｜高島平｜駅｜　　｜新｜三河島｜駅｜
｜新｜大久保｜駅｜　　｜西｜八王子｜駅｜　　｜青山｜一｜丁目｜駅｜
｜外苑｜前｜駅｜　　｜半蔵｜門｜駅｜　　｜営団｜赤塚｜駅｜
｜京成｜上野｜駅｜　　｜祖師ヶ谷｜大蔵｜駅｜　　｜武蔵｜境｜駅｜
｜武蔵｜小山｜駅｜　　｜代々木｜上原｜駅｜　　｜千歳｜烏山｜駅｜
｜表｜参道｜駅｜

（３）路線名

｜新｜玉川｜線｜　　｜磐越｜西線｜

（◆ver.1.4修正）

（４）地形名

｜伊良湖｜岬｜　　｜プリンスエドワード｜島｜　　｜浄土が浜｜
｜瀬戸｜内｜　　｜瀬戸｜内海｜　　｜耶馬｜溪｜
｜大菩薩｜峠｜　　｜奥穂高｜岳｜　　｜鬼押出｜
｜黄河｜　　｜桜島｜

※　地形名と同じ行政区画名については，それが行政区画名として用いられていることが明確な場合及び当該行政区画内に存在する施設名である場合は，分割しない。

｜大分｜県｜下毛｜郡｜耶馬溪｜町｜　　｜江戸川｜高校｜
｜江戸川｜駅｜

※　類概念が外来語であり，名を表す部分が地名を表す最小単位以外の場合は結合する。

｜イースト=リバー｜　　｜ポート=アイランド｜　　｜ストーム=レイク｜
｜六甲｜アイランド｜　　｜テムズ｜リバー｜

（◆ver.1.4修正）

（５）場所名等

｜北の丸｜公園｜　　｜岡田｜山｜古墳｜　　｜加茂｜岩倉｜遺跡｜
｜吉野が里｜遺跡｜　　｜荒神｜谷｜遺跡｜　　｜田和山｜遺跡｜
｜妻木晩田｜遺跡｜
｜富士見｜坂｜　　｜区｜役所｜通り｜　　｜武田｜山｜トンネル｜
｜八方｜尾根｜スキー場｜

※　場所名と同じ行政区画名については，それが行政区画名として用いられていることが明確な場合及び当該行政区画内に存在する施設名である場合は，分割しない。

｜東京都｜千代田｜区｜北の丸公園｜　　｜多賀城｜高等｜学校｜

参考　短単位の例

｜グルー｜文書｜
｜元｜駐日｜アメリカ｜大使｜ジョセフ｜・｜クラーク｜・｜グルー｜（｜千｜八百｜八十｜一｜千｜九百｜六十｜五｜年｜）｜は｜、｜歴代｜の｜駐日｜大使｜の｜なか｜で｜も｜ひときわ｜生彩｜を｜はなつ｜、｜アメリカ｜の｜代表｜的｜な｜職業｜外交｜官｜で｜あっ｜た｜。｜
｜彼｜は｜千｜九百｜三十｜二｜年｜から｜四十｜二｜年｜まで｜の｜約｜十｜年間｜を｜日本｜で｜過ごし｜、｜日米｜関係｜の｜調整｜に｜数多く｜の｜足跡｜を｜のこし｜た｜。｜
｜来日｜以来｜、｜グルー｜は｜満州｜事変｜後｜の｜日本｜軍部｜の｜台頭｜を｜つぶさ｜に｜観察｜する｜と｜とも｜に｜、｜日本｜の｜国際｜連盟｜脱退｜（｜三十｜三｜年｜三｜月｜）｜、｜日中｜戦争｜勃発｜（｜三十｜七｜年｜七｜月｜）｜、｜日｜独｜伊｜三｜国｜軍事｜同盟｜（｜四十｜年｜九｜月｜）｜、｜対日｜経済｜制裁｜（｜四十｜一｜年｜七｜月｜）｜、｜真珠｜湾｜奇襲｜攻撃｜（｜四十｜一｜年｜十｜二｜月｜）｜など｜、｜日米｜関係｜に｜決定｜的｜な｜転機｜を｜もたらし｜た｜重大｜な｜歴史｜的｜事件｜の｜ことごとく｜を｜直接｜に｜体験｜し｜た｜。｜
｜グルー｜の｜主著｜は｜、｜この｜十｜年｜に｜およぶ｜彼｜の｜滞日｜経験｜を｜まとめ｜た｜もの｜で｜あり｜、｜千｜九百｜四十｜四｜年｜五｜月｜に｜公刊｜さ｜れる｜と｜、｜アメリカ｜国民｜の｜あいだ｜に｜大きな｜反響｜を｜よびおこし｜た｜。｜

｜　｜最後｜に｜雑誌｜「｜エンターテインメント｜・｜ウイークリー｜」｜に｜載っ｜た｜映画｜評｜を｜紹介｜し｜よう｜。｜
｜「｜ＵＰＳＩＤＥ｜／｜Ｉｔ｜　｜ｃｏｕｌｄ｜　｜ｂｅ｜　｜ａ｜　｜Ｂｅｓｔ｜｜Ｆｏｒｅｉｇｎ｜　｜Ｌａ‐ｎｇｕａｇｅ｜　｜Ｆｉｌｍ｜　｜ｃｏｎｔｅｎｄｅｒ｜　｜ａｔ｜　｜ｎｅｘｔ｜　｜ｙｅａｒ’ｓ｜　｜Ｏｓ‐ｃａｒｓ｜．｜（｜来年｜の｜アカデミー｜賞｜で｜最｜優秀｜外国｜語｜映画｜賞｜を｜獲得｜する｜可能｜性｜が｜ある｜）｜ＤＯＷ‐ＮＳＩＤＥ｜／｜Ｓｕｂｔｉｔｌｅｓ｜（｜字幕｜付き｜）｜」｜（｜追記｜／｜さて｜六｜月｜二十｜七｜日｜公開｜予定｜が｜、｜あと｜一｜週間｜と｜迫っ｜た｜ところ｜で｜突然｜七｜月｜十｜一｜日｜に｜延期｜。｜
｜その｜理由｜は｜、｜マーケティング｜の｜結果｜だ｜そう｜だ｜）｜

｜タマチャリ｜と｜は｜比較｜に｜なら｜ない｜機動｜性｜と｜耐久｜性｜を｜装備｜
｜米軍｜の｜「｜ハマー｜」｜の｜名｜が｜冠せ｜られ｜た｜自転｜車｜に｜乗ろう｜
ハマー｜折りたたみ｜マウンテン｜バイク｜
｜　｜中国｜や｜タイ｜ほど｜で｜は｜ない｜が｜、｜日本｜も｜世界｜屈指｜の｜自転｜車｜大国｜。｜通勤｜通学｜、｜また｜は｜日常｜の｜足｜と｜し｜て｜自転｜車｜を｜利用｜し｜て｜いる｜人｜は｜多い｜こと｜だろう｜。｜そこ｜で｜、｜ちょっと｜他人｜と｜差｜を｜付け｜たい｜なら｜、｜こんな｜自転｜車｜に｜乗っ｜て｜は｜いかが｜だろう｜か｜？｜
｜　｜ＤＢＳ｜　｜ＪＡＰＡＮ｜から｜販売｜さ｜れ｜て｜いる｜「｜ハマー｜折りたたみ｜マウンテン｜バイク｜」｜は｜、｜米軍｜の｜軍用｜車｜・｜ハマー｜で｜有名｜な｜アメリカ｜ＧＭ｜社｜製｜の｜自転｜車｜。｜自転｜車｜と｜は｜いっ｜て｜も｜、｜ハマー｜の｜名前｜は｜ダテ｜で｜は｜なく｜、｜高い｜機動｜性｜と｜耐久｜性｜を｜兼ね備え｜た｜１｜台｜に｜なっ｜て｜いる｜。｜

第２　最小単位の結合の例

１　数詞関連

※　｜八｜番｜目｜　｜八｜個｜目｜　｜八｜回｜目｜　｜八｜年｜目｜

※　｜八｜か所｜　｜八｜か国｜
　　｜八｜か年｜　｜八｜か月｜　｜八｜か日｜
　　｜八｜か条｜

※　｜一｜年｜生｜　｜一｜回｜生｜　｜一｜期｜生｜

※　｜一｜月｜号｜

※　｜八｜週間｜　｜八｜日間｜　｜八｜時間｜　｜八｜分間｜　｜八｜秒間｜

２　曜日

　　｜日曜｜日｜　｜月曜｜日｜　｜火曜｜日｜

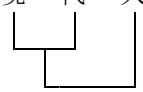
３　漢語の複次結合語

漢語の複次結合語について，語構造の解釈の仕方を示す。

ただし，短単位認定においては，以下に挙げた解釈とは異なる解釈をしても，結果的に認定される単位が同じという場合がある。例えば，（３）のａ）に※印を付けて示した「債権所有者」などがその例である。「債権所有者」の語構造は「債権を所有する者」と考えることとしているが，「債権の所有者」（債券＋｛（所有）＋者｝）と考えても認定される単位は結果的に同じである。したがって，語構造の解釈について，すべて以下のとおりに解釈しなければならないというものではない。

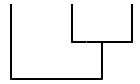
（１）３最小単位語

ａ）　現　代　人



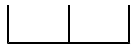
　　｜現代｜人｜　｜伝染｜病｜　｜昨年｜末｜　｜新築｜中｜　｜自主｜性｜
　　｜家庭｜用｜　｜全国｜的｜

ｂ）　都　議　会



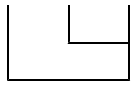
　　｜都｜議会｜　｜市｜庁舎｜　｜核｜軍縮｜　｜食｜中毒｜　｜正｜反対｜
　　｜総｜工費｜　｜全｜理事｜　｜大｜規模｜　｜不｜明朗｜　｜非｜能率｜
　　｜各｜選手｜　｜同｜理事｜

c）　年　月　日



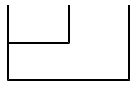
｜年｜月｜日｜　｜松｜竹｜梅｜　｜衣｜食｜住｜

d）　句　読　点



｜都区内｜　｜統廃合｜　｜町村長｜

e）　国　内　外



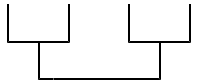
｜国内外｜　｜輸出入｜

f）　〔構造を示すことができないと考えられるもの〕

｜不可解｜　｜不思議｜

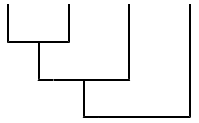
（２）４最小単位語

a）　火　災　防　止



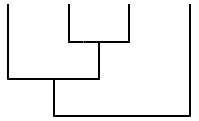
｜火災｜防止｜　｜公共｜事業｜

b）　幼　稚　園　児



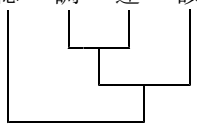
｜幼稚｜園｜児｜　｜郵便｜局｜長｜　｜警備｜員｜室｜　｜解剖｜学｜者｜

c）　中　学　校　長



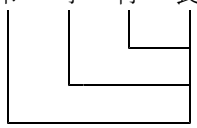
｜中｜学校｜長｜　｜法｜医学｜者｜

d）　総　調　達　額



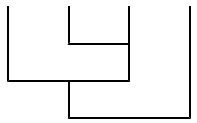
｜総｜調達｜額｜　｜軽｜飛行｜機｜　｜各｜管制｜塔｜　｜同｜動物｜園｜

e）　市　町　村　長



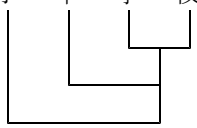
｜市町村長｜

f）　青　少　年　法



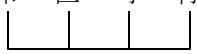
｜青少年｜法｜　｜小中学｜生｜

g）　小　中　学　校



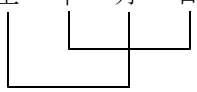
｜小｜中｜学校｜

h）　市　区　町　村



｜市｜区｜町｜村｜　｜都｜道｜府｜県｜

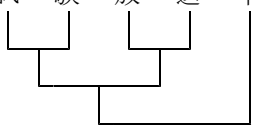
i）　生　年　月　日



｜生｜年｜月｜日｜

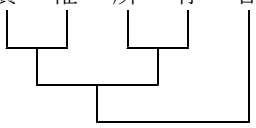
（３）５最小単位語

a）　試　験　放　送　中



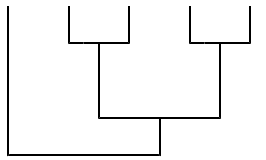
｜試験｜放送｜中｜　｜有線｜放送｜網｜　｜行政｜区画｜名｜
｜独占｜禁止｜法｜

※ 債 権 所 有 者



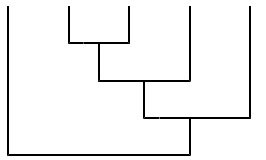
｜債権｜所有｜者｜　｜宇宙｜飛行｜士｜　｜沿岸｜警備｜隊｜
｜地震｜観測｜所｜　｜入試｜改善｜策｜

b） 都 清 掃 条 例



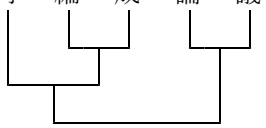
｜都｜清掃｜条例｜　｜準｜保護｜世帯｜

c） 同 刑 事 部 長



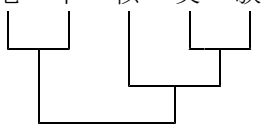
｜同｜刑事｜部｜長｜　｜同｜事務｜所｜長｜

d） 再 編 成 論 議



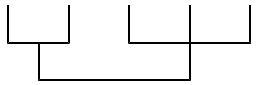
｜再｜編成｜論議｜

e） 地 下 核 実 験



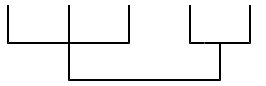
｜地下｜核｜実験｜

f） 船 員 中 労 委



｜船員｜中労委｜

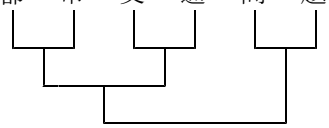
g） 経 団 連 会 長



｜経団連｜会長｜

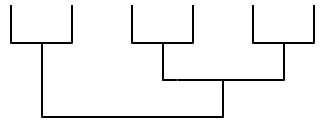
（４）６最小単位語

a）　都　市　交　通　問　題



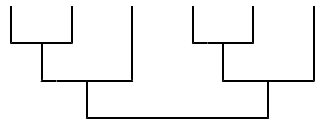
｜都市｜交通｜問題｜　｜消費｜減退｜傾向｜　｜高校｜全入｜運動｜

b）　総　合　警　備　本　部



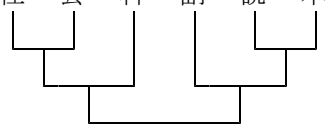
｜総合｜警備｜本部｜　｜事故｜合同｜会議｜

c）　野　鳥　用　給　水　池



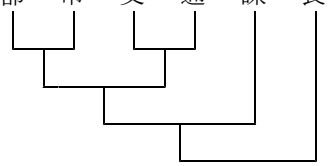
｜野鳥｜用｜給水｜池｜　｜自動｜車｜修理｜工｜

d）　社　会　科　副　読　本



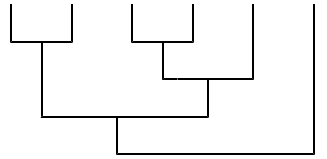
｜社会｜科｜副｜読本｜

e）　都　市　交　通　課　長



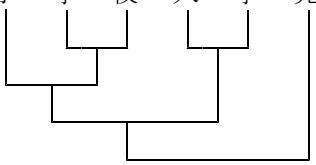
｜都市｜交通｜課｜長｜　｜宇宙｜開発｜史｜上｜

f）　広　告　代　理　店　員



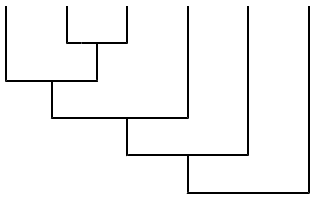
｜広告｜代理｜店｜員｜

g）　小　学　校　入　学　児



｜小｜学校｜入学｜児｜

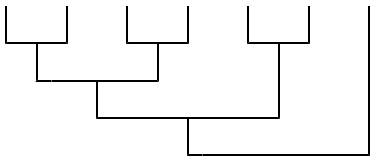
h）　中　学　校　長　会　長



｜中｜学校｜長｜会｜長｜

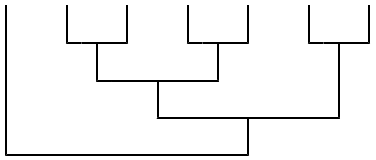
（５）７最小単位以上の語

a）　議　員　給　与　条　例　中



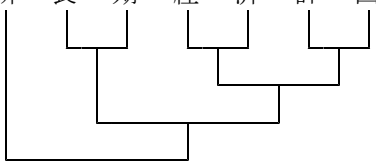
｜議員｜給与｜条例｜中｜

b）　都　児　童　福　祉　協　会



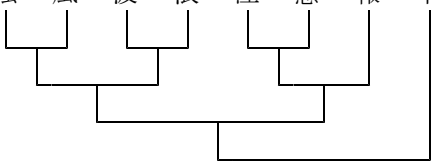
｜都｜児童｜福祉｜協会｜

c）　新　長　期　経　済　計　画



｜新｜長期｜経済｜計画｜

d）　強　風　波　浪　注　意　報　下



｜強風｜波浪｜注意｜報｜下｜

Ⅲ　付加情報　Version 1.6

第１　付加情報の概要

短単位認定規程によって認定された各単位に，次に挙げる付加情報を付与する。

１　語彙素読み

語彙素読みは，同一語の活用変化・音の転化・ゆれ・省略・融合等によって生じた異形態や送り仮名の違い等の異表記をグループ化するための情報である。原則として，コーパスに出現したすべての短単位に付与する。

２　語彙素

語彙素は，代表形に対する国語の表記である。原則として，コーパスに出現したすべての短単位に付与する。

※　UniDicの語彙素とBCCWJの語彙素の違い，長単位の語彙素読み・語彙素と短単位の語彙素読み・語彙素の違いについては，上巻・第２章のⅢ「付加情報」の第１「付加情報の概要」を参照。

３　品詞等の情報

各単位に対して，品詞等の情報（以下，品詞情報）として，次に挙げる情報を付与する。

（１）品詞
（２）活用型
（３）活用形

４　語種情報

語種とは，語をその出自によって分類したもののことである。原則として，コーパスに出現したすべての短単位に付与する。

（◆ver.1.6追加）

５　用法

用法とは，「名詞-普通名詞-形状詞可能」「名詞-普通名詞-副詞可能」「名詞-普通名詞-サ変形状詞可能」の各語が，実際に当該文脈で名詞・形状詞・副詞のどの品詞で用いられているのか，また「名詞-普通名詞-助数詞可能」の語が名詞・助数詞のどちらの品詞で用いられているのかを示す情報である。

第２　品詞情報の概要

１　品詞

品詞は，次に挙げるものとする。

１．１　名詞

（１）名詞-普通名詞-一般

（２）から（６）以外の普通名詞

【例】　母親　　国語　　エアコン

（２）名詞-普通名詞-サ変可能

形式的な意味の「いたす」「する」「できる」「なさる」などが直接続き，動詞として用いられることのあるもの。可能性を示すものであって，実際にサ変動詞の語幹として使われているか否かは問わない。

【例】　運動　　アクセス

（３）名詞-普通名詞-形状詞可能

助動詞「だ」が付いて述語になったり，連体修飾成分になったりするもの。可能性を示すものであって，実際に助動詞「だ」が付いているか否かは問わない。

【例】　安全　　健康　　アクティブ

（４）名詞-普通名詞-サ変形状詞可能

形式的な意味の「いたす」「する」「できる」「なさる」などが直接続き，動詞として用いられることのあるもので，助動詞「だ」が付いて連体修飾成分にもなるもの。可能性を示すものであって，サ変動詞の語幹として使われているか否か，形状詞として使われているか否かは問わない。

【例】　安心

（５）名詞-普通名詞-副詞可能

単独で連用修飾成分になるもの，及び句又は節による連体修飾を受けて，それ全体で連用修飾成分となるもの。可能性を示すものであって，実際に単独で，又は句や節による連体修飾を受けて連用修飾成分として使われているか否かは問わない。

【例】　今日　　毎日　　以上　　ため

（◆ver.1.6追加）

（６）名詞-普通名詞-助数詞可能

数詞に付き，助数詞として用いられることのあるもの（主として『日本国語大辞典』第２版，『大辞林』第２版において，名詞のほか助数詞としての用法に関する記述のあるもの）。可能性を示すものであって，実際に助数詞として使われているか否かは問わない。

【例】　円　　ドル　　メートル　　グラム　　時間　　箇月　　条

（◆ver.1.4修正）

（◆ver.1.5修正）

（７）名詞-固有名詞-一般

（８）から（１２）以外の固有名詞。組織の名称や元号・ペットの名など。「名詞-固有名詞-一般」の詳細は，同語異語判別規程の細則５「固有名の扱い」を参照。

【例】　ソニー　　日産　　阪急　　阪大　　平成　　ポチ

（◆ver.1.4修正）
（８）名詞-固有名詞-人名-一般
日本・中国・韓国以外の人名及び（９）（１０）に分類できない人名。あだ名やしこ名なども含む。人名の詳細は，同語異語判別規程の細則４「人名の扱い」を参照。
【例】　オバマ　　ジョン　　キリスト　　橋龍　　たむけん　　朝青龍

（◆ver.1.4修正）
（９）名詞-固有名詞-人名-姓
日本・中国・韓国の人名のうち姓に当たるもの。落語家の亭号なども含む。
【例】 星野　　林　　三遊亭　　明石家

（◆ver.1.4修正）
（１０）名詞-固有名詞-人名-名
日本・中国・韓国の人名のうち名に当たるもの
【例】　仙一　　威助

（◆ver.1.4修正）
（◆ver.1.5修正）
（◆ver.1.6修正）
（１１）名詞-固有名詞-地名-一般
国名以外の地名（行政区画名・地域地方名・地形名）
【例】　大阪　　豊中　　待兼山町　　カリフォルニア
桜島　　富士（山）　　東北

道・駅（道路・路線・航路・海路を結ぶ駅）・坂・温泉・油田の名を表す要素のうち，普通名詞等の一般語・人名・固有名詞-一般のいずれにも該当しないものは，「名詞-固有名詞-地名-一般」とする。
【例】　竹下（通り）　　関空　　小牧（ジャンクション）
上野原（インターチェンジ）　　三宅（坂）　　野中（温泉）
アブカイク（油田）

地名を略した一字漢語を結合したもののうち，地域名として広く普及しているもののみ，「名詞-固有名詞-地名-一般」とする。それ以外（「日米」「阪奈」など）は「名詞-普通名詞-一般」とする。
【例】　阪神（地区）　　京浜（地名工業地帯）

ローマ字で略記した国名以外の地名は「名詞-普通名詞-一般」とする。詳細は同語異語判別規程の細則６「ローマ字略語の扱い」を参照。

（◆ver.1.4修正）
（◆ver.1.5修正）
（１２）名詞-固有名詞-地名-国
地名のうち国名。ローマ字で略記した国名を含む。
【例】　日本　　アメリカ　　韓国　　ＪＰＮ　　ＵＳＡ

歴史上の都市国家や公国は「名詞-固有名詞-地名-一般」とする。
【例】　アテナイ　　ブルゴーニュ（公国）

（１３）名詞-数詞
【例】　一　　二十　　幾（人）　　何百　　数千

（１４）名詞-助動詞語幹
一般に伝聞の助動詞とされる「そうだ」の語幹

１．２　代名詞
【例】　私　　それ

１．３　形状詞

（１）形状詞-一般
（２）（３）以外の，いわゆる形容動詞の語幹に当たるもの
【例】　静か　　健やか　　特別

（２）形状詞-タリ型
いわゆるタリ活用の形容動詞の語幹に当たるもの
【例】　釈然　　錚々

（３）形状詞-助動詞語幹
一般に助動詞とされる「そうだ」（様態）及び「ようだ」「みたいだ」の語幹に当たるもの

１．４　連体詞
【例】　あの　　大きな　　同じ

１．５　副詞
擬音語・擬態語を含む。名詞としての用法を持つものは,「名詞-普通名詞-副詞可能」とする。
【例】　しっかり　　決して　　がらんがらん　　そっと

１．６　接続詞
【例】　しかし　　じゃ　　そして

１．７　感動詞

（１）感動詞-一般
フィラー以外の感動詞。感動詞の詳細は，同語異語判別規程の細則８「感動詞の扱い」を参照。
【例】　いいえ　　おや　　はい

（２）感動詞-フィラー
【例】　あの　　えーと　　えーっと

１．８　動詞

（１）動詞-一般
（２）以外の動詞
【例】　聞く　　来たる　　愛する

（２）動詞-非自立可能
名詞に直接続くことのある「いたす」「する」「できる」「なさる」の類や補助動詞として動詞連用形や動詞連用形に接続助詞「て」を添えた形に接続することのあるもの。資料「要注意語」の「接尾的要素」に上げた語のうち，品詞を動詞とするものはここに分類する。可能性を示すものであって，実際に補助動詞として使われているか否かは問わない。
【例】　する　　くる　　始める

１．９　形容詞

（１）形容詞-一般
（２）以外の形容詞
【例】　明るい　　美しい　　白い

（２）形容詞-非自立可能
形容詞・形容詞活用型助動詞の連用形や形容詞・形容詞活用型助動詞の連用形に接続助詞「て」を添えた形に接続し，補助的に用いられることのあるもの。可能性を示すものであって，実際に補助的に使われているか否かは問わない。
【例】　ない　　欲しい　　よい

１．１０　助動詞
【例】　です　　とく　　べし

１．１１　助詞

（１）助詞-格助詞
【例】　が　　から　　で　　に　　の

（２）助詞-副助詞
【例】　か　　きり　　しか　　たって

（３）助詞-係助詞
【例】　こそ　　は　　も

（４）助詞-接続助詞
【例】　けれど　　つつ　　と　　なり　　ば

（５）助詞-終助詞
【例】　い　　か　　ね　　よ　　わ

（６）助詞-準体助詞
【例】　の

１．１２　接頭辞
【例】　相（変わらず）　　お（返事）　　第（１回）　　非（言語）

１．１３　接尾辞

（１）接尾辞-名詞的-一般
【例】　（国語）学　　（ペースト）状　　（お父）さん

（２）接尾辞-名詞的-サ変可能
名詞に接続してサ変動詞の語幹となり得る語を作るもの
【例】　（活性）化　　（問題）視

（３）接尾辞-名詞的-形状詞可能
名詞に接続して作られた語に助動詞「だ」が付いて述語になったり，連体修飾成分になったりするもの
【例】　（贅沢）三昧　　（意味）深

（４）接尾辞-名詞的-サ変形状詞可能
名詞に接続して作られた語が，サ変動詞の語幹となり得るもので，助動詞「だ」が付いて述語になったり，連体修飾成分になったりするもの

（５）接尾辞-名詞的-副詞可能
名詞に接続して作られた語が，単独で連用修飾成分になり得るもの
【例】　（１平方メートル）当たり　　（停車）中　　（終戦）後

（◆ver.1.6修正）
（６）接尾辞-名詞的-助数詞
助数詞としての用法しか持たないもの
【例】　つ　　個　　本　　日（か）

（７）接尾辞-形状詞的
名詞・動詞の連用形に接続して形状詞を作るもの
【例】　（行き）過ぎ　　（具体）的　　（ほこり）だらけ

（８）接尾辞-動詞的
名詞・動詞の連用形・形容詞の語幹に接続して動詞を作るもの
【例】　（時）めく　　（哀れ）がる　　（でき）兼ねる　　（うれし）がる

（９）接尾辞-形容詞的
名詞・形状詞・動詞の連用形・形容詞の語幹に接続して形容詞を作るもの
【例】　（文章）らしい　　（安）っぽい　　（書き）易い

１．１４　記号

（１）記号-一般
（２）以外の記号。箇条書きの項目名に使われた１文字の片仮名，地名以外の固有名を略した１文字の片仮名を含む。新聞記事の署名等で姓又は名を略した１文字の漢字を含む。
【例】　ブ（大統領）　　マ（社）

（２）記号-文字
アルファベットやギリシャ文字
【例】　Ａ　　α　　Σ

１．１５　補助記号

（１）補助記号-一般
【例】　・　△　※　－　’

（２）補助記号-句点
【例】　。　．　！

（３）補助記号-読点
【例】　、　，

（４）補助記号-括弧開
【例】　（　《　「

（５）補助記号-括弧閉
【例】　）　》　」

（６）補助記号-ＡＡ-一般
【例】　ｏｒｚ　ミ田　ε＝

（７）補助記号-ＡＡ-顔文字
【例】　（＾ｏ＾）　ｍ（．＿．）ｍ　（＝゜ω゜）ノ

１．１６　空白

行頭の字下げなどの空白

表３．３　品　詞　一　覧

品　　詞	類
名詞-普通名詞-一般	体
名詞-普通名詞-サ変可能	体
名詞-普通名詞-形状詞可能	体
名詞-普通名詞-サ変形状詞可能	体
名詞-普通名詞-副詞可能	体
名詞-普通名詞-助数詞可能	体
名詞-固有名詞-一般	固有名
名詞-固有名詞-人名-一般	人名
名詞-固有名詞-人名-姓	姓
名詞-固有名詞-人名-名	名
名詞-固有名詞-地名-一般	地名
名詞-固有名詞-地名-国	国
名詞-数詞	数
名詞-助動詞語幹	体
代名詞	体
形状詞-一般	相
形状詞-タリ	相
形状詞-助動詞語幹	助動
連体詞	相
副詞	相
接続詞	他
感動詞-一般	他
感動詞-フィラー	他
動詞-一般	用
動詞-非自立可能	用
形容詞-一般	相
形容詞-非自立可能	相

品　　詞	類
助動詞	助動
助詞-格助詞	格助
助詞-副助詞	副助
助詞-係助詞	係助
助詞-接続助詞	接助
助詞-終助詞	終助
助詞-準体助詞	準助
接頭辞	接頭
接尾辞-名詞的-一般	接尾体
接尾辞-名詞的-サ変可能	接尾体
接尾辞-名詞的-形状詞可能	接尾体
接尾辞-名詞的-サ変形状詞可能	接尾体
接尾辞-名詞的-副詞可能	接尾体
接尾辞-名詞的-助数詞	接尾体
接尾辞-形状詞的	接尾相
接尾辞-動詞的	接尾用
接尾辞-形容詞的	接尾相
記号-一般	記号
記号-文字	記号
補助記号-一般	補助
補助記号-句点	補助
補助記号-読点	補助
補助記号-括弧開	補助
補助記号-括弧閉	補助
補助記号-ＡＡ-一般	補助
補助記号-ＡＡ-顔文字	補助
空白	補助

（◆ver.1.6修正）

２　活用型

UniDicに活用語を登録する際に付与する活用型のうち，現代語のコーパスに関わる主なものを，以下に挙げる。

２．１　動詞

２．１．１　五段活用

（１）五段-カ行-一般
（２）（３）以外のカ行五段活用動詞
【例】　空く　　頂く

（２）五段-カ行-イク
語形が「イク」のもの。連用形の音便形が促音便となる。
【例】　行く　　逝く

（３）五段-カ行-ユク
語形が「ユク」のもの。連用形に音便形がない。
【例】　行く　　逝く

（４）五段-ガ行
【例】　泳ぐ　　注ぐ

（５）五段-サ行
【例】　致す　　話す

（６）五段-タ行
【例】　明け放つ　　育つ

（７）五段-ナ行
【例】　死ぬ

（８）五段-バ行
【例】　遊ぶ　　学ぶ

（９）五段-マ行-一般
【例】　込む　　進む

（１０）五段-マ行-済ム
動詞「済む」

（１１）五段-ラ行-一般
（１２）（１３）以外のラ行五段活用動詞
【例】　有る　　煽る　　売る

（１２）五段-ラ行-アル
語幹末尾がア段音のラ行五段活用動詞。助動詞「ます」が接続する場合に連用形がイ音便となる。命令形の語末が「い」である。
【例】　いらっしゃる　　おっしゃる

（１３）五段-ラ行-サル
語幹末尾がサのラ行五段活用動詞。助動詞「ます」が接続する場合に連用形がイ音便となる。命令形の語末が「い」である。
【例】　下さる　　為さる

（１４）五段-ワア行-一般-一般
（１５）（１６）以外のワア行五段活用動詞
【例】　争う　　整う

（１５）五段-ワア行-一般-○ウ
語幹末尾がア段音のワア行五段活用動詞。連用形がウ音便になる場合，語幹末尾がオ段音に変わる。語幹が仮名書きされている場合，この変化が表記に現れる。
【例】　合う　　扱う　　損なう

（１６）五段-ワア行-イウ
動詞「言う」。連用形が「ユウ」と発音されることがある。

２．１．２　上一段活用

（１）上一段-ア行
【例】　居る　　射る

（２）上一段-カ行
【例】　飽きる　　出来る

（３）上一段-ガ行
【例】　過ぎる

（４）上一段-ザ行
【例】　甘んじる　　信じる

（５）上一段-タ行
【例】　落ちる　　満ちる

（６）上一段-ナ行
【例】　似る　　煮る

（７）上一段-ハ行
【例】　干る

（８）上一段-バ行
【例】　浴びる　　滅びる

（９）上一段-マ行
【例】　試みる　　見る

（１０）上一段-ラ行-一般
（１１）以外のラ行上一段活用動詞
【例】　下りる　　借りる　　懲りる

（１１）上一段-ラ行-リル
　　動詞「足りる」。未然形に撥音便がある。

２．１．３　下一段活用

（１）下一段-ア行-一般
　【例】　会える

（２）下一段-ア行-得る
　動詞「得る」

（３）下一段-カ行
　【例】　赤茶ける　　行ける

（４）下一段-ガ行
　【例】　上げる　　告げる

（５）下一段-ザ行
　【例】　掻き混ぜる　　はぜる

（６）下一段-サ行-一般
　【例】　褪せる　　痩せる　　噎せる

（７）下一段-サ行-セル
　　連用形に「し」がある。
　【例】　見せる

（８）下一段-タ行
　【例】　当てる　　捨てる

（９）下一段-ダ行
　【例】　出る

（１０）下一段-ナ行
　【例】　重ねる　　寝る

（１１）下一段-ハ行
　　ア行下一段活用動詞を歴史的仮名遣いで表記したもの
　【例】　言い換へる

（１２）下一段-バ行
　【例】　遊べる　　食べる

（１３）下一段-マ行
　【例】　止める　　誉める

（１４）下一段-ラ行-一般
　　（１５）（１６）以外のラ行下一段活用動詞
　【例】　上がれる　　遅れる

（１５）下一段-ラ行-レル
動詞「知れる」。未然形に撥音便がある。

（１６）下一段-ラ行-呉レル
動詞「呉れる」。命令形に「～よ」「～ろ」の形がなく，「くれ」である。

２．１．４　変格活用（口語）

（１）カ行変格
【例】　来る

（２）サ行変格-為ル
（３）（４）以外のサ行変格活用。単独の「する」。未然形で，助動詞「ず」が接続する場合に「せ」,「せる」が接続する場合に「さ」という区別がある。

（３）サ行変格-スル
「１字漢語＋する」の形のもの
【例】　愛する　　称する

（４）サ行変格-ズル
【例】　甘んずる　　信ずる

２．１．５　文語四段活用

（１）文語四段-カ行
【例】　行く　　置く

（２）文語四段-ガ行
【例】　仰ぐ　　凌ぐ

（３）文語四段-サ行
【例】　明かす　　致す

（４）文語四段-タ行
【例】　うがつ　　放つ

（５）文語四段-ハ行-一般
（６）（７）以外の文語ハ行四段活用動詞
【例】　争ふ　　追ふ

（６）文語四段-ハ行-○ウ
語幹末尾がア段音の文語ハ行四段活用動詞。連用形がウ音便になる場合，語幹末尾がオ段音に変わる。語幹が仮名書きされている場合，この変化が表記に現れる。
【例】　会ふ　　買ふ

（７）文語四段-ハ行-イウ
動詞「言ふ」。連用形が「ユウ」と発音されることがある。

（８）文語四段-バ行

【例】　遊ぶ　　滅ぶ

（９）文語四段-マ行
【例】　当て込む　　読む

（１０）文語四段-ラ行
【例】　煽る　　散る

２．１．６　文語上二段活用

（１）文語上二段-カ行
【例】　起く　　生く

（２）文語上二段-ガ行
【例】　過ぐ

（３）文語上二段-タ行
【例】　落つ　　満つ

（４）文語上二段-ダ行
【例】　閉づ　　恥づ

（５）文語上二段-ハ行
【例】　憂ふ

（６）文語上二段-バ行
【例】　浴ぶ　　滅ぶ

（７）文語上二段-マ行
【例】　試む

（８）文語上二段-ヤ行
【例】　飢ゆ　　報ゆ

（９）文語上二段-ラ行
【例】　降る　　懲る

２．１．７　文語下二段活用

（１）文語下二段-ア行
【例】　得る　　心得る

（２）文語下二段-カ行
【例】　避く　　溶く

（３）文語下二段-ガ行
【例】　上ぐ　　告ぐ

（４）文語下二段-サ行
【例】　乗す　　見す

（５）文語下二段-タ行
【例】　当つ　　捨つ

（６）文語下二段-ダ行
【例】　出づ　　撫づ

（７）文語下二段-ナ行
【例】　ぬ（寝）

（８）文語下二段-ハ行-一般
（９）以外の文語ハ行下二段活用動詞
【例】　和ふ　　終ふ

（９）文語下二段-ハ行-経
【例】　ふ（経）

（１０）文語下二段-バ行
【例】　比ぶ　　並ぶ

（１１）文語下二段-マ行
【例】　留む　　止む

（１２）文語下二段-ヤ行
【例】　消ゆ　　燃ゆ

（１３）文語下二段-ラ行
【例】　暮る　　忘る

（１４）文語下二段-ワ行
【例】　植う

２．１．８　変格活用（文語）

（１）文語カ行変格
【例】　来

（２）文語サ行変格-ス
【例】　す　　接す

（３）文語ザ行変格-ズ
【例】　信ず　　甘んず

（４）文語ナ行変格
【例】　死ぬ

（５）文語ラ行変格
【例】　あり　　居り

２．２　形容詞

２．２．１　口語活用

（１）形容詞-一般
　　下記（２）から（５）以外の形容詞
　【例】　愛らしい　　大きい　　頼もしい

（２）形容詞-無イ
　　形容詞「無い」。様態の助動詞「そうだ」が接続するとき，「無さ」という形を取る。この場合の「無さ」は語幹の一形態とする。

（３）形容詞-良イ-イイ
　　形容詞「良い」のうち「イイ」という語形のもの

（４）形容詞-良イ-ヨイ
　　形容詞「良い」のうち「ヨイ」という語形のもの

（５）形容詞-○イ
　　①語幹末尾がア段音の形容詞は，連用形がウ音便になる場合に語幹末尾がオ段音になる。また，終止形・連体形の語幹末尾がエ段音になる場合がある（たかい→たけえ」）。②語幹末尾がウ段音の形容詞は，終止形・連体形の語幹末尾がイ段音になる場合がある（さむい→さみい」）。③語幹末尾がオ段音の形容詞は，終止形・連体形の語幹末尾がエ段音になる場合がある（ひどい→ひでえ」）。
　　語幹が仮名書きされている場合，以上の変化が表記に現れる。
　【例】　高い　　寒い　　酷い

（６）形容詞-ー イ
　　語幹末尾が長音化し，その長音が長音符号で表記されているもの
　【例】　軽ーい　　温かーい

２．２．２　文語活用

（１）文語形容詞-ク-一般
　　（２）以外のク活用の形容詞。
　【例】　白し　　高し

（２）文語形容詞-ク-多シ
　　形容詞「多し」。終止形に「多し」のほか，「多かり」がある。

（３）文語形容詞-シク-シク
　　（４）以外のシク活用の形容詞
　【例】　美し　　楽し

（４）文語形容詞-シク-ジク
　　シク活用の形容詞のうち活用語尾の語頭が「じ」のもの
　【例】　いみじ

２．３　助動詞

　次に挙げる助動詞の活用は，動詞・形容詞の活用と比べて個別的であるため，例に示したように助動詞ごとに活用型を立てる。

じゃ　た　だ　たい　です　ない　なんだ　のだ　へん
まい　ます　や　やす　らしい　られる　れる
き　けむ　けり　こす　ごとし　ざます　ざんす　じ　ず
たり（完了）　たり（断定）　つ　なり（断定）　なり（伝聞）
ぬ　べし　まじ　む　むず　めり　らし　らむ　り　んす

【例】　だ　……　活用型：助動詞-ダ
たい　……　活用型：助動詞-タイ
ず　……　活用型：文語助動詞-ズ
なり（断定）　……　活用型：文語助動詞-ナリ-断定

上記以外の助動詞には，動詞・形容詞と同じ活用型を付与する。
【例】　たがる　……　活用型：五段-ラ行
てる　……　活用型：下一段-タ行
てくる　……　活用型：カ行変格
のではない　……　活用型：形容詞

２．４　接尾辞

「接尾辞-動詞的」は動詞の活用型を，「接尾辞-形容詞的」は形容詞の活用型を付与する。
【例】　難い　……　活用型：形容詞-ア段
ばむ　……　活用型：五段-マ行

表３．４　活用型一覧

活　用　型
五段-○行
五段-カ行-一般
五段-カ行-イク
五段-カ行-ユク
五段-マ行-一般
五段-マ行-済ム
五段-ラ行-一般
五段-ラ行-アル
五段-ラ行-サル
五段-ワア行-一般
五段-ワア行-○ウ
上一段-○行
上一段-ラ行-一般
上一段-ラ行-リル
下一段-○行
下一段-ア行-一般
下一段-ア行-得ル
下一段-サ行-一般
下一段-サ行-セル
下一段-ラ行-一般
下一段-ラ行-レル
下一段-ラ行-呉レル
カ行変格
サ行変格-スル
サ行変格-ズル
サ行変格-為ル
形容詞-一般
形容詞-無イ
形容詞-良イ-イイ
形容詞-良イ-ヨイ
形容詞-○イ
形容詞-一イ
助動詞-ジャ
助動詞-タ
助動詞-タイ
助動詞-ダ
助動詞-デス
助動詞-ドス
助動詞-ナイ
助動詞-ナンダ
助動詞-ヌ
助動詞-ヘン
助動詞-マイ
助動詞-マス
助動詞-ヤ
助動詞-ヤス
助動詞-ラシイ
助動詞-レル
無変化型

活　用　型
文語四段-○行
文語四段-ハ行-一般
文語四段-ハ行-○ウ
文語四段-ハ行-イウ
文語上一段-○行
文語上二段-○行
文語下一段-カ行
文語下二段-○行
文語下二段-ハ行-一般
文語下二段-ハ行-経
文語カ行変格
文語サ行変格-ス
文語サ行変格-ズ
文語ナ行変格
文語ラ行変格
文語形容詞-ク-一般
文語形容詞-ク-多シ
文語形容詞-シク-シク
文語形容詞-シク-ジク
文語助動詞-キ
文語助動詞-ケム
文語助動詞-ケリ
文語助動詞-コス
文語助動詞-ゴトシ
文語助動詞-ザマス
文語助動詞-ザンス
文語助動詞-ジ
文語助動詞-ズ
文語助動詞-タリ-完了
文語助動詞-タリ-断定
文語助動詞-ツ
文語助動詞-ナリ-伝聞
文語助動詞-ナリ-断定
文語助動詞-ヌ
文語助動詞-ベシ
文語助動詞-マシ
文語助動詞-マジ
文語助動詞-ム
文語助動詞-ムズ
文語助動詞-メリ
文語助動詞-ラシ
文語助動詞-ラム
文語助動詞-リ
文語助動詞-ンス

（◆ver.1.6修正）

３　活用形

UniDicの活用形のうち現代語のコーパスに関わる主なものを，以下に挙げる。

３．１　語幹

（１）語幹-一般
下記以外の活用語の語幹

（２）語幹-サ
いわゆる様態の助動詞「そうだ」が接続する場合の形容詞「無い」の語幹「無さ」と形容詞「良い」の語幹「良さ」

３．２　未然形

（１）未然形-一般
下記以外の未然形

（２）未然形-サ
助動詞「せる」が接続する場合のサ変動詞「する」の未然形「さ」

（３）未然形-セ
助動詞「ず」が接続する場合のサ変動詞「する」の未然形「せ」

（４）未然形-撥音便
活用語尾がラ行音の動詞で，未然形が撥音便になったもの
【例】　分かん（ない）　　知ん（ない）

（５）未然形-補助
文語形容詞の補助活用

３．３　意志推量形

【例】　歩こう　　食べよっ（と）　　行こ（か）　　寝よ

３．４　連用形

（１）連用形-一般
下記以外の連用形。助動詞「ます」が接続する一般的な形

（２）連用形-○音便
助動詞「た」や接続助詞「て」が接続する場合の一般的な音便形

（３）連用形-融合
連用形と係助詞「は」とが融合したもの
【例】　ありゃ（しない）　　じゃ（ない）　　（そんなこっ）ちゃ（だめだ）

（４）連用形-省略
連用形の活用語尾が省略されたもの
【例】　ほし（ないわ）

（５）連用形-ト
文語助動詞「たり」の連用形「と」

（６）連用形-ニ
文語助動詞「なり」の連用形「に」

（７）連用形-補助
文語形容詞の補助活用

３．５　終止形

（１）終止形-一般
下記以外の終止形

（２）終止形-ウ音便
文語ハ行四段動詞「給う」の終止形「たもう」

（３）終止形-促音便
形容詞の終止形末尾が促音便になったもの
【例】　うまっ　　高っ

（４）終止形-撥音便
動詞・助動詞の終止形末尾が撥音便になったもの
【例】　見ん（なよ）　　（ありませ）ん

（５）終止形-融合
【例】　（知って）まさあ　　（そういうこっ）ちゃ

（６）終止形-補助
文語形容詞「多し」の終止形「多かり」

３．６　連体形

（１）連体形-一般
下記以外の連体形

（２）連体形-撥音便
【例】　集めん（のが）　　（知ら）ん（顔）

（３）連体形-補助
文語形容詞の補助活用

３．７　仮定形

（１）仮定形-一般
下記以外の仮定形

（２）仮定形-融合
形容詞及び形容詞型活用の助動詞・接尾辞の仮定形の活用語尾が接続助詞「ば」と融合して，「けりゃ」になったもの

【例】　面白けりゃ　　（し）にくきゃ　　（頑張ら）にゃ

３．８　已然形

（１）已然形-一般
　　下記以外の已然形

（２）已然形-補助
　　文語形容詞の補助活用

３．９　命令形

【例】　ください　　食べろ　　来（こ）（文語動詞「来」）　　まし（助動詞「ます」）

表３．５　活用形一覧

活　用　形
語幹-サ
語幹-一般
未然形-一般
未然形-サ
未然形-セ
未然形-撥音便
未然形-補助
意志推量形
連用形-一般
連用形-○音便
連用形-融合
連用形-省略
連用形-ト
連用形-ニ
連用形-補助

活　用　形
終止形-一般
終止形-○音便
終止形-融合
終止形-補助
連体形-一般
連体形-○音便
連体形-省略
連体形-補助
仮定形-一般
仮定形-融合
已然形-一般
已然形-補助
命令形
ク語法

第３　語種情報の概要

（◆ver.1.6修正）

１　語種とは

日本語の語種は一般に，和語，漢語，外来語と，これら３種類の語種のうち異なる２種類以上の語種の語が結合した混種語の４種類に分けられる。BCCWJでは，この４種類のほかに固有名，記号の２種類を加えた６種類に分類した[1]。

なお，各語に語種を付与するに当たっては，〔〕内の略称等を用いた。

（１）和語〔和〕

日本固有の語

【例】　暖かい　　言葉　　話す

（２）漢語〔漢〕

近世以前に中国から入った語

【例】　音楽　　国語　　報告

和製漢語も漢語とする。

【例】　大根　　返事

（３）外来語〔外〕

欧米系の諸言語から入った語

【例】　ゲーム　　コーパス　　データ

上記のほか，以下のものも外来語とする。

①和製英語

【例】　アフレコ　　ナイター

②梵語等を中国で音訳した語に由来する語

【例】　阿羅漢　　盂蘭盆　　卒塔婆

③アイヌ語から入った語

【例】　昆布　　鮭　　ラッコ

④中国以外のアジア諸国語から入った語

【例】　キムチ　　カボチャ　　パッチ

⑤近代以降に中国から入った語

【例】　クーニャン　　シュウマイ　　メンツ

（４）混種語〔混〕

和語・漢語・外来語のうち異なる２種類以上の語種の語が二つ以上結合した語。漢語・外来語であったものの末尾が活用するようになった語

【例】　塩ビ　　トラブる　　本箱　　力む

1　語種情報については，小椋秀樹ほか(2008)を参照。

（５）固有名〔固〕
人名・地名・商品名等。品詞が固有名詞となる語
【例】　大阪　　星野　　仙一　　ソニー

（６）記号〔記号〕
句読点・括弧などの補助記号や，箇条書きの項目名として使われた一字の片仮名などの記号。固有名以外のローマ字略語
【例】　ア　　イ　　Ａ　　Ｂ　　ＯＨＰ

２　語種の判定

語種の判定は，次の手順によった。

（１）原則として『新潮現代国語辞典』第２版（新潮社）による。

※　『新潮現代国語辞典』第２版を使ったのは，見出し語が漢語・外来語の場合は片仮名で，和語及び不明の場合は平仮名で表記しており，その表記を手掛かりにして語種を知ることができるためである。

（２）『新潮現代国語辞典』第２版の見出しにない語は，『日本国語大辞典』第２版（小学館）を主たる資料として語種判定を行う。
また，『新潮現代国語辞典』第２版の語種判定に従い難いと判断した場合は，『日本国語大辞典』第２版等を参照し，独自に語種を判定した。

なお，『新潮現代国語辞典』第２版では，見出し語が和語の場合のほか，語種が不明の場合も見出し語を平仮名で表記している。見出し語が平仮名表記のものを一律に和語とすると，語種が不明であるため平仮名表記されていた語まで和語と判定してしまうことになる。
そのため，見出し語が平仮名で表記されている場合，『新潮現代国語辞典』第２版の注記や他の辞書等を参照して，和語とすべきか他の語種とすべきか適宜判断した。

（◆ver.1.6追加）

第４　用法に関する情報の概要

１　用法とは

Ⅲ「付加情報」の第２「品詞情報の概要」に示したとおり，普通名詞のうち，複合サ変動詞の語幹，形状詞，副詞，助数詞としても用いられることのある語については，実際の文脈でどのように用いられているかを問わず，一律に「○○可能」という小分類を持つ品詞を与える。

自動形態素解析の段階では，このような曖昧性を持たせた品詞を与えるが，日本語研究での利用を考えた場合，実際に名詞として使われているのか，形状詞として使われているのか等の情報も求められるところである。そこで，形態素解析結果に対する後処理によって，名詞として使われているのか，形状詞として使われているのかといった情報を付与することとした。この情報をBCCWJでは「用法」と呼ぶ。

BCCWJで付与した用法は，次のとおりである。

（１）名詞

「名詞-普通名詞-形状詞可能」「名詞-普通名詞-サ変形状詞可能」「名詞-普通名詞-副詞可能」の語が当該文脈で名詞として使われている場合に付与。

【例】　寛容，対話，協力を重んじる異文化間交流
　　ネットワーク担当の技術者が不足している
　　必要な場合には

（２）形状詞

「名詞-普通名詞-形状詞可能」「名詞-普通名詞-サ変形状詞可能」の語が当該文脈で形状詞として使われている場合に付与。

【例】　それらに必要な施設の整備
　　どの業種にも共通であるが

（３）副詞

「名詞-普通名詞-副詞可能」の語が当該文脈で副詞として使われている場合に付与。

【例】　笑福亭鶴笑氏が自ら考案した落語形式で
　　一時騒然とした雰囲気に包まれた

（４）助数詞

「名詞-普通名詞-助数詞可能」の語が当該文脈で助数詞として使われている場合に付与。

【例】　その約６割を落札している
　　前年と比べて１．８ポイント上昇している。

２　用法の判定

名詞用法，形状詞用法，副詞用法の判定基準を以下に示す。

２．１　名詞用法・形状詞用法の判定基準

（１）形状詞用法とするものは，以下のいずれかに該当するものとする。

a．以下のいずれかの語が後接しているもの
①形状詞-助動詞語幹　：そう　　みたい
②助動詞　　：だ　　です
③助詞-終助詞　　：（語例略）
④接尾辞-名詞的-一般　：さ　　ぶり
⑤動詞　　：過ぎる
⑥接尾辞-形状詞的　　：げ　　的
⑦接尾辞-動詞的　　：がる
⑧接尾辞-形容詞的　　：臭い

【例】　作成・普及等を進めることが　＼必要＼　である
これだけ木の香りがすると　＼最高＼　です
泣いたりして、なんか　＼馬鹿＼　みたい
日本におけるソシアリストの団結の　＼貧弱＼　さを想う

b．「に」「の」が後接しており，それらが明らかに格助詞とは認められないもの
【例】　岩盤状況を　＼詳細＼　に調査する
＼種々＼　の運動を通して
＼大量＼　の帰宅困難者が発生する

※　以下の「に」「の」は格助詞と認められるため，その直前の語の用法は名詞となる。
【例】　安全保障などが　＼危険＼　にさらされる
＼安全＼　の向上と併せて

c．複合語（形状詞）の構成要素のうち後項となっているもの
【例】　中央防災無線網そのものが使用　＼不能＼　になった場合の
処遇　＼困難＼　な非行少年が増えたか

（２）名詞用法とするものは，以下のいずれかに該当するものとする。

a．連体修飾を受けているもの
【例】　自分の　＼オリジナル＼
２年を超えて処遇する　＼必要＼　があるときは

b．接尾辞「性」が後接しているもの
【例】　やはり　＼コンパクト＼　性にあるんじゃないかと
それなりに　＼正当＼　性があって

（３）上記（１）（２）以外は，「名詞」「形状詞」の優先順位で用法を付与する。以下に例を挙げる。

a．複合語の構成要素のうち後項以外となっているもの
【例】　この時期，　＼高速＼　道路を走っていると
雑穀には　＼不足＼　しがちなカルシウム

b．複合語（名詞）の略として使われているもの
【例】　バイクで初めて　＼高速＼　を利用して淡路島に渡った後

c．体言止め

【例】　昔の音作り今も　＼健在＼

２．２　名詞用法・副詞用法の判定基準

（１）副詞用法とするものは，以下のいずれかに該当するものとする。

ａ．単独で長単位となる短単位のうち，以下のいずれかに該当するもの
①連用修飾成分として機能しているもの
【例】　一人の思想家のテクストを読み解くだけでも　＼一生＼　かかって
富山港線は，　＼近年＼　，利用者が減ってきた。
＼実際＼　，内閣改造発言は一定の効果があったようだ

②副助詞・係助詞（「は」「まで」は除く。）が後接するもの
【例】　シャルル・ドゴール空港は　＼現在＼　も拡張工事を行っているが，
それでも世相は　＼いくら＼　かは反映する。

ｂ．長単位の構成要素となっている短単位のうち，以下のいずれかに該当するもの
①連用修飾成分として機能している長単位の末尾の要素となっているもの
【例】　約三十年　＼前＼　，道路建設をめぐって運河保存か埋め立てかで
予定　＼どおり＼　２イニングで交代した。
同大統領が就任　＼以来＼　，採ってきた外交路線の大修正を意味する。

②長単位の構成要素の一部が連体修飾を受け，連体修飾成分も含めた全体で連用修飾成分となるものの末尾の要素となっているもの
【例】　昭和三十八年のＯＥＣＤ加盟　＼以来＼

（２）名詞用法とするものは，以下のいずれかに該当するものとする。

ａ．文末に用いられているもの
【例】　日本の学生はたった　＼１人＼　。
反日デモ大変でしょ、といわれるけれど、それは　＼一面＼　。

ｂ．連体修飾を受けているもの
【例】　日本の　＼場合＼　，国益を考えるなら
花などの輸出が見込める　＼一方＼　，日本から高級農産物が
この　＼ほか＼　，同館が所蔵する江戸から昭和までの文具，

ｃ．格助詞が後接しているもの
【例】　＼今年＼　のタイガースは，御存知のとおり，去年とはまるっきり違う。
＼一部＼　をつまみ食いする議論がはびこる。
こんな気持ちで　＼皆＼　が自然に接すれば

ｄ．長単位の構成要素となっているもののうち，（１）ｂに該当しないもの
【例】　菓子パンも合わせて二十種　＼以上＼　。
授業時数の確保や　＼絶対＼　評価の資料づくりに追われて
常任理事国５か国　＼すべて＼　を含む加盟国の

ｅ．日付・時間等の表現に用いられた「午前」「午後」等
【例】　二十日　＼後＼１時半，名古屋・栄の名古屋ＹＷＣＡ

二十七日　＼午後＼　１時，釧路市観光国際交流センター
＼今年＼　一月二十日，ジャカルタのスカルノハッタ空港で
＼今月＼　２日には愛知県犬山市など５市町による

ｆ．数字に直接係ると考えられるもの
【例】　竹中経財相は　＼今後＼　二－三年の成長率を０－１％，
延長　＼後半＼　４分，Ｖゴールを決め喜ぶＧ大阪・中山
第一期生の中には、　＼当時＼　十八歳のリー・クアンユー上級相
米国を受信地と決め，　＼平日＼　８～十九時に１カ月あたり１時間

Ⅳ　同語異語判別規程　Version 1.3

第１　同語異語判別規程

《 凡　例 》

１．例として挙げる語の表記は，以下の原則による。
　① 語の形を問題とする場合は，片仮名で表記する。
　② 語の形を特に問題としない場合は，外来語を除き片仮名以外で表記する。

２．UniDicの階層名を示す場合には，「語彙素」「語形」「書字形」のように鍵括弧を付けて表記する。

３．一つの「語彙素」「語形」にまとめる語を併記する場合，語と語の間に「／」を記入する。
　亭主っ／亭主　　レンジュウ／レンチュウ

４．別の「語彙素」「語形」とする語を併記する場合，語と語の間に「←→」を記入する。
　とても←→とっても　　アイザワ←→アイサワ

５．「語彙素」「語彙素読み」を併記して示す場合には，「語彙素」に【 】を付ける。
　アタタカイ【暖かい】

６．語例で文脈を補う場合は丸括弧に入れて示し，注記を付ける場合は［ ］に入れて示す。

１　同一「語形」・別「語形」の判定規定

任意の二つの出現形について，UniDicに登録する際に，一つの「語形」にまとめるか，異なる「語形」として別にするか判断するための規定は，以下のとおりである。

１．１　語形

出現形の形に基づく規定は，以下のとおりである。

１．１．１　同一の「語形」とする出現形

次に示す形の差異を持つ出現形は，語源が同一であり，かつ意味の違いを生じていない限り，同じ「語形」とする。

（◆ver.1.3修正）

１．１．１．１　和語・漢語

（◆ver.1.2追加）

長音符号を用いた出現形と直前の母音と同じ母音字を重ねた出現形

【例】　なあ／ナー　　じじい／ジジー

１．１．１．２　外来語

（１）長音符号を用いた出現形と直前の母音と同じ母音字を重ねた出現形

【例】　ゴール／ゴオル　　カバー／カバア

連母音「アウ」「エイ」「オウ」など直前の母音と異なる母音字の連鎖については，長音符号を用いた出現形と母音字を重ねた出現形とは異なる「語形」とする。

【例】　ファール←→ファウル　　メール←→メイル

コーカサス←→コウカサス

（２）臨時的な仮名の小書きあるいはその逆と元の形
【例】　スィーツ／スイーツ　　キヤノン／キャノン　シエア／シェア

臨時か否か迷う場合はまとめない。
【例】　フアン←→ファン

（３）表３．６の付表Ｂの仮名で記された出現形と本表の仮名で記された出現形
【例】　ヴァイオリン／バイオリン　　クィーン／クイーン
グァム／グアム

（４）本表の仮名「ツァ」「ツェ」「デュ」「フュ」を含む出現形と本表の仮名「ツア」「チェ」「ジュ」「ヒュ」を含む出現形
【例】　モーツァルト／モーツアルト　　フィレンツェ／フィレンチェ
デュース／ジュース　(jeuce)　フューチャー／ヒューチャー

（５）以下の仮名・記号（躍り字）で記された出現形と本表・付表Ａの仮名で記された出現形
「ヂ」・「ヅ」　　ケンブリッヂ／ケンブリッジ
「ヰ」・「ヰ゛」　　スヰフト／スウィフト　　ウヰスキー／ウイスキー
「ヱ」・「ヱ゛」　　ヱスト／ウェスト　ヱーテル／エーテル
「ヲ」・「ヲ゛」　　ヲルポール／ウォルポール
「ヽ」・「ヾ」　　シヽリー／シシリー　　ハヾロフスク／ハバロフスク

（６）本表・付表にない小書きの仮名を含む出現形と本表・付表Ａの仮名で記された出現形
具体的には以下の事例が見られる。

ａ．付表Ｂの仮名に関連する仮名
グォン／グオン　　ヴョールカ／ビョールカ

ｂ．母音字「ア」「イ」「ウ」「エ」「オ」が臨時的に小書きされたとみなせるもの
ゴォル／ゴール　　グレィ／グレイ　　ハゥス／ハウス

ｃ．拗音「ャ」「ュ」「ョ」の代わりに臨時的に小書きの母音字「ァ」「ゥ」「ォ」が用いられたとみなせるもの
クリスチァン／クリスチャン　　テゥーバ／チューバ

ｄ．上記以外
キェルケゴール／キルケゴール　　フョードル／ヒョードル

（◆ver.1.1追加）
（７）漢字や原語で表記された外来語の出現形と語彙素と同形の出現形（ルビの有無は関わらない。）
英吉利／イギリス　　ｉｎｎｏｖａｔｉｏｎ／イノベーション

表３．６　外来語の表記に用いる仮名・符号

本　表

ア	イ	ウ	エ	オ				シェ	
カ	キ	ク	ケ	コ				チェ	
サ	シ	ス	セ	ソ	ツァ			ツェ	ツォ
タ	チ	ツ	テ	ト		ティ			
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ			トゥ		
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	ファ	フィ		フェ	フォ
マ	ミ	ム	メ	モ				ジェ	
ヤ		ユ		ヨ		ディ			
ラ	リ	ル	レ	ロ			ドゥ		
ワ							デュ		
ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ			フュ		
ザ	ジ	ズ	ゼ	ゾ					
ダ			デ	ド					
バ	ビ	ブ	ベ	ボ					
パ	ピ	プ	ペ	ポ					
キャ		キュ		キョ					
シャ		シュ		ショ					
チャ		チュ		チョ					
ニャ		ニュ		ニョ					
ヒャ		ヒュ		ヒョ					
ミャ		ミュ		ミョ					
リャ		リュ		リョ					
ギャ		ギュ		ギョ					
ジャ		ジュ		ジョ					
ビャ		ビュ		ビョ					
ピャ		ピュ		ピョ					

ン（撥音）
ッ（促音）
ー（長音符号）

付　表　A

	ウィ		ウェ	ウォ
	ツィ			

付　表　B

			イェ	
クァ	クィ		クェ	クォ
グァ				
ヴァ	ヴィ	ヴ	ヴェ	ヴォ
		テュ		
		ヴュ		

１．１．２　異なる「語形」とする出現形

１．１．２．１　和語・漢語

次に示す形の差異を持つ出現形は，異なる「語形」とする。

（１）清濁の差異及び濁音と半濁音との差異（連濁を含む。）

【例】　レンチュウ←→レンジュウ　　ナンビト←→ナンピト
（三）カイ←→（三）ガイ

（２）語末長音の短呼形と元の形との差異

【例】　センセ←→センセイ　　ニョウボ←→ニョウボウ
モ（一つ）←→モウ（一つ）

（３）音が弱まって母音音節となったものと元の形との差異
【例】　アタクシ←→ワタクシ　　ソイ（から）←→ソレ（から）

（４）撥音化した形と元の形との差異
【例】　アンタ←→アナタ　　ソン（なら）←→ソレ（なら）

（５）促音化した形と元の形との差異
【例】　アッタカイ←→アタタカイ　　カッテ［嘗て］←→カツテ［嘗て］
（～な）コッ（た）←→（～な）コト（だ）　　テッカク←→テキカク

（６）撥音が挿入された形と元の形との差異
【例】　アンマリ←→アマリ　　ミンナ←→ミナ
（見た）マンマ←→（見た）ママ

（７）促音の有無の差異
【例】　ケッシテ←→ケシテ　　タッタ←→タダ

（８）連声によって生じた形と元の形との差異
【例】　アンノン←→アンオン　　（三）ミ←→（三）イ

（９）語末以外の長音の有無の差異
【例】　シイカ←→シカ

（１０）サ行音がチ・チェ・チャ・チョ・ツァに交替した形と元の形との差異
【例】　チッチャイ←→チイサイ　　（お父）ツァン←→（お父）サン

（◆ver.1.1追加）
（１１）呉音・漢音・慣用音等の差異
【例】　サイシキ←→サイショク　　チョウフク←→ジュウフク

（◆ver.1.3追加）
※　臨時的に長音・促音が付加された形等と元の形についても異なる「語形」とする。
【例】　（だー）カーラー←→（だ）カラ　　トッテモ←→トーッテモ←→トテモ

１．１．２．２　外来語
（１）規定１．１．１．２に記載したもの以外の差異を持つ出現形は，異なる「語形」とする。
【例】　コンピューター←→コンピュータ　　メール←→メイル
アルミニウム←→アルミニューム

１．２　品詞

１．２．１　無活用語
無活用語が複数の品詞として機能している場合，本規程の細則により，それぞれ異なる品詞が与えられるのであれば，それらは異なる「語形」とする。

（◆ver.1.3修正）
１．２．１．１　同一の「語形」とするもの
名詞が形状詞としても機能する場合，名詞として用いられている出現形・形状詞とし

て用いられている出現形のいずれにも「名詞-普通名詞-形状詞可能」という品詞が与えられるので，各出現形は同じ「語形」とする。
【例】　健康（を守る）／健康（な体）　　安全が（第一）／安全（な街）

名詞が副詞としても機能する場合も，上記と同様に「名詞-普通名詞-副詞可能」という品詞が与えられるので，各出現形は同じ「語形」とする。
【例】　明日（には着く）／明日（出発する）
　　多く（を語らない）／多く（食べる）

名詞が助数詞としても機能する場合も，上記と同様に「名詞-普通名詞-助数詞可能」という品詞が与えられるので，各出現形は同じ「語形」とする。
【例】　（千五百）円／円（を買う）
　　（百）キログラム／キログラム（原器）

１．２．１．２　異なる「語形」とするもの
ある無活用語が形状詞としても副詞としても機能する場合，形状詞として用いられている出現形には「形状詞-一般」又は「形状詞-タリ」，副詞として用いられている出現形には「副詞」という品詞が与えられるので，各出現形は異なる「語形」とする。
【例】　特別（な扱い）←→特別（問題はない）
　　格別（に安い品）←→格別（安い品）

１．２．２　動詞連用形と動詞連用形転成名詞
動詞連用形とそれから転成した名詞は，それぞれ異なる「語形」とする。
【例】　動き（ます）←→動き（が固い）　遊び（に行く）←→遊び（をする）

（◆ver.1.1修正）
（◆ver.1.2修正）
１．３　固有名

１．３．１　人名・地名
品詞と語の形とが同じであれば，指し示すものが同じか否かにかかわらず，同じ「語形」として一つにまとめる。語の形が同じであるか否かの判断は規定１．１による。
【例】
〔人名-姓〕　檜山／桧山　　星野／ほしの　　モーツァルト／モーツアルト
〔人名-名〕　進次郎／進二郎　　輝弘／昭浩　　一郎／イチロー
〔地名-一般〕　茨木／茨城　　緑町／美土里町／美登里町
　　ケンブリッジ／ケンブリッヂ

１．３．２　人名・地名以外の固有名
出現形が同じであれば，指し示すものが異なる場合であっても，同じ「語形」とする。
【例】　三嶺（商事）／三嶺（書房）　　永興（号）／永興（寺）／永興（元年）

出現形が異なる場合は，異なる「語形」とする。
【例】　興福（寺）←→弘福（寺）←→香福（寺）
　　大創←→大惣←→ダイソー

ただし出現形が異なる場合であっても，指し示すものが確実に同じであれば，同じ「語形」とする。
【例】　日産／ニッサン／ＮＩＳＳＡＮ

２　同一「語彙素」・別「語彙素」の判定規定

任意の二つの「語形」について，一つの「語彙素」にまとめるか，異なる「語彙素」として別にするか判断するための規定は，以下のとおりである。

２．１　語形

語の形に基づく規定は，以下のとおりである。

２．１．１　同一の「語彙素」とする「語形」

２．１．１．１　和語・漢語

次に示す差異を持つ「語形」は，語源が同一であり，かつ意味の違いを生じていない限り，同じ「語彙素」とする。

（１）清濁の差異及び濁音と半濁音との差異（連濁を含む。）
【例】　レンチュウ／レンジュウ　　ナンビト／ナンピト
（三）カイ／（三）ガイ

（２）語末長音の短呼形と元の形との差異
【例】　センセ／センセイ　　ニョウボ／ニョウボウ　　モ（一つ）／モウ（一つ）

（３）音が弱まって母音音節となったものと元の形との差異
【例】　アタクシ／ワタクシ　　ソイ（から）／ソレ（から）

（４）撥音化した形と元の形との差異
【例】　アンタ／アナタ　　ソン（なら）／ソレ（なら）

（５）促音化した形と元の形との差異
【例】　アッタカイ／アタタカイ　　カッテ［嘗て］／カツテ［嘗て］
（～な）コッ（た）／（～な）コト（だ）　　テッカク／テキカク

（６）撥音が挿入された形と元の形との差異
【例】　アンマリ／アマリ　　ミンナ／ミナ　　（見た）マンマ／（見た）ママ

（７）促音の有無の差異
【例】　ケッシテ／ケシテ　　タダ／タッタ

（８）連声によって生じた形と元の形との差異
【例】　アンノン／アンオン　　カンノン／カンオン

（９）語末以外の長音の有無の差異
【例】　シイカ／シカ

（１０）サ行音がチ・チェ・チャ・チョ・ツァに交替した形と元の形との差異
【例】　チッチャイ／チイサイ　　（お父）ツァン／（お父）サン

ただし「ちゃん」と「さん」とは別の「語彙素」とする。
【例】　チャン←→サン

（◆ver.1.1追加）
（１１）呉音・漢音・慣用音等の差異
【例】　サイシキ／サイショク　　チョウフク／ジュウフク

（◆ver.1.2追加）
（１２）上記以外に，次のような「語形」の差異を同一の「語彙素」とすることがある。
以下，事例を示す。

ａ．母音が交替した形の差異
【例】　ミズオチ／ミゾオチ　　デケル／デキル　　エガラッポイ／イガラッポイ

ｂ．子音が交替した形の差異
【例】　ユルブ／ユルム　　オトロシイ／オソロシイ　　ヤッパシ／ヤッパリ

ｃ．サ（ザ）行の拗音と直音が交替した形の差異
【例】　ネンジュ／ネンズ　　チシャ／チサ（萵苣）　　ジュツナイ／ジツナイ

ｄ．特殊拍どうしが交替した形の差異
【例】　クランド／クロウド（蔵人）　　シッチュウ／シュウチュウ（集注）

ｅ．語中音節の有無の差異
【例】
一般音節　：　マイゴ／マヨイゴ　　オモロイ／オモシロイ　　フバコ／フミバコ
母音音節　：　コワモテ／コワオモテ　　アブラゲ／アブラアゲ
ユイイツ／ユイツ

ｆ．語末音節の有無の差異
【例】　ナス／ナスビ　　カケックラ／カケクラベ

ｇ．音の融合した形と元の形の差異
【例】　コサエル／コシラエル　　シャガレル／シワガレル　　ミョウト／メオト

※　上記ａからｇの差異を持ち，かつ意味が同じものであっても，語源が同一か否かの判断が困難な場合は，異なる「語彙素」とする。
【例】　ツゴモリ←→ツキゴモリ　　ツバ←→ツバキ

（◆ver.1.1修正）
（◆ver.1.3修正）
２．１．１．２　外来語
外来語の「語形」のうち，原語が同じであるか極めて近い場合で，かつ音声的に類似する場合の表記の差異を持つものは，同じ「語彙素」とする。
典型的には以下に示す差異，又は差異の組合せで説明できるものを同じ「語彙素」とする。

ａ．連母音「アウ」「エイ」「オウ」と長音符号を用いた形との差異
【例】　ファウル／ファール　　メイル／メール　　コウカサス／コーカサス

ｂ．以下の文字対のうち左の文字を用いた形と右の文字を用いた形との差異
「シェ・ジェ」と「セ・ゼ」　　シェパード／セパード　　ジェリー／ゼリー

「ティ」と「チ」　　ティーム／チーム
「ティ・ディ」と「テ・デ」　　スティッキ／ステッキ／　　ハンディ／ハンデ
「ディ」と「ジ」　　ディレンマ／ジレンマ
「トゥ・ドゥ」と「ツ・ズ」　　トゥール／ツール　　ヒンドゥー／ヒンズー
「ドゥ」と「ド」　　マドゥモアゼル／マドモアゼル
「ファ・フィ・フェ・フォ」と「ハ・ヒ・ヘ・ホ」
　　セロファン／セロハン／　　テレフォン／テレホン
「ツィ」と「チ」　　エリツィン／エリチン
「ウィ・ウェ・ウォ」と「ウイ・ウエ・ウオ」
　　ウィーン／ウイーン　　ウォッチ／ウオッチ
「ウィ」と「イ・エ・オ」　　スウィート／スイート　スウェーデン／スエーデン
「イエ」と「エ」　　イエール／エール
「クア・クイ・クエ・クオ」と「カ・キ・ケ・コ」
　　クアルテット／カルテット
「グア」と「ガ」　　グアテマラ／ガテマラ

c．語末あるいは原語における子音に先行する位置での「トゥ」「ドゥ」を用いた形と「ト」「ド」を用いた形との差異
【例】　カットゥ／カット　　ドゥライブ／ドライブ

d．特殊拍（長音・促音・撥音）の有無の差異
【例】　ヒットラー／ヒトラー　　マシーン／マシン
　　エンターテインメント／エンターテイメント

e．半母音/j/, /w/ の有無の差異（ /j/ の場合は特にイ段・エ段に後続する場合）
【例】　イタリヤ／イタリア　　ダイヤル／ダイアル
　　コートジボワール／コートジボアール

f．母音の有無の差異
【例】　グラウンド／グランド　　レインジャー／レンジャー

g．長音と促音の交替
【例】オーケー／オッケー　　アンティーク／アンティック

h．特殊拍（長音・促音・撥音）とそれ以外の交替
【例】　ケッパー／ケイパー　　シンボジウム／シムポジウム　　パーム／パルム

i．母音と半母音の交替
【例】　ギリシャ／ギリシア　　アダージョ／アダージオ

j．異なる母音間の交替
【例】　ボディ／バディ　　サクソフォーン／サキソフォーン　　マニー／マネー
　　ルーブル／ルーブリ　　マスタング／ムスタング　　パジャマ／ピジャマ

k．清音と濁音（に相当するもの）の交替
【例】　スムース／スムーズ　　ベット／ベッド
　　ウィトゲンシュタイン／ビトゲンシュタイン（←ヴィトゲンシュタイン）

l．調音法や調音点の類似した子音間の交替
【例】　ゴシック／ゴチック　　エカチェリーナ／エカテリーナ

ｍ．原語のつづり″a″に対する「ア／エイ」，″i″に対する「イ／アイ」の交替
【例】　カオス／ケイオス　　オーガニゼーション／オーガナイゼーション

上記以外についても，それに類する差異については同一の語彙素とする。
【例】　アンビリーバブル／アンビリーバボー

なお英語に関して，単数形と複数形の差異や原形と分詞形の差異などは原則として異なる「語彙素」とする。ただし語形的に類似し，かつ文脈的にも区別が難しいものについては同じ「語彙素」とする。類似の条件は本規定のａからｍを適用する。典型的な例を以下に示す。

複数形	同語彙素	【例】ブック／ブックス※1　ウーマン／ウイメン
	別語彙素	【例】チャイルド←→チルドレン
名詞所有格	同語彙素	【例】ブック／ブックス※1　メン／メンズ　（普通名詞）
	別語彙素	【例】ジェニー←→ジェニーズ　（固有名詞）※2
動詞派生型	同語彙素	【例】ビルド／ビルト　ウォーク／ウォークス
	別語彙素	【例】ウォーク←→ウォーキング

※１　多くの普通名詞は単数形，複数形，所有格が同じ「語彙素」となる。
※２　原則として固有名詞の所有格は普通名詞となるため，規定２．２により異なる「語彙素」となる。なお「ジャニーズ（事務所）」など組織の名を表すものの扱いについては細則５「固有名の扱い」を参照。

２．２　品詞
ある無活用語がその用法によって異なる品詞を与えられていても，その品詞の属する類が同じであれば，同じ「語彙素」とする。一方，その品詞の属する類※が異なれば，それらは異なる「語彙素」とする。
【例】　特別（な扱い）／特別（問題はない）
　　自然（を守る）←→自然（と動く）／自然（な振る舞い）

※　UniDicにおいて「語彙素」に付与される情報の一つで，「体」「用」「相」「他」などがある。各品詞がどの類に属するかについては表３．３を参照。

動詞・形容詞に基づくものであっても，別に定める品詞判別に関する規程により無活用語とされたものについては，元の動詞・形容詞とは異なる「語彙素」とする。
【例】　動き（が固い）←→動き（ます）
　　（ドル）安　　←→安（請け合い）

２．３　活用型
活用型が異なる活用語のうち，次に挙げるものは同じ「語彙素」とする。

（１）文語活用の活用語と，それに対応する口語活用の活用語
【例】　す／する　　受く／受ける　　少なし／少ない　　白し／白い
　　ず／ぬ　　らる／られる

（２）サ行五段活用動詞と，その元になったサ行変格活用動詞
【例】　愛す／愛する　　対す／対する

（３）ザ行上一段活用動詞と，その元になったザ行変格活用動詞
【例】　感じる／感ずる　　信じる／信ずる

（４）可能動詞と，その元になった五段活用動詞
【例】　書ける／書く　　読める／読む

（５）活用形を自動生成するために別の活用型を与えた活用語と，その元になった活用語
【例】　ですぅ／です

２．４　方言形
方言形と，それに形の上で対応する口語の共通語形とは，意味のつながりがある場合，同じ「語彙素」とする。
【例】　オトロシイ／オソロシイ

２．５　人名

（◆ver.1.1修正）
２．５．１　日本の人名
日本の人名には，原則として規定２．１．１は適用しない。
【例】　アイザワ←→アイサワ

２．５．１．１　姓と名との間にある読み添えの「の」を含む語形は，「の」を含まない語形と同じ「語彙素」とする。
【例】　フジワラ／フジワラノ

（◆ver.1.1追加）
２．５．１．２　日本の神話の神名や昔の人名などについては規定２．１．１を適用する。
【例】　タカミムスビ／タカミムスヒ（高御産巣日）
カグヤヒメ／カクヤヒメ
ウマヤド／ウマヤト

（◆ver.1.1追加）
２．５．２　日本の人名と外国の人名
日本の人名・日本漢字音で読んだ中国・韓国の人名と，それ以外の人名は，異なる「語彙素」とする。
【例】　アンナ（杏奈など）←→アンナ（Ａｎｎａなど）

（◆ver.1.1追加）
２．５．３　外国の人名
外国の人名（日本漢字音で読んだ中国・韓国の人名を除く。）については，同じ人名であると判断できる場合に限り，規定２．１．１．２のａからｍの範囲で同じ「語彙素」とする。著名人の場合や長めの人名の場合などがこれに相当する。
【例】　ウィトゲンシュタイン／ビトゲンシュタイン／ウィットゲンシュタイン
ブーメディエヌ／ブーメディエンヌ
リッベントロップ／リッペントロープ

同じ人名か否か判断に迷うものについては，規定２．１．１．２のａからｍを無理に適用することはせず，明らかに同じ人名と分かる場合に留める。一つの指標として次を参考にする。冒頭のアルファベットは規定２．１．１．２のａからｍに対応する。

（１）同一の「語彙素」にまとめる可能性の高い差異
ａ．連母音と長音の差異　　デイビッド／デービッド
ｂ．類似子音の差異　　マーティン／マーチン
ｄ．語末長音の有無　　エディ／エディー
　　促音の有無　　ミシェル／ミッシェル
ｅ．半母音の有無　　ソフィア／ソフィヤ　オーウェン／オーエン
ｋ．語中・語末の清音濁音の交替　　デビット／デビッド　ジョセフ／ジョゼフ

（２）同一の「語彙素」にまとめる可能性のある差異
ｄ．語中長音の有無　　ガルーチ／ガルチ
ｈ．特殊拍とそれ以外の交替　　マーク／マルク
ｉ．母音と半母音の交替　　ジョルジオ／ジョルジョ

（３）同一の「語彙素」にまとめない可能性の高い差異
ｄ．撥音の有無　　ヨンナム←→ヨナム
ｆ．母音を含むモーラの有無　　トーマス←→トーマ
ｇ．長音と促音の交替　　マーク←→マック
ｊ．異なる母音間の交替　　タイラー←→テイラー
ｋ．語頭の清音と濁音の交替　　カルダン←→ガルダン
ｍ．「ア／エイ」「イ／アイ」の交替　　サラ←→セーラ

２．６　地名

（◆ver.1.1修正）
２．６．１　日本の地名と外国の地名
日本の地名と外国の地名は異なる「語彙素」とする。
【例】　ハワイ（羽合）←→ハワイ（Hawaii）

（◆ver.1.1修正）
２．６．２　日本の地名
日本の地名については，同じ場所を指すことが明らかな場合，規定２．１．１．１の範囲で同じ「語彙素」とする。
【例】　カンサイ／カンセイ

読み添えの「の」を含む語形は，「の」を含まない語形と同じ「語彙素」とする。
【例】　ヒゴ／ヒゴノ

（◆ver.1.1修正）
２．６．２．１　過去の日本の地名
過去の日本の地名については，規定２．１．１．１に類する音韻変化の範囲で同じ「語彙素」とする。
【例】　モロガタ／モロアガタ（諸県）
　　クナ／クヌ（狗奴国）

（◆ver.1.1修正）
２．６．３　外国の地名
外国の地名については，同一の地名である限りにおいて，規定２．１．１．２の範囲で同じ「語彙素」とする。
【例】　スウェーデン／スエーデン　　カルフォルニア／カリフォルニア

（◆ver.1.2追加）
２．７　人名・地名以外の固有名

２．７．１　日本語由来の固有名
読み添えの「の」を含む語形は，「の」を含まない語形と同じ「語彙素」とする。
【例】　ホムスビ／ホムスビノ（神）

２．７．２　外来語由来の固有名
外来語由来の固有名については，指し示すものが同じである限りにおいて，規定２．１．１．２の範囲で同じ「語彙素」とする。
【例】　アルカイダ／アルカイーダ　　ポンティアック／ポンテアック

２．８　略語
二つの略語が同語形であっても，その元になった語が異なる「語彙素」として扱われる場合，略語も別の「語彙素」として扱う。
【例】　（大阪）大←→（実物）大

その元になった語が異なる「語彙素」であっても，概念に共通性が高い場合には，略語は同じ「語彙素」にまとめる。
【例】　漁［「漁業」の略］／漁（「漁労」の略）

３　「書字形」の定め方及び表記
「書字形」は，出現形を基に次のように定める。

（１）活用のない語
原則として出現形をそのまま「書字形」とし，「書字形」の表記も出現形のとおりとする。
【例】　（だー）かーらー　⟶　かーらー
だーめ　⟶　だーめ

（２）活用のある語
出現形を終止形に直したものを「書字形」とし，「書字形」の表記も出現形を終止形に直したものとする。
【例】　話し（た）　⟶　話す
受けつご（う）　⟶　受けつぐ
ウマかっ（た）　⟶　ウマい

４　「語形」の定め方及び表記

４．１　「語形」の定め方

４．１．１　和語・漢語
和語・漢語については，「書字形」の読み（語形）を「語形」として立てる。
【例】　亭主　⟶　テイシュ
とっても　⟶　トッテモ
話す　⟶　ハナス
ウマい　⟶　ウマイ
ですぅ　⟶　デスウ

４．１．２　外来語

外来語については次のとおりとする。なお，以下の外来語に関する記述の中で「辞書」といった場合，『大辞林』第２版と『日本国語大辞典』第２版を指す。両辞書の記述が異なる場合は，原則として『日本国語大辞典』第２版の記述に従う。

（１）長音符号を用いた出現形と直前の母音と同じ母音字を重ねた出現形

原則として長音符号を用いた形を「語形」として立てる。

【例】　ゴール／ゴオル　⟶　ゴール　　カバー／カバア　⟶　カバー

ただし，以下に該当する場合は母音を用いた形を「語形」とする。

ａ）母音字表記の形が辞書の見出し（空見出しを除く，以下同）になっている場合

【例】　バレー／バレエ　⟶　バレエ　　レゲー／レゲエ　⟶　レゲエ

ｂ）母音連鎖部に原語の形態素境界がある場合

【例】　カットーフ／カットオフ　⟶　カットオフ（cut-off）※1
　　コーカランス／コオカランス　⟶　コオカランス（co-occurance）※1
　　コーポレーション／コオペレーション
　　⟶　コーポレーション（co-operation）※2

※１　例として記したものであり，これらが長音符号で記されることは稀である。
※２　辞書に長音符号で記されているものはそれに従う。

（２）臨時的な仮名の小書きあるいはその逆と元の形

原則として元の形を「語形」として立てる。

【例】　スィーツ／スイーツ　⟶　スイーツ
　　キヤノン／キャノン　⟶　キャノン　　シエア／シェア　⟶　シェア

臨時か否か迷う場合はまとめない。

【例】　ファン←→フアン

（３）表３．６の付表Ｂの仮名で記された出現形と本表の仮名で記された出現形

本表の仮名で記された形を「語形」として立てる。

具体的には次のとおり。

付表Ｂ「ヴァ」→本表「バ」	ヴァイオリン／バイオリン	⟶	バイオリン
付表Ｂ「ヴィ」→本表「ビ」	ヴィオラ／ビオラ	⟶	ビオラ
付表Ｂ「ヴ」　→本表「ブ」	ジュネーヴ／ジュネーブ	⟶	ジュネーブ
付表Ｂ「ヴェ」→本表「ベ」	ヴェール／ベール	⟶	ベール
付表Ｂ「ヴォ」→本表「ボ」	ヴォーカル／ボーカル	⟶	ボーカル
付表Ｂ「ヴュ」→本表「ビュ」	デジャヴュ／デジャビュ	⟶	デジャビュ
付表Ｂ「テュ」→本表「チュ」	テューバ／チューバ	⟶	チューバ
付表Ｂ「イェ」→本表「イエ」	イェーツ／イエーツ	⟶	イエーツ
付表Ｂ「クァ」→本表「クア」	クァルテット／クアルテット	⟶	クアルテット
付表Ｂ「クィ」→本表「クイ」	クィーン／クイーン	⟶	クイーン
付表Ｂ「クェ」→本表「クエ」	クェート／クエート	⟶	クエート
付表Ｂ「クォ」→本表「クオ」	クォーツ／クオーツ	⟶	クオーツ
付表Ｂ「グァ」→本表「グア」	グァム／グアム	⟶	グアム

（４）本表の仮名「ツァ」「ツェ」「デュ」「フュ」を含む出現形と本表の仮名「ツア」「チェ」「ジュ」「ヒュ」を含む出現形

辞書の見出しにある場合はその形を「語形」として立てる。

【例】　フューズ／ヒューズ　⟶　ヒューズ
　　デュース／ジュース　⟶　ジュース（jeuce）
　　フィレンツェ／フィレンチェ　⟶　フィレンツェ
　　モーツァルト／モーツアルト　⟶　モーツァルト

それ以外は原音に近い仮名を用いた形を「語形」として立てる。

【例】　フュージョニズム／ヒュージョニズム ⟶ フュージョニズム（fusionism）

（５）以下の仮名・記号（おどり字）で記された出現形と本表・付表Ａの仮名で記された出現形

本表・付表Ａの仮名で記された形を「語形」として立てる。具体的には以下のとおり。

「ヂ」　→　本表「ジ」
「ヅ」　→　本表「ズ」
「ヰ」　→　付表Ａ「ウィ」／本表「イ」（「ウ」が先行する場合）
「ヰ゛」　→　本表「ビ」
「ヱ」　→　付表Ａ「ウェ」／本表「エ」
「ヱ゛」　→　本表「ベ」
「ヲ」　→　付表Ａ「ウォ」／本表「オ」
「ヲ゛」　→　本表「ボ」
「ヽ」　→　前の文字を重ねる
「ヾ」　→　前の文字を濁音にして重ねる

（６）本表・付表にない小書きの仮名を含む出現形と本表・付表Ａの仮名で記された出現形

ａ．付表Ｂの仮名に関連する仮名

上記（３）に記す規定に準じ，本表の仮名で記された形を「語形」として立てる。

表外「グィ」→本表「グイ」　グィード／グイード　⟶　グイード
表外「グェ」→本表「グエ」　グェルフ／グエルフ　⟶　グエルフ
表外「グォ」→本表「グオ」　グォン／グオン　⟶　グオン
表外「ヴャ」→本表「ビャ」　ヴャチェスラフ／ビャチェスラフ⟶ビャチェスラフ
表外「ヴョ」→本表「ビョ」　ヴョールカ／ビョールカ　⟶　ビョールカ

ｂ．母音字「ア」「イ」「ウ」「エ」「オ」が臨時的に小書きされたとみなせるもの

小書きされた仮名に対応する母音字の表記のゆれとみなした上で「語形」を定める。具体的には次のとおり。

小書きされた母音字が直前の母音と同じ場合，（１）の規定に従い原則として長音符号を用いた形を「語形」として立てる。

【例】　ゴォル　⟶　ゴール　　アンジィ　⟶　アンジー

それ以外については，母音字「ア」「イ」「ウ」「エ」「オ」を用いた形を「語形」として立てる。

【例】　グレィ　⟶　グレイ　　ハゥス　⟶　ハウス

ｃ．拗音「ャ」「ュ」「ョ」の代わりに臨時的に小書きの母音字「ァ」「ゥ」「ォ」が用いられたとみなせるもの
「ャ」「ュ」「ョ」を用いた形を「語形」として立てる。
【例】　クリスチァン　⟶　クリスチャン　　テゥーバ　⟶　チューバ

ｄ．上記以外
辞書の見出しにある場合はその形を「語形」として立てる。
【例】　キェルケゴール　⟶　キルケゴール

それ以外は，本表・付表Ａの仮名を用いた形を「語形」として立てる。
【例】　フョードル　⟶　ヒョードル

（◆ver.1.1追加）
４．１．３　人名
人名の「語形」の定め方は，規定４．１．１，４．１．２に準ずる。
漢字表記された中国・韓国の人名は,ルビの有無等にかかわらず一律に日本漢字音(漢音）で読む。
【例】　金 日成　⟶　キン ニッセイ　×キム イルソン

（◆ver.1.2追加）
４．１．４　地名
地名の「語形」の定め方は，規定４．１．１，４．１．２に準ずる。
漢字表記された中国・韓国の地名は,『日本国語大辞典』『大辞林』に基づいて語形を定める。二つの辞書の記述が異なる場合は,『日本国語大辞典』に従う。
【例】　平壌　⟶　ピョンヤン　× ヘイジョウ

辞書に立項されていないものは,ルビの有無等にかかわらず一律に日本漢字音(漢音)で読む。
【例】　昆明　⟶　コンメイ　　× クンミン

（◆ver.1.2追加）
４．１．５　人名・地名以外の固有名
固有名の「語形」の定め方は，規定４．１．１，４．１．２に準ずる。ただし，日本語に由来する固有名であっても長音符号で記された出現形のみを持つものは，適宜，長音符号の形を「語形」として立てる。
【例】　鐘紡／カネボウ／カネボー　⟶　カネボウ　×カネボー
　　ダイソー　⟶　ダイソー　×ダイソウ

漢字表記された中国・韓国語由来の固有名は,『日本国語大辞典』『大辞林』に基づいて語形を定める。二つの辞書の記述が異なる場合は,『日本国語大辞典』に従う。
【例】　契丹　⟶　キタイ

辞書に立項されていないものは，強い慣習やルビがあればそれに従う。ルビがない場合は日本漢字音（漢音）で読む。
【例】　欽察　⟶　キプチャク
　　耀華　⟶　ヨウカ

４．２　「語形」の表記

４．２．１　和語・漢語

和語・漢語は，片仮名を用いて，現代仮名遣い（1986年，内閣告示第１号・内閣訓令第１号）に基づき表記する。

【例】　縮む　⟶　チヂム
　　上積み　⟶　ウワヅミ
　　先生　⟶　センセイ
　　ですぅ　⟶　デスウ

拗音・促音は，小書きに統一する。

【例】　切手　⟶　キッテ
　　社会　⟶　シャカイ

現代仮名遣いでは，長音の表記に長音符号を用いないため，「語形」の表記でも原則として長音符号を用いない。

【例】　そー（です）　⟶　○ ソウ　× ソー
　　研究　⟶　○ ケンキュウ　× ケンキュー

４．２．２　外来語

外来語は，表３．６に示した片仮名・符号を用いて表記する。個々の語の具体的な表記については，規定４．１．２を参照する。

（◆ver.1.1追加）
（◆ver.1.2修正）

４．２．３　固有名

固有名の「語形」の表記は規定４．２．１，４．２．２を適用する。

５　「語彙素」の定め方及び表記

５．１　「語彙素」の定め方

「語形」を「語彙素」として立てる。

【例】　チヂム　⟶　チヂム【縮む】
　　ウワヅミ　⟶　ウワヅミ【上積み】
　　センセイ　⟶　センセイ【先生】

複数の「語形」を一つの「語彙素」にまとめる場合，以下の規定によって「語彙素」を定める。なお，「語形」が一つしかない場合でも，その「語形」が以下の規定に該当するものであれば，その規定に基づいて「語彙素」を定める。

【例】　アタクシ　⟶　ワタクシ【私】※

※　「アタクシ」は，規定５．１．１．１の（３）に該当する語であるので，「語形」に「アタクシ」のみが登録されている場合でも，「ワタクシ」を「語彙素」とする。

５．１．１　語形

５．１．１．１　和語・漢語

和語・漢語については，以下のとおりとする。

（１）清濁の差異及び濁音と半濁音との差異がある場合は，以下のとおりとする。

①濁音化・半濁音化が短単位の語頭で生じている場合，濁音化・半濁音化する前の元の形を「語彙素」として立てる。

【例】　（三）カイ／（三）ガイ　⟶　カイ【階】
　　ハコ／（道具）バコ　⟶　ハコ【箱】

②濁音化・半濁音化が短単位の語頭以外で生じている場合，「語彙素」は語ごとに定める。

【例】　レンチュウ／レンジュウ　⟶　レンチュウ【連中】
　　ナンビト／ナンピト　⟶　ナンピト【何人】

（２）語末長音の短呼形と元の形とがある場合，元の形を「語彙素」とする。

【例】　センセ／センセイ　⟶　センセイ【先生】
　　ニョウボ／ニョウボウ　⟶　ニョウボウ【女房】
　　モ（一つ）／モウ（一つ）　⟶　モウ【もう】

（３）音が弱まって母音音節となったものと元の形とがある場合，元の形を「語彙素」とする。

【例】　アタクシ／ワタクシ　⟶　ワタクシ【私】
　　ソイ（から）／ソレ（から）　⟶　ソレ【其れ】

（４）撥音化した形と元の形とがある場合，元の形を「語彙素」とする。

【例】　アンタ／アナタ　⟶　アナタ【貴方】
　　ソン（なら）／ソレ（なら）　⟶　ソレ【其れ】

（５）促音化した形と元の形とがある場合，元の形を「語彙素」とする。

【例】　アッタカイ／アタタカイ　⟶　アタタカイ【暖かい】
　　カッテ／カツテ　⟶　カツテ【嘗て】
　　（～な）コッ（た）／（～な）コト（だ）　⟶　コト【事】
　　テッカク／テキカク　⟶　テキカク【的確】

（６）撥音が挿入された形と元の形とがある場合，元の形を「語彙素」とする。

【例】　アンマリ／アマリ　⟶　アマリ【余り】
　　ミンナ／ミナ　⟶　ミナ【皆】
　　（見た）マンマ／（見た）ママ　⟶　ママ【侭】

（７）促音がある形とない形とがある場合，「語彙素」は語ごとに定める。

【例】　ケッシテ／ケシテ　⟶　ケッシテ【決して】
　　タダ／タッタ　⟶　タダ【唯】

（８）連声によって生じた形と元の形とがある場合，原則として連声によって生じた形を「語彙素」とする。

【例】　アンノン／アンオン　⟶　アンノン【安穏】
　　カンノン／カンオン　⟶　カンノン【観音】

※　短単位境界で連声が生じており，後続の短単位の語形が連声によって変化している場合，連声によって生じた形ではなく元の形を「語彙素」として立てる。

【例】　（三）ミ／（三）イ　⟶　イ【位】

（９）語末以外に長音がある形とない形とがある場合，「語彙素」は語ごとに定める。

【例】　シイカ／シカ　⟶　シイカ【詩歌】

（１０）サ行音がチ・チェ・チャ・チョ・ツァに交替した形と元の形とがある場合，元の形を「語彙素」とする。

【例】　チッチャイ／チイサイ　⟶　チイサイ【小さい】
　　ツァン／サン　⟶　サン【さん】

（◆ver.1.1追加）

（１１）呉音・漢音・慣用音等の差異がある場合，「語彙素」として立てる語形は，①漢音，②呉音，③慣用音の優先順位で定めるのを原則とする。

【例】　サイシキ／サイショク　⟶　サイショク【彩色】
　　ジュウフク／チョウフク　⟶　チョウフク【重複】

（◆ver.1.2追加）

（１２）次のような「語形」の差異を同一の「語彙素」とする場合，「語彙素」は語ごとに定める。

ａ．母音が交替した形の差異

【例】　ミゾオチ／ミズオチ　⟶　ミゾオチ【鳩尾】
　　デキル／デケル　⟶　デキル【出来る】
　　イガラッポイ／エガラッポイ　⟶　イガラッポイ【いがらっぽい】

ｂ．子音が交替した形の差異

【例】　ユルム／ユルブ　⟶　ユルム【緩む】
　　オソロシイ／オトロシイ　⟶　オソロシイ【恐ろしい】

ｃ．サ（ザ）行の拗音と直音が交替した形の差異

【例】　ネンジュ／ネンズ　⟶　ネンジュ【念珠】
　　チシャ／チサ　⟶　チシャ【萵苣】
　　ジュツナイ／ジツナイ　⟶　ジュツナイ【術無い】

ｄ．特殊拍同士が交替した形の差異

【例】　クロウド／クランド　⟶　クロウド【蔵人】
　　シュウチュウ／シッチュウ　⟶　シュウチュウ【集注】

ｅ．語中音節の有無の差異

【例】

一般音節　：　マヨイゴ／マイゴ　⟶　マイゴ【迷子】
　　オモシロイ／オモロイ　⟶　オモシロイ【面白い】
　　フミバコ／フバコ　⟶　フバコ【文箱】

母音音節　：　コワオモテ／コワモテ　⟶　コワモテ【強面】
　　アブラアゲ／アブラゲ　⟶　アブラアゲ【油揚げ】
　　ユイイツ／ユイツ　⟶　ユイイツ【唯一】

ｆ．語末音節の有無の差異

【例】　ナスビ／ナス　⟶　ナス【茄子】
　　カケックラ／カケクラベ　⟶　カケクラベ【駆け競べ】

ｇ．音の融合した形と元の形の差異

【例】　コサエル／コシラエル　⟶　コシラエル【拵える】
　　シャガレル／シワガレル　⟶　シワガレル【嗄れる】

ミョウト／メオト　　⟶　メオト【夫婦】

５．１．１．２　外来語

外来語については，以下のとおりとする。

（◆ver.1.1修正）

（１）単数形と複数形，動詞の原形と派生型などがある場合，原則として単数形，原形を「語彙素」とする。

【例】　ブック／ブックス　⟶　ブック
　　ビルド／ビルト　　⟶　ビルド

複数形しか辞書の見出しにないものは複数形を「語彙素」とする。

【例】　データ／データム　⟶　データ

（２）連母音「アウ」「エイ」「オウ」と長音符号を用いた形がある場合は，原則として長音符号で記された形を「語彙素」とする。

【例】　メイル／メール　⟶　メール

辞書に母音字で記された形があればそれを「語彙素」とする。

【例】　ファウル／ファール　⟶　ファウル

（３）以下に記す差異がある場合，①②のとおり「語彙素」を定める。

「シェ・ジェ」と「セ・ゼ」
「ティ」と「チ」
「ティ・ディ」と「テ・デ」
「ディ」と「ジ」
「トゥ・ドゥ」と「ツ・ズ」
「ドゥ」と「ド」
「ファ・フィ・フェ・フォ」と「ハ・ヒ・ヘ・ホ」
「ツィ」と「チ」
「ウィ・ウェ・ウォ」と「ウイ・ウエ・ウオ」
「ウィ」と「イ・エ・オ」
「イエ」と「エ」
「クア・クイ・クエ・クオ」と「カ・キ・ケ・コ」

①辞書の見出しに後者の仮名で記された形がある場合は，それを「語彙素」とする。

【例】　ミルクシェーキ／ミルクセーキ　⟶　ミルクセーキ
　　ディレンマ／ジレンマ　　⟶　ジレンマ
　　セロファン／セロハン　　⟶　セロハン
　　スウィート／スイート　　⟶　スイート

②それ以外は原則として前者の仮名で記された形を「語彙素」とする。

【例】　ウィーン／ウイーン　　⟶　ウィーン
　　エリツィン／エリチン　　⟶　エリツィン
　　ディファレンス／デファレンス　⟶　ディファレンス

（４）語末あるいは原語における子音に先行する位置で，「トゥ」「ドゥ」を用いた形と「ト」「ド」を用いた形との差異が見られる場合は，「ト」「ド」で記された形を「語彙素」とする。

【例】　カットゥ／カット　　⟶　カット
　　ドゥライブ／ドライブ　⟶　ドライブ

（５）規定２．１．１．２に示した音の挿入・脱落・交替の差異が見られる場合は，原則として以下の方針に従い「語彙素」を定める。上記（３）（４）に相当するものはその方針に従う。

①辞書の見出しにある形を「語彙素」とする。

②以下の方針により「語彙素」を定めることができるものはそれに従う。
ａ．長音記号の有無：原則として長音符号を用いた形を「語彙素」とする
【例】　コンピューター／コンピュータ　⟶　コンピューター

ｂ．イ段・エ段に後続する半母音/j/ の有無：原則として/j/のない形を「語彙素」とする
【例】　イタリア／イタリヤ　⟶　イタリア
　　エアコン／エヤコン　⟶　エアコン

ｃ．語末が ″(i)um″ のものは，原則として「イウム」に相当する形を「語彙素」とする。
【例】　アルミニウム／アルミニューム　⟶　アルミニウム

ｄ．それ以外で特に強い慣習があるもの：その慣習に従う形を「語彙素」とする。
【例】　レックス／レクス　⟶　レックス※

※　lex，fix，box のような形の場合は原音にない促音を入れる慣習があるなど。

③明らかに原音からの挿入・脱落・交替であることが分かる場合は，原音に近い仮名を「語彙素」とする。
【例】　アセンブル／アッセンブル　⟶　アセンブル

④それ以外は語ごとに「語彙素」を定める。

５．１．２　活用型
活用型が異なる活用語のうち，次に挙げるものは同じ「語彙素」とする。

（１）文語活用の活用語と，それに対応する口語活用の活用語とがある場合，文語活用に対応する口語活用の活用語を「語彙素」とする。
【例】　す／する　　⟶　スル【為る】
　　少なし／少ない　⟶　スクナイ【少ない】

ただし，打ち消しの助動詞「ず」「ぬ」は，文語活用の終止形を「語彙素」とする。
　　ず／ぬ　　⟶　ズ【ず】

（２）サ行五段活用動詞と，その元になったサ行変格活用動詞とがある場合，サ行変格活用動詞を「語彙素」とする。
【例】　愛す／愛する　⟶　アイスル【愛する】
　　対す／対する　⟶　タイスル【対する】

（３）ザ行上一段活用動詞と，その元になったザ行変格活用動詞とがある場合，ザ行変格

活用動詞を「語彙素」とする。
【例】　感じる／感ずる　⟶　カンズル【感ずる】
　　信じる／信ずる　⟶　シンズル【信ずる】

（４）可能動詞と，その元になった五段活用動詞とがある場合，五段活用動詞を「語彙素」とする。
【例】　書ける／書く　⟶　カク【書く】
　　読める／読む　⟶　ヨム【読む】

５．１．３　方言形
方言形と，それに形の上で対応する口語の共通語形とがある場合，共通語形を「語彙素」とする。
【例】　オトロシイ／オソロシイ　⟶　オソロシイ【恐ろしい】

（◆ver.1.1追加）
（◆ver.1.2修正）
５．１．４　固有名

５．１．４．１　日本語に由来する固有名
日本の人名・地名，日本語に由来する固有名のうち，規定２．１．１．１により複数の「語形」を同じ「語彙素」にまとめたものについては，規定５．１．１．１に従い「語彙素」を定める。また読み添えの「の」を含む語形と含まない語形がある場合，読み添えの「の」のない形を「語彙素」とする。
【例】　ミナモト／ミナモトノ　⟶　ミナモト

５．１．４．２　外来語に由来する固有名
外国の人名・地名，外来語に由来する固有名については，強い慣習がない限り，原則として規定５．１．１．２に従い「語彙素」を定める。

５．２　「語彙素読み」の表記
「語彙素読み」には，「語彙素」として立てることになった「語形」をそのまま登録する。したがって，その表記の仕方については，規定４．２を参照。

（◆ver.1.1修正）
５．３　「語彙素」の表記

（１）和語・漢語
付属語は平仮名表記とする。
自立語は原則として漢字表記とし，次に示す手順に従ってその漢字表記を定める。

①その語が『岩波国語辞典』第６版の見出しにあり，漢字表記されていれば，その漢字表記を「語彙素」とする。複数の漢字表記が挙げられている場合は，原則として最初に挙げられている漢字表記を「語彙素」とする。

②『岩波国語辞典』第６版の見出しにない語，及び『岩波国語辞典』第６版の見出しになっているが，語の一部又は全部が漢字表記されていない語については，『日本国語大辞典』第２版を参照する。
『日本国語大辞典』第２版の見出しにあり，漢字表記されていれば，その漢字表記を「語彙素」とする。複数の漢字表記が挙げられている場合は，原則として最初に挙げられている漢字表記を「語彙素」とする。

③『日本国語大辞典』第２版の見出しにない語，『日本国語大辞典』第２版の見出しにあるが，漢字表記されていない語については，原則として「語彙素」を平仮名で表記する。

④常用漢字を用いて「語彙素」を表記する場合，送り仮名の付け方は次の基準に従う。常用漢字表外の漢字を用いて「語彙素」を表記する場合も，送り仮名の付け方は，次に示す基準を準用する。

《活用のある語》
送り仮名の付け方（1973年，内閣告示第２号・内閣訓令第２号）の通則１，通則２，通則６の各本則に従って送り仮名を付ける。各通則の例外，許容は採用しない。

《活用のない語》
送り仮名の付け方の通則３の本則，通則４の本則・例外及び許容，通則５の本則及び許容，通則６の本則，通則７に従って送り仮名を付ける。

（２）外来語
外来語の「語彙素」には，「語彙素読み」をそのまま用いる。

（３）人名・地名
人名・地名の「語彙素」には，「語彙素読み」をそのまま用いる。

（◆ver.1.2追加）
（４）人名・地名以外の固有名
日本語由来の固有名の「語彙素」には，出現形をそのまま用いる。

【例】　大栄　⟶　ダイエイ【大栄】
　　大映　⟶　ダイエイ【大映】
　　ダイエー　⟶　ダイエー【ダイエー】

複数の出現形がある場合，原則として「漢字」「仮名」「アルファベット」の順で「語彙素」の表記を定める。強い慣習があればそれに従う。

【例】　日産／ニッサン／ＮＩＳＳＡＮ　⟶　ニッサン【日産】
　　そごう／ＳＯＧＯ　⟶　ソゴウ【そごう】
　　ＷＯＷＯＷ／ワウワウ　⟶　ワウワウ【ＷＯＷＯＷ】

外国語由来の固有名の「語彙素」には，「語彙素読み」をそのまま用いる。

細則１　名詞と接辞の判定基準（１）

（注）本基準は，元々CSJの構築作業時に作成した基準である。そのため，以下に挙げる例のほとんどは，CSJに出現したものである。
　なお，BCCWJの構築作業に利用するに当たり，一部修正を行った。

意味に差異がない場合，接頭辞・接尾辞ではなく，できる限り名詞・形状詞・形容詞語幹に統合するのを原則とする。

判定に当たっての基本的な観点は，以下のとおりである。

Ⅰ　接頭辞に関するもの

（１）形容詞語幹に相当する最小単位が，後接の短単位（短単位の連続体を含む。）と結合する場合，その最小単位は接頭辞とせず形容詞とする。
　【例】　粗（利益）　　深（用心）　　古（道具）　　安（普請）

（２）地名を略してできた１字漢語は，接頭辞とせず名詞（普通名詞）とする。
　【例】　米（政府）　　露（皇帝）　　英（会話）

（３）後接する短単位（短単位の連続体を含む。）を連体修飾するものは，接頭辞とせず名詞等とする。
　【例】
　名詞-普通名詞-一般　　主（要因），他（言語），初（登場），平（社員），満（９歳）
　名詞-普通名詞-形状詞可能　　急（傾斜），逆（輸入）
　形状詞-一般　　直（輸入）

（４）上記の規定には当てはまらないが，一般に１字漢語として使われ得るもの（単独用法のあるもの）は，接頭辞とせず名詞とする。
　【例】　強（母音）　　残（日数）　　禁（帯出）

Ⅱ　接尾辞に関するもの

（１）前接する短単位（短単位の連続体を含む。）の連体修飾を受けるものは，接尾辞とせず名詞とする。
　【例】　（訂正）箇所，（文字）列，（要約）文

（２）上記の規定には当てはまらないが，一般に１字漢語として使われ得るもの（単独用法のあるもの）は，接尾辞とせず名詞とする。
　【例】　（被写）体

具体的な判定の基準及び語例は，以下のとおりである。

１　名詞とするもの

１）地名と結合した以下のもの
　①　行政区画を表すもの
　【例】　東京｜都｜　　大阪｜府｜　　パンジャーブ｜州｜

② ①以外のもの
【例】 表｜参道｜駅｜ 西表｜島（じま）｜

2）その他
単独で用いられるときと読み方・意味が同じものは名詞とする。
【例】 箇所 不要｜箇所｜ 訂正｜箇所｜
側 相手｜側｜
句 名詞｜句｜ 引用｜句｜
座 主教｜座｜ （座る場所の意）
cf. ミラノ座 ⇒ 接尾辞-名詞的-一般
札 千円｜札｜
死 事故｜死｜ 安楽｜死｜
式 方程｜式｜ 予測｜式｜ （計算式の意）
入学｜式｜ 結婚｜式｜ （儀式の意）
cf. 東京式 ⇒ 接尾辞-名詞的-一般
食 日本｜食｜ ｜食｜中毒
職 管理｜職｜ 事務｜職｜
数 従業員｜数｜ 周波｜数｜
節 修飾｜節｜ 名詞｜節｜
線 地平｜線｜ （境界の意）
cf. 京王線 ⇒ 接尾辞-名詞的-一般
他 ｜他｜言語 ｜他｜地域
体 被写｜体｜ 被験｜体｜
地 観光｜地｜ 発信｜地｜
点 問題｜点｜ 調音｜点｜ M｜点｜ 二｜点｜を結ぶ
弁 関西｜弁｜ 江戸｜弁｜
主 動作｜主（ぬし）｜
比 圧縮｜比｜ ＳＮ｜比｜
年 ｜年｜会費
場 温泉｜場｜ ごみ捨て｜場｜
拍 特殊｜拍｜
番 留守｜番｜
便 臨時｜便｜ 直行｜便｜
文 会話｜文｜ 要約｜文｜
法 少年｜法｜ （法律の意）
cf. 分析法（方法の意） ⇒ 接尾辞-名詞的-一般
元 遷移｜元｜ ｜元｜同級生
率 合格｜率｜ 認識｜率｜
類 魚介｜類｜ 柑橘｜類｜
列 文字｜列｜ 音素｜列｜
論 方法｜論｜ 進化｜論｜

2 接辞とするもの

1）助数詞としてのみ用いられるもの
【例】 個 本 つ 日（か）

2）「数詞＋助数詞的要素」と結合したもの
【例】 九年｜目｜ 三回｜生｜ 三人｜共｜ 五人｜用｜

二者｜間｜　　二年｜後｜　　一番｜線｜　　六十年｜代｜
二個｜組み

※　｜一｜軒｜家｜
一　　名詞-数詞
軒　　接尾辞-名詞的-一般
家　　名詞-普通名詞-一般

3）その他

A　省略された形で元の意味を添加するもの

【例】　界　　自然｜界｜　　パチンコ業｜界｜　（ある世界）
金　　援助｜金｜　　入学｜金｜　（資金）
計　　体重｜計｜　（計器）　　｜計｜七｜通り　（合計）
座　　文学｜座｜　　ミラノ｜座｜　（劇場，劇団を表す）
作　　失敗｜作｜　　感動｜作｜　（作品）
史　　語彙｜史｜　　古代｜史｜　（歴史）
紙　　新聞｜紙｜　　模造｜紙｜　　方眼｜紙｜　（用紙）
式　　東京｜式｜　　ねじ｜式｜　（方式，方法）
質　　神経｜質｜　　筋肉｜質｜　（性質）
実　　｜実｜時間　　｜実｜世界　（実際，現実）
線　　京王｜線｜　　東武｜線｜　（路線）
代　　宿泊｜代｜　　飛行機｜代｜　（代金）
調　　上昇｜調｜　　演説｜調｜　（調子）
品　　衣料｜品｜　　骨董｜品｜　（品物）
法　　改善｜法｜　　分析｜法｜　（方法）
録　　議事｜録｜　（記録）

B　単独で使われるときと読み方（音訓）の異なるもの

【例】　後　　訓練｜後｜
骨　　尾てい｜骨｜
時　　反応｜時｜　　｜時｜系列
酒　　日本｜酒｜　　食前｜酒｜
心　　好奇｜心｜　　信仰｜心｜
物　　目標｜物｜　　特産｜物｜
名　　役職｜名｜　　歌集｜名｜

C　その他

【例】　軒　　来来｜軒｜
共　　両方｜共｜　　両親｜共｜
部　　経済学｜部｜　　美術｜部｜　　人事｜部｜　　下線｜部｜

細則２　名詞と接辞の判定基準（２）

（注）本基準は，元々CSJの構築作業時に作成した基準である。そのため，以下に挙げる例のほとんどは，CSJに出現したものである。

複合語の末尾に位置する動詞連用形（連用形転成名詞）を名詞とするか接尾辞とするかに関する基準を以下に示す。番号の若いものが優先する。

１　名詞とするもの
以下のいずれかに該当するもの

（１）元の動詞の意味用法に照らして，「～すること」という意味を持つ。
【例】
お客様扱い，食器洗い，よちよち歩き，仲間入り，衝動買い，商売替え，原稿書き，単位切り，時間切れ，資金繰り，年金暮らし，お墓探し，手綱捌き，一時凌ぎ，証拠調べ，体育座り，草木染め，語義立て，耳頼り，見当違い，無駄遣い，菓子作り，順序付け，意味付け，対応付け，不運続き，時間潰し，言葉咎め，一足飛び，体言止め，通行止め，場所取り，模様眺め，試験慣れ，雑草抜き，五人抜き，文字化け，浮世離れ，分割払い，門前払い，八方塞がり，一目惚れ，お寺参り，成り行き任せ，根気負け，順番待ち，札所巡り，放射能漏れ，チェック漏れ，野焼き，二日酔い，喧嘩別れ，のれん分け，愛想笑い

（２）単独用法を有し，それと同じ意味を持つ。
【例】
帰り（帰路）……仕事帰り，学校帰り
誤り……単語誤り，認識誤り
踊り……阿波踊り
狩り……潮干狩り
代わり……親代わり，灰皿代わり
騒ぎ……火事騒ぎ
育ち……坊ちゃん育ち，北国育ち
連れ……家族連れ
抜き……アルコール抜き
晴れ……五月晴れ
歪み……量子化歪み
振る舞い……形容詞的振る舞い
祭り……漫画祭り，七夕祭り
向き……下向き，若者向き
読み……重箱読み

２　接尾辞とするもの
（１）行為・現象そのものでなく，生産物，人，道具，方式等を表す。
【例】
野菜炒め，大根おろし，砂糖煮，お好み焼き，一戸建て（生産物）
雷鳥売り，空き巣狙い（人）
郵便受け，段ボール入れ，退院祝い，進退伺い，退職願い（道具）
仮名遣い（方式）

（２）複合語全体が状態・性質を表す修飾語になり得る。

【例】

カルシウム入り，情報処理絡み，沖縄行き，親思い，消費税込み，街道沿い，箇条書き，条件付き，大学出，課長止まり，タクシー泣かせ，常識外れ，犯罪紛い，漢字仮名交じり，シベリア回り，子供向け

（３）数詞に接続する。

【例】

二日置き，０．５刻み，十時過ぎ，八人乗り

※　なお，上記の基準によると，同じ語が必ずしも同じ品詞を取ることにならない。

例１　焼き：野焼き（名），お好み焼き（接尾）

例２　行き：沖縄行き〔が決定〕（名），沖縄行き〔の便〕（接尾）

細則３　動詞連用形と動詞連用形転成名詞の判定基準

（注）本基準は，元々CSJの構築作業時に作成した基準である。そのため，以下に挙げる例のほとんどは，CSJに出現したものである。
　なお，BCCWJの構築作業に利用するに当たり，一部修正を行った。

動詞-連用形とするか連用形転成名詞とするかについての判定基準を，次に示す。

１　現在動詞になっているもの

１．１　動詞の連用形が他の自立語を伴わずに文節を構成する場合

（１）「～に行く，来る，走る，駆け付ける」など　……　動詞

①後続語が助詞「に」

②次の文節の先頭が動詞「行く」「来る」「走る」「駆け付ける」など
　例：本を買いに行く，息子に会いに来た，助けに駆け付ける

［注］　「金策に走り回る」「救助に駆け付ける」の「金策」「救助」は名詞であるが，居体言の場合は，格要素，連用修飾要素を取りやすいので，動詞とする。
　［参考］仲間を助けに駆け付ける，難破船の救助に駆け付ける

（２）強調のために同じ動詞を繰り返す場合　……　動詞

①後続語が助詞「に」

②次の文節が同じ動詞の繰り返しである。
　例：選りに選って，悩みに悩んで，ねばりにねばって

（３）「～はしない」の類　……　動詞

①後続語が助詞「は」「も」「さえ」など

②続く文節が「する」「いたす」「なさる」の否定形又は仮定形
　例：敬語を使いさえすればポライトか
　　正直に言えば咎めはしないよ
　　女房子供ほったらかして働きもせず

［注］　上の例は「使えば」「咎めない」「働かず」の強調形である。この種の「は」は「ありゃしない」「聞こえやしない」のように，融合や転訛を生じやすい。

（４）敬語用法　……　動詞

①「お」＋動詞連用形＋「になる」（「する」「いたす」）
　例：お使いになる，おいでになる，（お願いする，お答えする）

（５）上記以外の敬語用法

「お」＋動詞連用形で，気持ちとしては（４）に似ているが，「になる」「する」を伴わず，名詞に似た接続関係を持つ。この類は統一が取れていない。「お＋動詞連用形」が長単位で名詞になるのなら，「お」なしで名詞になり得るもの以外はすべて動詞にしてもいいような気もするが，実際はゆれている。文脈的にも格要素を取る場合と，逆に連体修飾語を持つ場合とがあり，どちらか一方に統一するわけにはいかないようだ。

①格助詞・係助詞を後ろに従える：

浅草寺でお参りをして　……　名詞
びっくりしてそれからはお支払いが良くなる　……　名詞
声の小さい人とのおしゃべりはしづらい店です　……　名詞

②命令的用法：ただいま―お帰り，飲みにおいでよ　……　動詞

③「だ」「か」「と」「の」などを従える：

どのＯＳをお使いですか　……　動詞
この二つは絶対お勧めです　……　動詞
示さないことは大体既に見当がお付きであると　……　動詞
そういうことは古くさいようにお感じでしょうけど　……　動詞
先程のデータでもお分かりかと思う　……　動詞
またかと思われる方もおありと存じます　……　動詞
何で今更音素なんだと(F まー)お思いの方　……　動詞
今(F あの)皆さんがお持ちの論文集　……　動詞
お気に入りのカシミヤのセーター　……　動詞
ここは凄くやり易いというようなお褒めの言葉を　……　動詞

１．２．居体言が複合語の先頭又は中間に位置する場合

（１）動詞の連用形が後続の名詞の意味を限定する働きを持つ場合

これは動詞連用形が「～する人」「～する（ための）もの」「～する（ための）場所」…という感じで後続の名詞又は名詞性接尾辞に係るものである。以下のものはすべて動詞として扱われている。その中で確かに名詞だと思われるのは「狭め」１語であるが，他にもあるかどうか検討を要する。

①動詞

遊び仲間，ありよう，居心地，書き起こし時，書き起こしテキスト，書き起こし例，
書き換え箇所，書き間違い，掛け布団，変わり具合，頑張り所，頑張り屋，
聞き取り試験，聞こえ具合，切り出し音素認識実験，切れ目，繰り返し演算，
繰り返し語，お好み焼き，立て役者，例えよう，使い勝手，出不精，通し番号，
入り放題，はやり言葉，選好振り向き法，褒め言葉，申し込み者，読み上げ音声，
読み上げ原稿，（新聞記事）読み上げコーパス，（文章）読み上げシステム，
カード読み上げ実験，文読み上げ方式，読み間違い

（◆ver.1.1追加）

※　ただし，送り仮名のないものは，名詞とする。
申込用紙，受付窓口

②名詞
（声道の）狭め形成，

（２）複合動詞の後ろ部分が付属要素（接尾的要素）で，かつそれが体言化して接尾辞となった場合
例：書き｜始める｜……「書き」「始める」いずれも動詞
書き｜始め｜から……「書き」が動詞，「始め」が接尾辞

見出し語は以下のとおりである。
学び合い，書き終わり，問い掛け，働き掛け，歩き過ぎ，行き過ぎ，使い過ぎ，行き付け，書き始め

（◆ver.1.1追加）

細則４　人名の扱い

１　人名の範囲

（１）実在の個人の名。芸名，雅号，しこ名，院号のうち，個人の呼称として広く一般に知られているものを含む。

【例】　小泉純一郎　　田中　　ジョージ・ブッシュ　　Ｃ・Ｗ・ニコル
円融院　　朝青龍　　三遊亭楽太郎　　ＭＥＧＵＭＩ　　いっこく堂

（２）通称や仮名，一般人のペンネームやハンドルネームなどのうち，形式や語感から人名とみなし得るもの

【例】　ほりえもん　　Ａ子　　×太郎　　橋龍　　さっちゃん　　播磨屋菊五郎

それ以外は人名とはみなさない。

【例】　赤シャツ　　うらなり　　饅頭屋　　馬鹿旦那

（３）創作中の固有名のうち人間（に類するもの）の名

【例】　ルーク・スカイウォーカー　　野比のび太　　怪物太郎

それ以外は人名とはみなさない。

【例】　スヌーピー　　キティーちゃん

（◆ver.1.2修正）

（４）グループ名のうち，構成員の名前（芸名を含む。）のみで構成されるもので，「姓＋姓」「名＋名」「姓＋名＋名」に類する形式を取るもの

【例】　宮川大助・花子　　太平サブローシロー　　おぼんこぼん

それ以外は人名とはみなさない。

【例】　ダウンタウン　　雨上がり決死隊

複数の人物の名それぞれを略した要素（１字で構成される名の場合はその全体）が結合体を構成する場合，人名ではなく「名詞-固有名詞-一般」とする。

【例】　若貴（兄弟）　　鳩菅（体制）　　角福（戦争）

（５）神仏名のうち以下のもの

日本の神話の神	【例】	天照大神	須佐之男命	イザナギ
ギリシャ・ローマ神話の神	【例】	ビーナス	ヘラ	アテナ
キリスト教関連の天使	【例】	ミカエル	ラファエロ	ガブリエル
人間由来の神仏名	【例】	シッタルタ	イエス	

上記以外は人名とはみなさない。

【例】　ラー　　シヴァ　　オーディーン　　阿弥陀如来

（◆ver.1.3修正）

（６）敬称や尊称などのうち，特定の一個人を指すもの

【例】　仏陀　　キリスト

※　人名に由来する行政区画名・地形名は人名としない。

【例】　豊田市　　足利市　　ホーチミン市　　マゼラン海峡

※　人名に由来する組織の名称は原則として人名としない。
【例】　トヨタ自動車株式会社　　松下電器産業株式会社

ただし，姓名の構成を取るなど形式から明らかに人名であることが分かるものは人名とする。
【例】　マツモトキヨシ

※　人名に由来する動植物等の学名や，普通名詞化が強く進んでいるものは，人名とはせず「名詞-普通名詞-一般」とする。
【例】　ガーベラ　　地図帳アトラス

※　上記以外は原則として由来に応じて人名とみなす。
【例】　ハンセン病　　ガウス分布

※　名前が土地や職業などに由来する場合であっても，姓や名に相当するものであれば人名とする。
【例】　レオナルド・ダ・ビンチ　　……　「ビンチ」は村の名
　　ムハンマド・アリー・ハッダード　……　「ハッダード」は鍛冶屋の意

※　爵位が領土（地名）に由来することもあるが，当該の地名と関連する爵位かどうかにかかわらず，極めて有名な地名である，あるいは前後の文脈から明らかに地名と判断できる場合のみ地名とし，それ以外は一律に人名とする。
【例】
〔地名〕　エジンバラ公　　ブランデンブルク辺境伯領
〔人名〕　アーサー公　　アルバート伯

2　品詞

（◆ver.1.3修正）
（１）日本・中国・韓国の人名のうち，姓と名をそれぞれ「名詞-固有名詞-人名-姓」（以下「人名-姓」あるいは「姓」），「名詞-固有名詞-人名-名」（以下「人名-名」あるいは「名」）とする。
【例】　｜小泉（姓）｜純一郎（名）｜　　｜キム（姓）｜イルソン（名）｜

姓名が特定できない場合，及び最小単位認定規程の規定６．５により姓名全体をまとめて１最小単位と認定した中国の人名は「名詞-固有名詞-人名-一般」（以下「人名-一般」あるいは「一般」）とする。
【例】　｜阿国（一般）｜　　｜李梅（一般）｜

最小単位認定規程の規定６．４．２により「ヒメ」を含めて１最小単位と認定した人名は，「人名-一般」とする。
【例】　｜濃姫（一般）｜　　｜檜皮姫（一般）｜

姓と名との間にある読み添えの「の」は「助詞-格助詞」とする。
【例】　｜藤原（姓）｜の（格助詞）｜道長（名）｜

（２）日本・中国・韓国以外の人名，及び人名と認定された神仏名は「人名-一般」とする。

【例】　｜ジョージ（一般）｜・｜スミス（一般）｜
｜サアド（一般）｜・｜アル＝ガーミディー（一般）｜
｜クロード（一般）｜レヴィ（一般）｜＝｜ストロース（一般）｜
｜天照（一般）｜大神｜　　｜須佐之男（一般）｜命｜
｜イザナギ（一般）｜
｜ビーナス（一般）｜　　｜ミカエル（一般）｜

人名中の冠詞や前置詞などは「名詞-普通名詞-一般」（以下「普通名詞」）とする。

【例】　｜ジョン（一般）｜・｜フォン（普通名詞）｜・｜ノイマン（一般）｜

（３）院号・しこ名・通称は「人名-一般」とする。

【例】　｜円融院（一般）｜　　｜朝青龍（一般）｜
｜ほりえもん（一般）｜　　｜橋龍（一般）｜
｜さっ（一般）｜ちゃん｜

（４）雅号や芸名，グループ名については，実在の人名との類似性や構成などから「人名-姓」「人名-名」と認定できるものはそのように判定し，それ以外は「人名-一般」とする。

【例】　｜三遊亭（姓）｜楽太郎（名）｜　　｜明石家（姓）｜さんま（名）｜
｜ＭＥＧＵＭＩ（名）｜　　｜宮川（姓）｜大助（名）｜・｜花子（名）｜
｜いっこく堂（一般）｜

明らかに普通名詞等の一般語とみなせるものは人名とはせず普通名詞とする。

【例】　｜つぶやき（普通名詞）｜シロー（名）｜
｜猫（普通名詞）｜ひろし（名）｜　　｜怪物（普通名詞）｜太郎（名）｜

（◆ver.1.2追加）

細則５　固有名の扱い

ここでは，固有名のうち，人名・地名以外の扱いについて述べる。品詞としては「名詞-固有名詞-一般」が付与される範囲に相当する。

なお，例の中で品詞について言及する場合，当該短単位の後に丸括弧を付して記す。その際，品詞名は「固有一般」「普通名詞」「人名-姓」など類推可能な範囲で略記する。また，概念的な固有名（人名・地名以外）を指す場合は「固有名」，品詞名を指す場合は「名詞-固有名詞-一般」と記す。

１　「名詞-固有名詞-一般」の判定基準

１．１　方針

原則として，第３章「短単位」に記す基準に従い短単位とその品詞を認定した上で，「名詞-固有名詞-一般」以外の品詞で説明できない単位に対して本品詞を付与する。

【例】　｜ソニー（固有一般）｜株式（普通名詞）｜会社（普通名詞）｜
｜国立（普通名詞）｜国語（普通名詞）｜研究（普通名詞）｜所（接尾辞）｜
｜ポカリ（固有一般）｜スウェット（普通名詞）｜
｜東京（地名）｜大学（普通名詞）｜

１．２　基準

（１）『日本国語大辞典』『大辞林』（以下「辞書」と略記する。）に立項されていないもの，あるいは人名・地名に該当しないものを，「名詞-固有名詞-一般」とする。

【例】　｜ソニー（固有一般）｜株式（普通名詞）｜会社（普通名詞）｜
｜興福（固有一般）｜寺（接尾辞）｜
｜東京（地名）｜三菱（固有一般）｜銀行（普通名詞）｜
｜山本（人名-姓）｜安英（人名-名）｜の（助詞）｜会（普通名詞）｜

ただし，辞書に立項されていないものであっても，個物等に与えられる固有の名（固有名）ではなく，同じ種類に属する個物の全てに共通する名（普通名）に相当するものは，「名詞-固有名詞-一般」としない。

【例】　フォドシスニセス（普通名詞）　〈創作上の花の種類の名〉

（２）辞書に立項されているが，普通名ではなく固有名であり，かつその意味でのみ辞書に記載されているものは，「名詞-固有名詞-一般」とする。

【例】　夢殿〈特定建造物名〉　今鏡〈特定書物名〉

（◆ver.1.3修正）

（３）組織の名を表す固有名に含まれる人名は，３．１に記す事例に該当しない限りにおいて例外的に「名詞-固有名詞-一般」とする。

【例】　｜本田（固有一般）｜技研｜工業｜

ここでいう「組織」とは，いわゆる法人組織・国際組織・行政機関・公共機関，あるいはそれに準ずる規模・知名度の組織（大型チェーン店の店舗名など）を指す。「～を応援する会」など公共性・一般性の低いもの，「～委員会」など臨時性の強

いもの，「(～大学～) 学部」のように上位組織への従属度の高いもの，「道路族」のように実態を持たないもの，「～公園」「～劇場」のように施設・場としての性質が強いもの，「～劇団」「～球団」「～探険隊」のようなパフォーマンス集団や個人の活動集団は，「組織」とみなさない。

（４）以下に該当するものは，辞書の立項の有無にかかわらず，「名詞-固有名詞-一般」とする。

ａ．元号

【例】　神亀　　昭和　　明治　　安政　　建元

ｂ．生物（相当）の個体の名（ペット・キャラクター・人名と認定しない神などの名）

【例】　シロ　　オグリキャップ　　ピカチュウ　　阿修羅

上記ａ，ｂに該当するものが辞書に普通名として立項されている場合は，別の語彙素を立てる。

【例】　神亀（固有一般）←→神亀（普通名詞）
　　シロ（固有一般）←→白（普通名詞）

（◆ver.1.3）

（５）固有名を略した語については，組織の名，あるいは複数の人物の名を表す場合のみ「名詞-固有名詞-一般」とする。組織の範囲は規定１．２（３）に従う。略語のうちローマ字を並べた略語については，細則６「ローマ字略語の扱い」も参照。

【例】　九大　　全日空　　ＵＣＬＡ　　若貴　　カトケン

上記以外の略語は普通名詞の扱いとする。

【例】　花博　　米審　　ＡＭｅＤＡＳ　　プレステ

２　具体例

上述のとおり，「名詞-固有名詞-一般」か否かの判断は，原則として辞書によりつつも，適宜，固有名か普通名かの判断が求められる。しかし両者の境界は明確ではなく判断に迷うものも少なくない。そこで，以下に固有名とみなすもの，普通名とみなすものの具体例を示す。あくまでBCCWJに頻出するものを中心としたリストであり，網羅的・体系的なリストではないことに注意されたい。

２．１　固有名とみなすものの例

固有名とみなすものの例を示す。１に記したように，ここに示すものすべてに「名詞-固有名詞-一般」という品詞が付与されるわけではなく，「名詞-固有名詞-一般」以外の品詞が付与されることもある。

（１）元号

【例】　神亀　　昭和　　明治　　安政　　建元

（２）生物（相当）の個体の名（ペット・キャラクター・人名と認定しない神などの名）

【例】　シロ　　オグリキャップ　　ピカチュウ　　阿弥陀

（３）特定の集団の名

ａ．組織（法人組織・国際組織・行政機関・公共機関など）の名

【例】　｜住友（固有一般）｜商事｜　　｜総務（普通名詞）｜省｜
　　ＮＴＴ（固有一般）　　ＵＣＬＡ（固有一般）

ｂ．興行集団・個人の活動集団などの名
【例】　｜コンサドーレ（固有一般）｜札幌｜　　スマップ（固有一般）
　　アルカイダ（固有一般）
　　｜書真（固有一般）｜会｜　　｜あけぼの（普通名詞）｜会｜

ｃ．民族名
【例】　アイヌ（固有一般）　　｜大和（地名一般）｜民族｜　　壮族（固有一般）

（４）特定のプロダクトの名
ａ．施設・建造物などの名
【例】　｜法隆（固有一般）｜寺｜　　｜金閣（普通名詞）｜寺｜
　　｜ルーブル（固有一般）｜美術｜館｜　　｜咸臨（固有一般）｜丸｜

ｂ．商品・ブランドの名
【例】　アクオス（固有一般）　　｜ポカリ（固有一般）｜スエット（普通名詞）｜
　　ポッキー（固有一般）　　レクサス（固有一般）
　　｜きのこ（普通名詞）｜の（助詞）｜山（普通名詞）｜

ｃ．芸術作品名・新聞雑誌名・番組名
【例】　｜戦藻（固有一般）｜録｜　　礼記（固有一般）
　　ヴォーグ（固有一般）　　｜中央（普通名詞）｜公論（普通名詞）｜
　　｜報政（固有一般）｜新聞｜　　｜アド街ック（固有一般）｜天国｜

ｄ．言語名（人工言語やプログラミング言語を含む。）
【例】　｜日本（地名-国）｜語｜　　｜アプリニャ（固有名詞）｜語｜
　　｜エスペラント（固有名詞）｜語｜　　Ｐｅｒｌ（固有名詞）

（５）その他
ａ．王朝名
【例】　｜ムワッヒド（固有名詞）｜朝｜　　李朝（固有名詞）
　　｜アケメネス（人名一般）｜朝｜

ｂ．流派・宗派・家系名
【例】　｜ハナフィー（固有名詞）｜派｜　　｜太捨（固有名詞）｜流｜
　　｜曹洞（固有名詞）｜宗｜　　式家（固有名詞）
　　｜徳川（人名-姓）｜家｜

ｃ．文明・文化名
【例】　｜サポテカ（固有名詞）｜文明｜　　｜エジプト（地名-国）｜文明｜

ｄ．天体名（恒星・惑星・衛星・星雲などの名）
【例】　火星（固有名詞）　　ポラリス（固有名詞）

ｅ．山号（実存の山の名は地名の扱い）
【例】　｜東叡（固有名詞）｜山｜　　｜金龍（固有名詞）｜山｜

ｆ．複数の人物の名それぞれを略した要素（１字で構成される名の場合はその全体）

で結合体を構成するもの
【例】　｜若貴（固有名詞）｜兄弟｜　　アスイザ（固有名詞）

２．２　普通名とみなすものの例

普通名とみなすもののうち，固有名と迷いやすいものを以下に挙げる。

（１）思想・制度・学問などの体系名
【例】　儒教　　マキャベリズム　　哲学

※　思想体系としての宗教は普通名の扱いとする。「オウム真理教」など集団としての性格の強いものは固有名の扱いとする。宗派も教義等の違いから生じる集団と考え固有名とする。

（２）農作物のブランド名として用いられているもののうち，品種名に相当するもの
【例】　コシヒカリ　　｜アケ｜ノ｜ホシ｜　　とちおとめ

（３）人種名
【例】　コーカソイド　　モンゴロイド　　ネグロイド

※　人種名は分類学上の名と考え普通名とし，民族名は集団の名と考え固有名とする。

（４）手法名
【例】　｜雲斎｜織｜　　ハイポニカ

（５）イベントの名称のうち，伝統的な年中行事など著名なもの
【例】　ハロウィーン　　クリスマス　　オリンピック

（６）２．１（４）ｂに該当するもののうち，普通名詞化がかなり進んでいると判断されるもの
【例】　タバスコ　　ジープ　　ニクロム　　テトロン

３　補則

３．１　組織名における人名の扱いについて
１．２（３）に記すとおり，組織の名に含まれる人名は例外的に「名詞-固有名詞-一般」とする。これは，組織の名が人名に由来するか否か判断の付かない事例が少なからずあるためである。しかし以下に示す場合は形式や常識の範囲で人名に由来することが明らかであると考え，この場合に限り人名と認定する。

ａ．「姓＋名」「名＋姓」「セント＋聖人名」など，語構成から明らかに人名と判断できる組織の名
【例】　｜安藤（人名-姓）｜忠雄（人名-名）｜建築｜研究｜所｜
｜セント｜トマス（人名-一般）｜大学｜

ｂ．著名なクリエーターの名を冠した組織の名
【例】　｜アルマーニ（人名-一般）｜社｜

ｃ．一般的な神仏名を冠した組織の名
【例】　｜ビーナス（人名-一般）｜株式｜会社｜

３．２　薬品名について
薬品名については，製品名（固有名）か成分名（普通名）かの区別が難しいものが多い。そこで次の基準に基づき固有名か普通名かを判断する。

ａ．固有名：市販薬のうち，一般によく知られているもの，あるいは明らかに成分名とは考えられない名称のもの
【例】　ガスピタン　　バファリン　　マキロン　　ウナコーワ

ｂ．普通名：上記以外の市販薬，処方薬，成分名
【例】　バリウム　　ロイナーゼ　　ロイコマイシン　セレスタミン

３．３　仮想生物の名について
仮想生物の名については，種の名なのか個体の名なのか判断が付かないものも多い。そこで，常識・文脈から，明らかに種の名と分かるもののみ普通名とし，それ以外は固有名とする。
【例】　人魚　　〈常識の範囲で種の名と分かるため普通名〉
　　ヌアーグの群　〈文脈から種の名と分かるため普通名〉
　　ゴジラ　　〈種の名か個体の名か分からないため固有名〉

（◆ver.1.2追加）

細則６　ローマ字略語の扱い

以下，ローマ字を並べた略語（以下「ローマ字略語」と称す。）の扱いについて述べる。

１　ローマ字略語の範囲

１．１　ローマ字略語とみなすもの

以下に該当するものは，本細則の対象とする。

（１）ローマ字で表記された複数の単語列の一部を組み合わせて作成した語

【例】　ＣＤ　〈Compact Disc〉
　　ＮＨＫ　〈Nihon Housou Kyoukai〉
　　Ｎ．Ｙ．　〈New York〉
　　ＡＳＡＴ　〈Anti-SATellite〉

（２）１単語中の連続しない文字を組み合わせて作成した語

【例】　ＶＳ　〈VerSus〉
　　ＪＰＮ　〈JaPaN〉

（３）上記（１）（２）に該当する語の読みを仮名で記したもの

【例】　エヌティーティー　　トーフル

１．２　ローマ字略語とみなさないもの

以下に該当するものは，本細則の対象外とする。

（１）１．１に該当するものであっても，『リーダーズ英和辞典』に立項されており，かつ元の語の発音が示されているもの。これらは元の語の一書字形とみなす。

【例】　Ｍｒ．［ミスター］

（２）名前の由来が１．１に該当するものであっても，略した形が正式名の場合。

【例】　ＤＯＣＯＭＯ［ドコモ］　　ＳＵＩＣＡ［スイカ］

（３）ローマ字で略記された単位を表す助数詞のうち，慣習的に元の語と同じ読みを取るもの。これらは元の語の一書字形とみなす。

【例】　ｋｌ［キロリットル］　　Ｈｚ［ヘルツ］　　ｋｃａｌ［キロカロリー］

慣習的に元の語と同じ読みを取らないものは，本細則の対象とする。

【例】　ｐｐｍ［ピーピーエム］　〈Parts Per Million〉

（４）人名の一部又は全部をローマ字で略記したもの。個々のローマ字を分割した上で，ローマ字は記号（品詞「記号-文字」）として扱う。

【例】　｜Ｐ｜．｜Ｊ｜．｜ブラウン｜　　｜Ｍ｜．｜Ｋ｜．｜

２　同語異語判別

２．１　同一「語形」・別「語形」の判定

２．１．１　同一の「語形」とする出現形

次に示す形の差異を持つ任意の二つの出現形は,指すものが同じか否かにかかわらず,同じ「語形」とする。

（１）読みに関係しない記号の有無の差異
【例】　ＡＤ／Ａ．Ｄ．

（２）大文字・小文字の差異
【例】　ＣＡ／Ｃａ／ｃａ

（３）ローマ字表記と仮名表記の差異
【例】　ＡＭｅＤＡＳ／アメダス

（４）同語異語判別規程の規定１．１．１．２に記す範囲の差異
【例】　ビイエス／ビーエス／ＢＳ
　　ミューズ／ミュウズ／ＭＵＳＥ

２．１．２　異なる「語形」とする出現形

次に示す形の差異を持つ任意の二つの出現形は，異なる「語形」とする。

（１）英語式のローマ字読みとそれ以外のローマ字読みの差異
【例】　ケージービー←→カーゲーベー

（２）同語異語判別規程の規定１．１．２．２に記す範囲の差異
【例】　トーフル←→トフル　　エーペック←→エイペック
　　エヌエイチケー←→エヌエッチケー

（３）ローマ字読みとそれ以外の差異
【例】　ジェーエーエル←→ジャル

次に該当する場合も，異なる「語形」とする。

（４）略語と略語以外
【例】ＰＯＰ〈略語〉←→ＰＯＰ〈英単語〉

（５）語種が異なる場合
【例】ＩＣＵ〈大学名・語種「固有名」〉
　　←→ＩＣＵ〈集中治療室・語種「記号」〉

２．２　同一「語彙素」・別「語彙素」の判定

２．１．２に示す異なる「語形」とする出現形のうち，（１）（２）に該当する差異を持つ「語形」を同じ「語彙素」とする。（３）（４）（５）については異なる「語彙素」とする。

２．３　「語形」の定め方及び表記

２．３．１　「語形」の定め方

ローマ字で記された出現形（「ＮＨＫ」「ＴＯＥＦＬ」など）については，次に示す（１）

から（４）に従い「語形」を定める。片仮名で記された出現形（「エヌエッチケー」「トーフル」など）については，同語異語判別規程の規定４．１．２に従い「語形」を定める。

（１）『ＮＨＫことばのハンドブック』第２版 第４章「外国語略語集」，『大辞林』第２版（以下，「資料」とする。）に従い「語形」を定める。

ａ．見出しに読みを定めている場合，それに従う。二つの資料の記述に矛盾がある場合は前者による。一つの資料に複数の読みが併記される場合，最初に挙げられている読みに従う。
【例】　ＡＰＥＣ　⟶　エーペック　×　エーピーイーシー

ｂ．見出しで読みを定めていない場合，ローマ字を英語式に読む形を「語形」とする。
【例】　ＩＳＯ　⟶　アイエスオー　×　イソ
　　ＫＧＢ　⟶　ケージービー　×　カーゲーベー

（２）資料に立項されていないが，慣習性の強い読みがある場合，あるいは「ユーレカ（ＥＵＲＥＫＡ）」のように文脈から語の形が特定できる場合は，それに従い「語形」を定める。
【例】　ＡＴＯＫ　⟶　エートック

（３）長い綴り字の単語と同形の場合，その単語の読みに従い「語形」を定めてもよい。
【例】　ＳＴＲＡＩＧＨＴ　⟶　ストレート

（４）上記以外は，原則としてローマ字を英語式に読む形を「語形」とする。
【例】　ＤＡＲＰＡ　⟶　ディーエーアールピーエー　×　ダーパ

なおローマ字の英語式の読み方は次に従う。

Ａ：エー	Ｂ：ビー	Ｃ：シー	Ｄ：ディー	Ｅ：イー	Ｆ：エフ
Ｇ：ジー	Ｈ：エイチ	Ｉ：アイ	Ｊ：ジェー	Ｋ：ケー	Ｌ：エル
Ｍ：エム	Ｎ：エヌ	Ｏ：オー	Ｐ：ピー	Ｑ：キュー	Ｒ：アール
Ｓ：エス	Ｔ：ティー	Ｕ：ユー	Ｖ：ブイ	Ｗ：ダブリュー	
Ｘ：エックス	Ｙ：ワイ	Ｚ：ゼット			

２．３．２　「語形」の表記
ローマ字略語の「語形」の表記は，同語異語判別規程の規定４．２．２を適用する。

２．４　「語彙素」の定め方及び表記

２．４．１　「語彙素」の定め方

（１）英語式のローマ字読みとそれ以外のローマ字読みの差異がある場合，英語式の読みを「語彙素」とする。
【例】　ケージービー／カーゲーベー　⟶　ＫＧＢ【ケージービー】

（２）同語異語判別規程の規定１．１．２．２に記す範囲の差異がある場合，同規程の規定５．１．１．２に従い「語彙素」を定める。ローマ字の英語式の読みの差異は，本細則の規定２．３に記す形を「語彙素」とする。
【例】　トーフル／トフル　⟶　ＴＯＥＦＬ【トーフル】
　　エヌエイチケー／エヌエッチケー　⟶　ＮＨＫ【エヌエイチケー】

２．４．２　「語彙素」の表記

（１）ローマ字を英語式に読む場合，「語彙素」は大文字のローマ字表記とする。

（２）上記以外の場合，原則として「語彙素」は大文字のローマ字表記とするが，強い慣習がある場合や，略語か正式名かの判断が付かない場合は，「語彙素」を片仮名表記としてよい。

（３）記号類については，「ＡＴ＆Ｔ【エーティーアンドティー】」など読みを持つものを除き，「語彙素」に記さない。

３　ローマ字略語の語種・品詞

１の方針で本細則の対象となるローマ字略語は，次に記す語種・品詞の組合せのいずれかに該当する。

（１）語種「記号」，かつ品詞「名詞-普通名詞-助数詞可能」
【例】　ｐｐｍ　　ｃｃ　　ｂｐｓ

（２）語種「固有名」，かつ品詞「名詞-固有名詞-地名-国」
【例】　ＪＰＮ　　ＵＳＡ　　ＵＫ

（３）語種「固有名」，かつ品詞「名詞-固有名詞-一般」
以下のいずれかに該当するものを「名詞-固有名詞-一般」とする。

ａ．組織（法人組織・国際組織・行政機関・公共機関，あるいはそれに準ずる規模・知名度の組織）の名をローマ字で略したもの。組織の詳細については同語異語判別規程の細則５「固有名の扱い」の１．２（３）も参照。
【例】　ＮＨＫ　　ＵＣＬＡ　　ＩＥＥＥ

ｂ．組織名以外の固有名のうち，略語か正式名かの判断が付かず，かつローマ字読み以外の慣習的な読みを取るもの
【例】　ＮＡＩＳ（ナイス）

（４）語種「記号」，かつ品詞「名詞-普通名詞」
以下のいずれかに該当するものを「名詞-普通名詞」とする。

ａ．上記（１）から（３）以外で，ローマ字読みのもの。国名以外の地名の略語も含む。
【例】　ＦＭＶ　　ａｕ　　ＣＤ　　ＢＧＭ　　ＮＹ　　ＣＡ

ｂ．上記（１）から（３）以外で，正式名ではなく確実に略語と判断できるもの
【例】　ＡＰＥＣ　　ＮＡＳＤＡＱ　　ＪＩＳ　　ＡＩＤＳ　　エイズ

（◆ver.1.2追加）
（◆ver.1.3修正）

細則７　擬音語・擬態語の扱い

ここでは擬音語・擬態語の扱いについて，一般の単位認定規定とは別に規定する。

1　擬音語・擬態語の単位認定
擬音語・擬態語の最小単位・及び短単位について，次のように定める。

（１）擬音語・擬態語は，原則的にその１回的描写を１最小単位とし，それを他と結合させず単独で１短単位とする。

【１回的描写の典型例】

ａ．動物などの鳴き声の描写
【例】　｜こけこっこー｜　｜ツチクテムシクテクチシブーイ｜　｜にゃおーん｜
｜わん｜

ｂ．同一の１音で構成される擬音語・擬態語
①１音（末尾に長音・促音が付加された場合を含む）
【例】　｜が｜　｜がっ｜　｜がー｜　｜ぱ｜　｜ぱっ｜　｜ぱあ｜

②連鎖（末尾に長音・促音が付加された場合を含む）
【例】　｜がが｜　｜ががっ｜　｜がががー｜　｜ぱぱ｜　｜ぱぱぱっ｜
｜ぱぱぱー｜

③同一の２音の間に長音・促音が挿入されたもの
【例】　｜がっが｜　｜ぱっぱ｜　｜がーが｜

ｃ．擬音語・擬態語一般
①２音で構成されるもの
【例】　｜がく｜　｜ぐにゃ｜　｜ずば｜　｜がつ｜　｜ざぶ｜　｜どん｜

②上記ｃの①に派生要素※が付いたもの
【例】　｜がくっ｜　｜がくり｜　｜がくん｜　｜がっく｜
｜がっくり｜　｜がっくん｜　｜がくー｜　｜がくーん｜
｜ぐにゃり｜　｜ぐんにゃり｜　｜ぐにゃー｜　｜ずばっ｜
｜ずばん｜　｜ずばーん｜　｜がつん｜　｜がっつん｜
｜がっつーん｜　｜ざぶっ｜　｜ざぶん｜　｜ざんぶ｜
｜ざぶー｜　｜どんっ｜　｜どーん｜

※　派生要素の種類：《語末》「－っ」「－り」「－ん」「－－」
《語中》「－っ－」「－ん－」「－－－」）

③上記ｃの①②に当たるものの中で同一の１音が連鎖したもの
【例】　｜ずばばば｜　｜ずばばー｜　｜ずばばっ｜
｜ずばばばばばん｜　｜どどーん｜　｜どどどどん｜
｜がががつん｜

（２）擬音語・擬態語一般の２音の形，及び１音に長音・促音が付加された形が，複数連続する場合，便宜的に次のように２連続と３連続に分けたものをそれぞれ１回的描写と見なし，１短単位とする。

【例】

２連続　：｜ぐるぐる｜　｜からころ｜　｜さっさっ｜　｜がああ｜

３連続　：｜ぐるぐるぐる｜　｜からころから｜

｜さっさっさっ｜　｜がああああ｜

４連続　：｜ぐるぐる｜ぐるぐる｜　｜からころ｜からころ｜

｜さっさっ｜さっさっ｜　｜がああ｜がああ｜

５連続　：｜ぐるぐる｜ぐるぐるぐる｜　｜からころ｜からころから｜

｜さっさっ｜さっさっさっ｜　｜がああ｜がああああ｜

以下に挙げるような，連続の形の派生的な形と見なせるものも，１回的描写として全体で１短単位とする。

【例】　｜がったがた｜　｜かんかーん｜　｜ぼろっぼろ｜

｜どたばたー｜　｜どかどかっ｜　｜ぱんぱんぱーんっ｜

（３）（２）に当たるもの以外の連続は，それぞれを１回的描写とし，１短単位とする。

【例】　｜ががっ‖ががっ｜　｜さっさ‖さっさ｜　｜ばばっ‖ばばば｜

｜ぐにゃん‖ぐにゃん｜　｜ばたん‖ばたん‖ばたん｜

｜ずばばん‖ずどどん｜　｜がたっ‖がたっ｜　｜がさっ‖ごそっ｜

｜がたん‖ごとん｜　｜かんかーん‖かんかーん｜

ただし，『岩波国語辞典』第６版，『日本国語大辞典』第２版のいずれか（以下「辞書」といった場合はこの２つを差す）に立項されている場合は，その全体を１回的描写とし，１短単位とする。

【例】　｜からんころん｜　｜かんらかんら｜　｜ざっくざっく｜

（４）擬音語・擬態語の１短単位の間に補助記号が挿入された場合は，記号とそれ以外をそれぞれ１短単位とする。

【例】　｜ぽた‖、‖ぽた｜

（５）擬音語・擬態語と一般語とが結合した語については，以下のように最小単位を認定する。

ａ．元の擬音語・擬態語との関係を強く想起させる要素と単独で語として使われる一般語とが結合した語は，擬音語・擬態語に当たる要素と一般語とを，それぞれ１最小単位とする。

【例】　／びく／つく／　／びしょ／濡れ／　／ぶら／下がる／

／べた／付く／　／べた／褒め／　／ぽい／捨て／

／むず／がゆい／

ｂ．擬音語・擬態語に当たる要素の語源意識が失われてしまっているものや，他の構成要素が接尾辞的な性格の強いものは，擬音語・擬態語に当たる要素と一般語とが結合した全体を１最小単位とする。

【例】　／ひし=めく／　／ひよ=こ／　／ぼや=ける／　／へこ=たれる／

／よた=話／　／パチン=コ／　／ブラン=コ／

ｃ．擬音語・擬態語に単に語調を整えるための要素や語源未詳の要素が結合したものは

全体で１最小単位とする。
【例】　／ ぽか=すか／　／ ほにゃ=らか／

2　擬音語・擬態語に付く「と」・「って」について

（１）原則の「助詞・助動詞は，１最小単位を１短単位とする」に従い，格助詞「と」副助詞「って」として分割する。

（２）「―っと」の場合，促音を擬音語・擬態語の語形の一部とし，格助詞「と」語形「ト」と認定する。
【例】　｜がっ‖と｜　｜ばたッ‖と｜　｜くる=くるっ‖と｜

（３）「―って」の場合，促音は副助詞「って」の語形の一部とし，副助詞「って」語形「ッテ」と認定する。
【例】　｜がら‖って｜　｜どかん‖って｜

（４）「―て」の場合，副助詞「って」の語形「テ」として認定する。
【例】　｜ぱりん‖て｜割れた　｜ばた‖て｜倒れた

（５）「と」を含めて副詞として１語化したと見なせるものは「と」の付いた形を全体で１最小単位とし（最小単位認定規程の規定１．４（４）参照），擬音語・擬態語の単位認定規程の適用に含まないものとする。
「と」を含む主な副詞の一覧（五十音順，擬音語・擬態語に関わらない語形も含む）を下記に示す。

うかと　うんと　おいそれと　おのずと（自ずと）　がっしと　かっと
きちりと　きちんと　きっと（急度）　きと　ぎょっと　ぐんと
けろっと　ごそっと　ごまんと　さっさと　さと　しかと　じっと
しゃんと　しゅんと　しらっと　しれっと　しんと　じんと　ずいと
すきっと　すっくと　ずっと　せっせと　そこはかと　そっと　ぞっと
そと　たんと　ちくと　ちゃんと　ちょうと（丁と）　ちょこっと
ちんと　ついと　つと　てんと　とくと（篤と）　どっかと　どっと
とっとと　とんと　ぬっくと　はたと　はっしと　はっと　びくと
ひしと　ひたと　ひょっと　ふっつと　ふと　ぼうっと　ぼけっと
ほっと　まんまと　むさと　むずと　むっくと　むっと　もそっと
もっと　よよと　りゅうと　りんと（凛と）　わざと（態と）
わりと（割と）

3　付加情報の認定

（１）擬音語・擬態語の品詞は一般に副詞とする。以下に典型的な例を示す。
【例】
〔単独用法〕　くるくる。　ガタガタッ。
〔連用用法〕　くるくる舞う。　ガタガタ鳴る。
〔付属語を伴なう〕　くるくると回した。　ガタガタって音がした。

（２）擬音語・擬態語に当たる語が格助詞を伴うなど体言的に用いられていても，名詞とせず副詞とする。

【例】　にゃんにゃんがいる。　ブーブーが走ってる。（幼児語の類）
　　ドキドキが止まらない。

（３）辞書に形状詞的用法の記述が見られる場合は形状詞を認める。副詞か形状詞かの判別は，同語異語判別規程の細則10「出現形「に」の品詞分類」を参照。
【例】　クシャクシャな髪（形状詞）　　くしゃくしゃ丸める（副詞）
　　ぐにゃぐにゃに柔らかい（形状詞）　　グニャグニャ曲がる（副詞）
　　もうドキドキで緊張の連続（副詞）※
　　どたばたな一日（副詞）※

※　辞書に形状詞的用法に関する記述はない。

（４）笑い声は感動詞，泣き声は副詞（擬音語）とする。感動詞の詳細については，同語異語判別規程の細則８「感動詞の扱い」を参照。
【例】　感動詞　：　あはは　　えへへ
　　副　詞　：　えーん　　わーん

（５）動物の鳴き声等は副詞（擬音語）とする。
【例】　ホーホケキョ　　こけこっこ　　にゃおーん　　うおーん

（６）擬音語・擬態語の語種は和語とする。

４　同語異語判別

４．１　同一「語形」・別「語形」の判定

４．１．１　同一の「語形」とする出現形と「語形」の定め方

（１）長音を示す母音，小書きの母音，長音符号の差異は同一の「語形」にまとめる。
辞書に立項されている語形がある場合はそれを「語形」とする。
【例】　出現形：ぎゅう／ぎゅー／ぎゅぅ　⟶　語形：ギュウ

辞書に立項されている語形がない場合には長音符号を「語形」とする。
【例】　出現形：ばたあん／ばたーん／ばたぁん　⟶　語形：バターン

（２）母音連鎖のうち，「エイ」と「エエ」，「オウ」と「オオ」の差異は同一の「語形」にまとめる。
辞書に立項されている語形がある場合はそれを「語形」とする。
【例】　出現形：ぜいぜい／ぜえぜえ／ぜーぜー　⟶　語形：ゼイゼイ
　　出現形：ぽう／ぽお／ぽー　⟶　語形：ポウ

辞書に立項されている語形がない場合には「エー」「オー」を「語形」とする。
【例】　出現形：ぽうん／ぽおん／ぽーん　⟶　語形：ポーン

（３）長音・促音と，それが連鎖している形との差異は同一の「語形」にまとめる。
単独の長音・促音で表記される形を「語形」とする。
【例】　出現形：ぎゅう／ぎゅうー／ぎゅうぅぅ／ぎゅーーー
　　⟶　語形：ギュウ
　　出現形：ばたーん／ばたーーーん／ばたぁーん／ばたぁーん

⟶　語形：バターン
出現形：ばったん／ばっったん　⟶　語形：バッタン
出現形：ばたんっ／ばたんっっ　⟶　語形：バタンッ

ただし，長音符，母音の順で表記されている場合は異なる「語形」とする。
【例】　ぎゅー ←→ ぎゅーう
ごお ←→ ごーお

（４）単独の促音と，促音に長音を示す長音符号や小書きの母音が付いた形との差異は同一の「語形」にまとめる。
促音のみで記される形を「語形」とする。
【例】　出現形：ごっ／ごっー → 語形：ゴッ

４．１．２　異なる「語形」とする出現形
４．１．１に挙げた差異以外の差異を持つ任意の二つの出現形は，原則として異なる「語形」とする。
【例】　ぎゅ ←→ ぎゅっ ←→ ぎゅー←→ ぎゅーう
ばったり ←→ ばーったり
ばたん ←→ ばたーん ←→ ばったん ←→ ばたんっ
ずる ←→ ずるー
ぐにゃり ←→ ぐんにゃり
ずばば ←→ ずばばばば

４．２　同一「語彙素」・別「語彙素」の判定

４．２．１　同一の「語彙素」とする「語形」と「語彙素」の定め方
語末に促音が付加されたものと元の形の「語形」の差異は同一の「語彙素」にまとめる。
促音が付加されない形を「語彙素（読み）」とする。
【例】　語形：ギュウ／ギュウッ　⟶　語彙素：ギュウ【ぎゅう】
語形：バタン／バタンッ　⟶　語彙素：バタン【ばたん】

１音の語の場合は促音が付加された形を「語彙素（読み）」とする。
【例】　語形：ギュ／ギュッ　⟶　語彙素：ギュッ【ぎゅっ】

４．２．２　異なる「語彙素」とする「語形」
４．２．１に挙げた語末促音の有無の以外の差異を持つ任意の二つの「語形」は，原則として異なる「語彙素」とする。「語形」をそのまま「語彙素読み」とする。「語彙素」は「語彙素読み」を平仮名表記したものとする。
【例】　バタリ ←→ バッタリ　（語中の促音の付加）
ギュ ←→ ギュー　（長音の付加）
ズル ←→ ズルー　（長音の付加）
バタン ←→ バターン　（長音の付加）
グニャリ ←→ グンニャリ　（撥音の付加）
バタ ←→ バタン　（撥音の付加）
バタ ←→ バタリ　（派生要素「リ」の付加）
ズバ ←→ ズババ ←→ ズババババ　（同一音の繰り返し）
シュルン ←→ シュルルン ←→ シュルルルルン　（同一音の繰り返し）
パン ←→ パパン ←→ パパパパン　（同一音の繰り返し）
ガ ←→ ガガ ←→ ガガガ ←→ ガガガガ　（同一音の繰り返し）

トントン ←→ トントントン　（語基の繰り返し）
カリカリ ←→ ガリガリ　（清濁）
バタン ←→ パタン　（濁と半濁）
ビヨン ←→ ビョン　（直音と拗音）

（◆ver.1.2追加）
細則８　感動詞の扱い

感動詞の同語異語判別に関する規定を次に示す。

１　感動詞の範囲
次のものを感動詞とみなす。

（１）感動や驚きなどを表すもの
【例】　おや　　まあ　　えっ

なお，笑い声は感動詞，泣き声は副詞（擬音語）とする。
【例】　あはは　　えへへ　　……　　感動詞
　　えーん　　わーん　　……　　副詞

（２）呼び掛けを表すもの
【例】　おい　　こら　　もし

（３）応答を表すもの
【例】　はい　　ええ　　うん

（４）誘い掛けに用いるもの
【例】　さあ

（５）掛け声
【例】　よいしょ　　それ

（６）あいさつに用いる語のうち，最小単位認定規程で１最小単位となるもの
【例】　こんにちは　　こんばんは　　さようなら　　おはよう

（７）フィラー
【例】　あの　　えっと　　えー　　んー

上記のうち，（１）から（６）までの品詞を「感動詞-一般」，（７）を「感動詞-フィラー」とする。

（◆ver.1.3追加）
２　単位の定め方
最小単位認定規程・短単位認定規程に従い単位を認定する。感動詞に関連する部分を抜粋・整理して以下に記す。

（１）原則として感動，呼びかけ，応答などの１回的描写を「１最小単位＝１短単位」とする。
【例】　｜えっ｜　　｜おい｜　　｜よいしょ｜　　｜はい｜はい｜　　｜あのー｜

（２）助詞・助動詞は１最小単位とはせず，助詞・助動詞を含む全体で「１最小単位＝１短単位」とする。
【例】　｜どう=ぞ｜　｜さら=ば｜　｜こんにち=は｜　｜さよう=なら｜

３　同語異語判別

３．１　同一「語形」・別「語形」の判定

３．１．１　同一の「語形」とする出現形

次に示す形の差異を持つ任意の二つの出現形は，同じ「語形」とする。

（１）長音を示す母音，小書きの母音，長音符号の差異
【例】　ああ／あー／あぁ
いやあ／いやぁ／いやー

（２）母音連鎖のうち，「エイ」と「エエ」，「オウ」と「オオ」の差異
【例】　ほう／ほお

（３）臨時的に付加された長音・促音と，それが連鎖している形との差異
【例】　うわー／うわーーー／うわああ／うわぁぁぁぁぁ
うわっ／うわっっっ

臨時的に長音・促音が付加された形と元の形の差異は，異なる「語形」とする。
【例】　うわ←→うわあ　　うわ←→うわっ

臨時的な長音・促音の付加か否かの判断は，和語・漢語の場合と同様，『岩波国語辞典』第６版，『日本国語大辞典』第２版による。

（４）単独の促音と，促音に長音を示す長音符号や小書きの母音が付いた形との差異
【例】　うわっ／うわっー

３．１．２　異なる「語形」とする出現形

３．１．１に挙げた差異以外の差異を持つ任意の二つの出現形は，原則として異なる「語形」とする。
【例】　ふん←→ふうん　　あ←→あっ　　あれー←→あれーっ
おほほ←→おほほほ

３．２　同一「語彙素」・別「語彙素」の判定

３．２．１　同一の「語彙素」とする「語形」

意味に違いが生じない限りにおいて，以下の差異を持つ「語形」は同一の「語彙素」とする。

（１）特殊拍（長音・促音・撥音）の有無及びその交替
【例】　アラ／アラッ／アンラ／アーラ／アアラ
ヤア／ヤアァ／ヤ／ヤッ

ただし，１音節の語のうち，長音のある「語形」が応答・感嘆の意を，促音のある「語形」が驚きの意を表すものは，異なる「語彙素」とする。その場合，長音・促

音のない「語形」は促音のある「語形」と同一の「語彙素」とする。
【例】　アア←→アッ／ア　　エエ←→エッ／エ　　オオ←→オッ／オ
　　ハア←→ハッ／ハ

上記以外で，長音のある「語形」と促音のある「語形」が同義・類義の場合は，同一の「語彙素」とする。
【例】　ワア／ワッ／ワ

（２）語末音の繰り返し
【例】　アラ／アララ／アラララララ

３．２．２　異なる「語彙素」とする「語形」
３．２．１に挙げた差異以外の差異を持つ任意の二つの「語形」は，原則として異なる「語彙素」とする。
【例】　ドッコイショ←→ドッコラショ　　ハイ←→アイ
　　アラ←→アリャ←→アリ

３．３　「語形」の定め方及び表記

３．３．１　「語形」の定め方
次の基準に従い「語形」を定める。以下の（１）から（４）に該当しないものは，本規定と矛盾しない限りにおいて，同語異語判別規程の規定４．１に従う。

（１）長音を示す母音，小書きの母音，長音符号の差異については，原則として母音の形を「語形」に当てる。
【例】　ああ／あー／あぁ　　⟶　アア
　　いやあ／いやぁ／いやー　⟶　イヤア

（２）母音連続のうち，「エイ」と「エエ」，「オウ」と「オオ」の差異については，辞書に立項されている語形がある場合はそれを「語形」に当てる。
【例】　ほう／ほお　⟶　ホウ

辞書に立項されている語形がない場合には，原則として「エエ」「オオ」を「語形」とする。
【例】　そおら／そーら／そうら／　⟶　ソオラ

（３）臨時的に付加された長音・促音と，それが連鎖している形との差異については，単独の長音（直前の母音）・促音で記される形を「語形」に当てる。
【例】　いやー／いやぁ／いやぁぁ／いやあ　⟶　イヤア
　　おっっ／おっっっっ　　⟶　オッ

（４）単独の促音と，促音に長音を示す長音符号や小書きの母音が後続している形との差異については，促音のみで記される形を「語形」に当てる。
【例】　うわっ／うわっー　⟶　ウワッ

３．３．２　「語形」の表記
感動詞の「語形」の表記は，同語異語判別規程の規定４．２．１，４．２．２を適用する。

３．４　「語彙素」の定め方及び表記

３．４．１　「語彙素」の定め方

「語形」を「語彙素」として立てる。複数の「語形」を一つの「語彙素」にまとめる場合，以下の規定によって「語彙素」を定める。以下の（１）から（２）に該当しないものは，本規定と矛盾しない限りにおいて，同語異語判別規程の規定５．１．１に従う

（１）特殊拍（長音・促音・撥音）の有無及びその交替が見られる場合，原則として特殊拍のない形，交替のない形を「語彙素」とする。語末長音の短呼形と元の形がある場合は元の形を「語彙素」とする。

【例】　アラ／アアラ／アラッ／アンラ　⟶　アラ【あら】
　　ヤア／ヤッ　⟶　ヤア【やあ】
　　マア／マ　⟶　マア【まあ】

１音節で語末に促音のある形と促音のない形がある場合，促音のある形を「語彙素」とする。

【例】　アッ／ア　⟶　アッ【あっ】
　　エッ／エ　⟶　エッ【えっ】

（２）語末音の繰り返しが見られる場合，原則として繰り返しのない形を「語彙素」とする。

【例】　アラ／アララ／アラララララ　⟶　アラ【あら】
　　アチ／アチチ　⟶　アチ【あち】

ただし，笑い声に相当する感動詞は，原則として３拍の形を「語彙素」とする。

【例】　アハ／アハハ／アハハハハ　⟶　アハハ【あはは】
　　エヘ／エヘヘ／エヘヘヘヘ　⟶　エヘヘ【えへへ】
　　フフ／フフフ／フフフフフ　⟶　フフフ【ふふふ】

３．４．２　「語彙素読み」の表記

「語彙素読み」には，「語彙素」として立てることになった「語形」をそのまま登録する。

３．４．３　「語彙素」の表記

感動詞の「語彙素」には，「語彙素読み」を平仮名表記にしたものを用いる。

細則９　終止形・連体形の判定基準

（注）本基準は，元々CSJの構築作業時に作成した基準である。そのため，以下に挙げる例のほとんどは，CSJに出現したものである。

終止形とするか連体形とするかについての判定基準を次に示す。

1　言い直し又は繰り返し

少し表現を変えて言い直したり，全く同じ文句を繰り返したりした場合，先行用言の活用形を後続語の活用形に合わせる。

例１：一緒に住んで　＼いる＼　いたのですが(F その一)祖母はとても元気な人で　（連体形）

例２：それに対してクロマの正答率はかなり(F ま)内側に来て　＼いる＼　低くなっていることが分かります　（連体形）

例３：手話なんて(F その)　＼くたびれる＼　(F ま)(F その)覚えるのは大変だと思いますけれどもそんなに疲れるものじゃないと　（連体形）

例４：実際は(F ま)直接その先輩方から教えて　＼もらう＼　(D も)もらえるっていうことはないのですが　（終止形）

2　文の挿入

言い直しの一種だが，発言を明示的に取り消す文が挿入される場合は終止形とする。

例５：サーフィンやってヨットにヨットじゃ　＼ない＼　ボートに乗ったりして

例６：基本的に多分(D い)日本の日本じゃ　＼ない＼　東京の一大盛り場であった

3　指示詞挿入

終止連体形の直後に「そういう」「そういった」「その」などの指示詞が挿入される場合は，以下の基準に従って判定する。

判定の基準１：その用言の前から，用言の後ろに係るものがあれば連体形（例10）

判定の基準２：指示詞を除くか「ような」と置き換えて差支えない場合は連体形（例7・8・11）

判定の基準３：上記のいずれにも該当しない場合は終止形（例9・12）

例７：建具を制作っていう風に書くというところを建具制作って書いて　＼ある＼　(F ま)そういう例です　（連体形）

例８：それからずっと第四十九回まで十三年間(F んー)昭和十四年二月十八日だそうですがそこまではずっと(F あのー)山上会議所で開かれて　＼た＼　そういう時代があった訳です　（連体形）

例９：一人はやっぱしイタリア語の方が楽だっておっしゃっ　＼た＼　そのイタリア語の方が楽だって言った人は（終止形）

例10：ここで定例のこういうオーケストラ普段はオペラの伴奏してる人達が(F え)主

役になっ　＼た＼　そういう催し物が(D (? あ))開かれる　（連体形）
例11：キーワードに　＼なる＼　そういう言葉が出てきます　（連体形）
例12：音韻韻律の情報を付けるとか色んなこと今までやっていただい　＼てる＼　そういうのを集めた形でこういう研究を進めていければ　（終止形）

4　格助詞・係助詞後続

後続語によって終止形か連体形かを判定する基準は，一部分規定されているが，それに含まれないものが少しある。「に」を除く格助詞・係助詞の例を挙げる。文語の場合には形の上から連体形になるものが多い。古風な言いまわしは文語に準じて連体形にしたが，格助詞「に」の前を終止形としたので，それとの関係でゆれが生じる。

例13：一見三の説を支持　＼する＼　がごとくでございます　（連体形）
例14：軒下でてんかん起こし　＼た＼　が為に(F その)要は出られなくて（連体形）
例15：言わ　＼ない＼　が故に自分の自分の気分の中で喋っていられる　（連体形）
例16：単語のリジェクションと　＼いう＼　を行なう時　（連体形）
例17：何よりの見物じゃと言うてみて音の　＼する＼　を蹴ると言うて　（連体形）
例18：その場合は収録作業の方を優先せ　＼ざる＼　を得ないだろう　（連体形）
例19：(0 髪末を切り　＼たる＼　はかぶろと言うなり　（連体形）
例20：注意す　＼べき＼　はその前に(F えー)丸四丸五に示しました　（連体形）
例21：早速イワシをよみ出し申し付か　＼るる＼　は云々　（連体形）
例22：進ま　＼ざる＼　は退転という言葉もありますんでね　（連体形）

5　言いさし

言いかけて途中で立ち消えになった場合。

例23：で(F えっと)どう　＼いう＼　あんまり他に(?)類似の現象は観察されてないという風に思ってるんですが　（終止形）

細則１０　出現形「に」の品詞分類

（注）本基準は，元々CSJの構築作業時に作成した基準である。そのため，以下に挙げる例のほとんどは，CSJに出現したものである。

1　「に」の情報と先行語

「に」の代表形並びに品詞は，先行語の品詞によって決まる部分が大きい。すなわち先行語（フィラー，言いよどみを除く）の品詞が

① 名詞・代名詞・副詞・記号ならば	格助詞ニ
② 形状詞ならば	助動詞ダの連用形
③ 動詞・形容詞・助動詞の終止形ならば	格助詞ニ
④ 動詞・助動詞レル・ラレルの連用形ならば	格助詞ニ
⑤ 助動詞「ず」の連用形ならば	格助詞ニ
⑥ 「か」「のみ」「だけ」「など」等の副助詞ならば	格助詞ニ
⑦ 格助詞「と」（並列）「から」ならば	格助詞ニ
⑧ 準体助詞「の」ならば	格助詞ニ
⑨ 文語形容詞連体形ならば（例：なきにしもあらず）	助動詞ナリの連用形

と解される。区別が問題になるのは主として上の①②であり，「に」の情報を正確に付与するためには，名詞・形状詞・副詞の区分をできる限り厳密に定める必要がある。

2　品詞判別の手掛かり

以下の８項目を品詞判別の手掛かりとする。ただし，これは長単位での判定であり，「に」の直前の短単位の品詞は，必ずしも「に」の品詞と整合しない。

① 主格・対格・与格に立つ。
② サ変語尾を伴って動詞になる。
③ 「な」を伴って連体修飾する。(「なの」「な訳」などを除く。)
④ 単独で連用修飾語になる。
⑤ 「の」を伴って連体修飾する。
⑥ 程度副詞を受ける。(例：非常に，すごい，あまり，とても，比較的)
⑦ 格助詞を支配する。(例：「と同様」「より簡単」「でいっぱい」「に独立」)
⑧ 副助詞・係助詞が付き得る。

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
名　詞	○	○	×	×	○	×	×	○
形状詞	×	×	○	×	○	○	○	×
副　詞	×	○	×	○	○	○	×	○

メタ的に用いられた場合は，無論例外であるが，それ以外にも多少の例外は認めなければならない（例：もっと前)。⑤のように全部に○が付くのは一見無意味のようであるが，一つの代表形はなるべく一つの品詞にまとめたいので，その際の許容範囲を明示する意味で加えた。①②と③のように排他的な項目について両方の用例を持つものは，

複数の品詞に分ける必要がある。その際，意味に余り差がなく，かつ形態論的にどちらでもよい例については，優先順を次のとおりとする。

① 助動詞「だ」「です」が付く場合は，形状詞，名詞，副詞の順
②「に」「の」が付く場合も，明らかに格助詞と認められる場合を除き，形状詞，名詞，副詞の順（例外：必要に迫られる，無理のない計画）
③ 上記以外（サ変語幹，複合語など）は名詞，形状詞，副詞の順

なお，品詞によって意味に多少のずれがある場合は，意味の近い方に寄せる（例５）。

例１：必要がある（名詞），必要な（形状詞），必要書類（名詞）
例２：共通する（名詞），共通な（形状詞），共通の(形状詞)，共通語（名詞）
例３：特別な（形状詞），特別歴史がある訳ではない（副詞），特別機（形状詞）
例４：わずかな（形状詞），わずかに（形状詞），わずか３例（副詞），わずかだけ開いてる（副詞）
例５：絶対諦めない（副詞），絶対音感（名詞），絶対に（副詞）
例６：幸い当選して（副詞），幸いなことに（形状詞），偶然が幸いして（名詞）

細則１１　助詞「か」の分類基準

（注）本基準は，元々CSJの構築作業時に作成した基準である。そのため，以下に挙げる例のほとんどは，CSJに出現したものである。

助詞「か」を副助詞とするか，終助詞とするかについての判定基準を次に示す。

１　先頭に来る場合　……　終助詞
【例】　清楚で落ち着いた女性がいいと思いますがかと言って見合いは嫌だし

２　先行語が非活用語である場合

２．１　「か」が陳述性を持たない場合　……　副助詞

（１）不定称名詞に付いて名詞句又は副詞句になる
誰か，何か，どこか，いつか，どちらか，幾らか，何らか，幾つか
【例】　誰かが頑張ってくれれば
何か事件が起きた
何回か演奏会重ねるうちに
わざわざどこかに出掛けて行かなくても
左右どちらかの一方だけの赤色ランプが点滅して

（２）助詞，副詞その他連用修飾語に付く場合
とか，にか，でか，よりか，からか，てか
【例】　交通の便とか治安の良さ
面接とかして
ここの道路だけはどうにかしてほしいな
どういう風に繋げたらいいか分からないということでか落ちてしまう方が
防音塀というよりかはもうシェルターですね
どこからか寄ってきて
そのことも関係してかあんまり町が元気じゃない
もしかしたら
どうかうちで事務用品を買ってください

（３）「なぜ」「せい」「わけ」など理由を表す名詞に付いた場合，又は「で」に置き換えられる場合
【例】　なぜか梯子が滑って
皮膚の皮が薄いせいかすぐ青あざになってしまうんです
どういう訳か気に入ってもらえなくてね
共産主義体制の影響か顔に表情を出さぬ

（４）二者択一，三者択一の場合
【例】　視覚提示か聴覚提示かっていう
幸か不幸か女子校におりましたので
中学か高校でラテン語を習う
精度かＦ尺度のいずれかを使用する

はいかいいえで答える

２．２　「か」が陳述性を持つ場合　……　終助詞

（１）言い切り
【例】　誰を誘うのか
どれが一番近いのか

（２）引用の助詞「と」，終助詞「な」「い」等が付く場合
【例】　ＥＲっていうドラマはどんなドラマかと言いますと
共通語のアクセント体系で正しいアクセントは何かというのも
どっちかって言うと
本当にそうかな
大丈夫かい

（３）挿入
多く「のか」の形で現れる。
【例】　父親もわりと切り替えが早いのか今まで仕事人間だったのがね
大学生に見えたのか高校三年生でも雇ってもらえました

３　先行語が活用語である場合

（１）「と」以外の格助詞，副助詞が後続する場合　……　副助詞
【例】　後続にどういう単語が来るかが重要です
みんなに私の血液型の標本と言うかが回されてしまった
ネガティブにあざ笑うかのようです
どこの部分にその腫ようが障るかで症状色々違うから
共通語っていうものをどういう風に捉えているかにもよります
何を手掛かりにしてるかは分かりません
例えがあんまり良くないかもしれないけど
位置がどう変化するかを観察し
何が起こるかよく分からないまんま

（２）挿入句（除いても本筋に余り影響のないもの）　……　終助詞
【例】　幾つかの［モチーフって言うか］よく多用する小道具ってのがあるんです
車にぶつかって後ろの［何て言うんですか］バンパーの部分をへこまして
これを中学校の二年の時［十三歳ですか］の時に偶然本屋で手に取って
喉の方を［要するに舌ですかね］やられてたもんで

（３）言い切り及び引用の「と」，終助詞「な」「ね」等が付く場合　……　終助詞
【例】　クリエーティブな使い方の側面だと言えるのではないでしょうか
表記についてどのような傾向があるかということ
駐車場まで運ぶのにどうしようかなって考えてると

４　二者択一，三者択一の場合　……　副助詞

（１）典型例
【例】　聞き分け易さに影響を及ぼすかどうかについて

それがいいか悪いかということで
教えに来てるんだか教わってるんだか分からないけれども

（２）余り典型的でない例

【例】　ある言語形式を美しいと思うか(副)醜いと思うか(副)あるいは好きか(副)嫌いか(副)っていったようなそういう評価意識
個々の音節が等間隔で発声される傾向があるか(終)あるいはモーラタイミングと言われている日本語に対して個々のモーラが等間隔で発話される傾向があるか(副)ないか(副)という研究

（３）ただし以下のような例は，単なる疑問文の羅列と考えて終助詞とする。

【例】　なぜ訓練が必要なのか(終)訓練のメリットは何か(終)そしてスピーチ訓練を必要としているのは誰か(終)
何ていうお店でどんな料理を幾らくらいで出しているのか(終)おいしかったか(終)何を食べたか(終)店の雰囲気はどうだったか(終)

４．１　体言＋「か」を含め，「か」で終わる文が並列する場合

それぞれがセンテンスであっても，内容的に排他的である場合は副助詞とする。

【例】　必ずその子が来てる(D こお)来てるか（副）どうか（副）を確認してから自分の仕事をするっていう感じ
用法によって(F まー)連体修飾の<ベル>節を取るか（副）否（副）かということに明らかにこう違いが見られました

細則１２　出現形「で」の品詞分類

（注）本基準は，元々CSJの構築作業時に作成した基準である。そのため，以下に挙げる例のほとんどは，CSJに出現したものである。

０　目的

「で」という形で切り出された短単位に品詞情報及び代表形を付与する際の基準を定める。

「で」の中には，接続詞や接続助詞「て」の連濁形，助動詞「てる」の未然形・連用形の連濁形などもあるが，形態上容易に判別できるものを除くと，残るのは格助詞「で」と助動詞「だ」の連用形「で」である。ここではその両者の仕分けに的を絞って記述する。出現形としては「で」と「は」の融合した「じゃ」というものもあるが，その判別法もこれに準ずる。

方法としては，まず助動詞とすべきものを規定し，そのいずれにも該当しないものを格助詞とする。したがって，格機能の判断に窮する例も出てくるがやむを得ない。下記の九つの規定は相互に排他的なものではないので，用例によっては複数の規定に該当するものもある。

１　形状詞に後続する「で」は，助動詞－連用形とする。

例１：構成がかなり複雑でインタビューなんかも入っているものです
例２：高校は好きなとこへばらばらで行く訳ですからね
例３：私自身は犬は好きで(F ま)(F そのー)野犬もかわいがってたんですが
例４：そういう話を平気でできる年代なんで

◇そもそも助動詞「だ」の二つの連用形「で」と「に」の間には一応の役割分担がある。すなわち「で」は連用中止，「に」は連用修飾を担うはずである。したがって，例２・例４のように形状詞＋「で」が連用修飾語になる例は少なく，大体は連用中止となる。

◇先行語の品詞認定とも相互に影響し合うところがある。例えば例４については「平気な」という用例があるので「平気で」を形状詞＋助動詞としたが，そうでなければ，名詞＋格助詞とするところである。「で」の直前の語が格要素・修飾要素を伴っている場合（例：保証人に無断で），先行語が形状詞とみなされ，したがってその「で」は，助動詞－連用形となる。

２　「～＼で＼ある」「～＼で＼ない」「～＼で＼ございます」「～＼で＼いらっしゃる」「～＼で＼おる」「～＼で＼いる」に含まれる「で」は助動詞－連用形とする。

例５：距離の総和というものが閾値以下である場合に
例６：大事なのはこのコイルの配置でございます
例７：母は女の子は字が奇麗でなければいけないからと言って
例８：とにかくものを持たない主義でいます
例９：工場なんかを貸してる人なんかが親しいお得意さんでおりました

◇「で」と述語の間に副助詞・係助詞・副詞・フィラーが入る場合も同様である。

例10：ウェアラブルの環境でも音声認識が全て万能ということでは勿論ありません
例11：つげさんは(F あのー)妖怪漫画の(F あの)大御所で(F え)いらっしゃいます

3　原因・理由を表す「～の＼で＼」「～ん＼で＼」に含まれる「で」は助動詞－連用形とする。

例12：これは特に評価が高かったので日本で放送されました
例13：(F えーっと)カウントにミスがあったりしたので数字としては悪いんですが
例14：アクション映画で活躍してたんで(F ま)ダーティーハリーなんていう代表作がありますけれども

◇すべての「ので」ではなくて，「原因・理由を表す」という限定が付く。一般的に例外は少ないが，「いうので」「いうんで」の場合には，「いう」が形式動詞であるため，他の用言の場合ほど明白に原因・理由とすることができず，判定にゆれが生じる。以下の例は比較的はっきりしたものであるが，そうでないものもある。

例15：馴染みのあるもの馴染みのないものっていうので検出速度に差が見られました　（格助詞）
例16：話者適応とかに比べると性能が悪いというので最近使われてない（助動詞）

◇これに似たものとして「～こと＼で＼」「～もの＼で＼」「～もん＼で＼」「～訳＼で」がある。特定の後続語に係るのかどうかが余りはっきりしない場合が多く，人により時により判定のゆれるところであるが，上記に準じて，原因理由に近い「ことで」「もので」「もんで」「訳で」の「で」は助動詞にする。

例17：夕飯食べてないっていうことでね(F あの)(F ま)用意して待ってたんです
例18：疎開先の母の実家というのは農家じゃなかったもんでそんなに食糧が潤沢じゃなかったんです
例19：そういう訳で今日はこのドラマを紹介しようと思いました

4　「であり」「でして」「であって」「でありまして」「で，かつ」等に換言可能な「で」は，助動詞－連用形とする。
これは典型的な連用中止ということである。ガ格が明示されていればもちろん，そうでなくても，想定できる場合はこれに該当するということになる。助動詞と判定される例の多くがこれに該当する。

例20：終戦後いち早く(F あの)できた商店街でその頃は東洋一のアーケード街と言われていたそうです
例21：リコール零．六七(F えー)プレシジョン約(D ろ)約五割でＦバリューが

5　同格の「で」は助動詞－連用形とする。
これも「で，かつ」に換言可能ということで，上記４の一部と言えなくもない。

例22：旭川のスキー場で(F え)カムイスキーリンクスっていうところがあるんですけども
例23：キーワード以外で尤度最大となるような単語は

6　前後に来る語との連接関係上，助詞－格助詞とは解釈しにくい「で」は，助動詞－連用形とする。

これは多く「では」「でも」の形で格助詞「に」「と」「から」「へ」「で」，接続助詞「て」「ながら」などに後続するもので，全体で副助詞のように働く場合が多い。おおむね機械的に判定できるが，「と」に付く場合は，並列の「と」か純然たる格助詞かで異なってくる。

例24：最初単純に盗難届けはどこにでも出せるもんだと思ってたもんですから
例25：何としてでも一回戦を突破してベスト十六に入れば
例26：現存するタグ付きコーパスからでは量的に不十分であります
例27：初対面の人とでもそのように仲良くできたことで（助動詞）
例28：異なりと延べとで逆の様相を呈している（助詞）

7　例示を表す「でも」の「で」は，助動詞－連用形とする。

例29：それってどういうこと(F えー)途中でナンパでもするの
例30：靴箱にしては横幅が広くてお相撲さんの靴でも入れ(D る)たくなるような

8　「～べき＼で＼」「～はず＼で＼」「～そう＼で＼」　…　助動詞－連用形とする。

規定２又は４に含まれるものであるが，まず例外なしに助動詞になると思われるものを取り上げた。「そう」には名詞（例：降るそうだ）と形状詞（例：降りそうだ）の二通りがあるが，いずれも同じに扱う。

例31：れる・られる敬語が多いという点はやはり方言差と考えるべきであろうと
例32：何か百五十ぐらいお部屋があるそうで最近一般公開されたそうです

9　上記のいずれにも該当しないものは格助詞とする。ただし方言などで，特殊な形態を取るものについては，個別に検討する。

例33：(M (0 ありまっさかい))とか(0 着きますで)という（終助詞）

（◆ver.1.1追加）

細則１３　メタ的に使われた漢字等の扱い

１字の漢字のうち，漢字の解説に用いられたもの（メタ的に使われたもの）や新聞記事の書名等に用いられた姓又は名を略したものなどに対して，語彙素・語彙素読みを付与する際の基準を定める。

【例】　そして過という言葉は漢語にこう付くのが
　　各話熱気がこもっていて，見応えがある。（野）

1　読み

読みは，原則として漢音とする。

【例】　かたじけない。（恭）　⟶　キョウ
　　「碍子」の「碍」を当てるべきとの　⟶　ガイ

ただし漢音が一般的でない場合は呉音等で読む。なお，音（呉音・漢音等）が一般的でない場合，訓で読むことがある。

【例】　それに、片方から「大」の字を落とせば、　⟶　ダイ
　　そのための手引きになってくれる。（鷹）　⟶　タカ

2　語彙素のまとめ方等

読みが同じ漢字は，一つの語彙素にまとめる。

【例】　真／新／信　⟶　シン【シン】
　　阿／亜　⟶　ア【ア】

平仮名・片仮名で漢字の読みを表したものや，箇条書きの項目名等の１字の平仮名・片仮名も，同じ読みの漢字と同一の語彙素にまとめる。

【例】　真／新／シン／しん　⟶　シン【シン】
　　亜／あ／ア　⟶　ア【ア】

第２　意味の面から見た同語異語の判別

第１「同語異語判別規程」では，主として語の形の面から同語とするか異なる語とするかを判別するための規定を示すとともに，「語形」「語彙素」の立て方についても規定を示した。しかし，主として意味の面から同語とするか異なる語とするかを判別するための規定については，明確な規定としてまとめるには至っていない。これは，主として意味の面から，二つの語を同じ語とみなすか異なる語とみなすかについては，様々な考え方があり，非常に判断の難しい問題だからである。

例えば，動詞〈オサマル〉について，『岩波国語辞典』第６版（以下，『岩波』），『国語大辞典』（以下，『国語大』），『大辞林』第２版（以下，『大辞林』），『広辞苑』第５版（以下，『広辞苑』）における見出しの立て方を見ると，以下のようになっている。

岩　波	収まる・納まる・修まる・治まる
国語大	収まる・納まる・修まる・治まる
大辞林	収まる・納まる 修まる 治まる
広辞苑	収まる・納まる・修まる・治まる

『岩波』『国語大』『広辞苑』は，一つの見出しにまとめるが，『大辞林』は「修まる」と「治まる」とを別立てにし，見出しを三つ立てる。

したがって，「収まる」「治まる」について言えば，『岩波』『国語大』『広辞苑』に従うと同じ語として扱う（同じ動詞〈オサマル〉の表記のゆれとして扱う）ことになるが，『大辞林』に従うと異なる語として扱う（語形は同じだが意味や表記の異なる別語として扱う）ことになる。このように見出しの立て方が辞書によって異なることからも，二つの語を同じ語とみなすか異なる語とみなすかは非常に難しい問題であると言うことができる。

そこで，筆者らは，国語辞典の見出しやブランチの立て方・漢字表記に関する注記，BCCWJの頻度情報等を基に，UniDicに登録した和語動詞から同語異語判別に着手した。ここでは，この同語異語判別の方針を紹介するとともに，これまでに判別を行った語を幾つか取り上げ，同語異語判別の実例を示す[2]。

２．１　基本的な方針

自動形態素解析を前提とした同語異語判別で留意しなければならないのは，同じ書字形（表記）かつ同じ品詞でありながら，異なる語彙素（見出し）となるような語（同表記異語）をできる限り少なくするということである。

例えば，動詞〈オサマル〉において，漢字表記「収まる」「納まる」よりも平仮名表記が多く用いられており，しかも平仮名表記が「収まる」の意と「納まる」の意の両方で用いられ，用例数も両者で拮抗しているとする。このような場合，「収まる」と「納まる」とを異なる語彙素にすると，同表記（平仮名表記）の異語が多くなり，解析精度の低下を招く。

また，この例のように漢字表記よりも平仮名表記の方が多いということは，意味の差が微妙であるため漢字の書き分けがうまくできず，その結果，平仮名表記が選択されている可能性がある。このような人手でさえ区別の難しい，微妙な意味の差異によって語彙素を複数立てることは，形態素解析辞書の見出しの設定としてふさわしくない。

以上のことを踏まえ，UniDicにおける同語異語判別に関して，次に挙げる二つの基本方

2　本節の内容は，小椋秀樹ほか(2010)に基づくものである。

針を立てた。

方針１：同表記異語を生じさせるような語彙素の立て方はできる限り行わない。

方針２：複数の語彙素に分ける場合は，明確な基準・理由をもってし，人手で正確に区別できないような語彙素の分割は行わない。

２．２　対象

UniDic-1.3.12（2009年7月公開）には語彙素レベルで15.7万語が登録されている。そこで，同語異語判別の対象をひとまず絞り込むこととした。具体的には，UniDicに登録した和語のうち，国立国語研究所（1964）の「判別実例一覧表」に掲げられている語を対象とすることとし，単純動詞から判別作業に着手した。ここで単純動詞から作業を行ったのは，意味による漢字の書き分けで問題となる語が多いためである。

なお，2009年12月までに動詞90語の判別を終え，その結果を『『現代書き言葉均衡コーパス』形態論情報規程集』第３版に掲載した。その後，残りの動詞，形容詞，名詞の順に作業を進めた。

２．３　方法

同語異語判別を行う際の検討資料として，以下の二つを用いた。

(1)構築中のBCCWJ（約5,500万語）から取得した各書字形の頻度情報（表記別頻度）及び用例

方針１を踏まえ，現在UniDicに登録されている語彙素がどのような書字形を持ち，その書字形がコーパス中に何例現れるのかを把握する必要があると考え，検討資料とした。できる限り同表記異語を生じさせないということから，特に平仮名表記例の頻度・使用状況に注目した。また，コーパス全体の頻度・用例等を参照するのに加えて，形態素解析システムの学習用コーパスとして作成しているコアデータ（白書・新聞・書籍・Web（Yahoo!知恵袋））約70万語における頻度・用例も適宜参照した。

(2)『岩波』『国語大』『大辞林』『広辞苑』の４種の国語辞典

方針２にも掲げたように明確な基準・理由をもって同語異語判別を行うために国語辞典における見出しやブランチの立て方を参照することとした。ただし，先に見たように辞書によって見出しの立て方に違いがあるため複数の辞書を参照することとし，上記の代表的な中型・小型辞書４種類を用いた。

検討資料を基に同語か否かを判別するに当たって，次の八つの観点を設けた。

《辞書の記述に基づく観点》

a. すべての辞書で見出しの立て方が一致し，それが一般的な漢字の書き分けの意識とも対応している場合，辞書の見出しに基づいて語彙素を立てる方向で検討する。
b. 各辞書の漢字表記に関する注記に違いがある場合，原則として一つの語彙素にまとめる。
c. 『国語大』に漢字表記に関する注記があり，他の辞書でもほぼ同一の書き分けを示している場合，『国語大』の注記に基づいて語彙素を立てる方向で検討する。
d. 『国語大』に漢字表記に関する注記があっても，他の辞書で示された書き分けと異なる場合，一つの語彙素にまとめることを優先する。
　※　『国語大』は漢字表記に関する注記を示すことに慎重な姿勢を取っていると思われるため，『国語大』の注記を重視する観点を設けた。

《動詞の性質等に基づく観点》

e. 自動詞と他動詞とで同形の語は，原則として異なる語彙素とする。

f. 移動動詞等，自然言語処理における応用面に深くかかわると思われる語の語彙素の統合については慎重に判断する。

《頻度・実例に基づく観点》

g. 漢字表記の頻度よりも仮名表記の頻度が非常に高い場合，一つの語彙素にまとめることを優先する。

h. 前接・後接語に違いがある場合，又は漢字の書き分けに混乱が見られない場合は，複数の語彙素に分ける方向で検討する。

上記八つを基準又は規則と言わずに観点と呼んでいるのは，意味にかかわる問題であるため，規則のように適用の優先順位等を決められないからである。

筆者らは，表記別頻度表・用例・４種の国語辞典を基に八つの観点から同語とするか否か，１語ずつ総合的に判断していった。現在までに191語について判別作業を終えた。

２．４　判別の実例

本節では，現在までに同語異語判別を行った191語の判別結果を示す。

２．４．１節では，動詞〈アウ〉〈アズカル〉〈オサマル〉を取り上げ，上述の２種類の資料，八つの観点に基づいて，どのように同語異語判別を行ったのか具体的に述べる。その他の語については，２．４．２節に判別結果を一覧にして示す。

２．４．１　判別の具体例

（１）アウ

UniDic-1.3.12では，「会う」「合う」「遭う」の三つを語彙素とし，「逢う」は「会う」の書字形に，「遇う」は「遭う」の書字形に登録している。

辞書を見ると，『大辞林』が「合う」を別立てにしているが，他の辞書は一つの見出しにまとめている。ただし『国語大』『広辞苑』はブランチで「合」「会・逢・遭」と接尾的用法の「合」の三つに分けている。『国語大』『大辞林』『広辞苑』は，基本的に「合」と「会・逢・遭」とを分ける方針を取っていると考えられる。

岩　波　　合う・会う・遭う・遇う・逢う
国語大　　合う・会う・遭う・逢う
大辞林　｛合う
　　会う・逢う・遭う
広辞苑　　合う・会う・逢う・遭う・遇う

表記別頻度（表３．７）を見ると，平仮名表記が2,057例と多い。この大半は「合う」の意の例と「遭う」の意の例であり，用例数はほぼ拮抗している。コアデータに限定して見ると，平仮名表記は23例あり，内訳は「合う」の意が13例，「遭う」の意が８例，「会う」の意が２例である。「合う」の意の例のうち８例は接尾的用法で前接語が動詞連用形である。「遭う」の意の例の前接語はすべて格助詞「に」である。平仮名表記例の大半を占める「合う」の意の例と「遭う」の意の例は，前接語に差異が認められる。

表３．７　〈アウ〉の表記別頻度

あう	会う	合う	逢う	遭う	遇う
2,057	10,057	5,737	696	89	913

「会う」については，漢字表記も含めて見ると，格助詞「に」が前接語となることが多い点で「遭う」と類似しており，辞書でも「会う」と「遭う」とは　同じ見出しにまとめられている。

以上のことから，「合う」「会う」の二つの語彙素とし，「逢う」「遭う」「遇う」は「会う」の書字形とした（図３．１）。

語彙素	語形	書字形
合う	アウ	あう
		合う
会う	アウ	あう
		会う
		逢う
		遭う
		遇う

図３．１　〈アウ〉の語彙素・語形・書字形

（２）アズカル

UniDic-1.3.12では，「与る」「預かる」の二つを語彙素としていた。

辞書を見ると，『大辞林』『広辞苑』は「与る」「預かる」の二つを見出しに立てる。『岩波』『国語大』は一つにまとめるが，その中を自動詞と他動詞の２項目に分け，自動詞に「与」，他動詞に「預」と注記する。

辞書の記述にあるとおり「与る」と「預かる」は自動詞・他動詞の違いがあり，意味についても「預かる」が金品等を手元に置き保管するといった意味を表すのに対し，「与る」が関与するといった意味を表すというように違いがある。

岩　波　　預かる・与る
国語大　　預かる・与る・関る
大辞林 ｛ 預かる / 与る
広辞苑 ｛ 預かる / 与る

表記別頻度（表３．８）を見ると，平仮名表記が「預かる」に次いで489例と多い。内訳は「与る」の意が275例，「預かる」の意が214例で，「与る」の意が約３割多くなっている。また，前接語を見ると，自他の違いを反映して，「与る」の意の例は格助詞「に」が来ることが多く，この点が「預かる」の意の例との違いとなっている。

表３．８　〈アズカル〉の表記別頻度

あずかる	与かる	与る	預かる	預る
489	18	63	848	145

意味が異なっていること，自他の区別があることなどから，UniDic-1.3.12のまま「預かる」「与る」の二つの語彙素とした。（図３．２）

語彙素	語形	書字形
与る	アズカル	アズカル
		与かる
		与る
預かる	アズカル	アズカル
		預かる
		預る

図３．２　〈アズカル〉の語彙素・語形・書字形

（３）オサマル

UniDic-1.3.12では，「収まる」「治まる」「納まる」「修まる」の四つを語彙素としていた。

辞書の見出しの立て方は先に示したとおりである。『国語大』は見出しの中を大きく「物事が安定した状態になる。ととのった状態になる。」と「物がきちんと中にはいる。また、物事が終わりになる。」の二つに分け，前者には「(治・修・収)」，後者には「(収・納)」と注記する。このように，いずれの項目でも複数の漢字が注記として付されていること，「収」については両方のブランチに漢字注記として付されていることから，明確な書き分けが示されているとは言えない。漢字注記に関しては，他の辞書も同様で，明確な書き分けの基準は示されていない。

表記別頻度（表３．９）を見ると，平仮名表記が最も多くなっており，漢字の書き分けが相当難しいことがうかがわれる。

表３．９　〈オサマル〉の表記別頻度

おさまる	修まる	収まる	収る	治まる	納まる	納る	蔵まる
844	5	649	9	243	181	16	1

以上のことから，「収まる」のみを語彙素として立て，「治まる」「納まる」「修まる」等はその書字形とした（図３．３）。

語彙素	語形	書字形
収まる	オサマル	おさまる
		修まる
		収まる
		収る
		治まる
		納まる
		納る
		蔵まる

図３．３　〈オサマル〉の語彙素・語形・書字形

２．４．２　判別結果の一覧

これまでに同語異語判別を終えた和語の動詞158語（2.4.1節に述べた３語を除く。），形容詞14語，名詞16語について，その判別結果を表３．１０，表３．１１，表３．１２に一覧する。

《凡　例》

１．語彙素・語形・書字形

①同語異語判別の結果を受けて，UniDicにどのような形で語彙素，語形，書字形を登録しているか示した。

②UniDicに登録されている語形のうち，以下のものは省略した。

ａ．語彙素と異なる語形
ｂ．文語活用
ｃ．可能動詞

③書字形のうち，以下のものは省略した。

ａ．送り仮名の差異がある複数の書字形が登録されている場合，送り仮名の付け方（1973年，内閣告示第２号・内閣訓令第２号）の通則１，通則２，通則６の各本則によらない送り仮名の書字形は省略した。
ｂ．歴史的仮名遣いで書かれた書字形は省略した。
ｃ．通行の字体で書かれた書字形といわゆる康熙字典体で書かれた書字形とがある場合，いわゆる康熙字典体で書かれた書字形は省略した。

２．備　考

①備考欄には，同語異語判別を行う前の公開版UniDic-1.3.12における登録状況を「UniDic-1.3.12:「会う」「合う」「遭う」」などと示した。

②当該語についての同語異語判別に関する考え方として，参考になると思われる情報がある場合，それを示した。

表３．１０　同語異語判別結果の一覧（動詞）

語彙素	語　形	書字形	備　　考
当たる	アタル	あたる	UniDic-1.3.12：「当たる」 「髭をあたる」の例を他動詞として分ける辞書があるが，UniDicではそのような立場を取らない。
		当たる	
		当る	
		中る	
当てる	アテル	あてる	UniDic-1.3.12：「当てる」「宛てる」 「当たる」との対応。
		充てる	
		宛てる	
		当てる	
誤る	アヤマル	あやまる	UniDic-1.3.12：「誤る」「謝る」 仮名書き例のうち約８割が「謝罪」の意。残りの２割程度は「あやまって～した」という表現。
		誤る	
		謬る	
謝る	アヤマル	あやまる	
		謝る	
		詫る	
著わす	アラワス	あらわす	UniDic-1.3.12：「表わす」「著わす」「顕わす」 「（書物を）著す」は判別が容易だと思われるので，語彙素「表」とは分ける。
		著す	
表わす	アラワス	あらわす	
		現す	
		表す	
		顕す	
有る	アル	ある	UniDic-1.3.12：「有る」
		有る	
		在る	
生きる	イキル	いきる	UniDic-1.3.12：「生きる」
		生きる	
		活きる	
行く	イク	いく	UniDic-1.3.12：「行く」「逝く」 仮名書き例は「行く」がほとんどで，「～ていく」の例が多いことが予想される。
		行く	
		往く	
逝く	イク	逝く	
頂く	イタダク	いただく	UniDic-1.3.12：「頂く」
		頂く	
		戴く	
痛む	イタム	いたむ	UniDic-1.3.12：「痛む」「傷む」「悼む」 「悼む」は他動詞であるため，「傷む」とは分ける。
		痛む	
		傷む	
悼む	イタム	いたむ	
		悼む	

語彙素	語　形	書字形	備　　考
痛める	イタメル	いためる	UniDic-1.3.12：「痛める」「炒める」
		痛める	
		傷める	
炒める	イタメル	いためる	
		炒める	
至る	イタル	いたる	UniDic-1.3.12：「至る」
		到る	
		至る	
伺う	ウカガウ	うかがう	UniDic-1.3.12：「伺う」「窺う」 仮名書き例の大半は「窺う」で，「うかがわれる」の例がほとんどである。 漢字の書き分けについては明確でない部分もあると思われるが，仮名書き例に傾向が見られることから，語彙素を分ける。
		伺う	
窺う	ウカガウ	うかがう	
		窺う	
受ける	ウケル	うける	UniDic-1.3.12：「受ける」 国語辞典にも明確な書き分けの基準が示されていない。
		受ける	
		承ける	
		請ける	
		享ける	
歌う	ウタウ	うたう	UniDic-1.3.12：「歌う」「謳う」 仮名書き例は「～をうたった商品」というような例が多い。ただし，くだけた文体では「歌う」を仮名書きすることもあり，また「歌をウタウ」の場合，仮名書きになりやすい。
		歌う	
		唄う	
		詠う	
		謡う	
		唱う	
		咏う	
		謳う	
打つ	ウツ	うつ	UniDic-1.3.12：「打つ」 「打」「討」などは現代語の感覚では分かれるが，辞書記述などを基に一つにまとめるのが良い。
		打つ	
		討つ	
		伐つ	
		拍つ	
		撃つ	
		搏つ	
生む	ウム	うむ	UniDic-1.3.12：「生む」「熟む」「績む」「膿む」「倦む」
		生む	
		産む	
熟む	ウム	熟む	
績む	ウム	績む	
膿む	ウム	膿む	
倦む	ウム	倦む	

語彙素	語　形	書字形	備　　考
得る	エル	える	UniDic-1.3.12：「得る」「選る」
		得る	
		獲る	
選る	エル	える	
		選る	
負う	オウ	おう	UniDic-1.3.12：「負う」「追う」
		負う	
追う	オウ	おう	
		追う	
		逐う	
		趁う	
犯す	オカス	おかす	UniDic-1.3.12：「侵す」「犯す」「冒す」 「侵」と「犯」とは，書き分けが明確でない面もあると思われる。
		犯す	
		侵す	
		冒す	
置く	オク	おく	UniDic-1.3.12：「置く」「於く」 「～における」「～において」「～におきまして」の「おく」は「於」に分類する。
		置く	
		擱く	
		措く	
於く	オク	おく	
		於く	
送る	オクル	おくる	UniDic-1.3.12：「送る」「贈る」 一般的に「送」「贈」を使い分けようとする意識がある。 どちらも表内訓であることから，仮名書きの用例も少ない。
		送る	
贈る	オクル	おくる	
		贈る	
起こす	オコス	おこす	UniDic-1.3.12：「興す」「起こす」「熾す」 『国語大』に漢字注記が付されているが，各辞書で分類が異なる。
		起こす	
		興す	
		熾す	
起こる	オコル	おこる	UniDic-1.3.12：「興る」「起こる」「怒る」「熾る」 『国語大』に漢字注記が付されているが，各辞書で分類の基準が異なる。特に「起」と「興」との分類が辞書で異なる。
		起こる	
		興る	
		熾る	
怒る	オコル	おこる	
		怒る	
驕る	オゴル	おごる	UniDic-1.3.12：「奢る」「驕る」 「身分以上にぜいたくな生活をする」という意の判別が難しいと思われる。
		傲る	
		驕る	
		奢る	
押さえる	オサエル	おさえる	UniDic-1.3.12：「押さえる」「抑える」
		押さえる	
		圧える	
		抑える	

語彙素	語　形	書字形	備　　考
収める	オサメル	おさめる	UniDic-1.3.12：「収める」「治める」「納める」「修める」「収まる」との対応。 漢字の使い分けが難しい。
		収める	
		修める	
		治める	
		納める	
		蔵める	
押す	オス	おす	UniDic-1.3.12：「押す」「推す」
		押す	
		圧す	
		捺す	
		推す	
下りる	オリル	おりる	UniDic-1.3.12：「下りる」「降りる」「下ろす」との対応。
		下りる	
		降りる	
		堕りる	
下ろす	オロス	おろす	UniDic-1.3.12：「下ろす」「降ろす」「卸す」 『広辞苑』に「広く一般には「下」」と注記がある。「降」「卸」は「下」の覆う意味の一部について特にそれを用いることがあるという程度のもの。 分類基準が辞書により異なるという問題もある。
		下ろす	
		堕ろす	
		卸す	
		降ろす	
返す	カエス	かえす	UniDic-1.3.12：「帰す」「反す」「孵す」 「帰」「返」は複合語の後部要素と成った場合，特に差がはっきりしない。
		返す	
		還す	
		反す	
		帰す	
孵す	カエス	かえす	
		孵す	
顧みる	カエリミル	かえりみる	UniDic-1.3.12：「顧みる」「省みる」「帰り見る」「返り見る」 『国語大』は漢字注記を付すが，他の辞書では書き分けの基準が明確ではない。
		顧みる	
		省みる	
		返り見る	
返る	カエル	かえる	UniDic-1.3.12：「帰る」「返る」「孵る」「返す」との対応。
		帰る	
		還る	
		返る	
孵る	カエル	かえる	
		孵る	

語彙素	語　形	書字形	備　　考
掛かる	カカル	かかる	UniDic-1.3.12：「係る」「掛かる」「架かる」「懸かる」「繋る」「罹る」 「罹」は他と比べて意味の違いが大きいと思われるので，ひとまず別語彙素とする。
		掛かる	
		係る	
		架かる	
		懸かる	
		繋る	
罹る	カカル	かかる	
		罹る	
掛ける	カケル	かける	UniDic-1.3.12：「掛ける」「懸ける」「架ける」「賭ける」
		掛ける	
		架ける	
		賭ける	
		懸ける	
語る	カタル	かたる	UniDic-1.3.12：「語る」「騙る」
		語る	
騙る	カタル	かたる	
		騙る	
勝つ	カツ	かつ	UniDic-1.3.12：「勝つ」
		勝つ	
		克つ	
		剋つ	
枯らす	カラス	からす	UniDic-1.3.12：「枯らす」「涸らす」「嗄らす」
		枯らす	
		涸らす	
		嗄らす	
枯れる	カレル	かれる	UniDic-1.3.12：「枯れる」「涸れる」「嗄れる」
		枯れる	
		涸れる	
		渇れる	
		嗄れる	
乾かす	カワカス	かわかす	UniDic-1.3.12：「乾かす」「渇かす」
		乾かす	
		渇かす	
乾く	カワク	かわく	UniDic-1.3.12：「乾く」「渇く」
		乾く	
		渇く	

語彙素	語　形	書字形	備　　考
掻く	カク	かく	UniDic-1.3.12：「掻く」「舁く」 「汗をかく」「神輿をかく」は同源か。 「恥をかく」にも「掻」が使われるなど用字が混乱していることを踏まえ，本来別語の「掻」「舁」を統合する。
		掻く	
		舁く	
変わる	カワル	かわる	UniDic-1.3.12：「代わる」「変わる」「替わる」 『国語大』で《代・替》《変・渝》と漢字注記があるが，他の辞書ではおおむね「変」と「代・替」とに分ける。 「変」「代」の書き分けの基準が必ずしも明確ではない。 一つの複合語の表記で「変」「代」「替」が使われるものがある。
		変わる	
		代わる	
		渝る	
		換わる	
		替わる	
聞かす	キカス	きかす	UniDic-1.3.12：「聞かす」「利かす」「効かす」 「キク」との対応。 「利」「効」は連続的で，書き分けの基準が明確でない面がある。
		聞かす	
		聴かす	
利かす	キカス	きかす	
		利かす	
		効かす	
聞く	キク	きく	UniDic-1.3.12：「聞かす」「利かす」「効かす」 「利」「効」は連続的で，書き分けの基準が明確でない面がある。
		聞く	
		聴く	
		訊く	
		尋く	
利く	キク	きく	
		利く	
		効く	
請う	コウ	こう	UniDic-1.3.12：「請う」「恋う」
		乞う	
		請う	
恋う	コウ	こう	
		恋う	
越える	コエル	こえる	UniDic-1.3.12：「越える」「超える」
		越える	
		踰える	
		超える	
越す	コス	こす	UniDic-1.3.12：「越える」「超える」
		越す	
		超す	
答える	コタエル	こたえる	UniDic-1.3.12：「答える」「応える」「堪える」 「反応がある」等の意を「答・応」とし，「身にこたえる」「こたえられない」を「堪」とする。
		答える	
		応える	
堪える	コタエル	こたえる	
		堪える	

語彙素	語　形	書字形	備　　考
断る	コトワル	ことわる	UniDic-1.3.12：「断る」「理る」 名詞は「断り」「理」の二つの語彙素とする。
		断る	
		拒る	
		理る	
下げる	サゲル	さげる	UniDic-1.3.12：「下げる」「提げる」 『国語大』で《提》と注記を付すが，他の辞書では「提」も許容されており，完全に書き分けがなされるわけではない。
		下げる	
		提げる	
差さる	ササル	ささる	UniDic-1.3.12：「差さる」「刺さる」 「差す」との対応。
		差さる	
		刺さる	
		挿さる	
裁く	サバク	さばく	UniDic-1.3.12：「裁く」「捌く」 「裁」は表内字（表内訓），「捌」は表外字であり，基本的に仮名書き例は後者になると考えられる。
		裁く	
捌く	サバク	さばく	
		捌く	
差す 他動詞	サス	さす	UniDic-1.3.12：「刺す」「差す」「指す」「挿す」「鎖す」 自動詞・他動詞は分けるという基本的な方針に基づき，自動詞・他動詞の分離を試みる。
		刺す	
		螫す	
		差す	
		注す	
		点す	
		指す	
		挿す	
		鎖す	
差す 自動詞	サス	さす	
		射す	
		差す	
冷ます	サマス	さます	UniDic-1.3.12：「冷ます」「覚ます」
		冷ます	
覚ます	サマス	さます	
		覚ます	
		醒ます	
冷める	サメル	さめる	UniDic-1.3.12：「冷める」「覚める」
		冷める	
		褪める	
覚める	サメル	さめる	
		覚める	
		醒める	
錆びる	サビル	さびる	UniDic-1.3.12：「寂びる」「錆びる」
		錆びる	
		銹びる	
寂びる	サビル	さびる	
		寂びる	

語彙素	語　形	書字形	備　　考
攫う	サラウ	さらう	UniDic-1.3.12：「攫う」「浚う」
		攫う	
		拐う	
浚う	サラウ	さらう	
		浚う	
		渫う	
晒す	サラス	さらす	UniDic-1.3.12：「晒す」
		晒す	
		曝す	
触る	サワル	さわる	UniDic-1.3.12：「触る」「障る」
		触る	
障る	サワル	さわる	
		障る	
静まる	シズマル	しずまる	UniDic-1.3.12：「静まる」
		静まる	
		鎮まる	
沈める	シズメル	沈める	UniDic-1.3.12：「沈める」「静める」
静める	シズメル	しずめる	
		鎮める	
		静める	
		閑める	
偲ぶ	シノブ	しのぶ	UniDic-1.3.12：「偲ぶ」「忍ぶ」 両語は元来別語。
		偲ぶ	
忍ぶ	シノブ	しのぶ	
		忍ぶ	
締まる	シマル	しまる	UniDic-1.3.12：「締まる」「閉まる」
		締まる	
		閉まる	
		絞まる	
		緊まる	

語彙素	語　形	書字形	備　　考
染みる	シミル	しみる	UniDic-1.3.12：「染みる」「凍みる」
		染みる	
		滲みる	
		沁みる	
		浸みる	
		泌みる	
凍みる	シミル	しみる	
		凍みる	
占める	シメル	しめる	UniDic-1.3.12：「占める」「閉める」「締める」「絞める」
		占める	
締める	シメル	しめる	
		シメる	
		締める	
		〆る	
		絞める	
		閉める	
		緊める	
記す	シルス	しるす	UniDic-1.3.12：「記す」「印す」
		記す	
		誌す	
		印す	
		標す	
		徴す	
すかす	スカス	すかす	UniDic-1.3.12：「すかす」「空かす」「透かす」「賺す」 「空間的にすきを作る」の意を「空」とし，「視覚的に透き通らせる」の意を「透」とする。
		スカす	
空かす	スカス	すかす	
		空かす	
透かす	スカス	すかす	
		透かす	
賺す	スカス	すかす	
		賺す	
空く	スク	すく	UniDic-1.3.12：「空く」「透く」「梳く」「漉く」「鋤く」 今後，「剥く」（肉を剥く）を立項する可能性あり。
		空く	
透く	スク	透く	
梳く	スク	すく	
		梳く	
漉く	スク	すく	
		漉く	
		抄く	
鋤く	スク	すく	
		鋤く	

語彙素	語　形	書字形	備　　考
濯ぐ	ススグ	すすぐ	UniDic-1.3.12：「濯ぐ」「漱ぐ」「雪ぐ」
		濯ぐ	
		洗ぐ	
		雪ぐ	
		漱ぐ	
		嗽ぐ	
勧める	ススメル	すすめる	UniDic-1.3.12：「勧める」「進める」
		勧める	
		奨める	
		薦める	
		推める	
進める	ススメル	すすめる	
		進める	
擦る	スル	する	UniDic-1.3.12：「磨る」「刷る」「擦る」「摺る」「掏る」「剃る」 「磨」「刷」「摺」は「擦」に統合する。 「剃る（スル）」は語彙素「ソル（剃）」の語形として登録する。
		摩る	
		摺る	
		擦る	
		刷る	
		擂る	
		磨る	
掏る	スル	する	
		掏る	
擦れる	スレル	すれる	UniDic-1.3.12：「擦れる」「磨れる」
		スレる	
		擦れる	
		摩れる	
		磨れる	
		擂れる	
攻める	セメル	せめる	UniDic-1.3.12：「攻める」「責める」
		攻める	
責める	セメル	責める	
注ぐ	ソソグ	そそぐ	UniDic-1.3.12：「注ぐ」「雪ぐ」 語彙素「雪」の漢字表記を「濯」に変更する。
		注ぐ	
		潅ぐ	
濯ぐ	ソソグ	そそぐ	
		濯ぐ	
		雪ぐ	
焚く	タク	たく	UniDic-1.3.12：「炊く」 語彙素「炊」の漢字表記を「焚」に変更する。
		炊く	
		焚く	
		炷く	

語彙素	語　形	書字形	備　　考
供える	ソナエル	そなえる	UniDic-1.3.12：「供える」「備える」
		供える	
備える	ソナエル	そなえる	
		備える	
		具える	
備わる	ソナワル	そなわる	UniDic-1.3.12：「備わる」「具わる」
		備わる	
		具わる	
長ける	タケル	たける	UniDic-1.3.12：「長ける」「闌ける」
		長ける	
		闌ける	
逸らす	ソラス	そらす	UniDic-1.3.12：「逸らす」「反らす」
		逸らす	
		外らす	
反らす	ソラス	そらす	
		反らす	
尋ねる	タズネル	たずねる	UniDic-1.3.12：「尋ねる」「訪ねる」 自然言語処理での応用を考え，統合しないものとする。 仮名書き例のうち，「尋ねる」「訪ねる」のいずれに収めるか判断に迷うものについては，たずねる対象が明確であるものは「尋」とし，それ以外は「訪」とする。
		尋ねる	
		訊ねる	
		質ねる	
訪ねる	タズネル	たずねる	
		訪ねる	
立つ	タツ	たつ	UniDic-1.3.12：「立つ」「起つ」「建つ」「経つ」「発つ」 「起」「建」を「立」に統合し，「立」「経」「発」とする。
		立つ	
		佇つ	
		勃つ	
		建つ	
		起つ	
経つ	タツ	たつ	
		経つ	
発つ	タツ	たつ	
		発つ	
立てる	タテル	たてる	UniDic-1.3.12：「立てる」「点てる」
		立てる	
		起てる	
		建てる	
		樹てる	
点てる	タテル	たてる	
		点てる	

語彙素	語　形	書字形	備　　考
断つ	タツ	たつ	UniDic-1.3.12：「断つ」「裁つ」
		断つ	
		絶つ	
		裁つ	
		截つ	
溜まる	タマル	たまる	UniDic-1.3.12：「溜まる」「貯まる」「堪る」 「溜」と「貯」とを統合し，「溜」とする。
		溜まる	
		貯まる	
		蓄まる	
堪る	タマル	たまる	
		堪る	
溜める	タメル	ためる	UniDic-1.3.12：「溜める」「貯める」
		溜める	
		貯める	
垂らす	タラス	たらす	UniDic-1.3.12：「垂らす」「滴らす」「誑す」 「垂」と「滴」とを統合し，「垂」とする。
		垂らす	
		滴らす	
誑す	タラス	たらす	
		誑す	
費える	ツイエル	ついえる	UniDic-1.3.12：「費える」「潰える」
		費える	
		潰える	
		墜える	
使う	ツカウ	つかう	UniDic-1.3.12：「使う」「遣う」 『大辞林』と『広辞苑』とで書き分けの基準が全く異なる。
		使う	
		費う	
		遣う	
使わす	ツカワス	使わす	UniDic-1.3.12：「使わす」「遣わす」 「使わす」と「遣わす」とは別語。
遣わす	ツカワス	つかわす	
		遣わす	
捕まえる	ツカマエル	つかまえる	UniDic-1.3.12：「捕まえる」「捉まえる」
		捕まえる	
		捉まえる	
		掴まえる	
		攫まえる	
掴む	ツカム	つかむ	UniDic-1.3.12：「掴む」
		掴む	
		攫む	
		把む	
		捕む	

語彙素	語　形	書字形	備　　考
付く	ツク	つく	UniDic-1.3.12：「付く」「着く」「就く」「憑く」「点く」 自然言語処理での応用の可能性を考え，移動動詞「着く」を別語彙素とする。 仮名書き例については，場所を取るなど明らかに移動の動作と見なすことができるものを「着」として扱う。「席につく」なども「着」。 「つく」は複合辞「～について」の「ツク」のみとする。 上記以外の「ツク」は全て「付」とする。
		付く	
		蹤く	
		従く	
		尾く	
		即く	
		憑く	
		点く	
		就く	
		支く	
		活く	
着く	ツク	つく	
		着く	
		著く	
つく	ツク	つく	
突く	ツク	つく	UniDic-1.3.12：「突く」「衝く」「搗く」「築く」「吐く」 「うそをツク」「ため息をツク」のほか，「悪態をツク」も「吐」とする。
		突く	
		撞く	
		搗く	
		衝く	
		築く	
吐く	ツク	つく	
		吐く	
継ぐ	ツグ	つぐ	UniDic-1.3.12：「継ぐ」「次ぐ」「注ぐ」 「次」は「～に次いで」という順序の意のものとする。
		継ぐ	
		嗣ぐ	
次ぐ	ツグ	つぐ	
		次ぐ	
		亜ぐ	
		続ぐ	
注ぐ	ツグ	つぐ	
		注ぐ	
作る	ツクル	つくる	UniDic-1.3.12：「作る」「創る」
		作る	
		創る	
		造る	
		製る	
		粧る	

語彙素	語　形	書字形	備　　考
付ける	ツケル	つける	UniDic-1.3.12：「付ける」「着ける」「点ける」「燗ける」
		付ける	
		附ける	
		着ける	
		尾ける	
		跟ける	
		放ける	
		従ける	
		憑ける	
		点ける	
		燗ける	
		就ける	
浸ける	ツケル	つける	UniDic-1.3.12：「浸ける」「漬ける」
		浸ける	
		漬ける	
蕾む	ツボム	つぼむ	UniDic-1.3.12：「蕾む」「窄む」 「ツボム（窄）」は「スボム（窄む）」の語形に移動。
		蕾む	
吊る	ツル	つる	UniDic-1.3.12：「吊る（吊・釣・攣）」
		吊る	
		釣る	
攣る	ツル	攣る	
勤まる	ツトマル	つとまる	UniDic-1.3.12：「勤まる」「務まる」
		勤まる	
		務まる	
勤める	ツトメル	つとめる	UniDic-1.3.12：「勤める」「務める」「努める」 「努」はヲ格を取らないと考えられるため，分類は比較的容易と想われる。
		勤める	
		務める	
努める	ツトメル	つとめる	
		努める	
		勉める	
		力める	
溶かす	トカス	とかす	UniDic-1.3.12：「溶かす」「梳かす」
		溶かす	
		解かす	
		融かす	
		熔かす	
		鑠かす	
梳かす	トカス	梳かす	

語彙素	語　形	書字形	備　　考
溶ける	トケル	とける	UniDic-1.3.12：「溶ける」「解ける」
		溶ける	
		融ける	
		熔ける	
		釈ける	
解ける	トケル	解ける	
溶く	トク	とく	UniDic-1.3.12：「溶く」「解く」「説く」 「髪をトク」の例が出現した場合，別語彙素「梳」とする。
		溶く	
解く	トク	とく	
		解く	
		釈く	
説く	トク	とく	
		説く	
飛ばす	トバス	とばす	UniDic-1.3.12：「飛ばす」「跳ばす」
		飛ばす	
		跳ばす	
		疾ばす	
閉じる	トジル	とじる	UniDic-1.3.12：「閉じる」「綴じる」
		閉じる	
綴じる	トジル	とじる	
		綴じる	
飛ぶ	トブ	とぶ	UniDic-1.3.12：「飛ぶ」「跳ぶ」
		飛ぶ	
		翔ぶ	
		跳ぶ	
		疾ぶ	
取らす	トラス	とらす	UniDic-1.3.12：「取らす」「撮らす」
		取らす	
		撮らす	
止まる	トマル	とまる	UniDic-1.3.12：「止まる」「泊まる」「留まる」 鳥などが物につかまって休む意や外れたり離れたりしない状態を保つ意で，「止」「留」の両方が使われ得るなど明確に分けることが難しい。
		止まる	
		停まる	
		留まる	
泊まる	トマル	とまる	
		泊まる	
止める	トメル	とめる	UniDic-1.3.12：「止める」「泊める」「停める」
		止める	
		停める	
		駐める	
		留める	

語彙素	語　形	書字形	備　　考
捕らえる	トラエル	とらえる	UniDic-1.3.12：「捕らえる」「捉える」
		捕らえる	
		捉える	
		把える	
		囚える	
捕らわれる	トラワレル	とらわれる	UniDic-1.3.12：「捕らわれる」「囚われる」
		捕らわれる	
		捉われる	
		囚われる	
		擒われる	
		執われる	
取れる	トレル	とれる	UniDic-1.3.12：「取れる」「捕れる」「採れる」「摂れる」「撮れる」「漁れる」「獲れる」「穫れる」
		取れる	
		採れる	
		獲れる	
		穫れる	
		除れる	
取る	トル	とる	UniDic-1.3.12：「取る」「執る」「捕る」「採る」「撮る」「録る」「盗る」
		取る	
		撮る	
		採る	
		盗る	
		録る	
		捕る	
		執る	
		摂る	
		獲る	
		穫る	
		秉る	
		奪る	
		征る	
		除る	
		仇る	
直す	ナオス	なおす	UniDic-1.3.12：「直す」「治す」
		直す	
		治す	
		療す	
直る	ナオル	なおる	UniDic-1.3.12：「直る」「治る」
		直る	
		治る	
		癒る	

語彙素	語　形	書字形	備　　考
泣く	ナク	なく	UniDic-1.3.12：「泣く」「鳴く」 どの辞書も，主体が人か動物かで漢字を使い分ける方針を取る。
		泣く	
		欷く	
		哭く	
		号く	
鳴く	ナク	なく	
		鳴く	
		啼く	
無くす	ナクス	なくす	UniDic-1.3.12：「無くす」「亡くす」 死亡の意は「亡」とする。
		無くす	
		失くす	
		喪くす	
亡くす	ナクス	なくす	
		亡くす	
		喪くす	
無くなる	ナクナル	なくなる	UniDic-1.3.12：「無くなる」「亡くなる」
		無くなる	
		失くなる	
亡くなる	ナクナル	なくなる	
		亡くなる	
		歿くなる	
		没くなる	
成す	ナス	なす	UniDic-1.3.12：「成す」「済す」
		成す	
		生す	
		為す	
済す	ナス	済す	
成る	ナル	なる	UniDic-1.3.12：「成る」「生る」 「成」は格助詞「から」を取り，「生」は格助詞「が」「に」を取るというように格の違いがある。
		成る	
		為る	
		興る	
生る	ナル	なる	
		生る	
慣れる	ナレル	なれる	UniDic-1.3.12：「慣れる」「熟れる」「狎れる」 「慣」「熟」の書き分けが辞書により異なる。
		慣れる	
		馴れる	
		狎れる	
		熟れる	
乗せる	ノセル	のせる	UniDic-1.3.12：「乗せる」「載せる」
		乗せる	
		搭せる	
		載せる	

語彙素	語　形	書字形	備　　考
伸べる	ノベル	伸べる	UniDic-1.3.12：「伸べる」「延べる」
		延べる	
		展べる	
伸ばす	ノバス	のばす	UniDic-1.3.12：「伸ばす」「延ばす」
		伸ばす	
		延ばす	
伸びる	ノビル	のびる	UniDic-1.3.12：「伸びる」「延びる」
		伸びる	
		延びる	
		舒びる	
望む	ノゾム	のぞむ	UniDic-1.3.12：「望む」「臨む」 仮名書き例については，ヲ格を取る場合は「望」とし，ニ格を取る場合は「臨」とする。
		望む	
		希む	
臨む	ノゾム	のぞむ	
		臨む	
上る	ノボル	のぼる	UniDic-1.3.12：「上る」「昇る」「登る」
		上る	
		昇る	
		登る	
乗る	ノル	のる	UniDic-1.3.12：「乗る」「載る」
		乗る	
		載る	
測る	ハカル	はかる	UniDic-1.3.12：「測る」「図る」「諮る」 「諮」はニ格を取り，他とは取る格が異なる。
		測る	
		計る	
		量る	
		度る	
図る	ハカル	はかる	
		図る	
		謀る	
諮る	ハカル	はかる	
		諮る	
履く	ハク	はく	UniDic-1.3.12：「履く」「佩く」
		履く	
		穿く	
佩く	ハク	はく	
		佩く	
掃く	ハク	はく	UniDic-1.3.12：「掃く」「刷く」
		掃く	
刷く	ハク	刷く	

<table>
<tr><th>語彙素</th><th>語　形</th><th>書字形</th><th>備　　考</th></tr>
<tr><td rowspan="2">剥げる</td><td rowspan="2">ハゲル</td><td>はげる</td><td rowspan="4">UniDic-1.3.12：「剥げる」「禿げる」</td></tr>
<tr><td>剥げる</td></tr>
<tr><td rowspan="2">禿げる</td><td rowspan="2">ハゲル</td><td>はげる</td></tr>
<tr><td>禿げる</td></tr>
<tr><td rowspan="3">放す</td><td rowspan="3">ハナス</td><td>はなす</td><td rowspan="3">UniDic-1.3.12：「放す」「離す」</td></tr>
<tr><td>放す</td></tr>
<tr><td>離す</td></tr>
<tr><td rowspan="2">跳ねる</td><td rowspan="2">ハネル</td><td>跳ねる</td><td rowspan="5">UniDic-1.3.12：「跳ねる」「撥ねる」</td></tr>
<tr><td>躍ねる</td></tr>
<tr><td rowspan="3">撥ねる</td><td rowspan="3">ハネル</td><td>はねる</td></tr>
<tr><td>撥ねる</td></tr>
<tr><td>刎ねる</td></tr>
<tr><td rowspan="4">払う</td><td rowspan="4">ハラウ</td><td>はらう</td><td rowspan="4">UniDic-1.3.12：「払う」「祓う」
「ほこりをハラウ」を「払う」とすると，「払」と「祓」との区別はなくなる。</td></tr>
<tr><td>払う</td></tr>
<tr><td>攘う</td></tr>
<tr><td>祓う</td></tr>
<tr><td rowspan="3">張る</td><td rowspan="3">ハル</td><td>はる</td><td rowspan="3">UniDic-1.3.12：「張る」
各辞書とも自他で大きく二分するが，用字上の区別がないため，自他で分けることはしない。</td></tr>
<tr><td>張る</td></tr>
<tr><td>貼る</td></tr>
<tr><td rowspan="3">控える</td><td rowspan="3">ヒカエル</td><td>ひかえる</td><td rowspan="3">UniDic-1.3.12：「控える」
自他の区別があるが，「ハル（張）」と同様の理由により，自他で分けることはしない。</td></tr>
<tr><td>控える</td></tr>
<tr><td>扣える</td></tr>
<tr><td rowspan="3">引き上げる</td><td rowspan="3">ヒキアゲル</td><td>引き上げる</td><td rowspan="3">UniDic-1.3.12：「引き上げる」
自他の区別があるが，「ハル（張）」と同様の理由により，自他で分けることはしない。</td></tr>
<tr><td>引き揚げる</td></tr>
<tr><td>曳き揚げる</td></tr>
</table>

語彙素	語　形	書字形	備　　考
引く (自動詞)	ヒク	ひく	UniDic-1.3.12：「引く」「弾く」「挽く」「轢く」「魅く」「退く」「牽く」 大きく自他で分ける。 他動詞について，楽器をヒクという意の「弾」，押し潰すという意の「挽」，その他一般的なヒッパルという意の「引」に分ける。
		引く	
		退く	
引く (他動詞)	ヒク	ひく	
		引く	
		惹く	
		曳く	
		牽く	
		彎く	
		延く	
		魅く	
		索く	
		退く	
弾く	ヒク	ひく	
		弾く	
		奏く	
挽く	ヒク	ひく	
		挽く	
		碾く	
		轢く	
引ける	ヒケル	ひける	UniDic-1.3.12：「引ける」
		引ける	
吹く	フク	ふく	UniDic-1.3.12：「吹く」「噴く」 各辞書とも自他で大きく二分するが，実例を見ると，書き分けの基準が明確ではない。
		吹く	
		噴く	
振るう	フルウ	ふるう	UniDic-1.3.12：「振るう」「奮う」「震う」「揮う」「篩う」 『国語大』の分類に従う。
		振るう	
		奮う	
		揮う	
		顫う	
震う	フルウ	震う	
		慄う	
篩う	フルウ	ふるう	
		篩う	
触れる	フレル	ふれる	UniDic-1.3.12：「触れる」「振れる」「狂れる」
		触れる	
振れる	フレル	ふれる	
		振れる	
狂れる	フレル	ふれる	
		狂れる	

語彙素	語　形	書字形	備　　考
参る	マイル	まいる	UniDic-1.3.12：「参る」
		参る	
		詣る	
待つ	マツ	まつ	UniDic-1.3.12：「待つ」「俟つ」
		待つ	
		俟つ	
		竢つ	
祭る	マツル	まつる	UniDic-1.3.12：「まつる」「祭る」「奉る」「纏る」 「まつる」は，本来「纏る」に統合すべきもの。
		祭る	
		祀る	
		祠る	
奉る	マツル	奉る	
纏る	マツル	まつる	
		纏る	
見せる	ミセル	みせる	UniDic-1.3.12：「見せる」「魅せる」 仮名書き例については，ヲ格を取っている例を中心に「魅せる」の意であることが明確なもののみ「魅」とする。 「魅する」と「魅せる」とを統合しない。（サ変動詞の下一段化の例が少ないため。）
		見せる	
		診せる	
魅せる	ミセル	魅せる	
見る	ミル	みる	UniDic-1.3.12：「見る」
		見る	
		看る	
		視る	
		観る	
		診る	
		覧る	
		瞥る	
設ける	モウケル	もうける	UniDic-1.3.12：「設ける」「儲ける」
		設ける	
儲ける	モウケル	もうける	
		儲ける	
持つ	モツ	もつ	UniDic-1.3.12：「持つ」
		持つ	
		保つ	
		有つ	
		以つ	
焼く	ヤク	やく	UniDic-1.3.12：「焼く」「妬く」
		焼く	
		灼く	
		妬く	
		嫉く	

語彙素	語　形	書字形	備　　考
止める	ヤメル	やめる	UniDic-1.3.12：「止める」「辞める」
		止める	
		辞める	
		已める	
		廃める	
		罷める	
		退める	
遣る	ヤル	やる	UniDic-1.3.12：遣る
		遣る	
		演る	
		殺る	
		犯る	
		姦る	
		飲る	
		行る	
読む	ヨム	よむ	UniDic-1.3.12：「読む」
		読む	
		詠む	
		誦む	
		訓む	
寄る	ヨル	よる	UniDic-1.3.12：「寄る」「拠る」「因る」
		寄る	
因る	ヨル	よる	
		因る	
		依る	
		拠る	
		縁る	
		由る	
		倚る	
		仍る	
分かれる	ワカレル	わかれる	UniDic-1.3.12：「分かれる」「別れる」 「分」「別」とを書き分けようとする用字意識があることから，二つの語彙素を立てる。
		分かれる	
		岐れる	
別れる	ワカレル	わかれる	
		別れる	
		訣れる	
沸く	ワク	わく	UniDic-1.3.12：「沸く」「涌く」 感情・歓声等について「沸」と「涌」のどちらで書くか明確でない。
		沸く	
		涌く	
		湧く	

表３．１１　同語異語判別結果の一覧（形容詞）

語彙素	語　形	書字形	備　　考
温かい	アタタカイ	あたたかい	UniDic-1.3.12：「温かい」「暖かい」 各辞書とも１項目で，用字注記がない。 仮名書き例を見ると，「温」「暖」の区別の付きにくいものが多い。
		温かい	
		暖かい	
荒い	アライ	あらい	UniDic-1.3.12：「荒い」「粗い」
		荒い	
粗い	アライ	あらい	
		粗い	
暑い	アツイ	あつい	UniDic-1.3.12：「暑い」「熱い」「厚い」
		暑い	
熱い	アツイ	あつい	
		熱い	
厚い	アツイ	あつい	
		厚い	
		篤い	
		敦い	
旨い	ウマイ	うまい	UniDic-1.3.12：「甘い」 語彙素を「甘い」から「旨い」へ変更。
		旨い	
		甘い	
		美味い	
		巧い	
		上手い	
偉い	エライ	えらい	UniDic-1.3.12：「偉い」
		偉い	
		豪い	
遅い	オソイ	おそい	UniDic-1.3.12：「遅い」
		遅い	
		晏い	
		晩い	
賢い	カシコイ	かしこい	UniDic-1.3.12：「賢い」
		賢い	
		畏い	
辛い	カライ	辛い	UniDic-1.3.12：「辛い」
		辣い	
		鹹い	

語彙素	語　形	書字形	備　　考
固い	カタイ	かたい	UniDic-1.3.12：「固い」「難い」
		固い	
		堅い	
		硬い	
		確い	
		剛い	
難い	カタイ	難い	
悲しい	カナシイ	かなしい	UniDic-1.3.12：「悲しい」
		哀しい	
		悲しい	
怖い	コワイ	こわい	UniDic-1.3.12：「怖い」「強い」 「怖」と「強」とは意味が異なるので，二つの語彙素に分ける。 仮名書き例の中に「強」の意のものがわずか見られるものの，一律に「怖」と解析されたとしても大きな問題はないとする。
		怖い	
		恐い	
		怕い	
強い	コワイ	こわい	
		強い	
		剛い	
長い	ナガイ	ながい	UniDic-1.3.12：「長い」
		永い	
		長い	
早い	ハヤイ	はやい	UniDic-1.3.12：「早い」「速い」 仮名書き例には「早」「速」が混在している。 書字形「疾」は「早」「速」のどちらの意味か判別しにくく，このことからも一つの語彙素に統合するのが適当。
		早い	
		速い	
		捷い	
		疾い	
		迅い	
良い	ヨイ	よい	UniDic-1.3.12：「良い」 副詞「良く」は別語彙素。 「うまく」「十分に」「たびたび」の意の連用修飾の用例は，副詞とする。
		良い	
		善い	
		好い	
		佳い	
		快い	
		悦い	
		宜い	

表３．１２　同語異語判別結果の一覧（名詞）

語彙素	語　形	書字形	備　　考
明日	アシタ	あした	UniDic-1.3.12：「明日」「朝」
		明日	
		朝	
		旦	
		晨	
当たり	アタリ	当たり	UniDic-1.3.12：「当たり」「辺り」
		中り	
辺り	アタリ	あたり	
		辺	
		辺り	
網	アミ	あみ	UniDic-1.3.12：「網」「編み」
		網	
編み	アミ	編み	
上	ウエ	うえ	UniDic-1.3.12：「上」「上（接尾辞）」
		上	
		主上	
		表	
上（接尾）	ウエ	上	
うち（代名）	ウチ	うち	UniDic-1.3.12：「うち（代名）」「内」「家」 「内」と「家」との使い分けは雑誌九十種に準拠する。 内 ： かさの～／朝の～に仕事をする／…する～に 家 ： ～が建つ／～の女房／～の人／～の社長 代名詞「うち」は「うちは」「うちら」等の場合のみとし，「うちの父」のような例は代名詞としない。
		内	
内	ウチ	うち	
		内	
		中	
		裡	
		裏	
家	ウチ	うち	
		家	
御上	オカミ	お上	UniDic-1.3.12：「御上」「女将」 内儀の意は，「女将」とする。
		御上	
		主上	
女将	オカミ	おかみ	
		女将	
		女主	
		お内儀	

語彙素	語　形	書字形	備　　考
伯母	オバ	おば	UniDic-1.3.12：「伯母」「祖母」 「祖母」には古典語のフラグを立てる。
		伯母	
		叔母	
		小母	
		姑母	
		姨	
祖母	オバ	祖母	
表	オモテ	おもて	UniDic-1.3.12：「表」 仮名書き例は，「顔」の意が明確な場合に限り「面」とする。
		表	
面	オモテ	おもて	
		面	
係	カカリ	かかり	UniDic-1.3.12：「係り」 「係」は「庶務係」等の担当者の意のものとする。それ以外は，「掛」とする。
		係	
		掛	
掛かり	カカリ	かかり	
		掛かり	
		係り	
籠	カゴ	かご	UniDic-1.3.12：「籠」「駕籠」
		篭	
		籠	
		籃	
駕籠	カゴ	かご	
		駕籠	
		駕篭	
影	カゲ	かげ	UniDic-1.3.12：「影」「陰」 「オカゲサマ」の「カゲ（陰・蔭）」と「影」とを同一語彙素にまとめるのは問題があると思われる。
		影	
陰	カゲ	かげ	
		陰	
		蔭	
		翳	
傘	カサ	かさ	UniDic-1.3.12：「傘」「笠」「暈」「嵩」 「傘」「笠」「暈」はアクセントが同じ。語源も同じと思われる。
		傘	
		笠	
		暈	
嵩	カサ	かさ	
		嵩	
風	カゼ	かぜ	UniDic-1.3.12：「風」「風邪」
		風	
風邪	カゼ	かぜ	
		風邪	

語彙素	語　形	書字形	備　　考
語り	カタリ	かたり	UniDic-1.3.12：「語り」「騙り」
		語り	
騙り	カタリ	かたり	
		騙り	
角	カド	かど	UniDic-1.3.12：「角」「廉」「才」「門」
		角	
廉	カド	かど	
		廉	
才	カド	かど	
		才	
門	カド	かど	
		門	
釜	カマ	かま	UniDic-1.3.12：「釜」「窯」
		釜	
		罐	
窯	カマ	窯	
		竈	

参考資料　助詞・助動詞接続一覧（終止形・連体形接続）

終止形・連体形の判別の参考に供するために，助詞・助動詞のうち活用語の終止形・連体形に接続するものを次に示す。文語の助詞・助動詞の接続は，口語と異なる場合にのみ記載した。

1　助詞（口語終止形接続）

口　語		文　語	
語彙素	接　続	語彙素	接　続
【格助】			
が	終止形		連体形
と	終止形		
に	終止形		連体形
へ	終止形		連体形
を	終止形		連体形
【接助】			
が	終止形		連体形
から	終止形		
けれど	終止形		
し	終止形		
と	終止形		形容詞型活用及び助動詞「ず」には連用形
とも	終止形，形容詞型活用の連用形		
なり	終止形		
【係助】			
こそ	終止形		連体形
なむ	終止形		連体形
は	終止形		連体形
も	終止形		連体形
【副助】			
か	終止形		
かしら	終止形		
きり	終止形		
さえ	終止形		連体形
しか	終止形		
たって	終止形		
だに	終止形		連体形
たら	終止形		
って	終止形		
など	終止形		連体形
なんて	終止形		
や	終止形		
【終助】			
い	終止形		
か	終止形，助動詞「べし」の連体形		連体形
かしら	終止形		
け	終止形		
さ	終止形		
ぜ	終止形		
ぞ	終止形		
たら	終止形		
な	終止形		
ね	終止形		
や	終止形		
よ	終止形		
わ	終止形		

2　助詞（口語連体形接続）

口　語		文　語	
語彙素	接　続	語彙素	接　続
【格助】 の より	連体形，助動詞「だ」の終止形 連体形		連体形
【接助】		に も を	連体形 連体形 連体形
【係助】		か ぞ や	連体形 連体形 終止形（文末用法）
【副助】 くらい だけ のみ ばかり まで どころ ほど	連体形 連体形 連体形 連体形 連体形 連体形 連体形	し	終止形（程度・範囲の意） 連体形（限定の意） 連体形
【終助】 の もの	連体形 連体形，助動詞「だ」「です」の終止形		

3　助動詞

口　語		文　語	
語彙素	接　続	語彙素	接　続
だ です べし らしい	終止形，助動詞「べし」の連体形 終止形，助動詞「べし」の連体形 終止形 終止形	らし	終止形，ラ変の連体形 終止形，ラ変の連体形

参 考 文 献

小木曽智信・中村壮範(2011)『国立国語研究所内部報告書 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』形態論情報データベースの設計と実装 改訂版』(LR-CCG-10-06)

小椋秀樹(2006)「第3章 形態論情報」『国立国語研究所報告124 日本語話し言葉コーパスの構築法』,133-186.

小椋秀樹・小木曽智信・小磯花絵・冨士池優美・相馬さつき(2007)「「現代日本語書き言葉均衡コーパス」の短単位解析について」『言語処理学会第13回年次大会発表論文集』,720-723.

小椋秀樹・小木曽智信・原裕・小磯花絵・冨士池優美(2008)「形態素解析用辞書UniDicへの語種情報の実装と政府刊行白書の語種比率の分析」『言語処理学会第14回年次大会発表論文集』,935-938.

小椋秀樹・小木曽智信・小磯花絵・冨士池優美宮内佐夜香・渡部涼子・竹内ゆかり・小川志乃・小西光・原裕・中村壮範(2009)「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』における形態論情報付与作業の進捗状況」『特定領域研究「日本語コーパス」平成20年度公開ワークショップ(研究成果報告会)予稿集』,57-64

小椋秀樹・小木曽智信・原裕・小磯花絵・宮内佐夜香(2010)「形態素解析用辞書UniDicにおける同語異語判別について」『言語処理学会第16回年次大会発表論文集』,486-489.

グループ・ジャマシイ(1998)『日本語文型辞典』くろしお出版.

国際交流基金・日本国際教育協会(2002)『日本語能力試験 出題基準〔改訂版〕』凡人社

国立国語研究所(1962)『国立国語研究所報告21 現代雑誌九十種の用語用字(1)』秀英出版.

国立国語研究所(1964)『国立国語研究所報告25 現代雑誌九十種の用語用字(3)』秀英出版.

国立国語研究所(1987)『国立国語研究所報告89 雑誌用語の変遷』秀英出版.

国立国語研究所(1995)『国立国語研究所報告112 テレビ放送の語彙調査Ⅰ』秀英出版.

国立国語研究所(2001)『現代複合辞用例集』.

伝康晴・小木曽智信・小椋秀樹・山田篤・峯松信明・内元清貴・小磯花絵「コーパス日本語学のための言語資源 ― 形態素解析用電子化辞書の開発とその応用 ―」『日本語科学』22,101-122,国書刊行会

長坂泰治・坂本明子・宇津呂武仁・森下洋平・松吉俊・土屋雅稔(2009)「階層的機能表現辞書に基づく新聞記事中の機能表現の調査・分析」『NLP若手の会 第4回シンポジウム予稿』,1-8.

中野洋(1998)「言語の統計」『岩波講座言語の科学9 言語情報処理』,149-199,岩波書店.

永野賢(1986)『文章論総説』朝倉書店.

林大監修(1982)『角川小辞典9 図説日本語』角川書店.

ピンカー, スティーブン(1995)椋田直子訳『言語を生み出す本能(上)(下)』日本放送出版協会.

冨士池優美・小椋秀樹・小木曽智信・小磯花絵・内元清貴・相馬さつき・中村壮範(2008)「「現代日本語書き言葉均衡コーパス」の長単位認定基準について」『言語処理学会第14回年次大会発表論文集』931-934.

前川喜久雄(2006)「特定領域研究「日本語コーパス」のめざすもの」『特定領域「日本語コーパス」平成18年度全体会議予稿集』,1-8.

前川喜久雄(2008)「KOTONOHA『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の開発」『日本語の研究』4-1,82-95.

前田富祺(1985)『国語語彙史研究』明治書院.

松木正恵(1990)「複合辞の認定基準・尺度設定の試み」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』2,27-52

松木正恵(2009)「複合辞研究史(7)「複合辞」の体系化をめざして：認定基準の設定と複合辞一覧」『早稲田大学教育学部　学術研究：国語・国文学編』57,1-12.

松吉俊・佐藤理史・宇津呂武仁(2007)「日本語機能表現辞書の編纂」『自然言語処理』14(5),123-146.

松吉俊・佐藤理史(2008)「文体と難易度を制御可能な日本語機能表現の言い換え」『自然言語処理』15(2),75-99.

松吉俊・佐藤理史(2008)『つつじ：日本語機能表現辞書』(http://kotoba.nuee.nagoya-u.ac.jp/tsutsuji/)

森田良行・松木正恵(1989)『NAFL選書5　日本語表現文型　用例中心・複合辞の意味と用法』株式会社アルク.

山崎誠(2007)「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の基本設計について」『特定領域「日本語コーパス」平成18年度公開ワークショップ（研究成果報告会）予稿集』127-136.

Uchimoto, K., & Isahara, H. (2007). Morphological annotation of a large spontaneous speech corpus in Japanese, Proceedings of IJCAI, pp.1731-1737.

資料　要注意語

資 料　要注意語

「— が ～」

ID	代表形 代表表記	品詞 注記	活用型・その他	接続	異形態
568	アメガシタ 天が下	名詞-普通名 詞-一般			
	【天が下】のすべての事には季節があり				
660	アラシガオカ 嵐が丘	名詞-固有名 詞-一般 映画タイトル，書名。			
	映画「【嵐が丘】」に付けた音楽がＣＤ化された。				
569	カリガネ 雁が音	名詞-普通名 詞-一般			
	【雁が音】の聞こゆる空よ月立ち渡る				
570	キミガヨ 君が代	名詞-固有名 詞-一般 『岩波国語辞典』になし。			
	日の丸・【君が代】を国旗・国歌とすることに				
571	ケンガミネ 剣が峰	名詞-普通名 詞-一般			
	まさに【剣が峰】の一番である。				
574	マンガイチ 万が一	名詞-普通名 詞-副詞可能			
	【万が一】リプレイハズシに失敗した場合				

「— の ～」

ID	代表形 代表表記	品詞 注記	活用型・その他	接続	異形態
315	アイノコ 合の子	名詞-普通名 詞-一般			
	内大臣と夕顔の【間の子】である				
316	アイノテ 合の手	名詞-普通名 詞-一般			
	【合の手】を入れた				

317 **アカノマンマ**
赤の飯
名詞-普通名
詞-一般

こんなめでたい【赤の飯】はない。

291 **アサノハ**
麻の葉
名詞-普通名
詞-一般

【麻の葉】とか七宝とか

701 **アサノミ**
麻の実
名詞-普通名
詞-一般

292 **アジノモト**
味の素
名詞-固有名
詞-一般
『岩波国語辞典』になし。

アジシオとか【味の素】、タバスコなどを

675 **アシノヤ**
葦の矢
名詞-普通名
詞-一般

陰陽寮から桃の杖と弓、【葦矢】が配られた殿上人が、

319 **アマノガワ**
天の川
名詞-普通名
詞-一般

別るるや夢一筋の【天の川】

320 **アマノジャク**
天の邪鬼
名詞-普通名
詞-一般

僕は昔から【天の邪鬼】で、誕生日というのが好きじゃなかった。

663 **アマノハシダテ**
天の橋立
名詞-固有名
詞-地名-一般

京都府宮津市の【天の橋立】などが有名。

321 **アマノハラ**
天の原
名詞-普通名
詞-一般

322 **アリノトウ**
蟻の塔
名詞-普通名
詞-一般

【蟻の塔】を積むやうぢやア

293 **アリノママ**
有りの儘
名詞-普通名
詞-副詞可能

【ありのまま】のわんこを撮り続けて行きたい

676 **アリノミ**
有の実
名詞-普通名
詞-一般

323 アンノジョウ　副詞
案の定

【案の定】品切れで手に入りにくく、

325 イキノネ　名詞-普通名詞-一般
息の根

たちどころに襲われて【息の根】をとめられる

326 イタノマ　名詞-普通名詞-一般
板の間

二人は靴を脱いで【板の間】にあがった。

327 イチノゼン　名詞-普通名詞-一般
一の膳

この【一の膳】の後に、家長からお酒が一人一人に注がれ、

328 イチノトリ　名詞-普通名詞-一般
一の酉

十一月５日は　【一の酉】

677 イツキノミヤ　名詞-普通名詞-一般
斎宮

姫宮さま方が【斎宮】や斎院にお立ちになって

678 イノコ　名詞-普通名詞-一般
猪子

329 イノフ　名詞-普通名詞-一般
胃の腑

二切れあったのをまたたく間に【胃の腑】におさめた。

679 イボタノキ　名詞-普通名詞-一般
いぼたのき

680 イボタノムシ　名詞-普通名詞-一般
いぼたのむし

330 ウオノメ　名詞-普通名詞-一般
魚の目

幼稚園の時【魚の目】が出来ました。

331 ウシノヒ　名詞-普通名詞-一般
丑の日

332 ウソノカワ
嘘の皮
名詞-普通名詞-一般

334 ウノケ
兎の毛
名詞-普通名詞-一般

どんどん【兎の毛】の根元のほうへともぐりこむ。

335 ウノハナ
卯の花
名詞-普通名詞-一般

楽浪の志賀の【卯の花】腐しかな

337 ウマノホネ
馬の骨
名詞-普通名詞-一般

どこの【馬の骨】ともわからないような

338 ウミノオヤ
生みの親
名詞-普通名詞-一般

おまえの【生みの親】は小学校の教師だったらしい

339 ウミノコ
生みの子
名詞-普通名詞-一般

【生みの子】と義理ある子

340 ウワノソラ
上の空
名詞-普通名詞-形状詞可能

皆がわいわい言っている言葉を【上の空】で聞いていた。

681 エゴノキ
えごのき
名詞-普通名詞-一般

そこらに生えている樫の木や椎の木、【エゴノキ】やムラサキシキブ、

294 エノグ
絵の具
名詞-普通名詞-一般

白いエナメル【絵の具】で議員名を記す。

682 エノコ
えのこ
名詞-普通名詞-一般

343 エンノシタ
縁の下
名詞-普通名詞-一般

【縁の下】の力持ち登場！

344 オクノイン
奥の院
名詞-普通名詞-一般

本堂の下の道を北に行くと【奥の院】がある。

345 **オクノテ**
奥の手
名詞-普通名詞-一般

実は【奥の手】がある。

346 **オシエノニワ**
教えの庭
名詞-普通名詞-一般

347 **オチャノコ**
お茶の子
名詞-普通名詞-一般

348 **オテノモノ**
お手の物
名詞-普通名詞-一般

甘い言葉は【お手の物】

295 **オトコノコ**
男の子
名詞-普通名詞-一般

天主の人らは【男の子】が出来た時だけ、

349 **オノエ**
尾の上
名詞-普通名詞-一般

ほほ、背、腰、腿の外側、【尾の上】のほうがわずかに黒味がかっている。

296 **オモイノタケ**
思いの丈
名詞-普通名詞-一般

自由に【思いの丈】を書ける

297 **オモイノホカ**
思いの外
副詞

【思いのほか】落ち込む曲が多いと思ったし

298 **オンナノコ**
女の子
名詞-普通名詞-一般

可愛い【女の子】と文通してみたいなあ。

350 **オンノジ**
御の字
名詞-普通名詞-一般

「ありがたい」「しめたものだ」の意。

損しなかっただけ【御の字】です

352 **カギノテ**
鉤の手
名詞-普通名詞-一般

【鉤の手】に曲って見るか

353 **カゴノトリ**
籠の鳥
名詞-普通名詞-一般

日本から一歩も出ることのできない【籠の鳥】である。

354 カジノキ 名詞-普通名詞-一般
梶の木

355 カズノコ 名詞-普通名詞-一般
数の子

ニシンの卵は“【数の子】”

356 カゼノカミ 名詞-普通名詞-一般
風の神

古くから信仰された【風の神】であった。

357 カゼノコ 名詞-普通名詞-一般
風の子

子供は【風の子】ですから

358 カゼノタヨリ 名詞-普通名詞-一般
風の便り

359 カタノゴトク 名詞-普通名詞-一般
型の如く

360 カノコ 名詞-普通名詞-一般
鹿の子

適当な大きさの【鹿の子】絞りにして

361 カバノキ 名詞-普通名詞-一般
樺の木

【カバノキ】やハシバミそれに落葉ナラの

362 カミノキ 名詞-普通名詞-一般
紙の木

300 カミノク 名詞-普通名詞-一般
上の句

一首のなかで【上の句】と下の句とが合せてあります

299 カミノケ 名詞-普通名詞-一般
髪の毛

『岩波国語辞典』になし。

あんなに【髪の毛】がワッサワッサしてたら

363 カメノコ 名詞-普通名詞-一般
亀の子

皮をよく【亀の子】だわしでこすって洗い

364 カメノコウ　名詞-普通名
亀の甲　詞-一般

【亀の甲】状に「町」が連鎖していくパターンができる。

365 カモノハシ　名詞-普通名
鴨の嘴　詞-一般

【カモノハシ】は何を食べますか？

366 カリノヨ　名詞-普通名
仮の世　詞-一般

この世が修行のための【仮の世】であり

367 カンノキ　名詞-普通名
貫の木　詞-一般

368 カンノムシ　名詞-普通名
疳の虫　詞-一般

夜泣きや【かんのむし】を鎮めてくれるのが

369 キタノカタ　名詞-普通名
北の方　詞-一般

一条長成の【北の方】として、鷹司の邸の奥に暮している常磐には

370 キタノマル　名詞-普通名
北の丸　詞-一般

『岩波国語辞典』になし。

皇居、【北の丸】に設けられた

371 キノカシラ　名詞-普通名
木の頭　詞-一般

両袖を開くのが【木の頭】で、

373 キノジ　名詞-普通名
喜の字　詞-一般

ええと、いくつかな、【喜の字】の祝いをしたのが、

301 キノドク　形状詞-一般
気の毒

他の人たちは、【気の毒】だが

374 キノミ　名詞-普通名
木の実　詞-一般

『岩波国語辞典』になし。

十月の草原で、【木の実】のかおりをかぎながら

302 キノメ　名詞-普通名
木の芽　詞-一般

サンショウの芽の意。

【木の芽】を何か乗せると

375 **キノヤマイ** 名詞-普通名詞-一般
気の病

【気の病】のようなものですから。

376 **グウノネ** 名詞-普通名詞-一般
ぐうの音

【ぐうの音】もでなかった。

378 **クサノネ** 名詞-普通名詞-一般
草の根

【草の根】主義の成果だ

683 **クスノキ** 名詞-普通名詞-一般
樟

樹齢二千年を超えるという御神木の【楠】を仰ぎ見る。

379 **クチノハ** 名詞-普通名詞-一般
口の端

684 **クノイチ** 名詞-普通名詞-一般
くのいち

江戸へ行っている【くノ一】たちの中では、最年少の娘だ。

381 **クマノイ** 名詞-普通名詞-一般
熊の胆

熊の胆嚢を乾燥させて作られる「【熊の胆】」

662 **クマノミ** 名詞-普通名詞-一般
熊之実

ツノダシチョウチョウウオ【クマノミ】その他色々

384 **コウノモノ** 名詞-普通名詞-一般
香の物

たくあんやぬか漬けなど【香の物】が並べられました。

385 **コウノモノ** 名詞-普通名詞-一般
剛の者

すばらしい【剛の者】だ。

386 **コシノモノ** 名詞-普通名詞-一般
腰の物

彦次郎の【腰の物】まで卯平のところに質に入れてしまっていた。

388 **コトノハ**
言の葉
名詞-普通名詞-一般

【言の葉】のぴらぴら降れば

389 **コトノホカ**
殊の外
副詞

桜を【ことのほか】好きだったように思います。

303 **コノシタ**
木の下
名詞-普通名詞-一般

桜散る【このした】風はさむからで

390 **コノハ**
木の葉
名詞-普通名詞-一般

主な食べ物は，【木の葉】や果実である。

391 **コノマ**
木の間
名詞-普通名詞-一般

【木の間】をビューッと吹き抜け。

392 **コノミ**
木の実
名詞-普通名詞-一般

植物は熟した【木の実】を必ず水の中に落とし

393 **コノメ**
木の芽
名詞-普通名詞-一般

685 **コノワタ**
海鼠腸
名詞-普通名詞-一般

なまこ（海鼠）・【このわた】（【海鼠腸】）・かかな（めばる、鮴）

394 **サイノカワラ**
賽の河原
名詞-普通名詞-一般

【賽の河原】で石を積む

395 **サイノメ**
采の目
名詞-普通名詞-一般

クリームチーズを【さいの目】に切って

397 **サルノコシカケ**
猿の腰掛
名詞-普通名詞-一般

【サルノコシカケ】がひさしのようになってはえていて

398 **サンノゼン**
三の膳
名詞-普通名詞-一般

お酒が配られ、【三の膳】に移る。

399 サンノトリ　名詞-普通名詞-一般
三の酉

今年は【三の酉】まである年のよう。

400 サンノマル　名詞-普通名詞-一般
三の丸

城の水の手は【三の丸】の崖下にあった。

401 シナノキ　名詞-普通名詞-一般
科の木

菩提樹　【シナノキ】科の落葉高木。

402 シノハイ　名詞-普通名詞-一般
死の灰

ウランなどの核分裂でできる【死の灰】に含まれる放射能

304 シモノク　名詞-普通名詞-一般
下の句

一首の【下の句】を詠みかけてきた。

403 ジャノヒゲ　名詞-普通名詞-一般
蛇の髭

404 ジャノメ　名詞-普通名詞-一般
蛇の目

番傘、【蛇の目】の傘などの油張りのもの

405 ジョノクチ　名詞-普通名詞-一般
序の口

だがそれはほんの【序の口】だった。

406 シラベノオ　名詞-普通名詞-一般
調べの緒

407 スエノヨ　名詞-普通名詞-一般
末の世

【末の世】のかなしき麦を打ちにけり

661 スズカケノキ　名詞-普通名詞-一般
篠懸の木

408 スノコ　名詞-普通名詞-一般
簀の子

底面に【簀の子】状の板が敷いてあり

409 スノモノ　名詞-普通名詞-一般
酢の物

【酢の物】として食べるのが定番

410 セキノヤマ　名詞-普通名詞-一般
関の山

この程度が【関の山】なのだ。

411 セノキミ　名詞-普通名詞-一般
兄の君

おせいさんの【背の君】のことが思い出される。

412 ソデノシタ　名詞-普通名詞-一般
袖の下

【袖の下】（賄賂）を使って見逃してもらう

413 ダイノジ　名詞-普通名詞-一般
大の字

【大の字】になって寝る

414 タケノコ　名詞-普通名詞-一般
竹の子

雨後の【竹の子】のようだ。

415 タコノキ　名詞-普通名詞-一般
蛸の木

416 タツノオトシゴ　名詞-普通名詞-一般
竜の落とし子

【竜の落とし子】に似た形をしている

417 タノモ　名詞-普通名詞-一般
田の面

【田の面】や畦道に落ちちらばった稲の穂

418 タビノソラ　名詞-普通名詞-一般
旅の空

419 タマノアセ　名詞-普通名詞-一般
玉の汗

422 タラノキ　名詞-普通名詞-一般
たらの木

【タラノキ】の芽の天ぷら

423 タラノコ　名詞-普通名詞-一般
鱈の子

かじればシンから出てくる梅干、おカカ、卵焼、塩鮭、【鱈の子】

425 チノイケ　名詞-普通名詞-一般
血の池

地獄の【血の池】のような見るからに辛いぞ

427 チノケ　名詞-普通名詞-一般
血の気

ハリファの顔から【血の気】が失せた。

429 チノミチ　名詞-普通名詞-一般
血の道

腹の足しにも【血の道】の薬にもならない

432 チノワ　名詞-普通名詞-一般
茅の輪

たましひのかたちを想ふ【茅の輪】かな

433 チャノコ　名詞-普通名詞-一般
茶の子

一桁の足し算、引き算はお【茶の子】さいさいになりました

305 チャノマ　名詞-普通名詞-一般
茶の間

高度成長期の【茶の間】を再現。

434 チャノユ　名詞-普通名詞-一般
茶の湯

【茶の湯】のたしなみのない人もその風流な雰囲気に

435 ツカノマ　名詞-普通名詞-一般
束の間

【束の間】の船長気分を堪能。

436 ツキノカツラ　名詞-普通名詞-一般
月の桂

その木の葉に宿る露を「【月の桂】」と呼び、

437 ツキノサワリ　名詞-普通名詞-一般
月の障り

レンゲは【月の障り】の最中だった。

438 ツギノマ　名詞-普通名詞-一般
次の間

藩主明成の居室の【次の間】に侍っていた

439 ツキノモノ 月の物 名詞-普通名詞-一般

440 ツキノワ 月の輪 名詞-普通名詞-一般

北アルプスには【ツキノワ】グマ、それにカモシカがいる

442 デクノボウ 木偶の坊 名詞-普通名詞-一般

【木偶の坊】みたいに突っ立ってる

443 テツノハイ 鉄の肺 名詞-普通名詞-一般

444 テノウチ 手の内 名詞-普通名詞-一般

互いに【手の内】を見せ合っていた。

445 テノウラ 手の裏 名詞-普通名詞-一般

社長の、【手の裏】を返すようなこの態度

446 テノコウ 手の甲 名詞-普通名詞-一般

ほお紅下地を【手の甲】に取り

447 テノスジ 手の筋 名詞-普通名詞-一般

【手の筋】を眺めたり、なんとなく目をパチパチさせたり、

448 テノヒラ 掌 名詞-普通名詞-一般

【掌】で包んだ湯飲みを見つめ、

449 テノモノ 手の者 名詞-普通名詞-一般

織田の【手の者】だ。

450 テノモノ 手の物 名詞-普通名詞-一般

言葉で相手を惑わすのはお【手の物】

451 ドウノマ 胴の間 名詞-普通名詞-一般

【胴の間】に釣り座を確保

452 **トキノコエ** 名詞-普通名詞-一般
鬨の声

十万の戦士が【鬨の声】をあげた。

453 **トキノマ** 名詞-普通名詞-一般
時の間

広い練兵場は【時の間】、しいんとふかい白日の沈黙におちいる。

454 **トコノマ** 名詞-普通名詞-一般
床の間

正面の【床の間】を背にして座った白鳥医師を中心に、

455 **トシノイチ** 名詞-普通名詞-一般
年の市

浅草観音の【年の市】

456 **トシノウチ** 名詞-普通名詞-一般
年の内

【年の内】に春立ちにけり

457 **トシノクレ** 名詞-普通名詞-一般
年の暮れ

この【年の暮れ】にＧＣＳＢ職員が

459 **トシノセ** 名詞-普通名詞-一般
年の瀬

【年の瀬】も押し詰まったこの時期の

460 **トチノキ** 名詞-普通名詞-一般
栃の木

本来の材質は【栃の木】で、

462 **トノコ** 名詞-普通名詞-一般
砥の粉

継ぎ目のところに、【砥の粉】で継ぎ目がないように見せます

463 **トノモ** 名詞-普通名詞-一般
外の面

その夜、【外の面】は春の塵風が荒れ、

464 **トビノウオ** 名詞-普通名詞-一般
飛びの魚

二つら三つら【飛の魚】すべりて安し。

465 トビノモノ　名詞-普通名
鳶の者　詞-一般

梯子なんかを担いで走っていた【鳶の者】です。

466 トラノオ　名詞-普通名
虎の尾　詞-一般

八右衛門は【虎の尾】を踏む思いで、

467 トラノコ　名詞-普通名
虎の子　詞-一般

４１兆円の【虎の子】の税金からいただくのだ。

468 トラノマキ　名詞-普通名
虎の巻　詞-一般

『法名用字範』といった【虎の巻】を片手に

469 トリノイチ　名詞-普通名
酉の市　詞-一般

【酉の市】で広弐屋の親子と出会った。

470 トリノコ　名詞-普通名
鳥の子　詞-一般

伝統的材料の【鳥の子】紙を用い、

471 トリノマチ　名詞-普通名
酉の待　詞-一般

686 ドロノキ　名詞-普通名
白楊　詞-一般

最近頭角を現した若い詩人が【白楊】の憂愁さを扱った詩の

472 ナカノクチ　名詞-普通名
中の口　詞-一般

【中の口】の格子の音がして

473 ナカノマ　名詞-普通名
中の間　詞-一般

宴会に備えての準備を指図して【中の間】に入り

474 ナキノナミダ　名詞-普通名
泣きの涙　詞-一般

475 ナゴリノツキ　名詞-普通名
名残の月　詞-一般

476 ナナツノウミ　名詞-普通名
七つの海　詞-一般

蒸気船の発明などにより【七つの海】を股にかけて航海し、

477 ナノハナ　名詞-普通名
菜の花　詞-一般

ゴールデンウイークは【菜の花】、桜が見頃。

479 ナミノホ　名詞-普通名
波の穂　詞-一般

481 ニシノウチ　名詞-普通名
西の内　詞-一般

【西の内】紙は、那須楮の繊維だけで漉かれている。

482 ニノアシ　名詞-普通名
二の足　詞-一般

開発には【二の足】を踏んだかもしれない

483 ニノウデ　名詞-普通名
二の腕　詞-一般

たかの友梨に行って美しい【二の腕】に仕上げなきゃ

484 ニノカワリ　名詞-普通名
二の替わり　詞-一般

三月の【二の替り】に、西鶴の『凱陣八嶋』を出した

485 ニノク　名詞-普通名
二の句　詞-一般

しばらく【二の句】が継げなかった。

486 ニノゼン　名詞-普通名
二の膳　詞-一般

食事はいつも【二の膳】、三の膳つき

487 ニノツギ　名詞-普通名
二の次　詞-一般

誰に師事するかは【二の次】であった。

488 ニノトリ　名詞-普通名
二の酉　詞-一般

この夜【二の酉】なりといへど

489 ニノマイ　名詞-普通名
二の舞　詞-一般

父の【二の舞い】にならないとは限らない。

490 **ニノマル** 名詞-普通名詞-一般
二の丸

この大手三之門内から【二の丸】となる。

491 **ニノヤ** 名詞-普通名詞-一般
二の矢

景行が【二の矢】を放つ。

306 **ネンノタメ** 名詞-普通名詞-一般
念の為

【念のため】にここまでお供いたしましたが

687 **ノノミヤ** 名詞-普通名詞-一般
野の宮

六条の御息所は、【野の宮】移従の折にも趣向を凝らし、

493 **ノミノイチ** 名詞-普通名詞-一般
蚤の市

フランスの【蚤の市】での仕入れ品

494 **バケノカワ** 名詞-普通名詞-一般
化けの皮

【化けの皮】を剥がす

688 **ハゼノキ** 名詞-普通名詞-一般
黄櫨

495 **ハチノアタマ** 名詞-普通名詞-一般
蜂の頭

496 **ハチノコ** 名詞-普通名詞-一般
鉢の子

【鉢の子】の中は空っぽ

497 **ハチノス** 名詞-普通名詞-一般
蜂の巣

【蜂の巣】をつついたような大騒ぎ

498 **ハツヒノデ** 名詞-普通名詞-一般
初日の出

山頂から【初日の出】を見る

499 **ハラノムシ** 名詞-普通名詞-一般
腹の虫

【腹の虫】がおさまらない

500 ハリノキ 名詞-普通名詞-一般
榛の木

501 ハンノキ 名詞-普通名詞-一般
榛の木

真っすぐに生えている【榛の木】と楓

502 パンノキ 名詞-普通名詞-一般
パンの木

503 ヒノイリ 名詞-普通名詞-一般
日の入り

【日の入り】時間のチェックをお忘れなく。

504 ヒノクルマ 名詞-普通名詞-一般
火の車

お隣りは外車で我が家【火の車】

505 ヒノケ 名詞-普通名詞-一般
火の気

【火の気】のないテントの中は寒く、

506 ヒノコ 名詞-普通名詞-一般
火の粉

【火の粉】が舞いあがった。

507 ヒノタマ 名詞-普通名詞-一般
火の玉

【火の玉】が飛び交う

508 ヒノテ 名詞-普通名詞-一般
火の手

町に【火の手】があがり、

307 ヒノデ 名詞-普通名詞-一般
日の出

【日の出】を迎えることができた。

509 ヒノバン 名詞-普通名詞-一般
火の番

提灯の【火の番】をしていた

510 ヒノマル 名詞-普通名詞-一般
日の丸

ロビーに【日の丸】を掲げるように要求した

511 ヒノミ 名詞-普通名
火の見 詞-一般

訪れる人は隣りの【火の見】櫓を目印に

512 ヒノメ 名詞-普通名
日の目 詞-一般

【日の目】を見なかったかつての極秘文書をベースに

513 ヒノモト 名詞-普通名
日の本 詞-一般

「【日の本】（もと）の国」

514 ヒノモト 名詞-普通名
火の元 詞-一般

「【火の元】に、注意してください」

515 フキノトウ 名詞-普通名
蕗の薹 詞-一般

【蕗の薹】の天麩羅

516 フクノカミ 名詞-普通名
福の神 詞-一般

家族は「素行の悪い、【福の神】」と呼んでいる

517 フシノキ 名詞-普通名
五倍子の木 詞-一般

518 ヘソノオ 名詞-普通名
臍の緒 詞-一般

第一の誕生の際に【臍の緒】の代わりとなった母乳は、

519 ホオノキ 名詞-普通名
朴の木 詞-一般

巨大な【朴の木】を手彫りした捏鉢

521 ホトケノザ 名詞-普通名
仏の座 詞-一般

春の七草の【仏の座】

522 ホノジ 名詞-普通名
ほの字 詞-一般

『岩波国語辞典』になし。

此處の坊んちに【ほの字】や

523 **ボンノクボ**
盆の窪
名詞-普通名
詞-一般

後頭部と首の境目にある、【盆の窪】

524 **マクノウチ**
幕の内
名詞-普通名
詞-一般

ルームサービスで【幕の内】弁当をたのんだが

525 **マゴノテ**
孫の手
名詞-普通名
詞-一般

日用品としての「【孫の手】」は、米英では見かけません。

526 **マタノナ**
又の名
名詞-普通名
詞-一般

大窪逸人【又の名】を「エスピー」と云ふ

527 **マタノヒ**
又の日
名詞-普通名
詞-一般

【又の日】を期して

528 **マツノウチ**
松の内
名詞-普通名
詞-一般

正月【松の内】を過ぎた頃

308 **マノアタリ**
目の当たり
名詞-普通名
詞-副詞可能

現実を【目の当たり】にしていたのである

529 **ミズノアワ**
水の泡
名詞-普通名
詞-一般

すべて【水の泡】である。

530 **ミズノテ**
水の手
名詞-普通名
詞-一般

城の【水の手】は三の丸の崖下にあった。

702 **ミチノシ**
道師
名詞-普通名
詞-一般

真人・朝臣・宿禰・忌寸・【道師】・臣・連・稲置

531 **ミチノベ**
道の辺
名詞-普通名
詞-一般

【道の辺】の草の花

532 **ミナノシュウ**
皆の衆
名詞-普通名
詞-一般

良いか【皆の衆】。

309 ミノウエ 身の上 名詞-普通名詞-一般

いまひとつ役割に恵まれない【身の上】を、

533 ミノケ 身の毛 名詞-普通名詞-一般

【身の毛】がよだつ思い

534 ミノシロ 身の代 名詞-普通名詞-一般

【身の代】金目的略取等,

535 ミノタケ 身の丈 名詞-普通名詞-一般

自分の【身の丈】に合った生活

310 ミノホド 身の程 名詞-普通名詞-一般

人間は【身の程】を知るべきです

311 ミノマワリ 身の回り 名詞-普通名詞-一般

われわれの【身のまわり】は、

536 ムカウノサト 無何有の郷 名詞-普通名詞-一般

537 ムギノアキ 麦の秋 名詞-普通名詞-一般

538 ムクノキ 椋の木 名詞-普通名詞-一般

庭でいちばん高い【椋の木】

539 ムシノイキ 虫の息 名詞-普通名詞-一般

既に【虫の息】のようだった。

540 ムスビノカミ 結びの神 名詞-普通名詞-一般

【結びの神】の引合せねえ

312 メノカタキ 目の敵 名詞-普通名詞-一般

伝統芸能まで【目の敵】にするような

541 メノコ 名詞-普通名詞-一般
目の子

大ざっぱな【目の子】勘定

543 メノタマ 名詞-普通名詞-一般
目の玉

二つの【目の玉】が飛び出してしもうての、

544 モチノキ 名詞-普通名詞-一般
黐の木

ツバキや【モチノキ】などの常緑樹

545 モッテノホカ 形状詞-一般
以ての外

「魚を裏返すなど【もってのほか】！」とエキサイト。

546 モノノカズ 名詞-普通名詞-一般
物の数

仮説などは【物の数】ではない

547 モノノグ 名詞-普通名詞-一般
物の具

体の上に【物の具】がからから鳴った。

548 モノノケ 名詞-普通名詞-一般
物の怪

【物の怪】がついたように病んでおります

549 モノノホン 名詞-普通名詞-一般
物の本

いろいろな【物の本】によると

550 ヤノジ 名詞-普通名詞-一般
やの字

551 ヤノネ 名詞-普通名詞-一般
矢の根

【矢の根】には奥地の土族が好んで用いる鳥兜の毒が

552 ヤブノナカ 名詞-普通名詞-一般
藪の中

真相は【藪の中】

553 ヤマノイモ 名詞-普通名詞-一般
山の芋

【山の芋】をおろしてすってあるもの

554 ヤマノカミ 名詞-普通名詞-一般
山の神

水の神、【山の神】としてこの土地を守ってきた

555 ヤマノサチ 名詞-普通名詞-一般
山の幸

313 ヤマノテ 名詞-普通名詞-一般
山の手

【山の手】の閑静な雰囲気を漂わせている

556 ヤマノハ 名詞-普通名詞-一般
山の端

ビルのかなたの【山の端】

557 ユキノシタ 名詞-普通名詞-一般
雪の下

【ユキノシタ】科の落葉小低木です。

558 ユノハナ 名詞-普通名詞-一般
湯の華

有名温泉の【湯の華】

689 ユリノキ 名詞-普通名詞-一般
百合樹

散歩の途中で【百合樹】の太い幹からひょいと伸びた小枝を

559 ヨイノクチ 名詞-普通名詞-一般
宵の口

時間はまだ【宵の口】

560 ヨノギ 名詞-普通名詞-一般
余の儀

314 ヨノナカ 名詞-普通名詞-一般
世の中

【世の中】で色々なことが起きている

562 ヨノナライ 名詞-普通名詞-一般
世の習い

563 ヨノメ 名詞-普通名詞-一般
夜の目

【夜の目】を寝ずに

564 **リュウノヒゲ**
竜の鬚
名詞-普通名詞-一般

565 **ロウノキ**
蝋の木
名詞-普通名詞-一般

566 **ワキノシタ**
脇の下
名詞-普通名詞-一般

体温計は、耳式と通常の【脇の下】や舌先で測定できる

567 **ワタノハラ**
海の原
名詞-普通名詞-一般

助詞

ID	代表形 代表表記	品詞 注記	活用型・その他	接続	異形態
158	**イ** **い**	助詞	終助詞	活用語には終止形，命令形	

「一緒に来るか【い】」
あとをつけているんだ【い】？
ほう、そうか【い】。これは恐れ入りました。

159	**カ** **か**	助詞	副助詞	活用語には終止形，助動詞「べし」には連体形	

何と【か】ならないものだろうか。
文化的な背景と【か】、
本物【か】どう【か】の疑問が残る。
反発を感じる人も多い【か】もしれない。

160	**カ** **か**	助詞	終助詞	活用語には終止形，ただし助動詞「べし」には連体形	

/か/い[終助詞]/，/か/な[終助詞]/
次回の検討会はいつです【か】？
【か】と言って、相手の言いなりになって
チョウチョ【か】な？

161	**ガ** **が**	助詞	格助詞		

認定委員会【が】認めた

162	**ガ** **が**	助詞	接続助詞	活用語には終止形	

印象しかないんだろう【が】、
だ【が】東欧加盟の見通しは険しい。

163 カシラ　助詞　副助詞　活用語には終止形
かしら

何【かしら】の情報はつかめるし、

164 カシラ　助詞　終助詞　活用語には終止形
かしら

どのくらい変わっている【かしら】？
なにをしようとしているの【かしら】？

165 カラ　助詞　格助詞
から

その動機【から】して
それ【から】もう一人、

166 カラ　助詞　接続助詞　活用語には終止形
から

だ【から】、肌にうるおいも出てきます。
此処を真如堂と言う【から】には
仲介に乗り出す【から】

167 キリ　助詞　副助詞　活用語には終止形　ッキリ
きり

あれ【っきり】、旅宿中は、
二人【きり】になりたいとか思って、
寝た【きり】の状態でありながら

168 クライ　助詞　副助詞　活用語には連体形　グライ
くらい

どの【くらい】効果があるの？
目標は２５位としていた【くらい】だから、
選挙区が三十八万人【ぐらい】いて、

169 ケ　助詞　終助詞　活用語には終止形　ッケ
け

えーと誰だ【っけ】
フォールの操作はどうだった【っけ】？

170 ケレド　助詞　接続助詞　活用語には終止形　ケド
けれど

/けれど/も[副助詞]/, /けど/も[副助詞]/

私は質問を避けません【けれど】も、
最近買ったわけではない【けど】
部門にもよるだろう【けど】も、

171 コソ　助詞　係助詞
こそ

世界にも例のないほどの多雨【こそ】が、
スクリーンへよう【こそ】

172 サ　助詞　終助詞　活用語には終止形
さ

今日の午後持ってくるから【さ】。
見事当選しましたと【さ】

173 サエ　助詞　副助詞
さえ

ストロボ位置【さえ】連動範囲を保てば、
楽しみのひとつで【さえ】ある。

174 サカイ　助詞　接続助詞　活用語には終止形
さかい　方言

175 シ　助詞　接続助詞　活用語には終止形
し

かむと味がある【し】、腹もちもいい。
自覚していた【し】、

176 シカ　助詞　副助詞　活用語には終止形
しか

まだ４７名の合格者【しか】いない。
海底１万ｍの間ぐらいに【しか】

177 シモ　助詞　副助詞
しも

誰【しも】すぐ思い浮べるのは
必ず【しも】現実的とはいえない
なきに【しも】あらずだったように思います

178 ズツ　助詞　副助詞
ずつ

ひとり【ずつ】洗顔し、素顔の状態で測定。
少し【ずつ】慣れて、最後は４０分に短縮できた。

179 スラ　助詞　副助詞
すら

駆け出しの若い指揮者たち【すら】、
包囲網は狭まりつつある感【すら】ある。

180 ゼ　助詞　終助詞　活用語には終止形
ぜ

起きて準備して出掛けよう【ぜ】！

181 ゾ　助詞　係助詞
ぞ

知る人【ぞ】知る、フレンチの隠れた名店
これ【ぞ】わが社のＵＤ商品

182 ゾ　助詞　終助詞　活用語には終止形
ぞ

誇り高き福溝一族の末裔だ【ぞ】！

183 ダケ　助詞　副助詞　活用語には連体形
だけ

できる【だけ】自然な言語生活を示すように
医療機関を選択するときに有用な【だけ】でなく、
給付水準の調整【だけ】でも早めに終え、

184 タッテ　助詞　副助詞　活用語には連用形，終止形，命令形　ッタッテ
たって

どんなにくやしがっ【たって】、
安く【たって】キュートで優秀なコスメがいっぱい！
すぐしろ【ったって】

185 タラ　助詞　副助詞　活用語には終止形　ッタラ
たら

いやだー、先生【ったら】。
何【たら】プリンターというのが

187 タリ　助詞　副助詞　連用形
たり

下を向い【たり】、涙を流し【たり】するのに、
日本でミュージカルの話題になっ【たり】すると、

188 ツ　助詞　副助詞　連用形　ズ
つ

抜き【つ】抜かれ【つ】の関係だったんですが
組ん【ず】ほぐれ【つ】

189 ツツ　助詞　接続助詞　連用形
つつ

『補闕記』『伝暦』を念頭に置き【つつ】、
資産デフレ対策を短期的に打ち【つつ】、

190 ッテ　助詞　副助詞　活用語には終止形　テ
って

やつが戻ってきたらおれが何【て】言うか
腰が痛い〜【って】言ってた。
阪神【って】チームは

191 テ　助詞　接続助詞　連用形
て

彼女をどうし【て】も許すことができなかった。
音とし【て】もラグに新しい世界を与えましたよね。
人工酵素の開発が進ん【で】いる

192 デ　助詞　格助詞
で

それ【で】日記に書いていたのであるが、
ところ【で】なんで卓球部だったの？
衆院本会議【で】所信表明演説に立つ小泉首相

193 デ
で

助詞　接続助詞　文語の活用語の未然形

文語

３Ｄなら【で】はの表現を生かして

194 ト
と

助詞　格助詞　ット

前接の活用語の活用形を連体形とするのは，助動詞「だ」など終止形と連体形とで語形が異なる場合のみ。

派遣指導員【と】いう形で
あれも青【と】か緑のものが多いので
山風にはらはら【と】紅葉が舞った後

195 ト
と

助詞　接続助詞　終止形

チャーハンやとろろ丼にする【と】
誰が何をいおう【と】ダメです！

196 ドコロ
どころ

助詞　副助詞　活用語には連体形

それ【どころ】か子どもたちはいつも
月【どころ】か星も見えない。

197 トモ
とも

助詞　接続助詞　動詞・動詞型活用の助動詞の終止形，形容詞・形容詞型活用の助動詞の連用形

今の日本円で少なく【とも】六億円
二〇〇四年度中に多少なり【とも】

198 ナ
な

助詞　終助詞　活用語には終止形　ナア

なるほど、こうすれば、いいんだ【な】。
前転はスポーツか【なあ】
時間につぶされる【な】、
好きなの選び【な】よ

199 ナガラ
ながら

助詞　接続助詞　連用形

残念【ながら】現代人のなかには、
しかし【ながら】、表１は仮想的な推計に過ぎません。
これからは試合を生で見【ながら】、

200 ナゾ
なぞ

助詞　副助詞

友達の友達【なぞ】は酔っぱらって

201 ナド
など

助詞　副助詞　活用語には終止形

十年債【など】に集中する

202 ナラ　　助詞　　副助詞
なら

203 ナリ　　助詞　　副助詞
なり

撫でつける【なり】なん【なり】できるでしょう。
きちんとした法律【なり】条例【なり】を

204 ナリ　　助詞　　接続助詞　　活用語には終止形
なり

クルマに乗る【なり】話しかけた。

205 ナンカ　　助詞　　副助詞
なんか

「なにか」の転

太って【なんか】ないじゃないですか

206 ナンテ　　助詞　　副助詞　　活用語には終止形
なんて

「などと」の転

自分に話したいこと【なんて】、
魚がこんなに勢いよく暴れる【なんて】！

207 ニ　　助詞　　格助詞　　活用語には終止形
に

適正値を得る【に】はまずシャッター速度を
ランク【に】ついては行列の教科書を参照
実際【に】は所管官庁ＯＢの天下りも多い。

208 ネ　　助詞　　終助詞　　活用語には終止形　　ネエ
ね

よく泊めてくれますよ【ね】

246 ネン　　助詞　　終助詞　　終止形
ねん

これは上方歌舞伎から出た言葉です【ねん】
曲がん【ねん】かあっていうのがあり

209 ノ　　助詞　　格助詞　　活用語には連体形　　ン
の

ここ【ん】とこの解き方、
薫製だ【の】煮込み料理だ【の】を食べたいかといったら

210 ノ　　助詞　　準体助詞　　活用語には連体形　　ン
の

手がかりを教えられてきた【の】である。
いったいどれだけバットを振ってきた【の】か
バランスをとる【の】に役立っているようだ。

211 ノ　　助詞　　終助詞　　活用語には連体形　　ン
の

優勝セールをしていて、こんなのいつ着る【の】？

212 ノミ　助詞　副助詞　活用語には連体形
のみ

米国が多者会談に【のみ】固執するなら、

213 ハ　助詞　係助詞
は

それからお菓子【は】色々ドイツのシュトーレンですとか

214 バ　助詞　接続助詞
ば

浴衣風に着れ【ば】街着っぽく。

215 バカリ　助詞　副助詞　活用語には連体形　バッカリ
ばかり

笑みを浮かべる【ばかり】だった。
ことさら強調したい【ばかり】に

216 ヘ　助詞　格助詞
へ

翌日からすぐに、ふだんの食事【へ】戻りました。

217 ホド　助詞　副助詞　活用語には連体形
ほど

それ【ほど】難しいとは感じない。

218 マデ　助詞　副助詞　活用語には連体形
まで

被写体【まで】の距離が
これほど【まで】に歴史の痕跡が、
１２月末【まで】の予定だったが、

219 モ　助詞　係助詞
も

二十代と言って【も】おかしくない
「イラク難民」とは言うけれど【も】、

220 モノ　助詞　終助詞　活用語には連体形
もの

太平洋戦争中も漫画を描き続けた人です【もの】。

221 ヤ　助詞　副助詞
や

金融機関から債券【や】手形を買い、
またも【や】ハッサニは半翳りの微笑を
「りそな国有化」でさらに下落かと思いき【や】、

222 ヤ　助詞　終助詞　活用語には終止形
や

どうにかすればいい【や】、と思っているだけだ。

223 ヤラ やら　助詞　副助詞

どう【やら】画期的な疱瘡予防法である
おかしい【やら】、懐かしい【やら】。

224 ヨ よ　助詞　終助詞　終止形・命令形　ヨウ

もっとしっかりしろ【よ】」といっても、
打ち方をしていないからかもしれません【よ】。

225 ヨリ より　助詞　格助詞　活用語には連体形　ヨ

何【より】の証拠だ。
現状【より】はるかに大量に買い入れる
日本【よ】かストレスが溜まる

226 ワ わ　助詞　終助詞　活用語には終止形

構わない【わ】よ、
俺にしがみついてくる【わ】、乗っかってくる【わ】で、

227 ヲ を　助詞　格助詞

手拭いで手【を】ふきながら、
やむ【を】得ずフリーターをしている若者たち

助動詞

ID	代表形 代表表記	品詞 注記	活用型・その他	接続	異形態
270	キ き	助動詞 過去・完了	文語助動詞-キ	連用形	
		アイドルセイントフォーのような映画かと思い【き】や あり【し】日の祖父の話をするようになって			
271	ケリ けり	助動詞 過去・完了	文語助動詞-ケリ	連用形	
		柚の実のかたえは青く冬去りに【けり】			
286	ゴトシ ごとし	助動詞 比況	文語助動詞-ゴトシ	名詞＋助詞「の」，代名詞＋助詞「が」，連体形，連体形＋助詞「の」	
		当然の【ごとく】座るんですね 怒とうの【ごとき】そのエネルギーに押されるように			

229 サセル
させる

助動詞　下一段-サ行-セル（文語下二段-サ行）　五段・サ変以外の未然形（四段・ナ変・ラ変以外の未然形）　文語：さす

使役

言葉を覚え【させ】たいんだと言って
その友達に電話を掛け【さし】て

244 ザマス
ざます

助動詞　文語助動詞-ザマス　体言，終止形

断定

今日は忙しい【ざます】。
二刻あまりのうち【ざます】。

289 ジ
じ

助動詞　無変化型　未然形

打ち消し推量

Ｊリーグに負け【じ】といろいろな改革を

230 シメル
しめる

助動詞　下一段-マ行（文語下二段-マ行）　未然形　文語：しむ

使役

極論を言わ【しめ】ないよう

238 ジャ
じゃ

助動詞　助動詞-ジャ　体言，連体形＋助詞「の」，助動詞「べし」の連体形

断定

今初めて読んでも何【じゃ】こりゃって

264 シャル
しゃる

助動詞　五段-ラ行-一般　未然形

尊敬

お行きやす行か【っしゃる】という助動詞としての

247 ズ
ず

助動詞　助動詞-ヌ（文語助動詞-ズ）　未然形　ヌ

打ち消し

庶務的業務にも力も出せ【ず】にあまり興味も持たずに
これが問題にならないように憲法を改め【ざる】を得ない訳です
その子の病気は気管支炎ではありませ【ん】でした

228 セル
せる

助動詞　下一段-サ行-セル（文語下二段-サ行）　五段・サ変の未然形（四段・ナ変・ラ変の未然形）　文語：す

使役

いわゆる暗記とかをさ【せる】んじゃなくて
期待に胸を膨らま【し】てて凄くわくわくした気持ちで

248 タ
た

助動詞　助動詞-タ　連用形

過去・完了

安く泊まりたいんだっ【たら】朝食は付けなくて
以前の病院とは違ってウイルスが全然出なかっ【た】ことを
その部屋に何と駆け込ん【だ】んですね

239 ダ
だ
助動詞　助動詞-ダ　体言，連体形＋助詞「の」，助動詞「べし」の連体形

断定，いわゆる形容動詞及び形容動詞活用型の助動詞の活用語尾を含む。

予想されるところは眼前の評価【で】ありますし
ひょっとしたら難しいのかなというよう【な】ことも
近似的【に】やる手はあるんですけれどもね

280 タイ
たい
助動詞　助動詞-タイ（文語形容詞-ク）　連用形　文語：たし

希望

電車賃をけちり【たかっ】たちゅうのが
待遇表現行動ということをこう考えてみ【たい】

235 タガル
たがる
助動詞　五段-ラ行-一般　連用形

希望

寂しいところに旅に行き【たがる】傾向がありまして
O型は目立ち【たがり】屋A型は神経質

260 タゲル
たげる
助動詞　下一段-ガ行　動詞連用形

補助動詞縮約形，「てあげる」の縮約形

ファックスで送っ【たげ】たりして

284 タシ
たし
助動詞　連用形

希望

276 タリ
たり
助動詞　文語助動詞-タリ-断定　体言

断定

フクロウの声は思想家【たら】しめる
酒造りは食文化の最【たる】もの。
確固【たる】信念による行動であったり

261 タル
たる
助動詞　五段-ラ行-一般　動詞連用形

補助動詞縮約形，「てやる」の縮約形

殴っ【たっ】てんという風に

258 チマウ
ちまう
助動詞　五段-ワア行-マウ　動詞連用形

補助動詞縮約形，「てしまう」の縮約形

水蒸気か酸素どっちか取っ【ちまえ】ばいい

259 チャウ
ちゃう
助動詞　五段-ワア行-ャウ　動詞連用形

補助動詞縮約形，「てしまう」の縮約形

身振り手振りのコミュニケーションという感じになっ【ちゃっ】た
好きだった子が死ん【じゃう】かもっていう風に思ったのが

262 チャル
ちゃる
助動詞　五段-ラ行-一般　動詞連用形

補助動詞縮約形，「てやる」の縮約形

272 ツ
っ

助動詞　文語助動詞-ツ　連用形

過去・完了

263 ツウ
つう

助動詞　五段-ワア行-ツウ　動詞連用形，助動詞「べし」の連体形　ッツウ・（ッ）チ

補助動詞縮約形，「という」の縮約形

会社に何て言うの【っつっ】て
どっちか【っつう】と派手な時計なんですね
当然ながら働く【っちゅう】意欲がそこに出てくるはずだ

253 テク
てく

助動詞　五段-カ行-イク（下一段-カ行）　動詞連用形　可能形：てける

補助動詞縮約形，「ていく」の縮約形

そっちのルートに持っ【てか】れた訳です
善福寺川に土手沿いに下り【てっ】て
調子悪くて連れ【てけ】ないということで

240 デス
です

助動詞　助動詞-デス　体言，連体形＋助詞「の」，終止形，助動詞「べし」の連体形

断定

三人しかいません【でし】て
写真で見てた風景という感じなん【でしょ】うか

252 テラッシャル
てらっしゃる

助動詞　五段-ラ行-アル-一般　動詞連用形

補助動詞縮約形，「ていらっしゃる」の縮約形

隣り合わせの方も一人で参加し【てらっしゃい】ました
安全に心配なく住ん【でらっしゃる】ことと思います

251 テル
てる

助動詞　下一段-タ行　動詞連用形

補助動詞縮約形，「ている」の縮約形

社会的に問題になっ【て】ますけれども
その時の印象として覚え【てる】のは
話し合いは済ん【で】たんですけれども

255 トク
とく

助動詞　五段-カ行-一般（下一段-カ行）　動詞連用形　可能形：とける

補助動詞縮約形，「ておく」の縮約形

予め申し上げ【とき】ますけれども
玄関の前に駐車させ【とい】て
結局あの一ほっ【とけ】ないというところで

241 ドス
どす

助動詞　助動詞-ドス　体言，連体形＋助詞「の」，助動詞「べし」の連体形

断定

257 トル
とる

助動詞　五段-ラ行-一般　動詞連用形

補助動詞縮約形，「ておる」の縮約形

標準体重ということになっ【とり】まして

281 ナイ ない　助動詞　助動詞-ナイ　未然形

打ち消し

よくある話題かもしれ【ない】んですけれども
家を改造し【なきゃ】いけないとは

275 ナリ なり　助動詞　文語助動詞-ナリ-断定　体言，連体形

断定

浅草【なら】ではと思うのはですね

273 ヌ ぬ　助動詞　文語助動詞-ヌ　連用形

過去・完了

さもあり【な】んとの気にもなる
風と共に去り【ぬ】というミュージカルでした

243 ハル はる　助動詞　五段-ラ行-一般　未然形，連用形

尊敬

京都が行か【はる】で大阪行きはるだっていう
京都奈良は大阪兵庫よりも【はる】敬語の使用が多い

285 ベシ べし　助動詞　文語助動詞-ベシ　終止形

推量

策を練り行動す【べき】であると思いますが
働かざる者食う【べから】ずっちゅう

283 マイ まい　助動詞　無変化型　五段の終止形，五段以外には未然形

打ち消し意志・打ち消し推量

もう帰りのことは考え【まい】と振り切るようにして

288 マジ まじ　助動詞　文語助動詞-マジ　終止形，ラ変・形容詞・ラ変型活用の助動詞には連体形

打ち消し推量

236 マス ます　助動詞　助動詞-マス　連用形

丁寧

足を取られて転倒したことがござい【ます】
真の修行があるというのであり【ましょう】。

265 ム む　助動詞　文語助動詞-ム　未然形

意志・推量

さもありな【ん】との気にもなる

268 メリ めり　助動詞　文語助動詞-メリ　終止形

推量

245 ヤ
や

助動詞　助動詞-ヤ　体言，連体形＋助詞「の」，終止形，助動詞「べし」の連体形

断定

だからなん【や】ねん。
へそくりはどうなる【やろ】か死んだ時

242 ヤス
やす

助動詞　助動詞-ヤス　連用形

丁寧

行かはるお行き【やす】行かっしゃるという

287 ラシ
らし

助動詞　文語助動詞-ラシ　ラ変・形容詞・ラ変型活用の助動詞の連体形，それ以外には終止形

推量

治療【らしき】ものはなく
長男【らしから】ぬ気楽な人間なんです

282 ラシイ
らしい

助動詞　助動詞-ラシイ　体言，形状詞，終止形

推量

ローマ人の町という意味【らしい】です
保育園の排水溝【らしき】ところかな

266 ラム
らむ

助動詞　文語助動詞-ラム　終止形

現在推量

印なく濡る【らん】袖を交わしつつ思うにひつる我も儚し

234 ラレル
られる

助動詞　下一段-ラ行-レル（文語下二段-ラ行）　五段・サ変以外の未然形（四段・ナ変・ラ変以外の未然形）　文語：らる

受身・可能・自発・尊敬

それはもう日本人には考え【られ】ない贅沢な食事です
目の前で猫に食べ【られ】ちゃったんだけど

274 リ
り

助動詞　文語助動詞-リ　サ変の未然形，四段の命令形

完了・存続

大学院におけ【る】教育実習の在り方について考えたい
自分の持て【る】知識を全て総動員して

233 レル
れる

助動詞　下一段-ラ行-レル（文語下二段-ラ行）　五段・サ変の未然形（四段・ナ変・ラ変の未然形）　文語：る

受身・可能・自発・尊敬

凄く看護婦さんとかに怒ら【れ】て
基礎練習ってのが非常に重要視さ【れ】ておりまして

237 ンス
んす

助動詞　文語助動詞-ンス　四段・ナ変の未然形

丁寧

とぼされるにはあき【んし】た

接頭的要素

ID	代表形 代表表記	品詞 注記	活用型・その他	接続	異形態

1 **アイ**
相

接頭辞

「相」と１最小単位との結合体が名詞である場合は除く。（相=乗り，相=討ち）

本書の他の論文と【相】まって、
カモフラ柄って【相】変わらず人気ですね。

2 **オ**
御

接頭辞

次に挙げるものは，後の部分と併せて1最小単位とする。［お足，おいた，お家（芸・流），お薄，おかか，お鏡，おかき，お陰，おかず，お河童，おかま，おかみ，おから，おかわ，お冠，御形，おぐし，お好み（焼き），おこわ，お下げ（髪），お差し，おさつ，おざなり，おざぶ，おさん（どん），おしっこ，おしぼり，おしめ，おじや，おしゃぶり，お釈迦，お洒落，お節，お宅〈代名詞〉，お多福，お陀仏，お玉，おつむ，お手（上げ・の物），おでき，おでまし，お転婆，お伽（話），お腹，お成り，お握り，お主，お寝しょ，お萩，おはこ〈十八番の意〉，おはよう，お払い（箱），おひたし，お冷や，お袋，おふる，おまえ，おまけ，おませ，おまる，お巡り，お娘，おむすび，おむつ，お目見え，お漏らし，おやつ］

また新たな部屋になった時、もう一度【お】願いします。
いつもは寡黙な【お】父さんが大活躍するのよ

3 **オン**
御

接頭辞

次に挙げるものは，後の部分と併せて1最小単位とする。［御曹司，御大，御中，御身］

篤種公、【御】年、五十ノ冬
【御】礼申し上げます

4 **カク**
各

接頭辞

漢語の1最小単位と結合したものは除く。（各=国，各=地）

【各】ユニットが市松模様のように並ぶ構成が現れる。
【各】部屋はとても狭いです。

6 **ゴ**
御

接頭辞

次に挙げるものは，後の部分と併せて1最小単位とする。［御形，御供，御所，御新，御仁，御神火，御前，御饌，御託，御殿，御伝，御悩，御飯，御辺，御免，御覧，御料，御寮］

ジュンプランニングの【御】存じ

5 **コン**
今

接頭辞

漢語の1最小単位と結合したものは除く。（今=回，今=度）

【今】プロジェクトの計画研究メンバー１０人のうち
【今】シーズンは計約４トンの出荷を見込んでいる。

7 ショ
諸

接頭辞

漢語の1最小単位と結合したものは除く。（諸=国，諸=所）

【諸】届けとか融資など

8 ゼン
全

接頭辞

漢語の1最小単位と結合したものは除く。（全=国，全=社）

【全】キャリアおよび全機種に対応している。

9 タイ
対

名詞-普通名詞-一般

漢語の1最小単位と結合したものは除く。（対=米，対=人）

あらゆる書類や【対】マスコミ用の原稿が

「【対】北」世論が左右

692 ホノ
仄

接頭辞

「ほのか」「ほのめく」「ほのぼの」「ほのめかす」は除く。

【ほの】暗い廊下を歩きながら、椿山はこれからのことを考えた。

福姫の姿だけが【仄】白く浮び出ていた。

10 ホン
本

接頭辞

「この」の意。漢語の1最小単位と結合したものは除く。（本件）

【本】ページの下を参照のこと。

【本】カレンダーは日本車両が２５年以上の歴史を誇る

11 ミ
御

接頭辞

次に挙げるものは後の部分と併せて1最小単位とする。［御生，御門，御溝，御酒，御籤，御髪，御座，御食，御子，御輿，御言，御簾，御衣，御台，御霊，御堂，御息所，御幸，御代］

誰にでも分かる易しい錦の【御】旗が必要と考え、

父と子と聖霊の【み】名によってという意味です）

接尾的要素

ID	代表形 代表表記	品詞 注記	活用型・その他	接続	異形態
13	アガリ 上がり	接尾辞-名詞的-一般 前にその職業・身分だった者の意。			
14	アグネル あぐねる	動詞-非自立可能	下一段-ナ行（文語下二段-ナ行）	動詞連用形	
664	アソバス 遊ばす	動詞-非自立可能	五段-サ行（文語四段-サ行）	動詞連用形，体言	

信直が納得すまい、と考え【あぐね】ているうちに、

多くの国会議員が答えを出し【あぐね】、

三十七生害に及びし跡にて、御尋ね【あそばし】、

665 **アタウ**
能う

動詞-非自立可能　五段-ワア行-タウ（文語四段-ハ行-タウ）　活用語の連用形・連体形

動作・状態の継続・進行を表す。

余輩をして唯だ語り【能ふ】所を語らしめよ
之を明にする【能は】ずと雖も、

659 **アタリ**
当たり

接尾辞-名詞的-副詞可能

一人【当たり】十五文ずつ発声していただき
一つの仮名【当たり】の平均異体仮名の使用数

15 **アテ**
宛

接尾辞-名詞的-一般

名あての意。「名宛(人)」の「宛」は除く。

下院議員に立候補し落選した時に娘【宛】に出した
沼さんから私【あて】に解任状が届きました。

16 **アテ**
宛

接尾辞-名詞的-一般

「～に対して」の意。

ひとり【宛】五個

699 **アリ**
有り

名詞-普通名詞-一般

「大有り」「神在」「徒有り」「訳有り」の「有り（在り）」は除く。

黒真珠の変形や疵【あり】を，時間をかけ
送球に難【あり】で困っています。

666 **アル**
有る

動詞-非自立可能　五段-ラ行-一般（文語四段-ラ行）　動詞連用形

動作・状態の継続・進行を表す。

試作報告用紙に掲げ【ある】事項を記入して
紙の張り【ある】板何枚かをひつくり返して

17 **イタス**
致す

動詞-非自立可能　五段-サ行（文語四段-サ行）

先生にお預け【いたし】ます。
応募者全員にプレゼント【いたし】ます！！
手術が無事成功し、安堵【いたし】ました。

667 **イル**
居る

動詞-非自立可能　上一段-ア行（文語上一段-ワ行）　動詞連用形

朝寒の庭掃く男變り【居】し
一民族を以て一國民となし【居る】ものは無い。

18 **ウエ**
上

接尾辞-名詞的-一般

「決して父【上】を煩さぬ」と覚悟を決めていた。

作者の母【上】の「ありがたいありがたい」にも、

19 エル
得る

動詞-非自立可能　下一段-ア行（文語下二段-ア行）　動詞連用形　ウル

「～することができる」の意。

青山を語る補助線となり【得る】ものなのだ。
コレはあり【得る】注目株！
政権を担い【得る】政党として国民から認知された

20 オエル
終える

動詞-非自立可能　下一段-ア行（文語下二段-ア行）　動詞連用形

チョウの図鑑を回し【終え】た
書き【終え】てからは当分音楽を聴かなかったほどです。
うまいタイトルだなあと、読み【終え】て納得。

21 オオセル
果せる

動詞-非自立可能　下一段-サ行-一般（文語下二段-サ行）

「すっかり終える」の意。

隠し【おおせる】

22 オクレル
遅れる

動詞-非自立可能　下一段-ラ行-一般（文語下二段-ラ行）　動詞連用形

終電に乗り【遅れ】た。
わが国が立ち【遅れ】ている分野について
二塁打は振り【遅れ】だが、

668 オル
居る

動詞-非自立可能　五段-ラ行-一般（文語四段-ラ行）　動詞連用形

動作・状態の継続・進行を表す。

世の物議を醸し【居れ】るに、今一朝にして
『今日も存命であるか、證人は存じ【居ら】ぬか？』

669 オワス
御座す

動詞-非自立可能　文語サ行変格-ス　動詞連用形

動作・状態の継続・進行を表す。

御衣ぞの袖を引きまさぐりなどしつつ、紛らはし【おはす】。

23 オワル
終わる

動詞-非自立可能　五段-ラ行-一般（文語四段-ラ行）　動詞連用形

部屋の反対側まで歩き【終わる】と

24 カ
化

接尾辞-名詞的-一般

漢語の１最小単位と結合したものは除く。（特=化，液=化）

オトコ【化】しすぎて女たちが捨てて来た
ビールの大きな流れは「生【化】」とともに「缶化」です。

26 ガカル
がかる

接尾辞-動詞的　五段-ラ行-一般（文語四段-ラ行）

まだ青く紫【がかっ】てすみきっている。
芝居【がかっ】た演出をしたり

29 カタ
方

接尾辞-名詞的-一般

「仕方」の「方」は除く。

体育遊びのあり【方】や、
大好きな海での過ごし【方】なんだけどさ。
円高になるとの見【方】が大勢だ。

33 ガタイ
難い

接尾辞-形容詞的　形容詞-タイ（文語形容詞-ク）　動詞連用形

「有り難い」の「難い」は除く。

よほど扱い【難い】
何物にも代え【難い】存在だった。

34 カタガタ
旁

接尾辞-名詞的-一般

遊び【かたがた】食糧不足を補うために
結局、釣り【かたがた】、松川が案内することになった。

35 ガチ
勝ち

接尾辞-形状詞的

結果オーライになり【がち】で
太陽政策に傾き【がち】な韓国政府を
意欲も薄れ【がち】です。

36 ガテラ
がてら

接尾辞-名詞的-副詞可能

時々自分も遊び【がてら】お柳の見舞に顔を見せる
ダイニングに向かい【がてら】手招きする。

37 カネル
兼ねる

接尾辞-動詞的　下一段-ナ行（文語下二段-ナ行）　動詞連用形

まことに申し【兼ね】ますが
お待ち【かね】の“ハリポタ”最新ニュースを
悪影響が広がり【かね】ない。

39 ガル
がる

接尾辞-動詞的　五段-ラ行-一般（文語四段-ラ行）　形容詞・形状詞

助動詞「たがる」の「がる」は除く。

祖母のかわい【がり】ようが尋常でなく
藻を怖【がる】なんて、
写真を飾るのは嫌【がっ】ていたんだが

40 カワス
交わす

動詞-非自立可能　五段-サ行（文語四段-サ行）　動詞連用形

「互いに～する」の意。

泰安相手に酒を酌み【交わし】ていた。

41 カン
間

接尾辞-名詞的-副詞可能

漢語の1最小単位と結合したものは除く。（空=間，車=間）

サーバ【間】の情報交換に使用される
具体的なデータ【間】の因果関係は
ブランド【間】の価格格差が一段と進む

42 ギミ
君

接尾辞-名詞的-一般

姫【君】
母【君】

43 キル
切る

動詞-非自立可能　五段-ラ行-一般（文語四段-ラ行）　動詞連用形

「すっかり～し終える」の意。

すでに大半を使い【きっ】てしまい、
パワーを使い【切っ】て走る爽快感あり
チケットが売り【切れ】ている場合もあります。

44 クサイ
臭い

接尾辞-形容詞的　形容詞-サイ

「～めいた感じがする」という意。望ましくない意を強める用法。「かび臭い」「焦げ臭い」の「くさい」は除く。

青【くさい】ほど未熟な私に
照れ【くさく】て言えなかった「ありがとう」。
米国よりずっと古【くさく】なってしまった。

45 クダサル
下さる

動詞-非自立可能　五段-ラ行-アル-サル（文語四段-ラ行）

ギブミーレターをご覧【下さい】ね。
ご意見、ご感想をお寄せ【下さい】。

46 グルミ
ぐるみ

接尾辞-名詞的-一般

身【ぐるみ】剥がされちまうなんて
国家【ぐるみ】の犯罪や脅威から

47 クン
君

接尾辞-名詞的-一般

「同君」の「君」は除く。

ワジム【君】たちの力強い協力であった。
Y【君】からのメールでした。
外野手の桑原将太【君】は天然芝について

48 ゲ
気

接尾辞-形状詞的

闇夜の怖ろし【げ】な海は
やや寂し【げ】なタイトルであるが、
何【げ】ない一言から偶然始まった。

49 ケイ
系

接尾辞-名詞的-一般

漢語の1最小単位と結合したものは除く。（文=系，日=系）

わたしも犬【系】だし

癒やし【系】、癒やし顔。

51 ゴ
後

接尾辞-名詞的-一般

漢語の1最小単位と結合したものは除く。（戦=後，老=後）

試合【後】、「練習不足で十分に戦えなかった。

52 ゴ
御

接尾辞-名詞的-一般

姉【御】肌の人が凄く多いなっていう

53 コト
事

名詞-普通名詞-一般

ヘコキムシ【こと】ミイデラゴミムシは黄色と黒の模様。

私【こと】

54 ゴト
ごと

接尾辞-名詞的-副詞可能

「～も一緒に」の意。

滝【ごと】持って帰りたいところだが、

１冊丸【ごと】学校に関係ある

55 ゴト
毎

接尾辞-名詞的-一般

そのもの一つ一つ，その時その時の意。

国【ごと】に違うということであろう

ナンバー【ごと】の細部の変化は

章【ごと】に文体が変わり、

56 コナス
熟す

動詞-非自立可能　五段-サ行（文語四段-サ行）　動詞連用形

「うまく～する」の意。

着【こなし】も上品に。

２人乗りでコンパクトに乗り【こなせる】。

美しく澄んだ高音で歌い【こなし】ている。

57 サ
さ

接尾辞-名詞的-一般

「そうだ」「過ぎる」が接続するときの「なさ」「良さ」の「さ」，ケシ型形容詞に付く「さ」，「憂さ」の「さ」は除く。

比類のない深【さ】はそこから生まれている。

ステレオ欲し【さ】に応募して、

～なりた【さ】

690 サス
さす

動詞-非自立可能　五段-サ行（文語四段-サ行）

思い出を一つ話【さし】ていただこうと思います

椅子やテーブルと日本風とを調和【さし】て、気もちのよい

694 サス
止す

動詞-非自立可能　五段-サ行（文語四段-サ行）

夜の白玉は光見え【さす】ものにぞありける

58 サマ
様

接尾辞-名詞的-一般

地域の皆【様】はじめ全ての方々から
それが神【様】の目からの評価だから、真実なのだ。
『志村けんのバカ殿【様】』に腰元役として出演。

59 サン
さん

接尾辞-名詞的-一般

皆【さん】すでにご承知のごとく、
島田【さん】の奥さん手製の
お巡り【さん】なのに茶髪で、

60 ジ
時

接尾辞-名詞的-副詞可能

漢語の1最小単位と結合したものは除く。（戦=時）

農家の手伝い【時】には、必ず千之助・お夏の兄妹を連れて行った。

61 シキ
式

接尾辞-名詞的-一般

形式・方法などの意。漢語の1最小単位と結合したものは除く。（洋=式，正=式）

この最初のねじ【式】でそれからはまってしまいまして
新民連議員の離党、さみだれ【式】はダメ

62 シナ
しな

接尾辞-名詞的-副詞可能

帰り【しな】に一撃されて

63 ジミル
染みる

接尾辞-動詞的　上一段-マ行（文語上二段-マ行）

子供【じみ】た正義感を感じなくもない

64 ジュウ
中

接尾辞-名詞的-副詞可能

部屋【中】何時もちらかっていて
体【中】に生えているトゲで攻撃してくるはりせんぼん。

65 ジョウ
上

接尾辞-名詞的-副詞可能

漢語の1最小単位と結合したものは除く。（機=上，車=上）

仕事【上】での挨拶にふくまれるものは、

66 ジョウ
状

接尾辞-名詞的-一般

「～の形・有り様」の意。漢語の1最小単位と結合したものは除く。（液=状）

粒【状】若しくは粉【状】
今日の当番表の紙を手の中で筒【状】に丸め、
主役は霧【状】にして吸い込むステロイドを使う治療だ。

67 スギル
過ぎる

動詞-非自立可能　上一段-ガ行（文語上二段-ガ行）　動詞連用形

背景が明る【過ぎ】たりする。
こり【過ぎ】て当時の歌手たちが歌えず、

68 ズク
尽く

接尾辞-名詞的-一般

力【ずく】で戦争して、

69 ズクメ
尽くめ

接尾辞-名詞的-一般

裏の活動をするバリスが黒【ずくめ】で
珍し【ずくめ】の応酬

70 スル
為る

動詞-非自立可能　サ行変格-為ル（文語サ行変格-ス）

漢語の1最小単位と結合したものは除く（対=する，信=ずる）。
「～んずる」という形式は除く（甘ん=ずる，重ん=ずる）。

アドバイス【する】役割もあり、
対応関係ははっきり【し】ていない。
フランスを旅【し】ていると、

71 セイ
性

接尾辞-名詞的-一般

物事の性質・傾向の意。漢語の1最小単位と結合したものは除く。（特=性，急=性）

枝が水平に伸びるもの、枝垂れ【性】のものなど、
ブラックベリーはつる【性】の植物なので、

72 ソウ
そう

形状詞-助動詞語幹

様態の助動詞「そうだ」の語幹に当たるもの。

けだる【そう】に行列してゆくところだった。
慢性的な肺の病気の発症には関係がなさ【そう】です。
わかりにくい仕組みだと言え【そう】です。

73 ソウ
そう

名詞-助動詞語幹

伝聞の助動詞「そうだ」の語幹に当たるもの。

コラーゲンの量やキメの細かさまで分かる【そう】
「マジシャン」というニックネームで呼ばれている【そう】だが、
四十四年もかかる【そう】です。

74 ソコナウ
損なう

動詞-非自立可能　五段-ワア行-ナウ（文語四段-ハ行-ナウ）　動詞連用形

神になり【損なっ】た男の、
日本株を売り【損なっ】たと話したら、

674 ソコネル 損ねる　動詞-非自立可能　下一段-ナ行（文語下二段-ナ行）　動詞連用形

スターズの選手が打ち【損ねる】と容赦ない野次が
なんとなく厭きてしまって、見【損ねる】こともある。

75 ソビレル そびれる　動詞-非自立可能　下一段-ラ行-一般（文語下二段-ラ行）　動詞連用形

きちんと届いたかどうかも聞き【そびれ】た。

76 ソンズル 損ずる　動詞-非自立可能　サ行変格-ズル（上一段-ザ行，文語サ行変格-ズ）　動詞連用形　ソンジル

駆け落をし【損じ】たるは櫻頃
急いては事を仕【損じる】よ。

77 タイ 対　名詞-普通名詞-一般

１【対】１で戦う試合。
神【対】巨

78 ダス 出す　動詞-非自立可能　五段-サ行（文語四段-サ行）　動詞連用形

「～し始める」という意。
背中を押されるようにして歩き【だす】。
最前列では子供たちが踊り【だし】た
無口な少年スキッパーがスラスラと話し【だし】、

79 タチ 達　接尾辞-名詞的-一般

私【達】は真剣に自分で考えるべきだ。
あなた【達】はバンドを始めた時共同生活していたそうですね。
保護者の方【たち】も親切にしてくれるようになり、

670 タテマツル 奉る　動詞-非自立可能　五段-ラ行-一般（文語四段-ラ行）　動詞連用形

年のはじめの栄えに見【奉る】。

80 タマウ 給う　動詞-非自立可能　五段-ワア行-マウ（文語四段-ハ行-マウ）　動詞連用形

篤道公、喜バレ【給フ】。
天が許し【給う】

81 ダラケ だらけ　接尾辞-形状詞的

埃【だらけ】の棚隅のいびつな土甕に
岩【だらけ】のけわしい土地は

タバコのヤニ【だらけ】の、

83 **チャン**
ちゃん
接尾辞-名詞的-一般

ワン【ちゃん】も寒いと思いますよ。
私もお母【ちゃん】って、呼んでもいい？
おじい【ちゃん】のモリゾーと、

84 **チュウ**
中
接尾辞-名詞的-副詞可能

漢語の1最小単位と結合したものは除く。（空=中）

高層階からの夜景を仕事【中】に観ると、
休み【中】

85 **ツイデ**
序で
名詞-普通名詞-一般

お祝い【ついで】に、新らしいのをお買いなさい。
くたびれ【ついで】

87 **ツキ**
付き
接尾辞-名詞的-一般

「札付き」（知れわたっていること，悪い評判が世間に広まっている人の意）は除く。

屋根【付き】ながら四囲には壁もなく、
企業・団体献金の「ヒモ【付き】献金」を禁止していないことに

86 **ツクス**
尽くす
動詞-非自立可能　五段-サ行（文語四段-サ行）　動詞連用形

「すっかり～する」という意。

野外会場を埋め【尽くし】た数千人のファンに
新しいものは出【尽くし】てしまった

88 **ツケル**
付ける
動詞-非自立可能　下一段-カ行（文語下二段-カ行）　動詞連用形

習慣の意。

行き【つけ】の雀荘で仕入れた情報を

89 **ッコ**
っこ
接尾辞-名詞的-一般

「～すること」の意。

つかまり【っこ】ないから。
失礼はいい【っこ】なし！
ＧＨＱ（連合国軍総司令部）がいる間は勝て【っこ】ない。

90 **ッコ**
っこ
接尾辞-名詞的-一般

「～比べ」「互いに～する」という意。

お馬のかけ【っこ】

92 **ツヅク**
続く
動詞-非自立可能　五段-カ行-一般（文語四段-カ行）　動詞連用形

「引き続く」「打ち続く」等，動作継続の動詞に接続しないものは除く。

夜が明けるまで降り【続き】そうな勢いだ。

93 ツヅケル 続ける　動詞-非自立可能　下一段-カ行（文語下二段-カ行）　動詞連用形

「打っ続ける」等，動作継続の動詞に接続しないものは除く。

限界になるまで黙々と働き【続ける】ので、
信念を持ち【続け】た。
同じように給料を払い【続け】ていれば、

94 ヅライ 辛い　接尾辞-形容詞的　形容詞-ライ

人間にはわかり【づらい】ですが、
元の位置に戻り【づらく】なってしまうので
意見聴取を進めるほど、結論が出し【づらく】なる

95 テキ 的　接尾辞-形状詞的

漢語の1最小単位と結合したものは除く。（人=的，端=的）

うまいバンドが今【的】ポップをやると、こうなる、という感じ。
コロンブスの卵【的】発想が人気。

97 デキル 出来る　動詞-非自立可能　上一段-カ行（文語上二段-カ行）

売店や茶屋があるのでのんびり【できる】。
今晩、シングルを一部屋お願い【でき】ますか。
あまり票読み【できる】人っていないと思うのね。

98 トウ 等　接尾辞-名詞的-一般

野の花、野菜、果物【等】を描きます。
スギ【等】国産針葉樹資源の合板分野への利用

99 ドウシ 同士　接尾辞-名詞的-一般

妻【同士】が同じ英会話学校に通っていて
大人【同士】の対立軸ではなく、

100 トオス 通す　接尾辞-動詞的　五段-サ行（文語四段-サ行）　動詞連用形

彼らは一晩中歩き【通し】だった。
たくさんあって読み【通す】のが大変でした。
ライブをやり【通し】た彼らは、

673 トオリ 通り　名詞-普通名詞-副詞可能

それと同じ状態であるという意。

その言葉【通り】、１週間で３試合をこなす強行日程を
やっぱりなかなか思い【通り】には行かないところがありますよね

102 ドノ
殿

接尾辞-名詞的-一般

昨日杉田【殿】の孫に施した種痘は、
むこ【殿】

103 トモ
共

接尾辞-名詞的-副詞可能

全部の意。

二人【とも】宵越しの金は持たない主義で、
両作【とも】指示代名詞やあいまいな言語を多用する。

104 トモ
共

接尾辞-名詞的-副詞可能

それを含めての意。

送料【とも】
住所・氏名【とも】

105 ドモ
共

接尾辞-名詞的-一般

しかし，やつらキツネ【ども】も負けてはいなかった。
者【ども】手をひけっ、

106 ドモ
共

接尾辞-名詞的-一般

それを踏まえて私【ども】でも

107 ナイ
内

接尾辞-名詞的-一般

漢語の1最小単位と結合したものは除く。（室=内，社=内）

統一会派を組むさきがけ【内】には

108 ナガラ
乍ら

接尾辞-名詞的-一般

市長に涙【ながら】に訴えにいき
昔【ながら】の民家を改造した

109 ナサル
為さる

動詞-非自立可能　五段-ラ行-アル-サル（文語四段-ラ行）

おなかいっぱい食べ【なさい】といいますね。
言えなかった「ごめん【なさい】」。

700 ナシ
無し

名詞-普通名詞-一般

「有る無し」「形無し」「底無し」「台無し」「人で無し」「人無し」「幕無し」「間無し」「道無し」「文無し」「休み無し」の「無し」は除く。

当然アポ【なし】ではあるが
鍵【なし】で金庫を開けるのは

110 **ナミ**
並み

接尾辞-名詞的-一般

その類と同じ，又は同じ程度であることを表す。

人に対して思いやりの心だけは人【並み】以上に持っていたと思うけれど、
水夫たちは船長に犬【なみ】にあつかわれていたので、
東京の冬【なみ】のオーバーがいるのに、

111 **ナリ**
形

接尾辞-名詞的-一般

そのもの相応である様の意。

低い価格設定には低い【なり】の理由があります。
それ【なり】の役目を与えて投げさせたいと思うよ。
不調【なり】に試合をつくり、

112 **ナリ**
形

接尾辞-名詞的-一般

「～するまま」「～するに従う様」の意。

やっぱりアメリカの言い【なり】！？

113 **ナレル**
慣れる

動詞-非自立可能　下一段-ラ行-一般（文語下二段-ラ行）　動詞連用形

風景の一部として見ているから見【慣れ】てしまった。
カラーマスカラをつけ【慣れ】ていない人もつかいやすい
通い【慣れ】た青山一帯の江戸時代の風景が、

114 **ニクイ**
難い

接尾辞-形容詞的　形容詞-クイ

醜悪の意の「醜い」は除く。

ライフスタイルの改善だけでは効果は出【にくい】もの。
ハイテク株だけが物色される相場は考え【にくい】。
美化されると、問題が直視し【にくく】なるのです

115 **ヌク**
抜く

動詞-非自立可能　五段-カ行-一般（文語四段-カ行）　動詞連用形

「終わりまでする」という意。

「笑顔で耐え【抜く】しかないな」
熟練した技と、磨き【抜か】れたセンスをもって作り出される料理
日本全体の利益はどこにあるかを考え【抜か】なければ、

116 **ハジメル**
始める

動詞-非自立可能　下一段-マ行（文語下二段-マ行）　動詞連用形

九郎は小社の裏手を抜ける参道を拝殿に向かって歩き【始め】た。
徳利のままグイグイ飲み【はじめ】てしまったんです。
好調だったブランド品の売れ行きに陰りが見え【はじめ】たのか。

117 **ハタス**
果たす

動詞-非自立可能　五段-サ行（文語四段-サ行）　動詞連用形

「すっかり～し終える」の意。

使ひ【果し】てしまはなければならぬ。

118 ハテル
果てる
動詞-非自立可能　下一段-タ行（文語下二段-タ行）　動詞連用形

「すっかり～する」「～し終わる」という意。

形骸化した官僚主義的機関と成り【果て】ており、
疲れ【果て】て眠り込んだ矢先のことだった。
地域一帯が荒れ【果てる】という、

119 ハナシ
放し
接尾辞-形状詞的　ッパナシ

腰板障子戸を開け【っ放し】にしており、
試合中はずっと走り【っぱなし】で疲れましたが、
１２時間預け【放し】の親、

120 バム
ばむ
接尾辞-動詞的　五段-マ行-一般（文語四段-マ行）

地に積もる黄【ばむ】孔あく病葉の量
日向は汗【ばむ】程の気候。

121 ハン
版
名詞-普通名詞-一般

漢語の1最小単位と結合したものは除く。（新=版）

男【版】宝塚「Ｓｔｕｄｉｏ　Ｌｉｆｅ」’八十五年、結成。

122 フウ
風
接尾辞-名詞的-一般

様子の意。漢語の1最小単位と結合したものは除く。（和=風，古=風）

スタンダード仕立て【風】の樹形にすることができます。
もう一方は寅さん【風】のテキ屋スタイル。

123 ブリ
振り
接尾辞-名詞的-一般

それだけの時間が過ぎたという意を表す。

久し【ぶり】の出勤に自分も気分が高揚している。
プロ野球では今年、１８年【ぶり】に阪神タイガースがリーグ優勝し、

124 ブリ
振り
接尾辞-名詞的-一般

様子・状態の意。

その若者は、急にぞんざいな口【ぶり】になった。
これで女【っぷり】が上がります！
依田の打ち【ぶり】に感心しきりだった。

125 ブル
振る
接尾辞-動詞的　五段-ラ行-一般（文語四段-ラ行）

「そのように振る舞う」という意。

「そんな、もったい【ぶら】ないで、頼みますよ」
悪【ぶっ】てはいるが、実は心がやさしく、おひとよし。

126 ブン
分
名詞-普通名詞-一般

３週間【分】の発芽玄米と、食事記録用紙を渡して、
それが連中の取り【分】で、
その年俸【分】を他の選手の増額に振り向けられる。

127 **ポイ**
ぽい

接尾辞-形容詞的　形容詞-ポイ　名詞　ッポイ

形容詞語幹に接続する「ぽい」は除く。「いがらっぽい」の「ぽい」は除く。

タイトスカートで大人【っぽい】着こなしに
空気が湿【っぽく】ムッとしている。
いたずら【っぽく】笑った。

128 **ポッチ**
ぽっち

接尾辞-名詞的-一般　ッポッチ

これ【っぽっち】も思っていなかった。

129 **マエ**
前

名詞-普通名詞-副詞可能

試合【前】、個人得点ランキング表を気にしていた。

130 **マクル**
捲る

動詞-非自立可能　五段-ラ行-一般（文語四段-ラ行）　動詞連用形

午後一杯を費やして匿名の発言を読み【まくっ】た。
２年間ほど本を読み【まくり】知識を得たつもりですが、
ＤＪブースに近い参加者ほど、楽しそうに踊り【まくる】。

695 **マス**
坐す

動詞-非自立可能　文語-四段サ行

ただ人にておはし【まし】ける時のことなり
むまのはなむけしに出で【ませ】り

133 **マワリ**
周り

接尾辞-名詞的-一般

「おなか【まわり】がスッキリした」
門【まわり】に１本、ポーチわきに１本、

134 **ミタイ**
みたい

形状詞-助動詞語幹

海水で腹を膨らませたクラゲ【みたい】だと清は思った。
必ずそういう状態になる【みたい】ですけど。
そう言う、うねり【みたい】なものは地方にも出てきている。

135 **ムキ**
向き

接尾辞-名詞的-一般

辛口テーストが大人【向き】

136 **ムケ**
向け

接尾辞-名詞的-一般

この髪型は、丸顔の人【向け】です。
ジーン・バトラーが子供【向け】のワークショップを開催。
夏【向け】に、前回より怖い作品を目指すという。

137 メ 奴 接尾辞-名詞的-一般

ののしる語。

ああ恐ろしい女子【奴】！

138 メ 奴 接尾辞-名詞的-一般

謙そんの意。

私【め】はこの度お願い申し上げました

139 メ 目 接尾辞-名詞的-一般

順序を表す。

兄弟のうち二人【目】の中学進学である。
４回【目】の対決となる今回は、
１日【目】は、首席指揮者ロジャー・ノリントン率いる、

143 メク めく 接尾辞-動詞的 五段-カ行-一般（文語四段-カ行）

擬態語的なものの「めく」は除く。（きら=めく，ざわ=めく）

謎【めかし】ていった。
今を時【めく】

672 モウス 申す 動詞-非自立可能 五段-サ行（文語四段-サ行） 動詞連用形

あはれにうれしくも会ひ【申し】たるかな。

144 ヤガル やがる 接尾辞-動詞的 五段-ラ行-一般（文語四段-ラ行） 動詞連用形

馬鹿にし【やがっ】て！
なにを言い【やがる】。

145 ヤスイ 易い 接尾辞-形容詞的 形容詞-スイ（文語形容詞-ク） 動詞連用形

住み【やすい】住環境を提案する
かわいくって履き【やすい】バブーシュは

146 ヨイ 良い 形容詞-非自立可能 形容詞-オ段-良イ（形容詞-イ段-良イ，文語形容詞-ク） 動詞連用形 イイ

これからも住み【良い】社会に少しでも近付くよう、

147 ヨウ 様 形状詞-助動詞語幹

助動詞「ようだ」の語幹に当たるもの。

解釈がやっと見直される【よう】になり、
ミリアリアの【よう】な女の子が
日本のラグビーは日本経済と同じ【よう】に、

148 ヨウ
様

接尾辞-名詞的-一般

方法の意。

やり【よう】によってはすごいオイシイ役なんですよ。
天性の能力としか言い【よう】がありません。

149 ヨウ
用

接尾辞-名詞的-一般

漢語の1最小単位と結合したものは除く。（学=用）

賄い【用】にと、鰰の自分の取り分まで渡してくれた
ひとり【用】七輪とびの魚を焼く

150 ラ
等

接尾辞-名詞的-一般

複数を表す。

これ【ら】が改善されると、
彼【ら】に希望を託していく。
イラクの子ども【ら】の惨状を理解する

151 ラ
等

接尾辞-名詞的-一般

事物をおおよそに指す。

余はなん【ら】の肩書を必要としない。
そこ【ら】のショップとはひと味違う、

152 ラシイ
らしい

接尾辞-形容詞的　形容詞-一般（文語形容詞-シク）

助動詞「らしい」は除く。

わざと【らしい】くらいにお金を掛けた作り
“夏【らしい】”体験もしているようで…。
女性【らしい】印象を作り上げる。

153 リュウ
流

接尾辞-名詞的-一般

流派の意。

やはり昔【流】の料理を作っているが
ノイズなどをデジタルに混在させるのが彼【流】。

154 ルイ
類

接尾辞-名詞的-一般

漢語の1最小単位と結合したものは除く。（人=類）

貝塚中の貝【類】の組成が、
しめじ【類】

155 ワスレル
忘れる

動詞-非自立可能　下一段-ラ行-一般（文語下二段-ラ行）　動詞連用形

お誕生日やご住所を書き【忘れる】方が、
しかも財布を置き【忘れ】、

156 ワタル
渡る

動詞-非自立可能　五段-ラ行-一般（文語四段-ラ行）　動詞連用形

「辺り一面に～する」という意。

眼鏡から覗く双眼は澄み【渡っ】ていた。

心に染み【渡る】ような洗練された,
企業までお金が行き【渡ら】ない。

157	**ワタル** **渡る**	動詞-非自立可能	五段-ラ行-一般（文語四段-ラ行）	動詞連用形

「徹底的に～する」という意。

さえ【わたる】

コーパス開発センター（形態論情報サブグループ）

小椋秀樹*　（言語資源研究系准教授，コーパス開発センター（兼））
小磯花絵*　（理論・構造研究系准教授，コーパス開発センター（兼））
小木曽智信　（言語資源研究系准教授，コーパス開発センター（兼））
冨士池優美*（コーパス開発センター プロジェクト特別研究員）
宮内佐夜香*（コーパス開発センター プロジェクト特別研究員）
渡部涼子　（コーパス開発センター プロジェクト奨励研究員）
小西光*　（コーパス開発センター プロジェクト奨励研究員）
原裕*　（コーパス開発センター プロジェクト非常勤研究員）
竹内ゆかり　（コーパス開発センター 事務補佐員）
中村壮範　（派遣社員，マンパワー・ジャパン株式会社）

（＊印は執筆者）

国立国語研究所内部報告書(LR-CCG-10-05-02)
『現代日本語書き言葉均衡コーパス』
形態論情報規程集 第４版（下）

平成２３年２月２５日
執筆者　小椋秀樹　小磯花絵　冨士池優美　宮内佐夜香
小西光　原裕
発行者　大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立国語研究所
〒190-8561　東京都立川市緑町10番地の2
電話　042（540）4300（代表）

©2011 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立国語研究所
ISBN 978-4-906055-05-0

国立国語研究所